

---

JP1 Version 8

# JP1/Integrated Management - Central Information Master リファレンス

文法書

3020-3-K05-20

## マニュアルの購入方法

このマニュアル，および関連するマニュアルをご購入の際は，  
巻末の「ソフトウェアマニュアルのサービス ご案内」をご参  
照ください。

# HITACHI

## 対象製品

P-242C-8C84 JP1/Integrated Management - Central Information Master 08-00 (適用 OS : Windows Server 2003)

P-242C-6H84 JP1/Integrated Management - View 08-10 (適用 OS : Windows Server 2003, Windows XP)

P-2A2C-6H84 JP1/Integrated Management - View 08-10 (適用 OS : Windows Vista)

JP1/Integrated Management - Central Information Master は、経済産業省が 2003 年度から 3 年間実施した「ビジネスグリッドコンピューティングプロジェクト」の技術開発の成果を含みます。

## 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替および外国貿易法ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、ご不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

## 商標類

Active Directory は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標または商標です。

Java 及びすべての Java 関連の商標及びロゴは、米国及びその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。

Microsoft は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。

Windows は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。

Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。

Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。

## 発行

2006 年 6 月 (第 1 版) 3020-3-K05

2007 年 9 月 (第 2 版) 3020-3-K05-20

## 著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2006, 2007, Hitachi, Ltd.

## 変更内容

変更内容 (3020-3-K05-20) JP1/Integrated Management - View 08-10

追加・変更内容	変更箇所
Windows Vista 上で動作する JP1/Integrated Management・View をサポートした。	2. コマンド一覧 , 3. Link & Launch 定義ファイル
メッセージを追加した。 KAJT00907-E , KAJT02031-W	5.2 , 5.4.1 , 5.4.3
メッセージの対処方法を変更した。 KAJT00701-E	5.4.1

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。



# はじめに

---

このマニュアルは、JP1/Integrated Management - Central Information Master（以降、JP1/IM - CM と略す）の画面やコマンドなどについて説明しています。

## 対象読者

JP1/IM - CM を使用してシステム構成情報を管理したい次の方を対象としています。

- ・ システム管理者（システムを構築したり、システム全体を管理したりする方）
- ・ 業務管理者（特定の業務システムを管理する方）
- ・ インフラ管理者（システムのハードウェアリソースを管理する方）

## マニュアルの構成

このマニュアルは、次に示す章で構成されています。

### 第 1 章 画面

JP1/IM - View のセントラルインフォメーションマスター・ビューアー画面について説明しています。

### 第 2 章 コマンド

JP1/IM - CM のコマンドについて説明しています。

### 第 3 章 定義ファイル

JP1/IM - CM の定義ファイルについて説明しています。

### 第 4 章 JP1 イベント

JP1/IM - CM の JP1 イベントについて説明しています。

### 第 5 章 メッセージ

JP1/IM - CM のメッセージについて説明しています。

## 関連マニュアル

関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

- ・ JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Central Information Master システム構築・運用ガイド（3020-3-K04）
- ・ JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Manager システム構築・運用ガイド（3020-3-K01）
- ・ JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Manager リファレンス（3020-3-K02）
- ・ JP1 Version 8 JP1/Base 運用ガイド（3020-3-K06）
- ・ JP1 Version 8 JP1/Base メッセージ（3020-3-K07）
- ・ JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 - Scenario Operation（3020-3-K42）
- ・ JP1 Version 8 JP1/ServerConductor/Control Manager（3020-3-L51）

- JP1 Version 8 JP1/Cm2/Network Node Manager ネットワーク管理ガイド ( 3020-3-L01 )
- JP1 Version 8 JP1/Cm2/Network Element Configuration 機能・構築ガイド ( 3020-3-L13 )
- JP1 Version 8 JP1/NETM/DM 運用ガイド 1(Windows(R) 用) ( 3020-3-L38 )
- JP1 Version 8 JP1/NETM/Asset Information Manager 運用ガイド ( 3020-3-L35 )
- JP1/HiCommand Provisioning Manager ユーザーズガイド ( 3020-3-J80 )
- JP1/HiCommand Provisioning Manager システム構成ガイド ( 3020-3-J81 )
- Cosminexus 簡易構築・運用ガイド ( 3020-3-M05 )

## このマニュアルでの表記

このマニュアルでは、日立製品およびそのほかの製品の名称を省略して表記しています。次に、製品の正式名称と、このマニュアルでの表記を示します。

このマニュアルでの表記		正 式 名 称
JP1/Integrated Management または JP1/IM	バージョン 8 製品	
	JP1/IM - Manager	JP1/Integrated Management - Manager
	JP1/IM - View	JP1/Integrated Management - View
	JP1/IM - Central Information Master または JP1/IM - CM	JP1/Integrated Management - Central Information Master
	バージョン 7 製品	
	JP1/IM - Central Console または JP1/IM - CC	JP1/Integrated Manager - Central Console
	JP1/IM - Central Scope または JP1/IM - CS	JP1/Integrated Manager - Central Scope
	JP1/IM - View	JP1/Integrated Manager - View
	JP1/IM - Central Information Master または JP1/IM - CM	JP1/Integrated Manager - Central Information Master
	JP1/NETM/AIM	JP1/NETM/Asset Information Manager
JP1/AJS2	JP1/AJS2 - Agent	JP1/Automatic Job Management System 2 - Agent
JP1/AJS2 - SO	JP1/AJS2 - SO	JP1/Automatic Job Management System 2 - Scenario Operation
	JP1/AJS2 - SO Manager	JP1/Automatic Job Management System 2 - Scenario Operation Manager
	JP1/AJS2 - SO View	JP1/Automatic Job Management System 2 - Scenario Operation View

このマニュアルでの表記		正 式 名 称
JP1/Cm2/NC	JP1/Cm2/NC - View	JP1/Cm2/Network Element Configuration - View
	JP1/Cm2/NC - Manager	JP1/Cm2/Network Element Configuration - Manager
JP1/Cm2/NNM		JP1/Cm2/Network Node Manager
JP1/SC/Control Manager		JP1/ServerConductor/Control Manager
Cosminexus		uCosminexus Application Server Standard
		uCosminexus Application Server Enterprise
HiRDB		HiRDB Control Manager - Server
HPvM		JP1/HiCommand Provisioning Manager
Microsoft Internet Explorer		Microsoft(R) Internet Explorer(R)
Windows Internet Explorer		Windows(R) Internet Explorer(R)
Windows XP		Microsoft(R) Windows(R) XP Professional Operating System
Windows Server 2003	Windows Server 2003	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition
	Windows Server 2003(x64)	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition
	Windows Server 2003 R2	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition
	Windows Server 2003 R2(x64)	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition
Windows Vista		Microsoft(R) Windows Vista(R) Business
		Microsoft(R) Windows Vista(R) Enterprise
		Microsoft(R) Windows Vista(R) Ultimate

注 JP1/IM - View には、「セントラルコンソール・ビューアー」、「セントラルスコープ・ビューアー」、「ルールマネージャー・ビューアー」、および「セントラルインフォメーションマスター・ビューアー」の四つの GUI 画面があります。特に断り書きのない個所では、JP1/IM - View は「セントラルインフォメーションマスター・ビューアー」を指します。

Windows XP , Windows Server 2003 , Windows Vista を総称して Windows と表記することがあります。

## このマニュアルで使用する英略語

このマニュアルで使用する英略語を次に示します。

英略語	正式名称
AP	Application Program
API	Application Programming Interface
ASCII	American Standard Code for Information Interchange
CPU	Central Processing Unit
CSV	Comma Separated Value
DB	Database
DNS	Domain Name System
FTP	File Transfer Protocol
GUI	Graphical User Interface
HTML	Hyper Text Markup Language
IT	Information Technology
IPv4	Internet Protocol Version 4
IPv6	Internet Protocol Version 6
J2EE	Java <sup>TM</sup> 2 Platform Enterprise Edition
Java VM	Java Virtual Machine
JIS	Japanese Industrial Standards
LAN	Local Area Network
MAC	Media Access Control
NAT	Network Address Translator
NIC	Network Interface Card
OS	Operating System
TCP/IP	Transmission Control Protocol/Internet Protocol
URL	Uniform Resource Locator
UROI	Uniform Resource Object Identifier
WAN	Wide Area Network
WWW	World Wide Web
XML	eXtensible Markup Language

## このマニュアルで使用する記号

このマニュアルで使用する記号を次に示します。



記号	意味
[ ]	メニュー項目、ダイアログボックス、ダイアログボックスのボタンなどを示す。 例 [ ファイル ] - [ 新規作成 ] を選択する。 上記の例では、メニューバーの [ ファイル ] を選んで、プルダウンメニューの [ 新規作成 ] を選択することを示す。
¥uXXXX	文字コードを表す。 例 ¥u0000 ニル文字 (NULL), ¥u0009 水平タブ (HT), ¥u000D キャリッジリターン (CR)

## コマンドの文法で使用する記号

コマンドとパラメーターの説明で使用する記号を、次のように定義します。

記号	意味
 (ストローク)	複数の項目に対し、項目間の区切りを示し、「または」の意味を示す。 例 「A   B   C」は、「A, B または C」を示す。
{ }	この記号で囲まれている複数の項目の中から、必ず 1 組の項目を選択する。項目の区切りは   で示す。 例 {A   B   C} は「A, B または C のどれかを指定する」ことを示す。
[ ]	この記号で囲まれている項目は任意に指定できる (省略してもよい)。 複数の項目が記述されている場合には、すべてを省略するか、どれか一つを選択する。 例 [A] は「何も指定しない」か「A を指定する」ことを示す。 [B   C] は「何も指定しない」か「B または C を指定する」ことを示す。
... (点線)	この記号の直前に示された項目を繰り返して複数個、指定できる。 例 「A, B, ...」は「A のあとに B を必要個数指定する」ことを示す。
— (下線)	括弧内のすべてを省略したときに、システムが取る標準値を示す。標準値がない場合は、指定した項目だけが有効である。 例 [A   B] はこの項目を指定しなかった場合に、A を選択したとみなすことを示す。
	空白を表す。 0 : 0 個以上の空白 (空白を省略できる) 1 : 1 個以上の空白 (空白を省略できない)

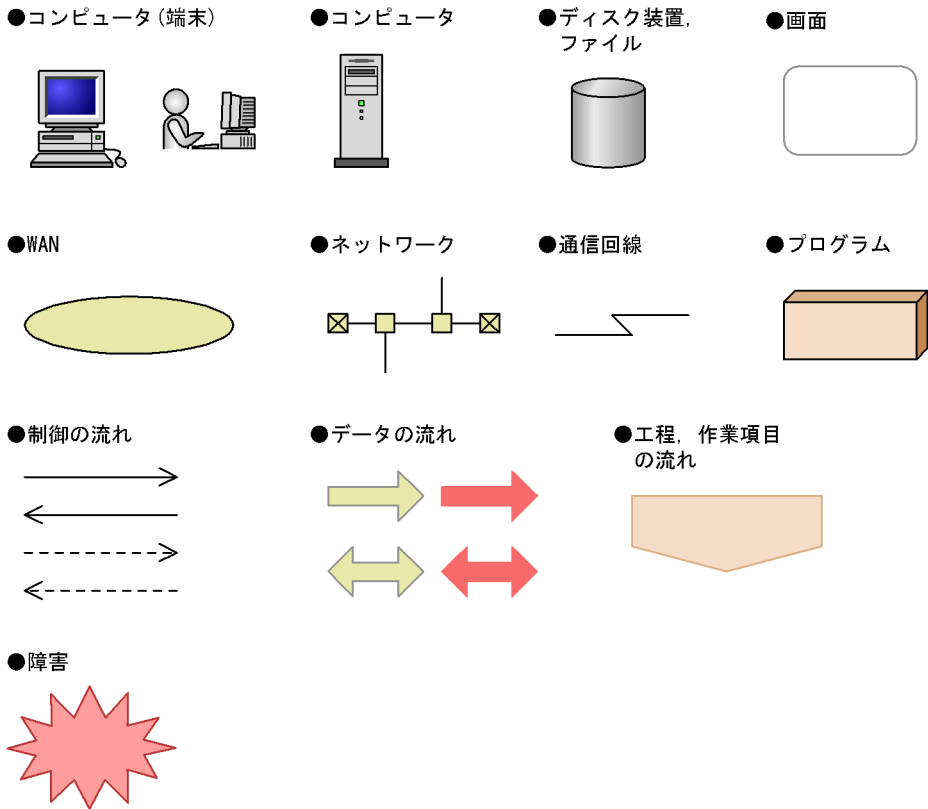
## 数式で使用する記号

このマニュアルの数式中で使用する記号を、次のように定義します。

記号	意味
×	乗算記号を示す。
/	除算記号を示す。

## 図中で使用する記号

このマニュアルの図中で使用する記号を、次のように定義します。



## JP1/IM - CM のインストール先フォルダの表記

このマニュアルでは、JP1/IM - CM、JP1/IM - View、および JP1/Base のインストール先フォルダを次のように表記しています。

製品名	インストール先フォルダの表記	デフォルトインストール先フォルダ
JP1/IM - CM	CMaster パス	システムドライブ : %Program Files%\HITACHI\JP1CMaster
JP1/IM - View	View パス	システムドライブ : %Program Files%\HITACHI\JP1CoView
JP1/Base	Base パス	システムドライブ : %Program Files%\HITACHI\JP1Base

注 各製品をデフォルトのままインストールした場合のインストール先フォルダを表しています。

(例)

JP1/IM - CM のインポートコマンド「jcmimport」のフルパス表記は、マニュアルでは次のようになります。

CMaster パス ¥bin¥jcmimport

デフォルトインストールの場合、実際には次のようになります。

システムドライブ : ¥Program Files¥HITACHI¥JP1CMaster¥bin¥jcmimport

Windows Vista の場合、「システムドライブ : ¥ProgramData」と表記している部分は、インストール時の OS 環境変数によって決定されるため、環境によって異なる場合があります。

## このマニュアルで使用する「Administrators 権限」について

このマニュアルで表記している「Administrators 権限」とは、ローカル PC に対する Administrators 権限です。ローカル PC に対して Administrators 権限を持つユーザーであれば、ローカルユーザー、ドメインユーザーおよび、Active Directory 環境で動作に違いはありません。

## オンラインマニュアルについて

JP1/IM・View では、WWW ブラウザーで参照できる HTML マニュアルを提供しています。HTML マニュアルは、下記の WWW ブラウザーで参照できます。

- Microsoft Internet Explorer 6.0 以降
- Windows Internet Explorer 7 以降

オンラインマニュアルの内容は、このマニュアルと同様です。

オンラインマニュアルは、次の操作で目次が表示されます。

- JP1/IM・View : [ ヘルプ ] - [ 目次 ] を選択する。または、スタートメニューから [ プログラム ] - [ JP1\_Integrated Management・View ] - [ ヘルプ (システム情報管理) ] を選択する。

## 常用漢字以外の漢字の使用について

このマニュアルでは、常用漢字を使用することを基本としていますが、次に示す用語については、常用漢字以外の漢字を使用しています。

- 個所 (かしょ)
- 汎用 (はんよう)
- 必須 (ひつす)

## KB (キロバイト) などの単位表記について

1KB (キロバイト), 1MB (メガバイト), 1GB (ギガバイト), 1TB (テラバイト) はそれぞれ 1,024 バイト, 1,024<sup>2</sup> バイト, 1,024<sup>3</sup> バイト, 1,024<sup>4</sup> バイトです。



# 目次

1	画面	1
1.1	画面遷移	2
1.2	[ ログイン ] 画面	5
1.3	[ システム構成定義 ] 画面	7
1.3.1	[ システム構成定義 ] 画面の詳細	7
1.3.2	[ システム ] タブ	11
1.3.3	[ リソース ] タブ	15
1.4	論理構成の定義画面	20
1.4.1	[ システムの作成 ] 画面	20
1.4.2	[ システムのプロパティ ] 画面	24
1.4.3	[ 論理グループの作成 ] 画面	28
1.4.4	[ 論理グループの作成 ] (ロードバランシンググループの作成) 画面	30
1.4.5	[ 論理グループの作成 ] (ユニットグループの作成) 画面	33
1.4.6	[ ロードバランシンググループのプロパティ ] 画面	36
1.4.7	[ ユニットグループのプロパティ ] 画面	39
1.4.8	[ 論理サーバの作成 ] 画面	41
1.4.9	[ 論理サーバのプロパティ ] 画面	44
1.4.10	[ プロセスの作成 ] 画面	47
1.4.11	[ プロセスのプロパティ ] 画面	51
1.4.12	[ ポート情報の追加 ] (または [ ポート情報の編集 ]) 画面	55
1.4.13	[ 仮想ホストの定義 ] 画面	56
1.4.14	[ 仮想ホストの選択 ] 画面	58
1.4.15	[ 仮想ホストの作成 ] 画面	60
1.4.16	[ 仮想ホストのプロパティ ] 画面	65
1.5	物理構成の定義画面	72
1.5.1	[ リソースの作成 ] (リソース種別の選択) 画面	72
1.5.2	[ リソースの作成 ] (ロードバランサの作成) 画面	73
1.5.3	[ リソースの作成 ] (物理ホストの作成) 画面	76
1.5.4	[ 物理ホストのプロパティ ] 画面	86
1.5.5	[ NIC 情報の追加 ] (または [ NIC 情報の編集 ]) 画面	94
1.5.6	[ ネットワーク情報の追加 ] (または [ ネットワーク情報の編集 ]) 画面	96
1.5.7	[ ロードバランサのプロパティ ] 画面	98
1.5.8	[ リソースバックの作成 ] 画面	101
1.5.9	[ リソースバックのプロパティ ] 画面	103

1.5.10 [ リソースを割り当てる ]( リソースパックへのリソース割り当て ) 画面	106
1.5.11 [ ソフトウェアの定義 ] 画面	107
1.5.12 [ ソフトウェアの選択 ] 画面	108
1.5.13 [ ソフトウェアの追加 ]( または [ ソフトウェアの編集 ] ) 画面	109
1.6 マッピング定義画面	112
1.6.1 [ リソースを割り当てる ]( システムへのリソース割り当て ) 画面	112
1.7 Link & Launch 画面	115
1.7.1 [ 詳細情報の設定・参照 ] 画面	115
1.8 Cosminexus 用システム構成の作成	117
1.8.1 Cosminexus 用システム構成の作成の流れ	117
1.8.2 [ システム (Web 推奨モデル) の作成 - ステップ 1 of 3 ] 画面	118
1.8.3 [ システム (Web 推奨モデル) の作成 - ステップ 2 of 3 ] 画面	121
1.8.4 [ ユニットグループの定義 - ステップ 1 of 8 ] 画面	122
1.8.5 [ ユニットグループの定義 - ステップ 2 of 8 ] 画面	124
1.8.6 [ ユニットグループの定義 - ステップ 3 of 8 ] 画面	127
1.8.7 [ ユニットグループの定義 - ステップ 4 of 8 ] 画面	130
1.8.8 [ ユニットグループの定義 - ステップ 5 of 8 ] 画面	132
1.8.9 [ ユニットグループの定義 - ステップ 6 of 8 ] 画面	134
1.8.10 [ ユニットグループの定義 - ステップ 7 of 8 ] 画面	138
1.8.11 [ ユニットグループの定義 - ステップ 8 of 8 ] 画面	139
1.8.12 [ システム (Web 推奨モデル) の作成 - ステップ 3 of 3 ] 画面	140

2 コマンド	143
コマンドの記述形式	144
コマンド一覧	145
jcm_adapter_setup	147
jcm_log.bat	148
jcm_spmc_stop	153
jcm_spmc_status	154
jcm_spmc_reload	155
jcmbackup	157
jcmdborg	159
jcmexport	160
jcmgetinfo	165
jcmgetumap	170
jcmimport	171

jcommkumap	173
jcmobjsearch	175
jcmrecovery	183
jcmrmumappass	185
jcmumappass	186
jcovcmsetup	188
jcoview	190
jcoview_log.bat	193
jp1cmhassetup	196

### 3

定義ファイル	197
--------	-----

定義ファイル一覧	198
コンボボックス表示内容定義ファイル	199
ユーザーマッピング定義ファイル	206
JP1/IM - CM 動作設定ファイル	208
拡張起動プロセス定義ファイル	210
IM パラメーター定義ファイル	212
Link & Launch 定義ファイル	214

### 4

JP1 イベント	219
----------	-----

4.1 JP1 イベントの属性	220
4.1.1 基本属性	220
4.1.2 拡張属性	221
4.2 JP1/IM - CM が出力する JP1 イベント	223
4.2.1 JP1/IM - CM が出力する JP1 イベント一覧	223
4.2.2 JP1 イベントの詳細	223

### 5

メッセージ	225
-------	-----

5.1 メッセージの分類	226
5.2 メッセージの出力先一覧	227
5.3 メッセージの形式	232
5.3.1 メッセージの出力形式	232
5.3.2 メッセージの記載形式	232
5.3.3 システム管理者の方へ	232

5.4	メッセージ一覧	233
5.4.1	メッセージ (KAJT00000 ~ KAJT00999)	233
5.4.2	メッセージ (KAJT01000 ~ KAJT01999)	238
5.4.3	メッセージ (KAJT02000 ~ KAJT02999)	239
5.4.4	メッセージ (KAJT04000 ~ KAJT04999)	242
5.4.5	メッセージ (KAJT06000 ~ KAJT06999)	248
5.4.6	メッセージ (KAJT08000 ~ KAJT08999)	251
5.4.7	メッセージ (KAJT10000 ~ KAJT10999)	251
5.4.8	メッセージ (KAJT12000 ~ KAJT12999)	257
5.4.9	メッセージ (KAJT13000 ~ KAJT13999)	269
5.4.10	メッセージ (KAJT16000 ~ KAJT16999)	274
5.4.11	メッセージ (KAJT17000 ~ KAJT17999)	282
5.4.12	メッセージ (KAJT18000 ~ KAJT18999)	282

付録	295
付録 A データモデル	296
付録 A.1 データモデルの階層構造	296
付録 A.2 プロパティ一覧	298

索引	329
----	-----



# 1

## 画面

この章では，JP1/IM・View の表示項目および定義項目について説明します。

---

1.1 画面遷移

---

1.2 [ログイン]画面

---

1.3 [システム構成定義]画面

---

1.4 論理構成の定義画面

---

1.5 物理構成の定義画面

---

1.6 マッピング定義画面

---

1.7 Link & Launch 画面

---

1.8 Cosminexus 用システム構成の作成

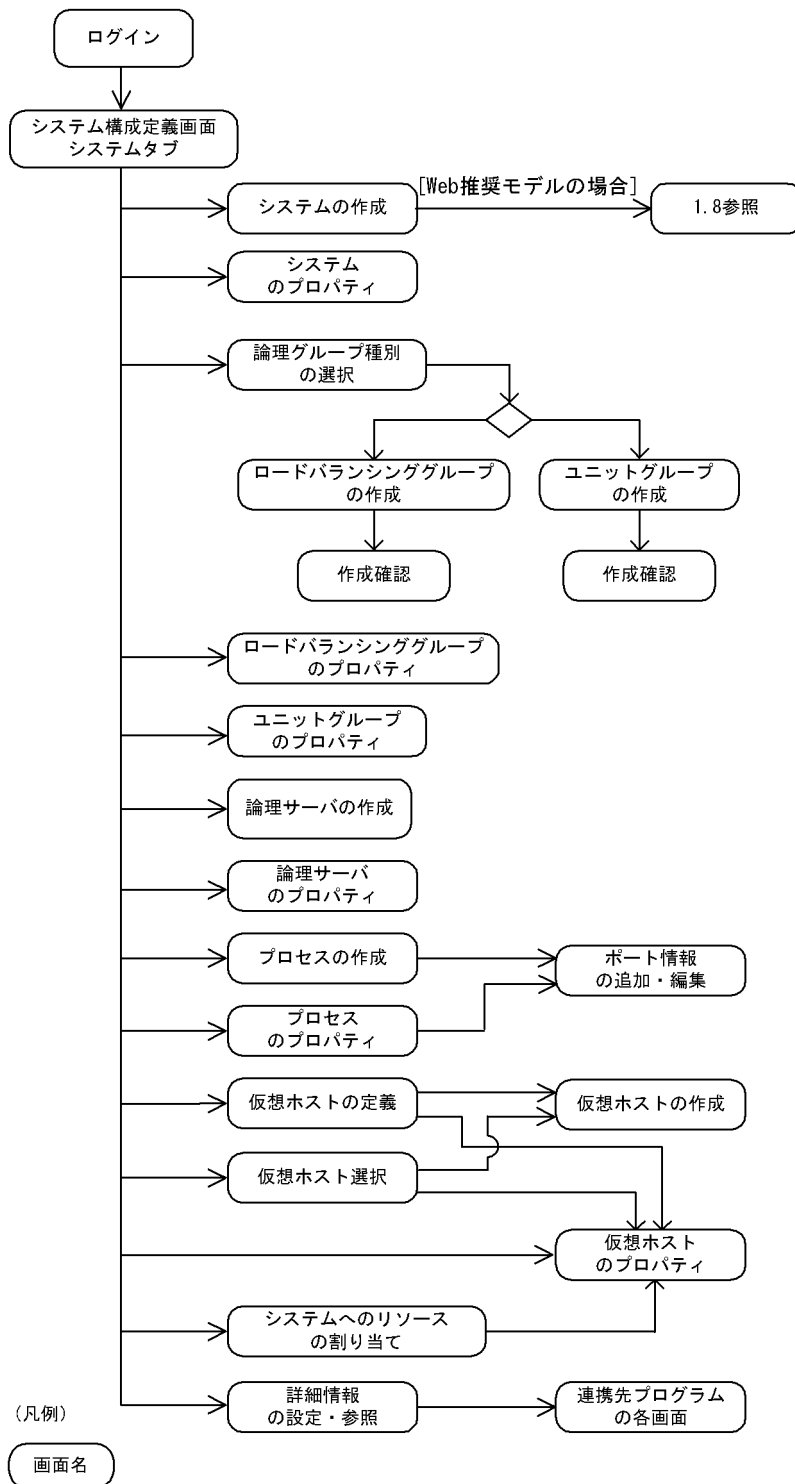
---

## 1.1 画面遷移

---

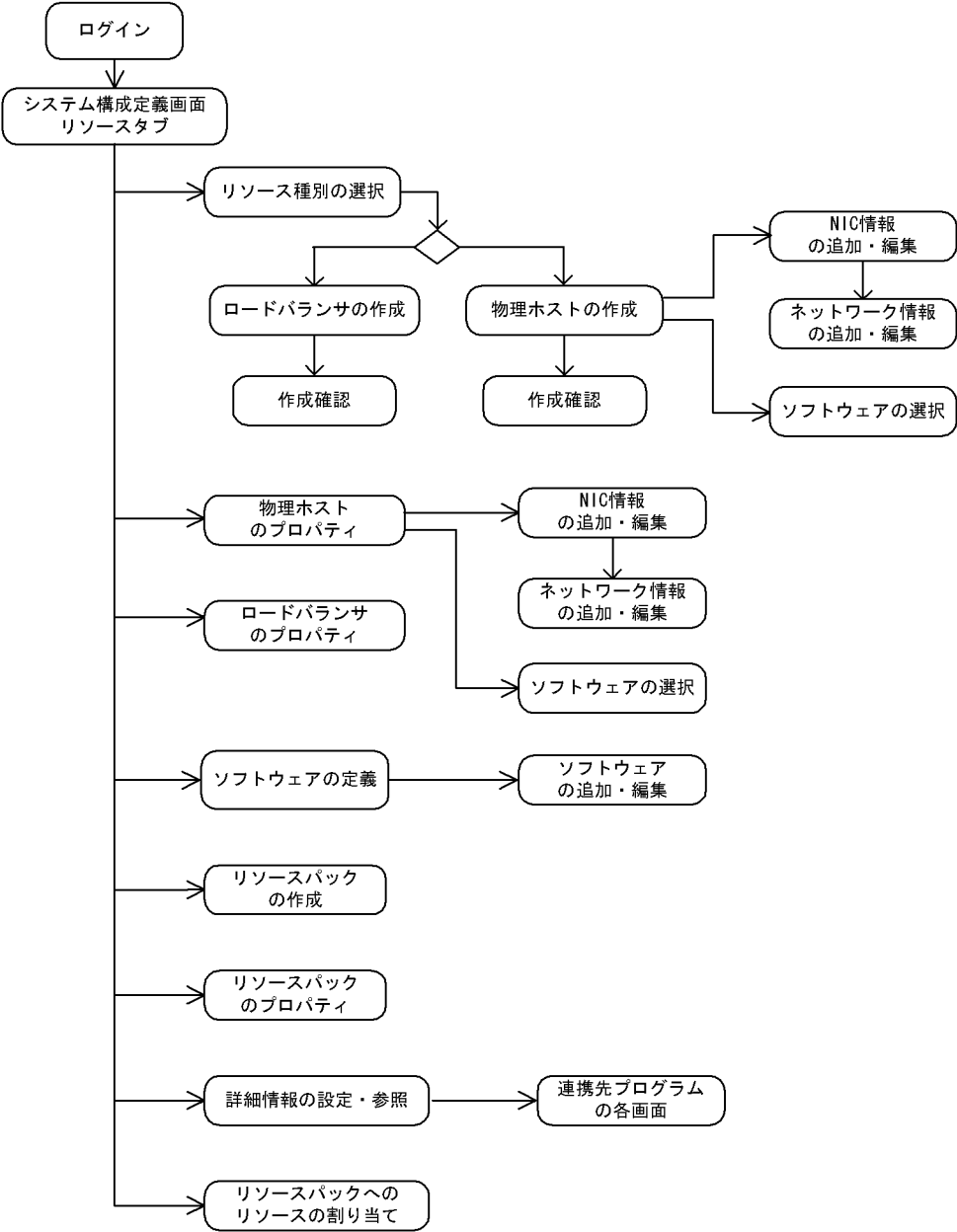
JP1/IM・View のセントラルインフォメーションマスター・ビューアーの画面遷移を次に示します。

図 1-1 「システム構成定義」画面の「システム」タブからの画面遷移



1. 画面

図 1-2 [ システム構成定義 ] 画面の [ リソース ] タブからの画面遷移



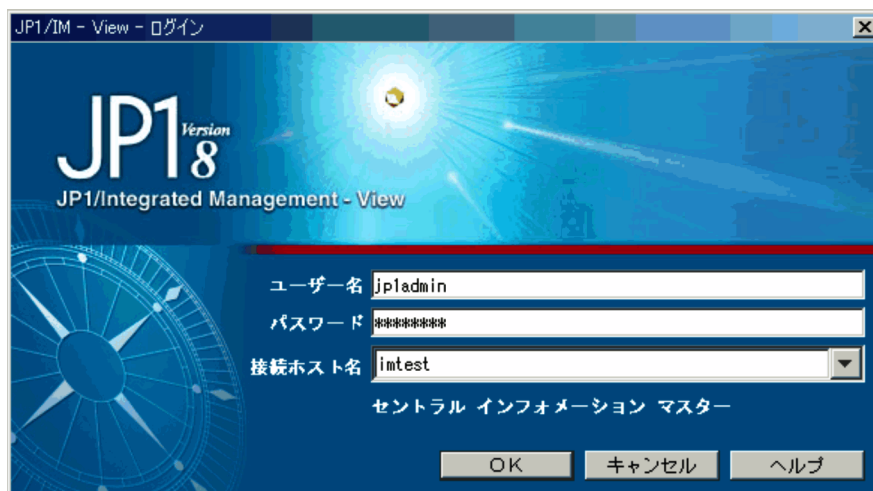
(凡例)

画面名

## 1.2 [ ログイン ] 画面

JP1/IM - View のセントラルインフォメーションマスター・ビューアーの起動時に最初に出てくる画面が [ ログイン ] 画面です。この画面を使って、JP1/IM - CM にログインします。ユーザーが認証されると [ システム構成定義 ] 画面が表示されます。

図 1-3 [ ログイン ] 画面



表示項目を次に示します。

### [ ユーザー名 ]

ログインするユーザー名を入力します。ユーザー名は、あらかじめ認証サーバの JP1/Base で登録しておく必要があります。また、登録する際には JP1/IM - CM の画面を操作するための操作権限を与える必要があります。ログインユーザーの登録、操作権限については下記マニュアルを参照してください。

- ログインユーザーの登録

参照先：マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のユーザー管理機能の設定の章

- ログインユーザーの操作権限

参照先：マニュアル「JP1/Integrated Management - Central Information Master システム構築・運用ガイド 付録 E 操作権限一覧」

ユーザー名には、小文字だけを入力できます。大文字を入力した場合も小文字として認証されます。

### [ パスワード ]

ユーザー名に対応するパスワードを入力します。

パスワードは、大文字・小文字を区別します。

### [ 接続ホスト名 ]

接続する JP1/IM - CM のホスト名を入力します。接続ホスト名には、ビューアーホ

## 1. 画面

ストで定義されているホスト名，または IP アドレスをドット表記（例：100.100.1.1）で指定します。同じビューアーホストから 1 度以上 JP1/IM - CM にログインしたことがある場合は，接続ホスト名を履歴から選択できます。履歴は，最大 5 件保持します。

## 1.3 [ システム構成定義 ] 画面

JP1/IM - CM にログインすると,[ システム構成定義 ] 画面が表示されます。

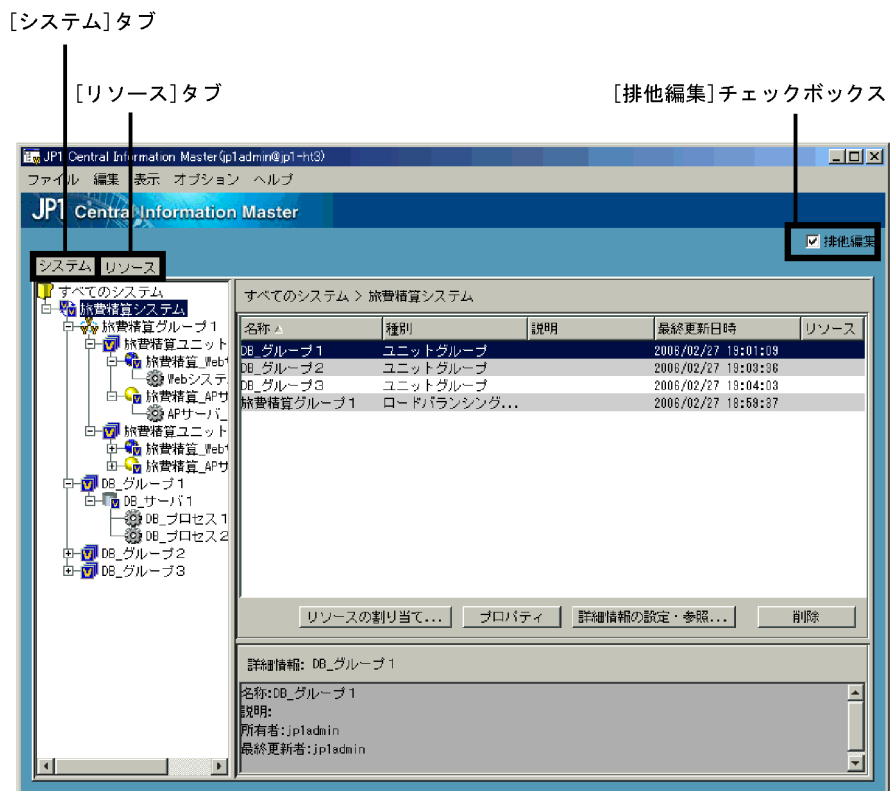
[ システム構成定義 ] 画面は, システム構成の情報を定義するための画面です。[ システム構成定義 ] 画面は, 論理システムの構成を定義する [ システム ] タブと物理リソースを定義する [ リソース ] タブで構成されています。また, 定義した論理システムに物理リソースを割り当てたり, 連携する関連プログラムを起動したりできます。

### 1.3.1 [ システム構成定義 ] 画面の詳細

[ システム構成定義 ] 画面は, メニュー, [ 排他編集 ] チェックボックス, [ システム ] タブ, および [ リソース ] タブから構成されます。

[ システム構成定義 ] 画面の表示例を次に示します。

図 1-4 [ システム構成定義 ] 画面の表示例










次に, [ システム構成定義 ] 画面に共通する項目について説明します。[ システム ] タブの詳細については「1.3.2 [ システム ] タブ」, [ リソース ] タブの詳細については「1.3.3 [ リソース ] タブ」を参照してください。









## (1) メニュー

[システム構成定義] 画面のメニュー項目を次の表に示します。












表 1-1 [システム構成定義] 画面のメニュー項目

メニュー	コマンド		機能
ファイル	終了		接続中の JP1/IM - CM からログアウトし、表示中の画面を終了します。
編集	作成	システム	<p>[システムの作成] 画面を表示します。</p> <p>[システム] タブのツリーで、 (すべてのシステム) を選択している場合に使用できます。このとき、次の条件をすべて満たしている必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ [排他編集] をチェックしている。</li> <li>・ ログインしている JP1 ユーザーが、JP1_CM_Admin 権限または JP1_CM_Manager 権限を持っている。</li> </ul>
		論理グループ	<p>[論理グループの作成] 画面を表示します。この画面からウィザード形式で論理グループを作成できます。</p> <p>[システム] タブのツリーで、 (システム) または  ,  (論理グループ) のオブジェクトを選択している場合に使用できます。このとき、次の条件をすべて満たしている必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ [排他編集] をチェックしている。</li> <li>・ ログインしている JP1 ユーザーが、JP1_CM_Admin 権限または JP1_CM_Manager 権限を持っている。</li> <li>・ 論理システムに JP1 資源グループを設定している場合、JP1 ユーザーが JP1_CM_Admin 権限を持っている、または同じ JP1 資源グループに属している。</li> </ul>
		論理サーバ	<p>[論理サーバの作成] 画面を表示します。</p> <p>[システム] タブのツリーで、 (システム) または  ,  (論理グループ) のオブジェクトを選択している場合に使用できます。このとき、次の条件をすべて満たしている必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ [排他編集] をチェックしている。</li> <li>・ ログインしている JP1 ユーザーが、JP1_CM_Admin 権限または JP1_CM_Manager 権限を持っている。</li> <li>・ 論理システムに JP1 資源グループを設定している場合、JP1 ユーザーが JP1_CM_Admin 権限を持っている、または同じ JP1 資源グループに属している。</li> </ul>



メニュー	コマンド	機能
	プロセス	<p>[ プロセスの作成 ] 画面を表示します。</p> <p>[ システム ] タブのツリーで、, , ,  (論理サーバ) のオブジェクトを選択している場合に使用できます。このとき、次の条件をすべて満たしている必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ 排他編集 ] をチェックしている。</li> <li>• ログインしている JP1 ユーザーが、JP1_CM_Admin 権限または JP1_CM_Manager 権限を持っている。</li> <li>• 論理システムに JP1 資源グループを設定している場合、JP1 ユーザーが JP1_CM_Admin 権限を持っている、または同じ JP1 資源グループに属している。</li> </ul>
	リソースパック	<p>[ リソースパックの作成 ] 画面を表示します。</p> <p>[ リソース ] タブのツリーで、 (すべてのリソースパック) を選択している場合に使用できます。このとき、次の条件をすべて満たしている必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ 排他編集 ] をチェックしている。</li> <li>• ログインしている JP1 ユーザーが、JP1_CM_Admin 権限または JP1_CM_InfraManager 権限を持っている。</li> </ul>
	リソース	<p>[ リソースの作成 ] 画面を表示します。この画面からウィザード形式で物理リソースを作成できます。</p> <p>[ リソース ] タブのツリーで  (リソースプール) を選択している場合に使用できます。このとき、次の条件をすべて満たしている必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ 排他編集 ] をチェックしている。</li> <li>• ログインしている JP1 ユーザーが、JP1_CM_Admin 権限または JP1_CM_InfraManager 権限を持っている。</li> </ul>
	削除	ツリーで選択したオブジェクトと、関連するオブジェクトを削除します。
	プロパティ	<p>選択したオブジェクトのプロパティ画面を表示します。次の場合に使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ システム ] タブのツリーで、 (すべてのシステム) より下のオブジェクトを選択している。</li> <li>• [ リソース ] タブのツリーで、 (リソースパック) のオブジェクトを選択している。</li> </ul>
表示	最新情報に更新	[ システム構成定義 ] 画面の表示内容が最新の情報に更新されず。

# 1. 画面

メニュー	コマンド	機能
オブション	リソースの割り当て	<p>[リソースを割り当てる](システムへのリソース割り当て)画面または[リソースを割り当てる](リソースパックへのリソース割り当て)画面を表示します。</p> <p>[リソースを割り当てる](システムへのリソース割り当て)画面を表示するためには、次の条件をすべて満たしている必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・[システム]タブのツリーで (システム) のオブジェクト、またはそれより下の階層のオブジェクトを選択している。</li> <li>・[排他編集]をチェックしている。</li> <li>・ログインしている JP1 ユーザーが、JP1_CM_Admin 権限または JP1_CM_Manager 権限を持っている。</li> <li>・論理システムに JP1 資源グループを設定している場合、JP1 ユーザーが JP1_CM_Admin 権限を持っている、または同じ JP1 資源グループに属している。</li> <li>・論理システムのプロパティの[リソース]タブで、リソースパックが選択されている。</li> <li>・論理システムに仮想ホストが作成されている。</li> </ul> <p>[リソースを割り当てる](リソースパックへのリソース割り当て)画面を表示するためには、次の条件をすべて満たしている必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・[リソース]タブのツリーで (すべてのリソースパック) 下の階層の (リソースパック) オブジェクトを選択している。</li> <li>・[排他編集]をチェックしている。</li> <li>・ログインしている JP1 ユーザーが、JP1_CM_Admin 権限または JP1_CM_InfraManager 権限を持っている。</li> <li>・選択しているリソースパックが JP1 資源グループを設定している場合、JP1 ユーザーが JP1_CM_Admin 権限を持っている、または同じ JP1 資源グループに属している。</li> <li>・物理ホスト、またはロードバランサが作成されている。</li> </ul>
	仮想ホストの定義	<p>[仮想ホストの定義]画面を表示します。</p> <p>[システム]タブのツリーで (システム) または,  (論理グループ) のオブジェクトを選択している場合に使用できます。</p>
	仮想ホストの選択	<p>[仮想ホストの選択]画面を表示します。</p> <p>[システム]タブのツリーで, , ,  (論理サーバ) または (プロセス) のオブジェクトを選択している場合に使用できます。このとき、次の条件をすべて満たしている必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・[排他編集]をチェックしている。</li> <li>・ログインしている JP1 ユーザーが、JP1_CM_Admin 権限または JP1_CM_Manager 権限を持っている。</li> <li>・論理システムに JP1 資源グループを設定している場合、JP1 ユーザーが JP1_CM_Admin 権限を持っている、または同じ JP1 資源グループに属している。</li> </ul>

メニュー	コマンド	機能
	ソフトウェアの定義	[ソフトウェアの定義] 画面を表示します。 ソフトウェアの定義を追加, 編集, または削除する場合は, 次の条件をすべて満たしている必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ 排他編集 ] をチェックしている。</li> <li>• ログインしている JP1 ユーザーが, JP1_CM_Admin 権限または JP1_CM_InfraManager 権限を持っている。</li> </ul>
ヘルプ	目次	ヘルプの目次を表示します。
	バージョン情報	JP1/IM・View のセントラルインフォメーションマスター・ビューアーのバージョン情報を表示します。

## (2) [ 排他編集 ] チェックボックス

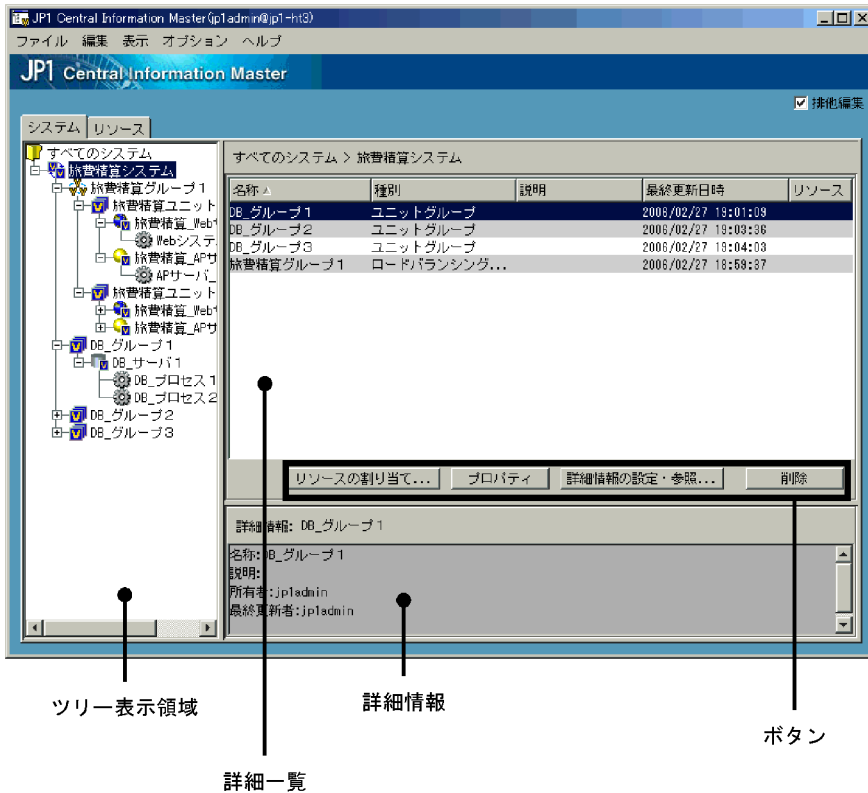
[ 排他編集 ] チェックボックスをチェックすると, 排他編集モードになります。チェックを外すと, 排他編集モードを解除します。排他編集モードにしているとき, ほかの JP1/IM・View からログインしている JP1 ユーザーは, システム構成の定義を編集できません。ほかの JP1/IM・View で編集中の場合, [ 排他編集 ] をチェックするとエラーダイアログが表示されます。また, 排他編集モードで通信エラーが発生した場合は, 排他編集モードが自動的に解除されます。

### 1.3.2 [ システム ] タブ

[ システム構成定義 ] 画面の [ システム ] タブには, 論理システムの構成が表示されます。[ システム ] タブを選択した場合の [ システム構成定義 ] 画面を次に示します。

## 1. 画面

図 1-5 [システム構成定義] 画面の [システム] タブ



表示項目を次に示します。

### (1) ツリー表示領域

論理システムを構成している要素をツリー構造で表示します。ツリー表示領域に表示される項目を次に示します。

#### [+]

ツリーの下に子オブジェクトを作成できます。ツリーが展開していないときに表示されます。[+] 記号を選択すると、子オブジェクトがある場合は、オブジェクトの下にツリーが展開されて [-] 記号に変わります。[+] 記号を選択したときに JP1/IM・CM からオブジェクトの最新情報を取得するため、展開できる子オブジェクトがない場合は、ツリーは展開されず、[+] 記号の表示も変わりません。

#### [-]

ツリーが展開しているときに表示されます。[-] 記号を選択すると、展開していたツリーが閉じられて [+] 記号に変わります。

#### オブジェクト

論理システムを構成している要素を表します。オブジェクトの下にさらに子オブ

ジェクトが作成できる場合は、[+] 記号または [-] 記号が横に表示されます。  
 オブジェクトを選択すると、詳細一覧にそのオブジェクトの子オブジェクトが一覧表示されます。  
 論理システムのツリーを構成するオブジェクトを次に示します。

表 1-2 論理システムのツリーを構成するオブジェクト

オブジェクトの種類	アイコン	説明
すべてのシステム		ツリーのルートを表します。アイコンの横に「すべてのシステム」と表示されます。
システム		論理システムを表します。アイコンの横に、定義した論理システムの名称が表示されます。
ロードバランシンググループ		ロードバランシンググループを表します。アイコンの横に、定義したロードバランシンググループの名称が表示されます。
ユニットグループ		ユニットグループを表します。アイコンの横に、定義したユニットグループの名称が表示されます。
論理 Web サーバ		論理 Web サーバを表します。アイコンの横に、定義した論理 Web サーバの名称が表示されます。
論理 AP サーバ		論理 AP サーバを表します。アイコンの横に、定義した論理 AP サーバの名称が表示されます。
論理 DB サーバ		論理 DB サーバを表します。アイコンの横に、定義した論理 DB サーバの名称が表示されます。
ユーザー定義サーバ		ユーザー定義サーバを表します。アイコンの横に、定義したユーザー定義サーバの名称が表示されます。
プロセス		プロセスを表します。アイコンの横に、定義したプロセスの名称が表示されます。

## (2) 詳細一覧

ツリー表示領域で選択したオブジェクトの 1 階層下のオブジェクトが一覧で表示されます。ツリー表示領域でオブジェクトが選択されていない場合は、何も表示されません。

詳細一覧に表示される項目を次に示します。

### [ 名称 ]

オブジェクトの名称を表示します。

### [ 種別 ]

オブジェクトの種別を表示します。表示される種別は、[ システム ] [ ロードバラン

## 1. 画面

シンググループ][ユニットグループ][論理 Web サーバ][論理 AP サーバ][論理 DB サーバ][ユーザー定義サーバ][プロセス][仮想ホスト]のどれかです。

### [説明]

オブジェクトについての説明を表示します。

### [最終更新日時]

オブジェクトが最後に更新された日時を表示します。

### [リソース]

オブジェクトの種別が[仮想ホスト]の場合は、物理リソースが割り当てられているかどうかを表示します。割り当てられている場合は[割当済]と表示され、割り当てられていない場合は[未割当]と表示されます。ツリーで仮想ホスト以外のオブジェクトを選択している場合は空白です。

## (3) ボタン

[システム]タブに表示されているボタンを次に示します。

### [リソースの割り当て]

[リソースを割り当てる](システムへのリソース割り当て)画面を表示します。詳細一覧で任意のオブジェクトを選択している場合に使用できます。このとき、次の条件をすべて満たしている必要があります。

- [排他編集]をチェックしている。
- ログインしているJP1 ユーザーが、JP1\_CM\_Admin 権限または JP1\_CM\_Manager 権限を持っている。

### [プロパティ]

詳細一覧で選択したオブジェクトのプロパティ画面を表示します。論理システムに JP1 資源グループを設定している場合、JP1 ユーザーが JP1\_CM\_Admin 権限を持っている、または同じ JP1 資源グループに属していると使用できます。

### [詳細情報の設定・参照]

[詳細情報の設定・参照]画面を表示します。

### [削除]

詳細一覧で選択しているオブジェクトと、関連するオブジェクトを削除します。次の条件をすべて満たしている場合に、使用できます。

- [排他編集]をチェックしている。
- ログインしているJP1 ユーザーが、JP1\_CM\_Admin 権限または JP1\_CM\_Manager 権限を持っている。
- 論理システムに JP1 資源グループを設定している場合、JP1 ユーザーが JP1\_CM\_Admin 権限を持っている、または同じ JP1 資源グループに属している。

[削除] ボタンをクリックすると、確認のためのメッセージダイアログが表示されます。[はい] ボタンをクリックすると、選択したオブジェクトが詳細一覧とツリーから削除されます。また、ツリーの下にあるオブジェクトもすべて削除されます。詳

細一覧で選択したオブジェクトの種類が [ システム ] の場合は、論理システムに定義されている仮想ホストも削除されます。詳細一覧で選択したオブジェクトの種類が [ 仮想ホスト ] の場合は、このボタンは非活性です。

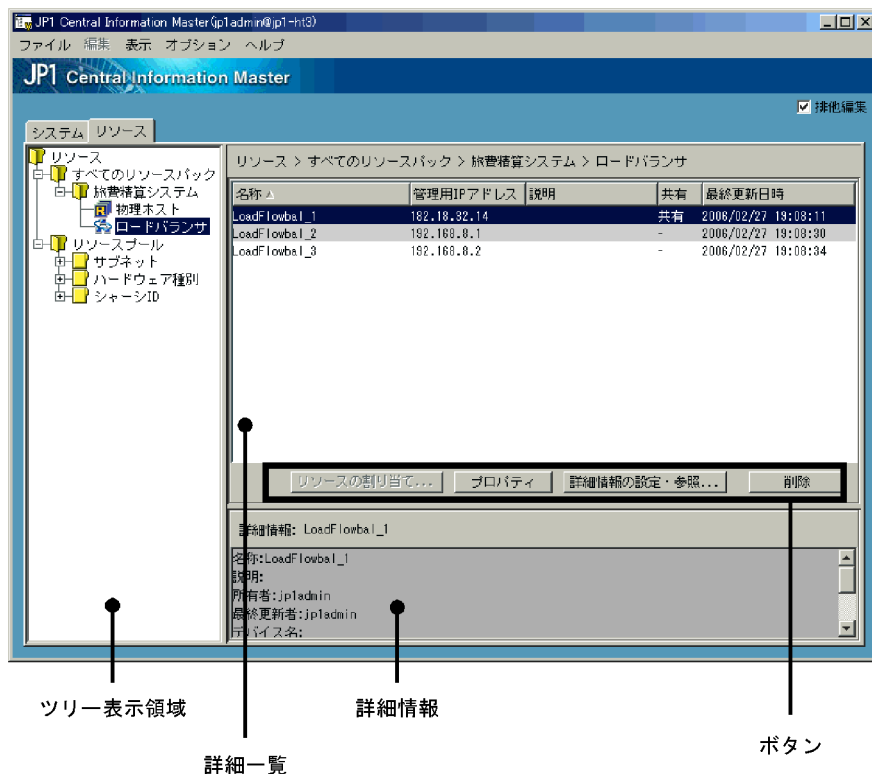
#### (4) 詳細情報

詳細一覧で選択したオブジェクトの詳細情報を表示します。ただし、オブジェクトのすべての設定項目が表示されるわけではありません。すべての設定項目を確認したい場合は、各オブジェクトのプロパティ画面を参照してください。

### 1.3.3 [ リソース ] タブ

[ システム構成定義 ] 画面の [ リソース ] タブには、物理リソースの情報が表示されます。[ システム構成定義 ] 画面の [ リソース ] タブを次に示します。

図 1-6 [ システム構成定義 ] 画面の [ リソース ] タブ



表示項目を次に示します。

#### (1) ツリー表示領域

物理リソース群を構成している要素をツリー構造で表示します。ツリー表示領域に表示される項目を次に示します。

## 1. 画面

### [+]

ツリーの下に子オブジェクトを作成できます。ツリーが展開していないときに表示されます。[+] 記号を選択すると、子オブジェクトがある場合は、オブジェクトの下にツリーが展開されて [-] 記号に変わります。[+] 記号を選択したときに JP1/IM・CM からオブジェクトの最新情報を取得するため、展開できる子オブジェクトがない場合は、ツリーは展開されず、[+] 記号の表示も変わりません。

### [-]

ツリーが展開しているときに表示されます。[-] 記号を選択すると、展開していたツリーが閉じられて [+] 記号に変わります。

### オブジェクト

物理リソース群を構成している要素を表します。オブジェクトの下にさらに子オブジェクトが作成できる場合は、[+] 記号または [-] 記号が横に表示されます。

物理リソースのツリーを構成するオブジェクトを次に示します。

表 1-3 物理リソースのツリーを構成するオブジェクト

オブジェクトの種類	アイコン	説明
リソース		ツリーのルートを表します。アイコンの横に「リソース」と表示されます。
すべてのリソースパック		リソースパックの集合を表します。アイコンの横に、「すべてのリソースパック」と表示されます。
リソースパック		リソースパックを表します。アイコンの横に定義したリソースパックの名称が表示されます。
リソースパック配下の物理ホスト		リソースパックに割り当てた物理ホストを表します。アイコンの横に、「物理ホスト」と表示されます。
リソースパック配下のロードバランサ		リソースパックに割り当てたロードバランサを表します。アイコンの横に「ロードバランサ」と表示されます。
リソースプール		リソースプールを表します。アイコンの横に、「リソースプール」と表示されます。
サブネット		リソースプールにある物理リソースをサブネットで分類します。アイコンの横に、「サブネット」と表示されます。
サブネットの配下のネットワークアドレス		分類された各サブネットを表します。アイコンの横にネットワークアドレスが表示されます。
ハードウェア種別		リソースプールにある物理リソースをハードウェア種別で分類します。アイコンの横に、「ハードウェア種別」と表示されます。



オブジェクトの種類	アイコン	説明
ハードウェア種別配下の物理ホスト		リソースプールにある物理リソースの物理ホストを表します。アイコンの横に、「物理ホスト」と表示されます。
ハードウェア種別配下のロードバランサ		リソースプールにある物理リソースのロードバランサを表します。アイコンの横に「ロードバランサ」と表示されます。
シャーシ ID		リソースプールにある物理リソースをシャーシ ID で分類します。アイコンの横に「シャーシ ID」と表示されます。
シャーシ ID の配下のシャーシ ID		分類された各シャーシ ID を表します。アイコンの横に定義されているシャーシ ID が表示されます。

## (2) 詳細一覧

ツリー表示領域で選択したオブジェクトの詳細が表示されます。ツリー表示領域でオブジェクトが選択されていない場合、または、「リソース」を選択している場合は、表示されません。

詳細一覧に表示される項目の内容はツリー表示領域で選択したオブジェクトの種類によって異なります。オブジェクトの種類によって表示される項目を次に示します。

表 1-4 詳細一覧の表示内容と項目

オブジェクトの種類	表示内容	項目
すべてのリソースパック	リソースパックを一覧表示	名称
		説明
		最終更新日時
リソースパック	リソースパックに割り当てた物理ホスト、ロードバランサの数を表示	種類
		登録リソース数
リソースパック配下の物理ホスト	リソースパックに割り当てた物理ホストを一覧表示	名称
		IP アドレス
		説明
		共有
		最終更新日時
リソースパック配下のロードバランサ	リソースパックに割り当てたロードバランサを一覧表示	名称
		管理用 IP アドレス
		説明
		共有
		最終更新日時

## 1. 画面

オブジェクトの種類	表示内容	項目
リソースプール	リソースプールにある物理ホスト，ロードバランサの数を表示	種類
		登録リソース数
サブネット	サブネットが定義されている物理ホストの数を表示	種類
		登録リソース数
サブネットの配下	選択したサブネットを設定している物理ホストを一覧表示	名称
		IP アドレス
		説明
		共有
		最終更新日時
ハードウェア種別	ハードウェア種別以下にある物理ホスト，ロードバランサの数を表示	種類
		登録リソース数
ハードウェア種別配下の物理ホスト	リソースプールにある物理ホストを一覧表示	名称
		IP アドレス
		説明
		共有
		最終更新日時
ハードウェア種別配下のロードバランサ	リソースプールにあるロードバランサを一覧表示	名称
		IP アドレス
		説明
		共有
		最終更新日時
シャーシ ID	シャーシ ID が定義されている物理ホストの数を表示	種類
		登録リソース数
シャーシ ID の配下	選択したシャーシ ID が定義されている物理ホストを一覧表示	名称
		IP アドレス
		説明
		共有
		最終更新日時

### (3) ボタン

[ リソース ] タブに表示されるボタンを次に示します。

[ リソースの割り当て ]

[ リソースを割り当てる ] (リソースパックへのリソース割り当て) 画面を表示します。詳細一覧で任意のオブジェクトを選択している場合に使用できます。このとき、

次の条件をすべて満たしている必要があります。

- [ 排他編集 ] をチェックしている。
- ログインしている JP1 ユーザーが、JP1\_CM\_Admin 権限または JP1\_CM\_InfraManager 権限を持っている。

#### [ プロパティ ]

詳細一覧で選択したリソースパック、物理ホスト、またはロードバランサのプロパティ画面を表示します。次の条件をすべて満たしている場合に使用できます。

- 詳細一覧でリソースパック、物理ホスト、またはロードバランサが選択されている。
- 詳細一覧で選択した物理ホストまたはロードバランサが、JP1 資源グループを設定しているリソースパックに属している場合、JP1 ユーザーは、JP1\_CM\_Admin 権限を持っている、または同じ JP1 資源グループに属している。

#### [ 詳細情報の設定・参照 ]

[ 詳細情報の設定・参照 ] 画面を表示します。

#### [ 削除 ]

詳細一覧で選択しているリソースプールの下の物理リソース（物理ホストまたはロードバランサ）を削除します。次の条件をすべて満たしている場合に、使用できます。

- [ 排他編集 ] をチェックしている。
- ログインしている JP1 ユーザーが、JP1\_CM\_Admin 権限または JP1\_CM\_InfraManager 権限を持っている。

### (4) 詳細情報


詳細一覧で選択したオブジェクトの詳細情報を表示します。ただし、オブジェクトのすべての設定項目が表示されるわけではありません。すべての設定項目を確認したい場合は、オブジェクトのプロパティ画面を参照してください。

## 1.4 論理構成の定義画面

この節では、論理構成を定義するための画面について説明します。

### 1.4.1 [システムの作成] 画面

[システムの作成] 画面は、新規に論理システムを作成するための画面です。この画面は次の操作で表示されます。

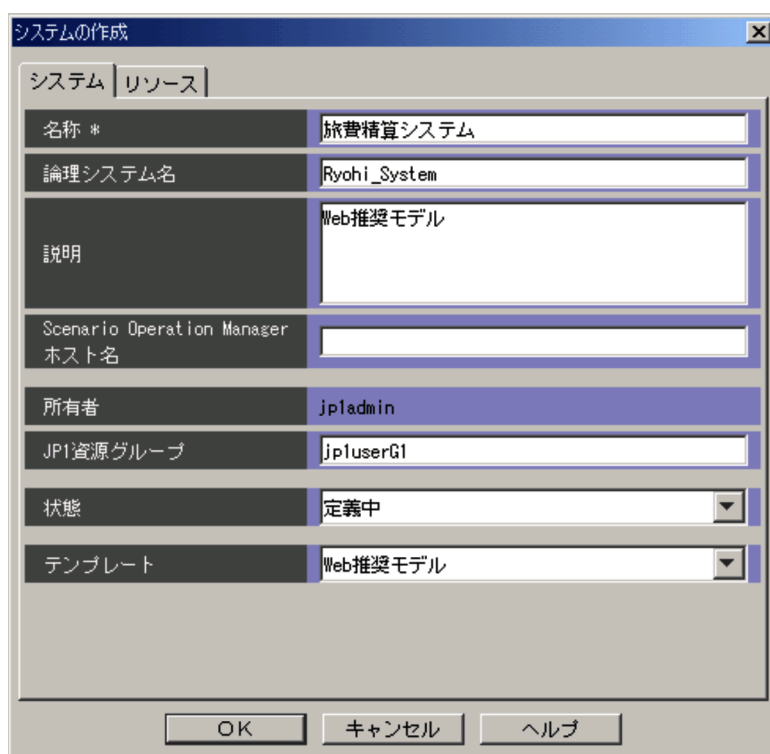
- [システム構成定義] 画面で [システム] タブを表示し、ツリーで  (すべてのシステム) を選択した状態で、[編集] - [作成] - [システム] を選択する。

[システムの作成] 画面には、[システム] タブと [リソース] タブの2種類のタブがあります。タブを選択することで [システム] タブと [リソース] タブの表示を切り替えられます。次に、[システム] タブと [リソース] タブの表示項目について説明します。

#### (1) [システム] タブ

[システムの作成] 画面の [システム] タブは、作成したい論理システムのシステム情報を設定できます。[システムの作成] 画面の [システム] タブを次に示します。

図 1-7 [システムの作成] 画面の [システム] タブ



システムの作成 dialog box のスクリーンショット。タブは「システム」が選択されている。フィールドには以下の値が入力されている:

フィールド名	入力値
名称 *	旅費精算システム
論理システム名	Ryohi_System
説明	Web推奨モデル
Scenario Operation Manager ホスト名	
所有者	jpladmin
JP1資源グループ	jpluserG1
状態	定義中
テンプレート	Web推奨モデル

下部には「OK」、「キャンセル」、「ヘルプ」のボタンがある。

表示項目を次に示します。項目名の横に「\*」がある項目は、必ず入力してください。入力できる文字の「印刷できる ASCII 文字」とは、ASCII 文字コード ¥u0020 ~ ¥u007E の範囲です。

#### [ 名称 ]

作成したい論理システムの名称を入力します。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

「\*」を除いた印刷できる ASCII 文字，全角文字

入力できる文字数：

1 ~ 511 バイト

すでにある論理システムと同じ名称を指定して [ OK ] ボタンをクリックした場合は、エラーダイアログが表示されます。

#### [ 論理システム名 ]

Cosminexus 連携用のシステム名称を入力します。[ テンプレート ] に [ Web 推奨モデル ] を指定し、jcmexport コマンドを使用して Cosminexus Smart Composer 用 ファイルを出力する場合は入力してください。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

半角英数字，「-」，および「\_」

入力できる文字数：

0 ~ 30 バイト

#### [ 説明 ]

作成したい論理システムについての説明を入力します。この項目は省略できます。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

印刷できる ASCII 文字，改行文字，全角文字

入力できる文字数：

0 ~ 2,047 バイト

#### [ Scenario Operation Manager ホスト名 ]

JP1/AJS2 - SO Manager と連携する場合に、JP1/AJS2 - SO Manager が稼働するホストの名称を入力します。JP1/AJS2 - SO Manager と連携する場合は、必ず入力してください。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

空白と「#」を除いた印刷できる ASCII 文字

入力できる文字数：

0 ~ 255 バイト

## 1. 画面

### [ 所有者 ]

ログインしている JP1 ユーザー名が表示されます。この項目は変更できません。

### [ JP1 資源グループ ]

作成したい論理システムが属する JP1 資源グループを入力します。JP1 資源グループを作成した場合は、JP1\_CM\_Admin 権限がなければ、同じ JP1 資源グループの JP1 ユーザーだけがシステム構成を参照、または編集できます。JP1 資源グループを作成しない場合は、権限のあるすべての JP1 ユーザーがシステム構成を参照または編集できます。この項目は省略できます。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

空白と「" ' ^ [ ] { } ( ) : ; | ￥ / = , + ? < >」を除いた印刷できる ASCII 文字

入力できる文字数：

0 ~ 64 バイト

### [ 状態 ]

作成中の論理システムの状態を、リストから選択します。選択できる状態は、[ 定義中 ] [ 構築中 ] [ 確認中 ] [ 稼働中 ] のどれかです。JP1/IM・CM では、論理システムの状態を確認できません。論理システムの状態に合わせてユーザーの判断で選択してください。デフォルトは [ 定義中 ] です。各状態の意味を次に示します。

#### • [ 定義中 ]

JP1/IM・CM 上で論理システムを定義している状態です。論理構成定義やマッピング定義の定義が完了した時点で [ 構築中 ] に移行できます。

#### • [ 構築中 ]

JP1/IM・CM 上で定義した論理システムを、実際のマシン上に構築している状態です。すべての構築が完了した時点で [ 確認中 ] に移行できます。

#### • [ 確認中 ]

JP1/IM・CM 上で定義した論理システムと、実際のマシン上に構築したシステムとの整合性を確認している状態です。

論理システムに関連づいている管理ミドルウェアから構成情報を収集できます。

#### • [ 稼働中 ]

JP1/IM・CM 上で定義した論理システムが、実際のマシン上に構築したシステムで運用・監視している状態です。

論理システムに関連づいている管理ミドルウェアから構成情報を収集できます。

### [ テンプレート ]

作成したい論理システムが使用するテンプレートを、リストから選択します。選択できる値は、[ Web 推奨モデル ] [ フリーパターン ] のどちらかです。デフォルトは [ Web 推奨モデル ] です。

[ Web 推奨モデル ] を選択して [ OK ] ボタンをクリックした場合は、[ システム (Web 推奨モデル) の作成 - ステップ 1 of 3 ] 画面が表示されます。この画面からウイ

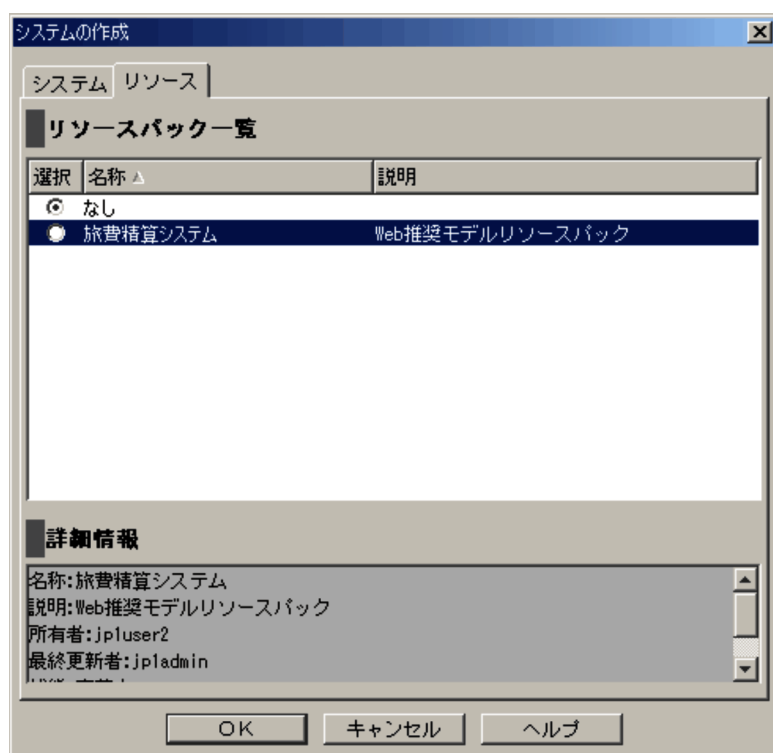
ザード形式で Web 推奨モデルの論理システムを作成できます。詳細は「1.8 Cosminexus 用システム構成の作成」を参照してください。

[フリーパターン] を選択して [OK] ボタンをクリックした場合は、論理システムを作成して [システムの作成] 画面を閉じます。

## (2) [リソース] タブ

[システムの作成] 画面の [リソース] タブは、作成したい論理システムのリソースパックの割り当てを設定できます。[システムの作成] 画面の [リソース] タブを次に示します。

図 1-8 [システムの作成] 画面の [リソース] タブ



表示項目を次に示します。

### [リソースパッケージ一覧]

作成されているリソースパックの一覧と、固定で [なし] が表示されます。リソースパックの一覧には、リソースパックの名称と説明を表示します。リソースパックを割り当てる場合は、割り当てたいリソースパックをチェックします。リソースパックを割り当てない場合は、[なし] をチェックします。ほかの論理システムに割り当てられているリソースパックは非活性です。リソースパックが作成されていない場合は、[なし] だけ表示されています。



### [詳細情報]

## 1. 画面

[ リソースパッカー一覧 ] で選択されているリソースパックの詳細情報を表示します。詳細情報として、リソースパックの名称、説明、所有者、最終更新者、状態、およびシステムを表示します。[ リソースパッカー一覧 ] で [ なし ] を選択している場合は、詳細情報に何も表示されません。

### 1.4.2 [ システムのプロパティ ] 画面

[ システムのプロパティ ] 画面は、作成した論理システムの設定内容を表示または編集するための画面です。この画面は次のどちらかの操作で表示されます。

- [ システム構成定義 ] 画面で [ システム ] タブを表示し、ツリーで  (システム) を選択している状態で、[ 編集 ] - [ プロパティ ] を選択する。
- [ システム構成定義 ] 画面で [ システム ] タブを表示し、ツリーで  (すべてのシステム) を選択する。表示されている [ 詳細一覧 ] から [ 種別 ] がシステムのオブジェクトを選択し、[ プロパティ ] ボタンをクリックする。

次の条件をすべて満たしている場合は、論理システムの設定内容を編集できます。条件を満たしていない項目が一つでもある場合は、すべての項目が非活性で表示されます。

- [ システム構成定義 ] 画面の [ 排他編集 ] をチェックしている。
- ログインしている JP1 ユーザーが、JP1\_CM\_Admin 権限または JP1\_CM\_Manager 権限を持っている。
- 論理システムに JP1 資源グループを設定している場合、JP1 ユーザーが JP1\_CM\_Admin 権限を持っている、または同じ JP1 資源グループに属している。

[ システムのプロパティ ] 画面には、[ システム ] タブと [ リソース ] タブの 2 種類のタブがあります。タブを選択することで [ システム ] タブと [ リソース ] タブの表示を切り替えられます。次に、[ システム ] タブと [ リソース ] タブの表示項目について説明します。

#### (1) [ システム ] タブ

[ システムのプロパティ ] 画面の [ システム ] タブは、選択した論理システムのシステム情報を表示または編集できます。[ システムのプロパティ ] 画面の [ システム ] タブを次に示します。



図 1-9 [ システムのプロパティ ] 画面の [ システム ] タブ

項目名	値
名称 *	旅費精算システム
論理システム名	Ryohi_System
説明	Web推奨モデル
Scenario Operation Manager ホスト名	
所有者	jpluser1
JPI資源グループ	jpluserG1
状態	定義中
テンプレート	Web推奨モデル

表示項目を次に示します。項目名の横に「\*」がある項目は、必ず入力してください。入力できる文字の「印刷できる ASCII 文字」とは、ASCII 文字コード ¥u0020 ~ ¥u007E の範囲です。

#### [ 名称 ]

設定されている論理システムの名称が表示されます。

編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

「\*」を除いた印刷できる ASCII 文字，全角文字

入力できる文字数：

1 ~ 511 バイト

すでにある論理システム，または論理システム内の論理オブジェクトと同じ名称を入力して，[ OK ] ボタンまたは [ 適用 ] ボタンをクリックすると，エラーダイアログが表示されます。

#### [ 論理システム名 ]

設定されている場合は、設定されている Cosminexus 連携用のシステム名称が表示されます。[ テンプレート ] で [ Web 推奨モデル ] を選択し、jcmexport コマンドを使用して Cosminexus Smart Composer 用ファイルを出力する場合は、必ず設定してください。

## 1. 画面

編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

半角英数字,「-」,および「\_」

入力できる文字数：

0 ~ 30 バイト

### [ 説明 ]

設定されている場合は、論理システムの説明が表示されます。この項目は省略できます。

編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

印刷できる ASCII 文字,改行文字,全角文字

入力できる文字数：

0 ~ 2,047 バイト

### [ Scenario Operation Manager ホスト名 ]

JP1/AJS2 - SO Manager と連携する場合は,JP1/AJS2 - SO Manager が稼働するホストの名称が表示されます。JP1/AJS2 - SO Manager と連携する場合は,必ず入力してください。

編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

空白と「#」を除いた印刷できる ASCII 文字

入力できる文字数：

0 ~ 255 バイト

### [ 所有者 ]

論理システムを作成した JP1 ユーザー名が表示されます。この項目は変更できません。

### [ JP1 資源グループ ]

論理システムを編集できる JP1 資源グループが表示されます。JP1 資源グループを作成していない場合は,権限のあるすべての JP1 ユーザーが論理システムを編集できます。この項目は省略できます。

編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

空白と「" , ^ [ ] { } ( ) : ; | ￥ / = , + ? < >」を除いた印刷できる ASCII 文字

入力できる文字数：

0 ~ 64 バイト

### [ 状態 ]

論理システムの状態が表示されます。変更したい場合は,リストから [ 定義中 ][ 構

築中][確認中][稼働中]のどれかを選択してください。JP1/IM・CMでは、論理システムの状態を確認できません。論理システムの状態に合わせてユーザーの判断で選択してください。各状態の意味を次に示します。

- [定義中]

JP1/IM・CM上で論理システムを定義している状態です。論理構成定義やマッピング定義の定義が完了した時点で[構築中]に移行できます。

- [構築中]

JP1/IM・CM上で定義した論理システムを、実際のマシン上に構築している状態です。すべての構築が完了した時点で[確認中]に移行できます。

- [確認中]

JP1/IM・CM上で定義した論理システムと、実際のマシン上に構築したシステムとの整合性を確認している状態です。

論理システムに関連づいている管理ミドルウェアから構成情報を収集できます。

- [稼働中]

JP1/IM・CM上で定義した論理システムが、実際のマシン上に構築したシステムで運用・監視している状態です。

論理システムに関連づいている管理ミドルウェアから構成情報を収集できます。

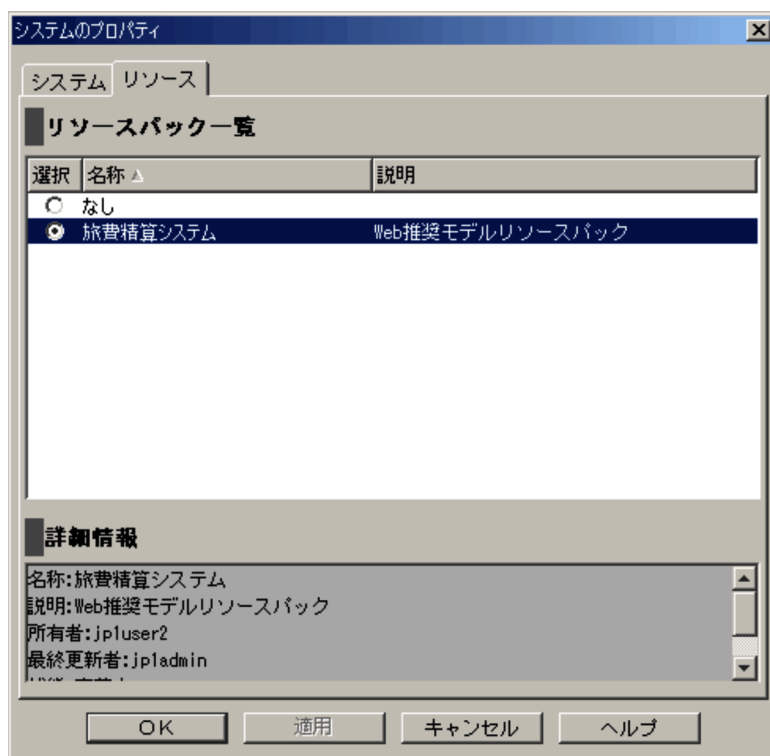
[テンプレート]

論理システムを作成したときに使用したテンプレートを表示します。この項目は変更できません。

## (2) [リソース] タブ

[システムのプロパティ]画面の[リソース]タブは、選択した論理システムのリソース情報を表示または編集できます。[システムのプロパティ]画面の[リソース]タブを次に示します。

図 1-10 [ システムのプロパティ ] 画面の [ リソース ] タブ



表示項目を次に示します。

#### [ リソースパッケージ一覧 ]




作成されているリソースパックの一覧と、固定で [ なし ] が表示されます。リソースパックの一覧には、リソースパックの名称と説明を表示します。論理システムにリソースパックが割り当てられている場合は、割り当てられているリソースパックがチェックされています。論理システムにリソースパックが割り当てられていない場合は、[ なし ] がチェックされています。ほかの論理システムに割り当てられているリソースパックは非活性です。

#### [ 詳細情報 ]

[ リソースパッケージ一覧 ] で選択されているリソースパックの詳細情報を表示します。詳細情報として、リソースパックの名称、説明、所有者、最終更新者、状態、およびシステムを表示します。[ リソースパッケージ一覧 ] で [ なし ] を選択している場合は、詳細情報に何も表示されません。

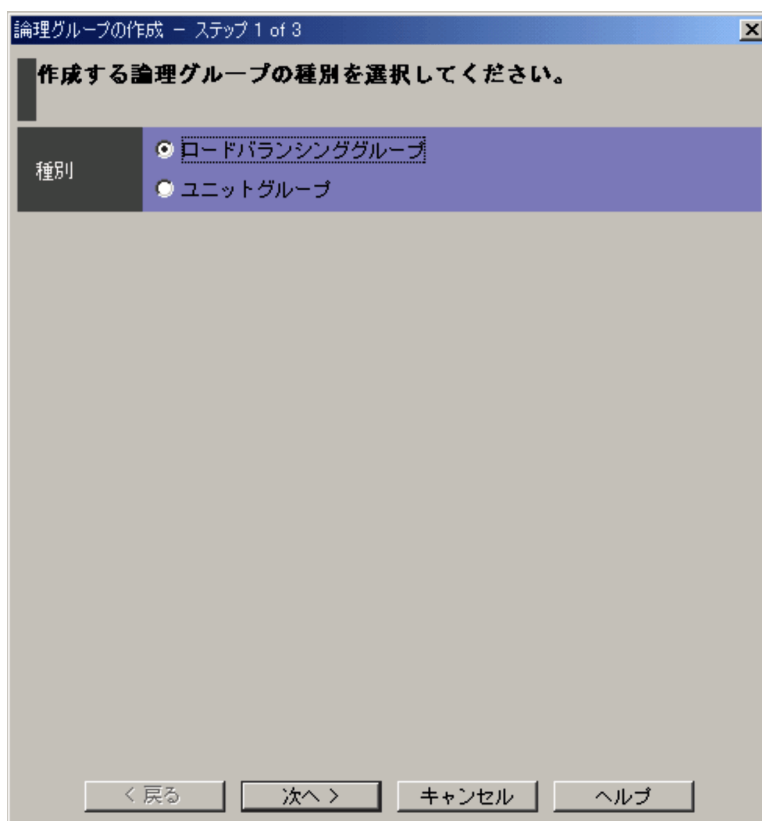
### 1.4.3 [ 論理グループの作成 ] 画面

[ 論理グループの作成 ] 画面は、新規に論理グループを作成するための画面です。この画面からウィザード形式で論理グループを作成できます。この画面は次のどちらかの操作で表示されます。

- [システム構成定義] 画面で [システム] タブを表示し、ツリーで  (システム) を選択した状態で、[編集] - [作成] - [論理グループ] を選択する。
- [システム構成定義] 画面で [システム] タブを表示し、ツリーで  (ロードバランシンググループ)、または  (ユニットグループ) を選択した状態で、[編集] - [作成] - [論理グループ] を選択する。

[論理グループの作成] の画面を次に示します。

図 1-11 [論理グループの作成] の画面



表示項目を次に示します。

#### [種別]

作成したい論理グループの種別として [ロードバランシンググループ] [ユニットグループ] のどちらかを選択します。ロードバランシンググループの下に、[ロードバランシンググループ] を作成できません。また、ユニットグループの下に、[ユニットグループ] を作成できません。

#### [次へ>]

[種別] に [ロードバランシンググループ] を選択した場合は、[ロードバランシ

## 1. 画面

「グループの作成」画面に遷移します。詳細は「1.4.4 [論理グループの作成] (ロードバランシンググループの作成) 画面」を参照してください。[種別]に「ユニットグループ」を選択した場合は、「ユニットグループの作成」画面に遷移します。詳細は「1.4.5 [論理グループの作成] (ユニットグループの作成) 画面」を参照してください。

### 1.4.4 [論理グループの作成] (ロードバランシンググループの作成) 画面

ロードバランシンググループの作成画面は、新規にロードバランシンググループを作成するための画面です。この画面はウィザードで表示される画面で、次の操作で表示されます。

- [論理グループの作成] 画面の [種別] で、[ロードバランシンググループ] を選択して [次へ>] ボタンをクリックする。

ロードバランシンググループの作成画面を次に示します。

図 1-12 [論理グループの作成] (ロードバランシンググループの作成) 画面

表示項目を次に示します。項目名の横に「\*」がある項目は、必ず入力してください。入

力できる文字の「印刷できる ASCII 文字」とは、ASCII 文字コード ¥u0020 ~ ¥u007E の範囲です。

#### [ 名称 ]

作成したいロードバランシンググループの名称を入力します。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

「\*」を除いた印刷できる ASCII 文字，全角文字

入力できる文字数：

1 ~ 511 バイト

なお，論理システム内の論理オブジェクトと同じ名称は指定できません。

#### [ Cosminexus 管理名 ]

ロードバランシンググループの Cosminexus 管理名を入力します。論理システムが Cosminexus 用の Web 推奨モデルの場合は，この項目が表示されます。jcmexport コマンドを使用して Cosminexus Smart Composer 用ファイルを出力する場合は，入力する必要があります。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

半角英数字，「-」，および「\_」

入力できる文字数：

0 ~ 32 バイト

#### [ 説明 ]

ロードバランシンググループについての説明を入力します。この項目は省略できます。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

印刷できる ASCII 文字，改行文字，全角文字

入力できる文字数：

0 ~ 2,047 バイト

#### [ 仮想 IP アドレス ]

ロードバランシンググループに割り当てる仮想 IP アドレスを入力します。[ 種別 ] に [ ロードバランサ ] を選択した場合は，仮想 IP アドレスにはロードバランサに設定されている論理 IP アドレスを設定してください。この項目は省略できます。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

IPv4 または IPv6 の形式

#### [ 種別 ]

ロードバランシンググループの種別をリストから選択します。選択できる値は，

## 1. 画面

[ ロードバランサ ][ その他 ] のどちらかです。ロードバランサを使用する場合は [ ロードバランサ ] を選択してください。

### [ ロードバランシング方式 ]

ロードバランシング方式をリストから選択します。選択できる値は , [ default ] [ least-connections ] [ round-robin ] [ weight ] [ response-time ] [ least-session ] のどれかです。デフォルトは [ default ] です。

### [ 多重度 ]

ロードバランシンググループの配下に定義したいユニットグループの数を表します。この項目は非活性です。

## ポート情報

### [ ポート情報設定 ]

ポート情報を設定するかどうか指定します。[ 有効 ] をチェックすると、ポート情報を設定します。ポート情報を設定する場合は、ポート情報の項目をすべて設定する必要があります。[ 有効 ] のチェックを外すとポート情報を設定しません。ポート情報を設定しない場合は、ポート情報の各項目は非活性になります。

### [ ポート名称 ]

ロードバランシンググループが使用するポートの名称を入力します。[ ポート情報設定 ] の [ 有効 ] がチェックされていない場合は非活性です。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字 :

空白と「 # \* 」を除いた印刷できる ASCII 文字

入力できる文字数 :

1 ~ 127 バイト

### [ ポート番号 ]

ロードバランシンググループが使用するポートの番号を入力します。[ ポート情報設定 ] の [ 有効 ] がチェックされていない場合は非活性です。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字 :

0 ~ 65,535 の数字

入力できる文字数 :

1 ~ 5 バイト

### [ ポート種別 ]

ロードバランシンググループが使用するポートの種別を、リストから選択します。選択できる値は , [ tcp ] [ udp ] [ tcp/udp ] のどれかです。デフォルトは [ tcp ] です。[ ポート情報設定 ] の [ 有効 ] がチェックされていない場合は非活性です。

### [ 次へ > ]

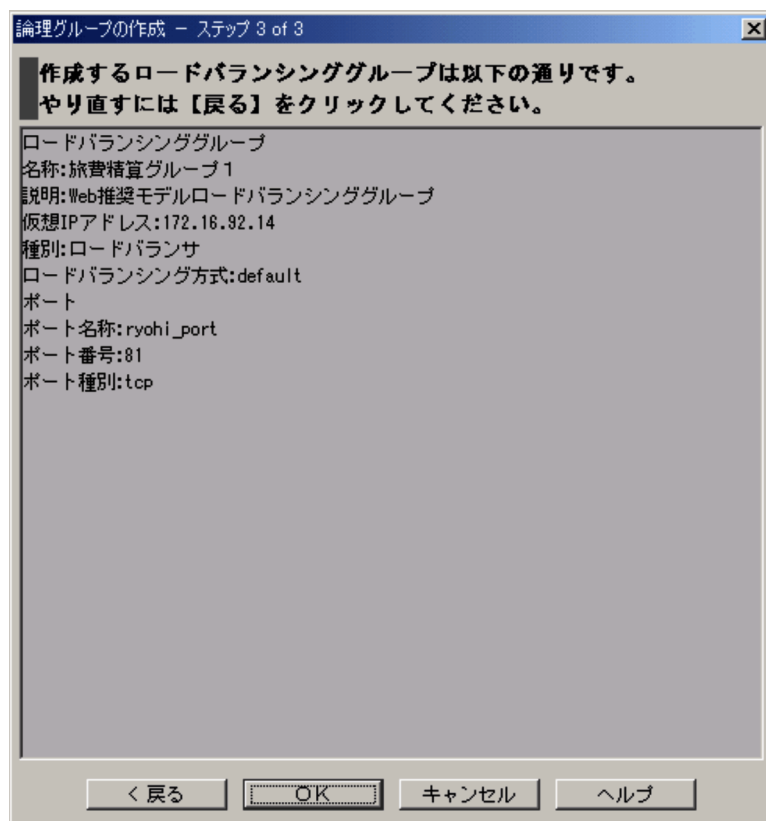
ロードバランシンググループについての作成確認画面が表示されます。



### (1) ロードバランシンググループの作成確認画面

ロードバランシンググループの作成確認画面は、ロードバランシンググループの作成画面で設定した内容を確認するための画面です。ロードバランシンググループの作成確認画面の表示例を次に示します。

図 1-13 ロードバランシンググループの作成確認画面



[ OK ] ボタンをクリックすると、ロードバランシンググループが作成されます。[ ロードバランシンググループの作成 ] 画面の [ 名称 ] に、論理システム内の論理オブジェクトと同じ名称を入力して [ OK ] ボタンをクリックした場合、エラーダイアログが表示されます。この場合は、[ < 戻る ] ボタンをクリックして、入力し直してください。

## 1.4.5 [ 論理グループの作成 ] ( ユニットグループの作成 ) 画面

ユニットグループの作成画面は、新規にユニットグループを作成するための画面です。この画面はウィザードで表示される画面で、次の操作で表示されます。

- [ 論理グループの作成 ] 画面で、[ 種別 ] をユニットグループにして [ 次へ > ] ボタンをクリックする。

## 1. 画面

ユニットグループの作成画面を次に示します。

図 1-14 [ 論理グループの作成 ] (ユニットグループの作成) 画面

表示項目を次に示します。項目名の横に「\*」がある項目は、必ず入力してください。入力できる文字の「印刷できる ASCII 文字」とは、ASCII 文字コード ¥u0020 ~ ¥u007E の範囲です。

### [ 名称 ]

作成したいユニットグループの名称を入力します。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

「\*」を除いた印刷できる ASCII 文字，全角文字

入力できる文字数：

1 ~ 511 バイト

なお，論理システム内の論理オブジェクトと同じ名称は指定できません。

### [ Cosminexus 管理名 ]

ユニットグループの Cosminexus 管理名を入力します。論理システムが

Cosminexus 用の Web 推奨モデルの場合は，この項目が表示されます。jcmexport

コマンドを使用して Cosminexus Smart Composer 用ファイルを出力する場合は、  
入力する必要があります。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

半角英数字，「-」，および「\_」

入力できる文字数：

0 ～ 32 バイト

[ 説明 ]

ユニットグループについての説明を入力します。この項目は省略できます。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

印刷できる ASCII 文字，改行文字，全角文字

入力できる文字数：

0 ～ 2,047 バイト

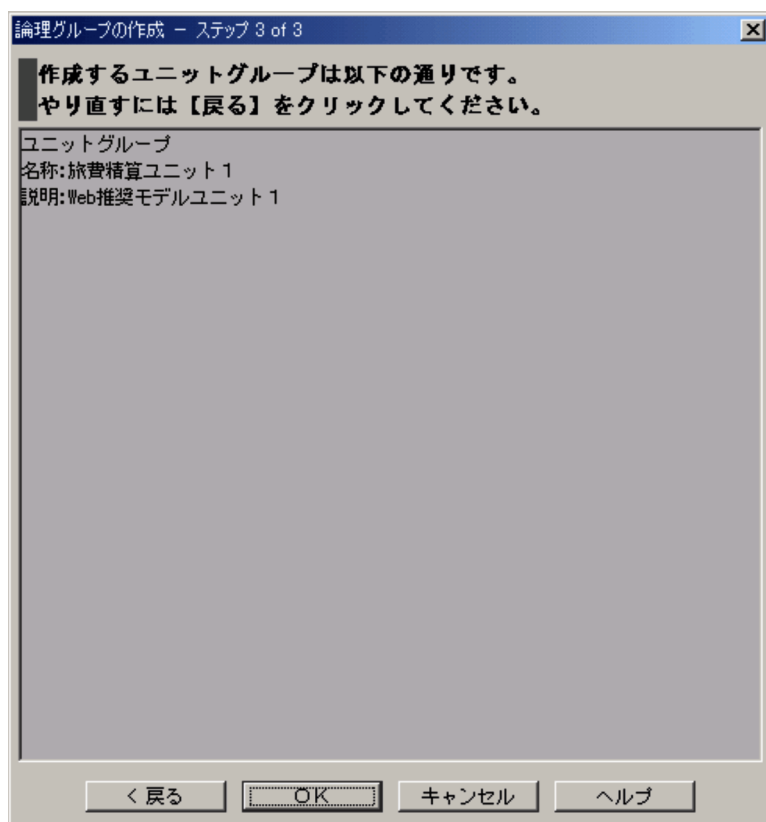
[ 次へ > ]

ユニットグループについての作成確認画面が表示されます。

( 1 ) ユニットグループの作成確認画面

ユニットグループの作成確認画面は，ユニットグループの作成画面で設定した内容を確認するための画面です。ユニットグループの作成確認画面の表示例を次に示します。




図 1-15 ユニットグループの作成確認画面



[ OK ] ボタンをクリックすると、ユニットグループが作成されます。ユニットグループの作成画面の [ 名称 ] に、論理システム内の論理オブジェクトと同じ名称を入力して [ OK ] ボタンをクリックした場合、エラーダイアログが表示されます。この場合は、[ < 戻る ] ボタンをクリックして、入力し直してください。

#### 1.4.6 [ ロードバランシンググループのプロパティ ] 画面

[ ロードバランシンググループのプロパティ ] 画面は、論理グループとして作成したロードバランシンググループの設定内容を表示または編集するための画面です。この画面は次のどちらかの操作で表示されます。

- [ システム構成定義 ] 画面で [ システム ] タブを表示し、ツリーで  (ロードバランシンググループ) を選択している状態で、[ 編集 ] - [ プロパティ ] を選択する。
- [ システム構成定義 ] 画面で [ システム ] タブを表示し、ツリーで  (システム) または  (ユニットグループ) のオブジェクトを選択する。表示されている [ 詳細一覧 ] からロードバランシンググループを選択し、[ プロパティ ] ボタンをクリックする。

次の条件をすべて満たしている場合は、ロードバランシンググループの設定内容を編集できます。一つでも満たしていない場合は、すべての項目が非活性で表示されて、編集できません。

- [ システム構成定義 ] 画面の [ 排他編集 ] をチェックしている。
- ログインしている JP1 ユーザーが、JP1\_CM\_Admin 権限または JP1\_CM\_Manager 権限を持つ JP1 ユーザーである。
- 論理システムに JP1 資源グループを設定している場合、JP1 ユーザーが JP1\_CM\_Admin 権限を持っている、または同じ JP1 資源グループに属している。

[ ロードバランシンググループのプロパティ ] 画面を次に示します。

図 1-16 [ ロードバランシンググループのプロパティ ] 画面

表示項目を次に示します。項目名の横に「\*」がある項目は、必ず入力してください。入力できる文字の「印刷できる ASCII 文字」とは、ASCII 文字コード ¥u0020 ~ ¥u007E の範囲です。

#### [ 名称 ]

設定されているロードバランシンググループの名称が表示されます。  
編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

「\*」を除いた印刷できる ASCII 文字、全角文字

## 1. 画面

入力できる文字数：

1 ~ 511 バイト

論理システム内の論理オブジェクトと同じ名称を入力して [ OK ] ボタンまたは [ 適用 ] ボタンをクリックすると、エラーダイアログが表示されます。

### [ Cosminexus 管理名 ]

設定されているロードバランシンググループの Cosminexus 管理名が表示されます。論理システムが Cosminexus 用の Web 推奨モデルの場合は、この項目が表示されます。jcmexport コマンドを使用して Cosminexus Smart Composer 用ファイルを出力する場合は、設定する必要があります。

編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

半角英数字、「-」、および「\_」

入力できる文字数：

0 ~ 32 バイト

### [ 説明 ]

設定されている場合は、ロードバランシンググループの説明が表示されます。この項目は省略できます。

編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

印刷できる ASCII 文字、改行文字、全角文字

入力できる文字数：

0 ~ 2,047 バイト

### [ 仮想 IP アドレス ]

ロードバランシンググループに割り当てる仮想 IP アドレスが表示されます。所属する論理システムが Cosminexus 用の Web 推奨モデルで、ロードバランシンググループの [ 種別 ] が [ ロードバランサ ] の場合は、仮想 IP アドレスにはロードバランサに設定されている論理 IP アドレスを設定してください。Cosminexus Smart Composer 用ファイルを出力するときに、指定した仮想 IP アドレスが定義されたロードバランサの情報を、JP1/IM - CM が自動的に引き当てます。

編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

IPv4 または IPv6 の形式

### [ 種別 ]

選択されているロードバランシンググループの種別が表示されます。種別を変更したい場合は、リストから [ ロードバランサ ] [ その他 ] のどちらかを選択してください。ロードバランサを使用する場合は [ ロードバランサ ] を指定してください。

### [ ロードバランシング方式 ]

選択されているロードバランシング方式が表示されます。ロードバランシング方式を変更したい場合は、リストから、[ default ][ least-connections ][ round-robin ][ weight ][ response-time ][ least-session ] のどれかを選択してください。

#### [ 多重度 ]

この項目は、常に非活性です。

#### ポート情報

##### [ ポート情報設定 ]

ポート情報を設定するかどうか指定します。[ 有効 ] をチェックすると、ポート情報を設定します。ポート情報を設定する場合は、ポート情報の項目をすべて設定する必要があります。[ 有効 ] のチェックを外すとポート情報を設定しません。ポート情報を設定しない場合は、ポート情報の各項目は非活性になります。

##### [ ポート名称 ]

設定されている場合は、ロードバランシンググループが使用するポートの名称が表示されます。[ ポート情報設定 ] の [ 有効 ] がチェックされていない場合は非活性です。

編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

空白と「# \*」を除いた印刷できる ASCII 文字

入力できる文字数：

1 ~ 127 バイト

##### [ ポート番号 ]

設定されている場合は、ロードバランシンググループが使用するポートのポート番号が表示されます。[ ポート情報設定 ] の [ 有効 ] がチェックされていない場合は非活性です。

編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

0 ~ 65,535 の数字

入力できる文字数：

1 ~ 5 バイト

##### [ ポート種別 ]




ロードバランシンググループが使用するポートの種別が表示されます。ポート種別を変更したい場合は、リストから [ tcp ][ udp ][ tcp/udp ] のどれかを選択してください。[ ポート情報設定 ] の [ 有効 ] がチェックされていない場合は非活性です。

## 1.4.7 [ ユニットグループのプロパティ ] 画面

[ ユニットグループのプロパティ ] 画面は、論理グループとして作成したユニットグループの設定内容を表示または編集するための画面です。この画面は次のどちらかの操作で

## 1. 画面

表示されます。

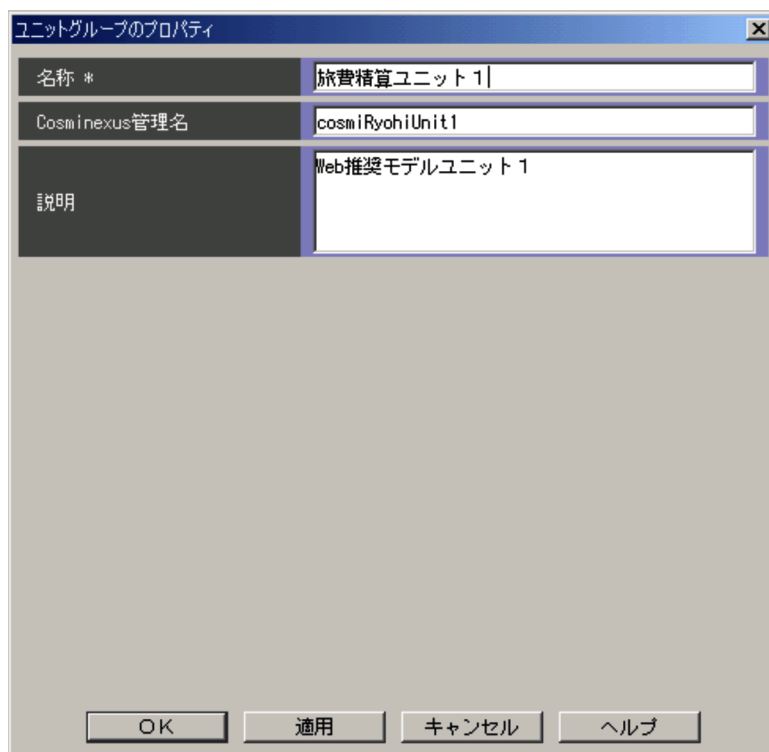
- [システム構成定義] 画面で [システム] タブを表示し、ツリーで  (ユニットグループ) を選択している状態で、[編集] - [プロパティ] を選択する。
- [システム構成定義] 画面で [システム] タブを表示し、ツリーで  (システム) または  (ロードバランシンググループ) のオブジェクトを選択する。表示されている [詳細一覧] よりユニットグループを選択し、[プロパティ] ボタンをクリックする。

次の条件をすべて満たしている場合は、ユニットグループの設定内容を編集できます。一つでも満たしていない場合は、すべての項目が非活性で表示されて、編集できません。

- [システム構成定義] 画面の [排他編集] をチェックしている。
- ログインしている JP1 ユーザーが、JP1\_CM\_Admin 権限または JP1\_CM\_Manager 権限を持つ JP1 ユーザーである。
- 論理システムに JP1 資源グループを設定している場合、JP1 ユーザーが JP1\_CM\_Admin 権限を持っている、または同じ JP1 資源グループに属している。

[ユニットグループのプロパティ] 画面を次に示します。

図 1-17 [ユニットグループのプロパティ] 画面



名称 *	旅費精算ユニット 1
Cosminexus管理名	cosmiRyohiUnit1
説明	Web推奨モデルユニット 1

OK 適用 キャンセル ヘルプ

表示項目を次に示します。項目名の横に「\*」がある項目は、必ず入力してください。入力できる文字の「印刷できる ASCII 文字」とは、ASCII 文字コード ¥u0020 ~ ¥u007E



の範囲です。

#### [ 名称 ]

設定されているユニットグループの名称が表示されます。  
編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

「\*」を除いた印刷できる ASCII 文字，全角文字

入力できる文字数：

1 ~ 511 バイト

論理システム内の論理オブジェクトと同じ名称を入力して [ OK ] ボタンまたは [ 適用 ] ボタンをクリックすると、エラーダイアログが表示されます。

#### [ Cosminexus 管理名 ]

設定されているユニットグループの Cosminexus 管理名が表示されます。論理システムが Cosminexus 用の Web 推奨モデルの場合は、この項目が表示されます。  
jemexport コマンドを使用して Cosminexus Smart Composer 用ファイルを出力する場合は、設定する必要があります。  
編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

半角英数字，「-」，および「\_」

入力できる文字数：

0 ~ 32 バイト

#### [ 説明 ]

設定されている場合は、ユニットグループの説明が表示されます。この項目は省略できます。

編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：




印刷できる ASCII 文字，改行文字，全角文字

入力できる文字数：

0 ~ 2,047 バイト

### 1.4.8 [ 論理サーバの作成 ] 画面

[ 論理サーバの作成 ] 画面は、新規に論理サーバを作成するための画面です。この画面は次のどちらかの操作で表示されます。

- [ システム構成定義 ] 画面で [ システム ] タブを表示し、ツリーで  (システム) を選択した状態で、[ 編集 ] - [ 作成 ] - [ 論理サーバ ] を選択する。
- [ システム構成定義 ] 画面で [ システム ] タブを表示し、ツリーで  (ロードバランシンググループ)，または  (ユニットグループ) を選択した状態で、[ 編集 ] - [ 作

## 1. 画面

成] - [ 論理サーバ] を選択する。

[ 論理サーバの作成 ] 画面を次に示します。

図 1-18 [ 論理サーバの作成 ] 画面

名称 *	旅費精算_AP_サーバ1
Cosminexus管理名	cosmiAPServer1
説明	Web推奨モデル A Pサーバ
種別	Webサーバ
<b>ミドルウェア情報</b>	
名称	Cosminexus Application Server
バージョン *	1
<b>管理ミドルウェア情報</b>	
名称	Cosminexus Management Server
バージョン *	1
ホスト名	Dummy

OK    キャンセル    ヘルプ

表示項目を次に示します。項目名の横に「\*」がある項目は、必ず入力してください。入力できる文字の「印刷できる ASCII 文字」とは、ASCII 文字コード ¥u0020 ~ ¥u007E の範囲です。

### [ 名称 ]

作成したい論理サーバの名称を入力します。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

「\*」を除いた印刷できる ASCII 文字，全角文字

入力できる文字数：

1 ~ 511 バイト

論理システム内の論理オブジェクトと同じ名称を指定して [ OK ] ボタンをクリックした場合は，エラーダイアログが表示されます。

### [ Cosminexus 管理名 ]

論理サーバの Cosminexus 管理名を入力します。論理システムが Cosminexus 用の

Web 推奨モデルの場合は、この項目が表示されます。jcmexport コマンドを使用して Cosminexus Smart Composer 用ファイルを出力する場合は、入力する必要があります。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

半角英数字、「-」、および「\_」

入力できる文字数：

0 ~ 128 バイト

#### [ 説明 ]

論理サーバについての説明を入力します。この項目は省略できます。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

印刷できる ASCII 文字、改行文字、全角文字

入力できる文字数：

0 ~ 2,047 バイト

#### [ 種別 ]

論理サーバの種別を、リストから選択します。選択できる値は、[ Web サーバ ][ AP サーバ ][ DB サーバ ][ ユーザー定義サーバ ] のどれかです。デフォルトは [ Web サーバ ] です。

#### ミドルウェア情報

##### [ 名称 ]

論理サーバが稼働するミドルウェアの名称をリストから選択します。選択できる名称は、コンボボックス表示内容定義ファイルで設定されます。詳細は「3. 定義ファイル」の「コンボボックス表示内容定義ファイル」を参照してください。

##### [ バージョン ]

論理サーバが稼働するミドルウェアのバージョンを入力します。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

空白を除いた印刷できる ASCII 文字、全角文字

入力できる文字数：

1 ~ 127 バイト

#### 管理ミドルウェア情報

##### [ 名称 ]

論理サーバが稼働するミドルウェアを管理する管理ミドルウェアの名称をリストから選択します。選択できる名称は、コンボボックス表示内容定義ファイルで設定されます。詳細は「3. 定義ファイル」の「コンボボックス表示内容定義ファイル」

## 1. 画面

を参照してください。

### [ バージョン ]

論理サーバが稼働するミドルウェアを管理する管理ミドルウェアのバージョンを入力します。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

空白を除いた印刷できる ASCII 文字，全角文字

入力できる文字数：








1 ~ 127 バイト

### [ ホスト名 ]

論理サーバが稼働するミドルウェアを管理する管理ミドルウェアのホスト名をリストから選択します。選択できるホスト名はコンボボックス表示内容定義ファイルで設定されます。詳細は「3. 定義ファイル」の「コンボボックス表示内容定義ファイル」を参照してください。

## 1.4.9 [ 論理サーバのプロパティ ] 画面

[ 論理サーバのプロパティ ] 画面は，作成した論理サーバの設定内容を表示または編集するための画面です。この画面は次のどれかの操作で表示されます。

- [ システム構成定義 ] 画面で [ システム ] タブを表示し，ツリーで  (論理 Web サーバ)， (論理 AP サーバ)， (論理 DB サーバ)，および  (ユーザー定義サーバ) のどれかを選択している状態で，[ 編集 ] - [ プロパティ ] を選択する。
- [ システム構成定義 ] 画面で [ システム ] タブを表示し，ツリーで  (システム) のオブジェクトを選択する。表示されている [ 詳細一覧 ] から論理サーバを選択し，[ プロパティ ] ボタンをクリックする。
- [ システム構成定義 ] 画面で [ システム ] タブを表示し，ツリーで  (ロードバランシンググループ)，または  (ユニットグループ) を選択する。表示されている [ 詳細一覧 ] から論理サーバを選択し，[ プロパティ ] ボタンをクリックする。

次の条件をすべて満たしている場合は，論理サーバの設定内容を編集できます。一つでも満たしていない場合は，すべての項目が非活性で表示されて，編集できません。

- [ システム構成定義 ] 画面の [ 排他編集 ] をチェックしている。
- ログインしている JP1 ユーザーが，JP1\_CM\_Admin 権限または JP1\_CM\_Manager 権限を持つ JP1 ユーザーである。
- 論理システムに JP1 資源グループを設定している場合，JP1 ユーザーが JP1\_CM\_Admin 権限を持っている，または同じ JP1 資源グループに属している。

[ 論理サーバのプロパティ ] 画面を次に示します。

図 1-19 [ 論理サーバのプロパティ ] 画面

表示項目を次に示します。項目名の横に「\*」がある項目は、必ず入力してください。入力できる文字の「印刷できる ASCII 文字」とは、ASCII 文字コード ¥u0020 ~ ¥u007E の範囲です。

#### [ 名称 ]

設定されている論理サーバの名称が表示されます。

編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

「\*」を除いた印刷できる ASCII 文字，全角文字

入力できる文字数：

1 ~ 511 バイト

論理システム内の論理オブジェクトと同じ名称を入力して [ OK ] ボタンまたは [ 適用 ] ボタンをクリックすると，エラーダイアログが表示されます。

#### [ Cosminexus 管理名 ]

設定されている論理サーバの Cosminexus 管理名が表示されます。論理システムが Cosminexus 用の Web 推奨モデルの場合は，この項目が表示されます。jcmexport コマンドを使用して Cosminexus Smart Composer 用ファイルを出力する場合は，設定する必要があります。

編集する場合は，次に示す規則に従って入力してください。

## 1. 画面

入力できる文字：

半角英数字，「-」，および「\_」

入力できる文字数：

0 ～ 128 バイト

### [ 説明 ]

設定されている場合は，論理サーバの説明が表示されます。この項目は省略できます。

編集する場合は，次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

印刷できる ASCII 文字，改行文字，全角文字

入力できる文字数：

0 ～ 2,047 バイト

### [ 種別 ]

論理サーバの種別が表示されます。この項目は変更できません。

## ミドルウェア情報

### [ 名称 ]

論理サーバが稼働するミドルウェアの名称が表示されます。名称を変更したい場合は，リストから選択してください。選択できる名称は，コンボボックス表示内容定義ファイルで設定されます。詳細は「3. 定義ファイル」の「コンボボックス表示内容定義ファイル」を参照してください。

### [ バージョン ]

論理サーバが稼働するミドルウェアのバージョンが表示されます。

編集する場合は，次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

空白を除いた印刷できる ASCII 文字，全角文字

入力できる文字数：

1 ～ 127 バイト

## 管理ミドルウェア情報

### [ 名称 ]

論理サーバが稼働するミドルウェアを管理する管理ミドルウェアの名称が表示されます。名称を変更したい場合は，リストから選択してください。選択できる名称は，コンボボックス表示内容定義ファイルで設定されます。詳細は「3. 定義ファイル」の「コンボボックス表示内容定義ファイル」を参照してください。

### [ バージョン ]

論理サーバが稼働するミドルウェアを管理する管理ミドルウェアのバージョンが表示されます。

編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

空白を除いた印刷できる ASCII 文字，全角文字

入力できる文字数：





1 ～ 127 バイト

#### [ ホスト名 ]

論理サーバが稼働するミドルウェアを管理する管理ミドルウェアのホスト名が表示されます。ホスト名を変更したい場合は、リストから選択してください。選択できる名称は、コンボボックス表示内容定義ファイルで設定されます。詳細は「3. 定義ファイル」の「コンボボックス表示内容定義ファイル」を参照してください。

### 1.4.10 [ プロセスの作成 ] 画面

[ プロセスの作成 ] 画面は、新規にプロセスを作成するための画面です。この画面は次の操作で表示されます。

- [ システム構成定義 ] 画面で [ システム ] タブを表示し、ツリーで  (論理 Web サーバ),  (論理 AP サーバ),  (論理 DB サーバ), または  (ユーザー定義サーバ) を選択した状態で、[ 編集 ] - [ 作成 ] - [ プロセス ] を選択する。

[ プロセスの作成 ] 画面には、[ プロセス情報 ] タブと [ ポート情報 ] タブの 2 種類があります。タブを選択することで [ プロセス情報 ] タブと [ ポート情報 ] タブの表示を切り替えられます。次に、[ プロセス情報 ] タブと [ ポート情報 ] タブの表示項目について説明します。

#### (1) [ プロセス情報 ] タブ

[ プロセスの作成 ] 画面の [ プロセス情報 ] タブは、作成したいプロセスのプロセス情報を設定できます。[ プロセスの作成 ] 画面の [ プロセス情報 ] タブを次に示します。

## 1. 画面

図 1-20 「プロセスの作成」画面の「プロセス情報」タブ

プロセスの作成

プロセス情報 | ポート情報

名称 \* APサーバ\_Process1

説明 Web推奨モデルAPプロセス1

ミドルウェア種別 Cosminexus

プロセス種別 j2ee-server

OK キャンセル ヘルプ

表示項目を次に示します。項目名の横に「\*」がある項目は、必ず入力してください。入力できる文字の「印刷できる ASCII 文字」とは、ASCII 文字コード ¥u0020 ~ ¥u007E の範囲です。

### 〔名称〕

作成したいプロセスの名称を入力します。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

「\*」を除いた印刷できる ASCII 文字，全角文字

入力できる文字数：

1 ~ 511 バイト

論理システム内の論理オブジェクトと同じ名称を指定して [ OK ] ボタンをクリックした場合は、エラーダイアログが表示されます。

### 〔説明〕

作成したいプロセスについての説明を入力します。この項目は省略できます。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

印刷できる ASCII 文字，改行文字，全角文字



入力できる文字数：

0 ~ 2,047 バイト

#### [ ミドルウェア種別 ]

作成したいプロセスのミドルウェアの種別を，リストから選択します。デフォルトで選択できる値は，[ Cosminexus ][ HiRDB ][ others ] のどれかです。

#### [ プロセス種別 ]

作成したいプロセスの種別を，リストから選択します。デフォルトで選択できる種別は，[ ミドルウェア種別 ] で選択した値によって次のように異なります。

[ Cosminexus ] を選択した場合，次のどれかを選択します。

- web-server
- j2ee-server
- naming-service
- smart-agent
- performance-tracer
- transaction-context-service
- component-transaction-monitor
- ctm-domain-manager
- sfo-server

[ HiRDB ] を選択した場合，次のどれかを選択します。

- FES
- BES
- MGR
- DIC
- SDS

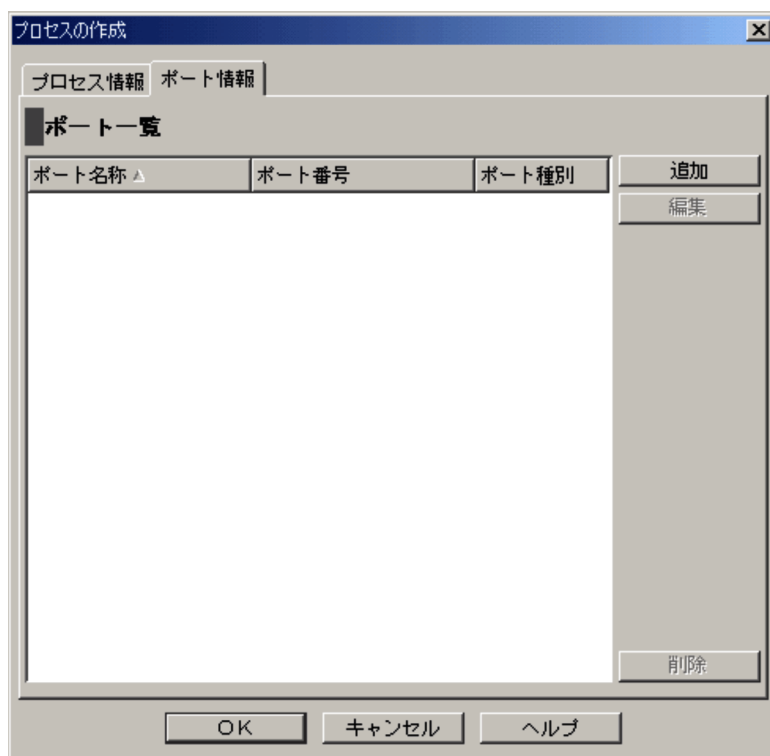
[ others ] を選択した場合

選択できる種別は，コンボボックス表示内容定義ファイルで設定されます。詳細は「3. 定義ファイル」の「コンボボックス表示内容定義ファイル」を参照してください。

### (2) [ ポート情報 ] タブ

[ プロセスの作成 ] 画面の [ ポート情報 ] タブは，作成したいプロセスのポート情報を設定できます。[ プロセスの作成 ] 画面の [ ポート情報 ] タブを次に示します。

図 1-21 「プロセスの作成」画面の「ポート情報」タブ



表示項目を次に示します。

#### 「ポート一覧」

ポート情報の一覧が表示されます。一覧には、ポート名称、ポート番号、およびポート種別が表示されます。初期画面ではポート情報はありません。

#### 「追加」

新規にポート情報を追加する場合は、「追加」ボタンをクリックします。クリックすると、「ポート情報の追加」画面が表示されます。詳細は、「1.4.12 「ポート情報の追加」(または「ポート情報の編集」)画面」を参照してください。編集できるポート情報がすでに 16 件登録されている場合は、このボタンは非活性です。

#### 「編集」

選択しているポート情報を編集する場合は、「編集」ボタンをクリックします。クリックすると、「ポート情報の編集」画面が表示されます。詳細は、「1.4.12 「ポート情報の追加」(または「ポート情報の編集」)画面」を参照してください。ポート一覧で何も選択していない場合は、このボタンは非活性です。






#### 「削除」

選択しているポート情報を削除する場合は、「削除」ボタンをクリックします。クリックすると、削除を確認するメッセージダイアログが表示されます。メッセージ

ダイアログで [ はい ] ボタンをクリックすると、ポート情報が一覧から削除されます。ポート一覧で何も選択していない場合は、このボタンは非活性です。

### 1.4.11 [ プロセスのプロパティ ] 画面

[ プロセスのプロパティ ] 画面は、作成したプロセスの設定内容を表示または編集するための画面です。この画面は次のどちらかの操作で表示されます。

- [ システム構成定義 ] 画面で [ システム ] タブを表示し、ツリーで  (プロセス) を選択している状態で、[ 編集 ] - [ プロパティ ] を選択する。
- [ システム構成定義 ] 画面で [ システム ] タブを表示し、ツリーで  (論理 Web サーバ)、 (論理 AP サーバ)、 (論理 DB サーバ)、または  (ユーザー定義サーバ) のどれかを選択する。表示されている [ 詳細一覧 ] からプロセスを選択し、[ プロパティ ] ボタンをクリックする。

次の条件をすべて満たしている場合は、プロセスの設定内容を編集できます。一つでも満たしていない場合は、すべての項目が非活性で表示されて、編集できません。

- [ システム構成定義 ] 画面の [ 排他編集 ] をチェックしている。
- ログインしている JP1 ユーザーが、JP1\_CM\_Admin 権限または JP1\_CM\_Manager 権限を持つ JP1 ユーザーである。
- 論理システムに JP1 資源グループを設定している場合、JP1 ユーザーが JP1\_CM\_Admin 権限を持っている、または同じ JP1 資源グループに属している。

[ プロセスのプロパティ ] 画面には、[ プロセス情報 ] タブと [ ポート情報 ] タブの 2 種類のタブがあります。タブを選択することで [ プロセス情報 ] タブと [ ポート情報 ] タブの表示を切り替えられます。次に、[ プロセス情報 ] タブと [ ポート情報 ] の表示項目について説明します。

#### (1) [ プロセス情報 ] タブ

[ プロセスのプロパティ ] 画面の [ プロセス情報 ] タブは、プロセスのプロセス情報を表示または編集できます。[ プロセスのプロパティ ] 画面の [ プロセス情報 ] タブを次に示します。

## 1. 画面

図 1-22 [ プロセスのプロパティ ] 画面の [ プロセス情報 ] タブ

表示項目を次に示します。項目名の横に「\*」がある項目は、必ず入力してください。入力できる文字の「印刷できる ASCII 文字」とは、ASCII 文字コード ¥u0020 ~ ¥u007E の範囲です。

### [ 名称 ]

設定されているプロセスの名称が表示されます。

編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

「\*」を除いた印刷できる ASCII 文字，全角文字

入力できる文字数：

1 ~ 511 バイト

すでにある論理システム内の論理オブジェクトと同じ名称を入力して [ OK ] ボタンまたは [ 適用 ] ボタンをクリックすると，エラーダイアログが表示されます。

### [ 説明 ]

設定されている場合は，プロセスの説明が表示されます。

編集する場合は，次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

印刷できる ASCII 文字，改行文字，全角文字

入力できる文字数：

0 ~ 2,047 バイト

#### [ ミドルウェア種別 ]

プロセスのミドルウェアの種別が表示されます。ミドルウェアの種別を変更したい場合は、リストから選択してください。デフォルトで選択できる値は、  
[ Cosminexus ][ HiRDB ][ others ] のどれかです。

#### [ プロセス種別 ]

プロセスの種別が表示されます。論理システムが Cosminexus 用の Web 推奨モデルの場合は、この項目は非活性で変更できません。プロセス種別を変更したい場合は、リストから選択してください。デフォルトで選択できる種別は、[ ミドルウェア種別 ] で選択した値によって次のように異なります。

[ Cosminexus ] を選択した場合、次のどれかを選択します。

- web-server
- j2ee-server
- naming-service
- smart-agent
- performance-tracer
- transaction-context-service
- component-transaction-monitor
- ctm-domain-manager
- sfo-server

[ HiRDB ] を選択した場合、次のどれかを選択します。

- FES
- BES
- MGR
- DIC
- SDS

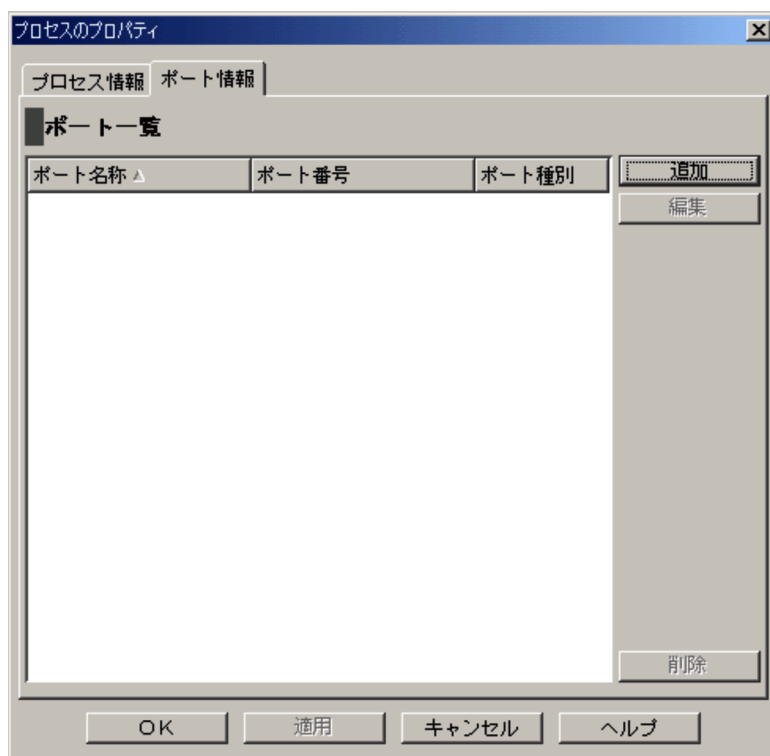
[ others ] を選択した場合

選択できる種別は、コンボボックス表示内容定義ファイルで設定されます。詳細は「3. 定義ファイル」の「コンボボックス表示内容定義ファイル」を参照してください。

## (2) [ ポート情報 ] タブ

[ プロセスのプロパティ ] 画面の [ ポート情報 ] タブは、プロセスのポート情報を表示または編集できます。[ プロセスのプロパティ ] 画面の [ ポート情報 ] タブを次に示します。

図 1-23 [ プロセスのプロパティ ] 画面の [ ポート情報 ] タブ



表示項目を次に示します。

[ ポート一覧 ]

ポート情報の一覧が表示されます。一覧には、ポート名称、ポート番号、およびポート種別が表示されます。

[ 追加 ]

新規にポート情報を追加する場合は、[ 追加 ] ボタンをクリックします。クリックすると、[ ポート情報の追加 ] 画面が表示されます。詳細は、「1.4.12 [ ポート情報の追加 ] (または [ ポート情報の編集 ]) 画面」を参照してください。編集できるポート情報がすでに 16 件登録されている場合は、このボタンは非活性です。

[ 編集 ]

選択しているポート情報を編集する場合は、[ 編集 ] ボタンをクリックします。クリックすると、[ ポート情報の編集 ] 画面が表示されます。詳細は、「1.4.12 [ ポート情報の追加 ] (または [ ポート情報の編集 ]) 画面」を参照してください。ポート一覧で何も選択していない場合は、このボタンは非活性です。

[ 削除 ]

選択しているポート情報を削除する場合は、[ 削除 ] ボタンをクリックします。クリックすると、削除を確認するメッセージダイアログが表示されます。メッセージ

ダイアログで [ はい ] ボタンをクリックすると、ポート情報が一覧から削除されます。ポート一覧で何も選択していない場合は、このボタンは非活性です。

### 1.4.12 [ ポート情報の追加 ] (または [ ポート情報の編集 ]) 画面

[ ポート情報の追加 ], [ ポート情報の編集 ] 画面は、作成したプロセスのポート情報を追加または編集するための画面です。この画面は次のどちらかの操作で表示されます。

- [ プロセスの作成 ] 画面 [ ポート情報 ] タブの [ 追加 ] ボタンまたは [ 編集 ] ボタンをクリックする。
- [ プロセスのプロパティ ] 画面 [ ポート情報 ] タブの [ 追加 ] ボタンまたは [ 編集 ] ボタンをクリックする。

[ 追加 ] ボタンをクリックした場合は、画面のタイトルバーが「ポート情報の追加」になります。また、[ 編集 ] ボタンをクリックした場合は、画面のタイトルバーが「ポート情報の編集」になります。

[ 追加 ] ボタンをクリックした場合の [ ポート情報の追加 ] 画面を次に示します。

図 1-24 [ ポート情報の追加 ] 画面

表示項目を次に示します。項目名の横に「\*」がある項目は、必ず入力してください。入力できる文字の「印刷できる ASCII 文字」とは、ASCII 文字コード ¥u0020 ~ ¥u007E の範囲です。

#### [ ポート名称 ]

ポートの名称を入力します。[ 編集 ] ボタンをクリックして表示された画面の場合は、設定されているポート名称が表示されます。  
編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

空白と「# \*」を除いた印刷できる ASCII 文字

入力できる文字数：

1 ~ 127 バイト

#### [ ポート番号 ]

ポート番号を入力します。[ 編集 ] ボタンをクリックして表示された画面の場合は、

## 1. 画面

設定されているポートの番号が表示されます。

編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

0 ~ 65,535 の数字

入力できる文字数：

1 ~ 5 バイト

論理サーバ内のプロセスですでに設定されたポート番号と同じ番号を入力して

[ OK ] ボタンをクリックすると、エラーダイアログが表示されます。




[ ポート種別 ]

ポート種別をリストから選択します。選択できる種別は、[ tcp ][ udp ][ tcp/udp ]

のどれかです。[ 編集 ] ボタンをクリックして表示された画面の場合は、設定されているポートの種別が表示されます。

### 1.4.13 [ 仮想ホストの定義 ] 画面

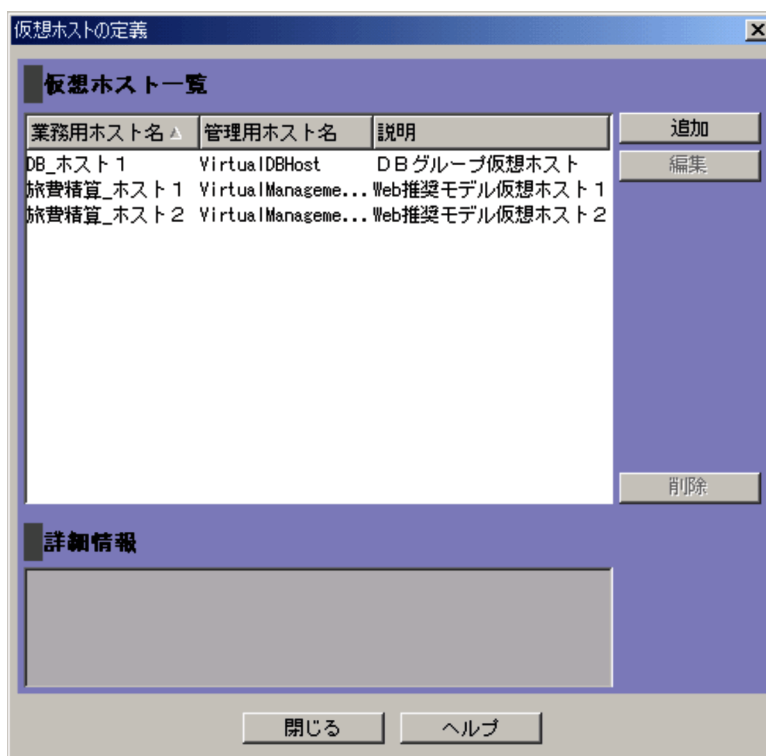
[ 仮想ホストの定義 ] 画面は、仮想ホストの一覧を表示して、仮想ホストの追加、編集、および削除するための画面です。この画面は次の操作で表示されます。

・[ システム構成定義 ] 画面で [ システム ] タブを表示し、 (システム)、 (ロードバランシンググループ)、または  (ユニットグループ) を選択した状態で、[ オプション ] - [ 仮想ホストの定義 ] を選択する。

[ 仮想ホストの定義 ] 画面を次に示します。



図 1-25 [ 仮想ホストの定義 ] 画面



表示項目を次に示します。

#### [ 仮想ホスト一覧 ]

設定されている仮想ホストが一覧表示されます。一覧には、業務用ホスト名、管理用ホスト名、および説明が表示されます。

#### [ 詳細情報 ]

仮想ホスト一覧で選択されている仮想ホストの詳細情報を表示します。仮想ホストが選択されていない場合は、何も表示されません。

#### [ 追加 ]

新規に仮想ホストを追加する場合は、[ 追加 ] ボタンをクリックします。クリックすると、[ 仮想ホストの作成 ] 画面が表示されます。次の条件を一つでも満たしていない場合は、[ 追加 ] ボタンは非活性です。

- [ 排他編集 ] をチェックしている。
- ログインしている JP1 ユーザーが、JP1\_CM\_Admin 権限または JP1\_CM\_Manager 権限を持っている。
- 論理システムに JP1 資源グループを設定している場合、JP1 ユーザーが JP1\_CM\_Admin 権限を持っている、または同じ JP1 資源グループに属している。

#### [ 編集 ]

## 1. 画面

選択している仮想ホストを編集する場合は、[ 編集 ] ボタンをクリックします。クリックすると、[ 仮想ホストのプロパティ ] 画面が表示されます。次の条件を一つでも満たしていない場合は、[ 編集 ] ボタンは非活性です。

- 仮想ホスト一覧で、仮想ホストを行選択している。
- [ 排他編集 ] をチェックしている。
- ログインしている JP1 ユーザーが、JP1\_CM\_Admin 権限または JP1\_CM\_Manager 権限を持っている。
- 論理システムに JP1 資源グループを設定している場合、JP1 ユーザーが JP1\_CM\_Admin 権限を持っている、または同じ JP1 資源グループに属している。






### [ 削除 ]

選択している仮想ホストを削除する場合は、[ 削除 ] ボタンをクリックします。クリックすると、削除を確認するメッセージダイアログが表示されます。メッセージダイアログで [ はい ] ボタンをクリックすると、仮想ホストが一覧から削除されます。次の条件を一つでも満たしていない場合は、[ 削除 ] ボタンは非活性です。

- 仮想ホスト一覧で、仮想ホストを行選択している。
- [ 排他編集 ] をチェックしている。
- ログインしている JP1 ユーザーが、JP1\_CM\_Admin 権限または JP1\_CM\_Manager 権限を持っている。
- 論理システムに JP1 資源グループを設定している場合、JP1 ユーザーが JP1\_CM\_Admin 権限を持っている、または同じ JP1 資源グループに属している。

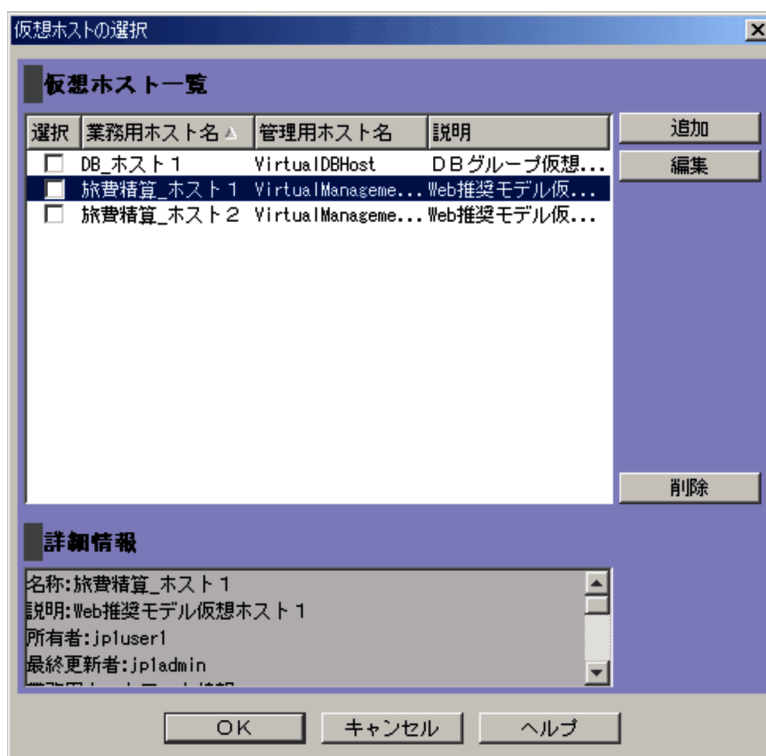
## 1.4.14 [ 仮想ホストの選択 ] 画面

[ 仮想ホストの選択 ] 画面は、仮想ホストの一覧を表示して、仮想ホストの追加、編集、削除および選択するための画面です。この画面は次の操作で表示されます。

- [ システム構成定義 ] 画面で [ システム ] タブを表示し、ツリーで  (論理 Web サーバ),  (論理 AP サーバ),  (論理 DB サーバ),  (ユーザー定義サーバ), または  (プロセス) を選択した状態で、[ オプション ] - [ 仮想ホストの選択 ] を選択する。

[ 仮想ホストの選択 ] 画面を次に示します。






図 1-26 [ 仮想ホストの選択 ] 画面



表示項目を次に示します。

#### [ 仮想ホスト一覧 ]

論理システムに設定されている仮想ホストが一覧表示されます。一覧には、選択状態、業務用ホスト名、管理用ホスト名、および説明が表示されます。

仮想ホストを選択する場合は、[ 選択 ] をチェックします。[ システム構成定義 ] 画面 [ システム ] タブのツリーで  ,  ,  ,  ( 論理サーバ ) を選択している場合は、仮想ホストを複数選択できます。[ システム構成定義 ] 画面 [ システム ] タブのツリーで  ( プロセス ) を選択している場合は、仮想ホストを一つ選択できます。

#### [ 詳細情報 ]

仮想ホスト一覧で行選択されている仮想ホストの詳細情報を表示します。仮想ホストが選択されていない場合は、何も表示されません。

#### [ 追加 ]

新規に仮想ホストを追加する場合は、[ 追加 ] ボタンをクリックします。クリックすると、[ 仮想ホストの作成 ] 画面が表示されます。仮想ホストを 1,024 件定義している場合は、[ 追加 ] ボタンは非活性です。

#### [ 編集 ]

## 1. 画面

行選択している仮想ホストを編集する場合は、[ 編集 ] ボタンをクリックします。クリックすると、[ 仮想ホストのプロパティ ] 画面が表示されます。仮想ホストを行選択していない場合は、[ 編集 ] ボタンは非活性です。

### [ 削除 ]

行選択している仮想ホストを削除する場合は、[ 削除 ] ボタンをクリックします。クリックすると、削除を確認するメッセージダイアログが表示されます。メッセージダイアログで [ はい ] ボタンをクリックすると、仮想ホストが一覧から削除されます。仮想ホストを行選択していない場合は、[ 削除 ] ボタンは非活性です。

## 1.4.15 [ 仮想ホストの作成 ] 画面

[ 仮想ホストの作成 ] 画面は、新規に仮想ホストを作成するための画面です。この画面は次のどちらかの操作で表示されます。

- [ 仮想ホストの定義 ] 画面の [ 追加 ] ボタンをクリックする。
- [ 仮想ホストの選択 ] 画面の [ 追加 ] ボタンをクリックする。

[ 仮想ホストの作成 ] 画面には、[ ネットワーク ] タブと [ 付加情報 ] タブの 2 種類のタブがあります。タブを選択することで [ ネットワーク ] タブと [ 付加情報 ] タブの表示を切り替えられます。次に、[ ネットワーク ] タブと [ 付加情報 ] タブの表示項目について説明します。

### (1) [ ネットワーク ] タブ

[ 仮想ホストの作成 ] 画面の [ ネットワーク ] タブは、作成したい仮想ホストのネットワーク情報を設定できます。[ 仮想ホストの作成 ] 画面の [ ネットワーク ] タブを次に示します。

図 1-27 [ 仮想ホストの作成 ] 画面の [ ネットワーク ] タブ

仮想ホストの作成

ネットワーク 付加情報

**業務用ネットワーク情報**

ホスト名 \* 旅費精算\_ホスト1

IPアドレス \* 172.16.92.14

サブネットマスク \* 255.255.255.0

**管理用ネットワーク情報**

ホスト名 \* VirtualManagementHost1

IPアドレス \* 172.16.92.14

サブネットマスク \* 255.255.255.0

Cosminexus連携用ホスト名 cbsmiRenkeiHost1

OK キャンセル ヘルプ

表示項目を次に示します。項目名の横に「\*」がある項目は、必ず入力してください。入力できる文字の「印刷できる ASCII 文字」とは、ASCII 文字コード ¥u0020 ~ ¥u007E の範囲です。

#### 業務用ネットワーク情報

##### [ ホスト名 ]

仮想ホストの業務用のホスト名を入力します。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

「\*」を除いた印刷できる ASCII 文字，全角文字

入力できる文字数：

1 ~ 511 バイト

論理システム内の論理オブジェクトと同じ名称を入力して [ OK ] ボタンをクリックすると、エラーダイアログが表示されます。

##### [ IP アドレス ]

仮想ホストの業務用の IP アドレスを入力します。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

## 1. 画面

IPv4 または IPv6 の形式

### [ サブネットマスク ]

仮想ホストの業務用のサブネットマスクを入力します。  
次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

IPv4 または IPv6 の形式

### 管理用ネットワーク情報

### [ ホスト名 ]

仮想ホストの管理用のホスト名を入力します。  
次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

空白を除いた印刷できる ASCII 文字，全角文字

入力できる文字数：

1 ～ 511 バイト

### [ IP アドレス ]

仮想ホストの管理用の IP アドレスを入力します。  
次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

IPv4 または IPv6 の形式

### [ サブネットマスク ]

仮想ホストの管理用のサブネットマスクを入力します。  
次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

IPv4 または IPv6 の形式

### [ Cosminexus 連携用ホスト名 ]

仮想ホストの Cosminexus 連携用ホストの名称を入力します。論理システムが Cosminexus 用の Web 推奨モデルの場合は，この項目が表示されます。jcmexport コマンドを使用して Cosminexus Smart Composer 用ファイルを出力する場合は，設定する必要があります。  
次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

半角英数字，「-」，および「\_」

入力できる文字数：

0 ～ 32 バイト

## (2) [ 付加情報 ] タブ

[ 仮想ホストの作成 ] 画面の [ 付加情報 ] タブは、作成したい仮想ホストの付加情報を設定できます。[ 仮想ホストの作成 ] 画面の [ 付加情報 ] タブを次に示します。

図 1-28 [ 仮想ホストの作成 ] 画面の [ 付加情報 ] タブ

表示項目を次に示します。入力できる文字の「印刷できる ASCII 文字」とは、ASCII 文字コード ¥u0020 ~ ¥u007E の範囲です。

### [ 説明 ]

仮想ホストについての説明を入力します。この項目は省略できます。  
次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

印刷できる ASCII 文字，改行文字，全角文字

入力できる文字数：

0 ~ 2,047 バイト

### [ 冗長構成 ]

仮想ホストを冗長構成にする場合は、[ 冗長構成をとる ] をチェックします。冗長構成にしない場合は、[ 冗長構成をとる ] のチェックを外します。冗長構成では、仮想ホストを複数の物理リソースで構成できます。

## 1. 画面

### [ Tier 種別 ]

Cosminexus の物理 Tier をリストから選択します。選択できる種別は，  
[ combined-tier ][ http-tier ][ j2ee-tier ][ http/servlet-tier ][ ejb-tier ] のどれかです。論理システムが Cosminexus 用の Web 推奨モデルの場合は，この項目が表示されます。Cosminexus の物理 Tier については，マニュアル「Cosminexus 簡易構築・運用ガイド」を参照してください。

### 要求仕様

### [ CPU 種別 ]

仮想ホストの CPU 種別を入力します。この項目は省略できます。  
次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

印刷できる ASCII 文字

入力できる文字数：

0 ～ 255 バイト

### [ CPU クロック数 ]

仮想ホストの CPU クロック数を入力します。単位は Hz（ヘルツ）です。この項目は省略できます。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

0 ～ 2,147,483,647 の整数のあとに「M」「G」「T」「P」のどれかの文字を必ず指定する。「M」はメガ、「G」はギガ、「T」はテラ、「P」はペタを示す。

入力できる文字数：

0 ～ 11 バイト

### [ CPU 搭載数 ]

仮想ホストの CPU 搭載数を入力します。この項目は省略できます。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

0 ～ 65,535 の数字

入力できる文字数：

0 ～ 5 バイト

### [ メモリ容量 ]

仮想ホストのメモリー容量を入力します。単位は Byte（バイト）です。この項目は省略できます。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

0 ～ 2,147,483,647 の整数のあとに「M」「G」「T」「P」のどれかの文字を必ず指



定する。「M」はメガ、「G」はギガ、「T」はテラ、「P」はペタを示す。

入力できる文字数：

0 ~ 11 バイト

#### [ ディスク容量 ]

仮想ホストのディスク容量を入力します。単位は Byte ( バイト ) です。この項目は省略できます。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

0 ~ 2,147,483,647 の整数のあとに「M」「G」「T」「P」のどれかの文字を必ず指定する。「M」はメガ、「G」はギガ、「T」はテラ、「P」はペタを示す。

入力できる文字数：

0 ~ 11 バイト

#### [ OS 名称 ]

仮想ホストの OS 名称を入力します。この項目は省略できます。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

印刷できる ASCII 文字

入力できる文字数：

0 ~ 255 バイト

#### [ OS バージョン ]

仮想ホストの OS バージョンを入力します。この項目は省略できます。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

印刷できる ASCII 文字

入力できる文字数：

0 ~ 255 バイト

### 1.4.16 [ 仮想ホストのプロパティ ] 画面

[ 仮想ホストのプロパティ ] 画面は、作成した仮想ホストの設定内容を表示または編集するための画面です。この画面は次のどれかの操作で表示されます。

- [ 仮想ホストの定義 ] 画面の [ 編集 ] ボタンをクリックする。
- [ 仮想ホストの選択 ] 画面の [ 編集 ] ボタンをクリックする。
- [ システムへのリソース割り当て ] 画面で、[ 参照 ] ボタンをクリックする。

次の条件をすべて満たしている場合は、仮想ホストの設定内容を編集できます。一つでも満たしていない場合は、すべての項目が非活性で表示されて、編集できません。

## 1. 画面

- ・[システムへのリソース割り当て]画面で,[参照]ボタンをクリックして表示された画面ではない。
- ・[システム構成定義]画面の[排他編集]をチェックしている。
- ・ログインしているJP1ユーザーが,JP1\_CM\_Admin 権限または JP1\_CM\_Manager 権限を持つ JP1 ユーザーである。
- ・論理システムに JP1 資源グループを設定している場合,JP1 ユーザーが JP1\_CM\_Admin 権限を持っている,または同じ JP1 資源グループに属している。

[仮想ホストのプロパティ]画面には,[ネットワーク]タブと[付加情報]タブの2種類のタブがあります。タブを選択することで[ネットワーク]タブと[付加情報]タブの表示を切り替えられます。次に,[ネットワーク]タブと[付加情報]タブの表示項目について説明します。

### (1)[ネットワーク]タブ

[仮想ホストのプロパティ]画面の[ネットワーク]タブは,仮想ホストのネットワーク情報を表示または編集できます。[仮想ホストのプロパティ]画面の[ネットワーク]タブを次に示します。

図 1-29 [仮想ホストのプロパティ]画面の[ネットワーク]タブ

仮想ホストのプロパティ

ネットワーク | 付加情報

**業務用ネットワーク情報**

ホスト名 *	旅費精算_ホスト1
IPアドレス *	172.16.92.14
サブネットマスク *	255.255.255.0

**管理用ネットワーク情報**

ホスト名 *	VirtualManagementHost1
IPアドレス *	172.16.92.14
サブネットマスク *	255.255.255.0
Cosminexus連携用ホスト名	cosmiRenkeiHost1

OK 適用 キャンセル ヘルプ

表示項目を次に示します。項目名の横に「\*」がある項目は,必ず入力してください。入力できる文字の「印刷できる ASCII 文字」とは,ASCII 文字コード ¥u0020 ~ ¥u007E

の範囲です。

#### 業務用ネットワーク情報

##### [ ホスト名 ]

仮想ホストの業務用のホスト名が表示されます。

編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

「\*」を除いた印刷できる ASCII 文字，全角文字

入力できる文字数：

1 ~ 511 バイト

論理システム内の論理オブジェクトと同じ名称を入力して [ OK ] ボタンまたは [ 適用 ] ボタンをクリックすると、エラーダイアログが表示されます。

##### [ IP アドレス ]

仮想ホストの業務用の IP アドレスが表示されます。

編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

IPv4 または IPv6 の形式

##### [ サブネットマスク ]

仮想ホストの業務用のサブネットマスクが表示されます。

編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

IPv4 または IPv6 の形式

#### 管理用ネットワーク情報

##### [ ホスト名 ]

仮想ホストの管理用のホスト名が表示されます。

編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

空白を除いた印刷できる ASCII 文字，全角文字

入力できる文字数：

1 ~ 511 バイト

##### [ IP アドレス ]

仮想ホストの管理用の IP アドレスが表示されます。

編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

IPv4 または IPv6 の形式

##### [ サブネットマスク ]

## 1. 画面

仮想ホストの管理用のサブネットマスクが表示されます。  
編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

IPv4 または IPv6 の形式

### [ Cosminexus 連携用ホスト名 ]

仮想ホストの Cosminexus 連携用ホスト名が表示されます。論理システムが  
Cosminexus 用の Web 推奨モデルの場合は、この項目が表示されます。jcmexport  
コマンドを使用して Cosminexus Smart Composer 用ファイルを出力する場合は、  
設定する必要があります。

編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

半角英数字、「-」、および「\_」

入力できる文字数：

0 ~ 32 バイト

### (2) [ 付加情報 ] タブ

[ 仮想ホストのプロパティ ] 画面の [ 付加情報 ] タブは、仮想ホストの付加情報を表示ま  
たは編集できます。[ 仮想ホストのプロパティ ] 画面の [ 付加情報 ] タブを次に示しま  
す。

図 1-30 [ 仮想ホストのプロパティ ] 画面の [ 付加情報 ] タブ

仮想ホストのプロパティ

ネットワーク 付加情報

説明 Web推奨モデル仮想ホスト 1

冗長構成 ☐ 冗長構成をとる

Tier種別 combined-tier

**要求仕様**

CPU種別 Intel

CPUクロック数 1G Hz

CPU搭載数 3 個

メモリ容量 1G Byte

ディスク容量 1T Byte

OS名称 os1

OSバージョン 1

OK 適用 キャンセル ヘルプ

表示項目を次に示します。入力できる文字の「印刷できる ASCII 文字」とは、ASCII 文字コード ¥u0020 ~ ¥u007E の範囲です。

#### [ 説明 ]

設定されている場合は、仮想ホストの説明が表示されます。この項目は省略できます。

編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

印刷できる ASCII 文字，改行文字，全角文字

入力できる文字数：

0 ~ 2,047 バイト

#### [ 冗長構成 ]

冗長構成の状態が表示されます。[ 冗長構成をとる ] がチェックされている場合は冗長構成です。チェックを外している場合は冗長構成ではありません。冗長構成の場合は、仮想ホストを複数の物理リソースで構成できます。

#### [ Tier 種別 ]

Cosminexus の物理 Tier が表示されます。Tier 種別を変更したい場合は、リストから、[ combined-tier ] [ http-tier ] [ j2ee-tier ] [ http/servlet-tier ] [ ejb-tier ] のどれ

## 1. 画面

かを選択してください。論理システムが Cosminexus 用の Web 推奨モデルの場合は、この項目が表示されます。Cosminexus の物理 Tier については、マニュアル「Cosminexus 簡易構築・運用ガイド」を参照してください。

### 要求仕様

#### [ CPU 種別 ]

設定されている場合は、仮想ホストの CPU 種別が表示されます。この項目は省略できます。

編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

印刷できる ASCII 文字

入力できる文字数：

0 ~ 255 バイト

#### [ CPU クロック数 ]

設定されている場合は、仮想ホストの CPU クロック数が表示されます。単位は Hz (ヘルツ) です。この項目は省略できます。

編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

0 ~ 2,147,483,647 の整数のあとに「M」「G」「T」「P」のどれかの文字を必ず指定する。「M」はメガ、「G」はギガ、「T」はテラ、「P」はペタを示す。

入力できる文字数：

0 ~ 11 バイト

#### [ CPU 搭載数 ]

設定されている場合は、仮想ホストの CPU 搭載数が表示されます。この項目は省略できます。

編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

0 ~ 65,535 の数字

入力できる文字数：

0 ~ 5 バイト

#### [ メモリ容量 ]

設定されている場合は、仮想ホストのメモリー容量が表示されます。単位は Byte (バイト) です。この項目は省略できます。

編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

0 ~ 2,147,483,647 の整数のあとに「M」「G」「T」「P」のどれかの文字を必ず指定する。「M」はメガ、「G」はギガ、「T」はテラ、「P」はペタを示す。

入力できる文字数：

0 ~ 11 バイト

[ ディスク容量 ]

設定されている場合は、仮想ホストのディスク容量が表示されます。単位は Byte (バイト) です。この項目は省略できます。

編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

0 ~ 2,147,483,647 の整数のあとに「M」「G」「T」「P」のどれかの文字を必ず指定する。「M」はメガ、「G」はギガ、「T」はテラ、「P」はペタを示す。

入力できる文字数：

0 ~ 11 バイト

[ OS 名称 ]

設定されている場合は、仮想ホストの OS 名称が表示されます。この項目は省略できます。

編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

印刷できる ASCII 文字

入力できる文字数：

0 ~ 255 バイト

[ OS バージョン ]

設定されている場合は、仮想ホストの OS バージョンが表示されます。この項目は省略できます。

編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

印刷できる ASCII 文字

入力できる文字数：


0 ~ 255 バイト

## 1.5 物理構成の定義画面

この節では、物理構成を定義する画面について説明します。

### 1.5.1 [ リソースの作成 ]( リソース種別の選択 ) 画面

リソース種別の選択画面は、新規に物理リソースを作成するための画面です。この画面からウィザード形式で物理リソースを作成できます。この画面は次の操作で表示されます。

- [ システム構成定義 ] 画面で [ リソース ] タブを表示し、ツリーで  (リソースプール) を選択している状態で、[ 編集 ] - [ 作成 ] - [ リソース ] を選択する。

リソース種別の選択画面を次に示します。

図 1-31 [ リソースの作成 ]( リソース種別の選択 ) 画面



表示項目を次に示します。

#### [ 種類 ]

作成したい物理リソースの種類として [ 物理ホスト ] [ ロードバランサ ] のどちらか



を選択します。

[ 次へ > ]

[ 種類 ] に [ 物理ホスト ] を選択した場合は , [ 物理ホストの作成 ] 画面に遷移します。詳細は「1.5.3 [ リソースの作成 ] ( 物理ホストの作成 ) 画面」を参照してください。 [ 種類 ] に [ ロードバランサ ] を選択した場合は , [ ロードバランサの作成 ] 画面に遷移します。詳細は「1.5.2 [ リソースの作成 ] ( ロードバランサの作成 ) 画面」を参照してください。

## 1.5.2 [ リソースの作成 ] ( ロードバランサの作成 ) 画面

ロードバランサの作成画面は , 新規にロードバランサを作成するための画面です。この画面はウィザードで表示される画面で , 次の操作で表示されます。

- リソース種別の選択画面の [ 種類 ] で , [ ロードバランサ ] を選択して [ 次へ > ] ボタンをクリックする。

ロードバランサの作成画面には , [ 共通 ] タブと [ バインドリスト ] タブの 2 種類のタブがあります。ロードバランサの作成画面では [ バインドリスト ] タブは使用しないため , タブが切り替えられません ( 非活性です ) 。

ロードバランサの作成画面の [ 共通 ] タブを選択した場合の画面を次に示します。

## 1. 画面

図 1-32 [ リソースの作成 ] (ロードバランサの作成) 画面の [ 共通 ] タブ

リソースの作成 - ステップ 2 of 3

作成するロードバランサの情報を設定してください。

共通 バインドリスト

名称 *	LoadFlowbal_2
説明	
デバイス名称	LoadFlowbal_2
モデル名	loadflowbal-v7.1.0
管理IPアドレス	192.168.0.1
共有	<input checked="" type="checkbox"/> 有効

< 戻る 次へ > キャンセル ヘルプ

表示項目を次に示します。項目名の横に「\*」がある項目は、必ず入力してください。入力できる文字の「印刷できる ASCII 文字」とは、ASCII 文字コード ¥u0020 ~ ¥u007E の範囲です。

### [ 名称 ]

ロードバランサの名称を入力します。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

「\*」を除いた印刷できる ASCII 文字，全角文字

入力できる文字数：

1 ~ 511 バイト

### [ 説明 ]

ロードバランサについての説明を入力します。この項目は省略できます。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

印刷できる ASCII 文字，改行文字，全角文字

入力できる文字数：  
0 ~ 2,047 バイト

[ デバイス名称 ]

ロードバランサのデバイス名を入力します。この項目は省略できます。  
次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：  
印刷できる ASCII 文字

入力できる文字数：  
0 ~ 255 バイト

[ モデル名 ]

ロードバランサのモデル名を入力します。この項目は省略できます。  
次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：  
印刷できる ASCII 文字

入力できる文字数：  
0 ~ 255 バイト

[ 管理用 IP アドレス ]

ロードバランサの管理用 IP アドレスを入力します。この項目は省略できます。  
次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：  
IPv4 または IPv6 の形式

[ 共有 ]

物理リソースを共有するかどうか設定します。[ 有効 ] をチェックすると、物理リソースを共有します。[ 有効 ] のチェックを外すと物理リソースを共有しません。物理リソースを共有した場合は、複数のリソースバックに物理リソースを割り当てられます。

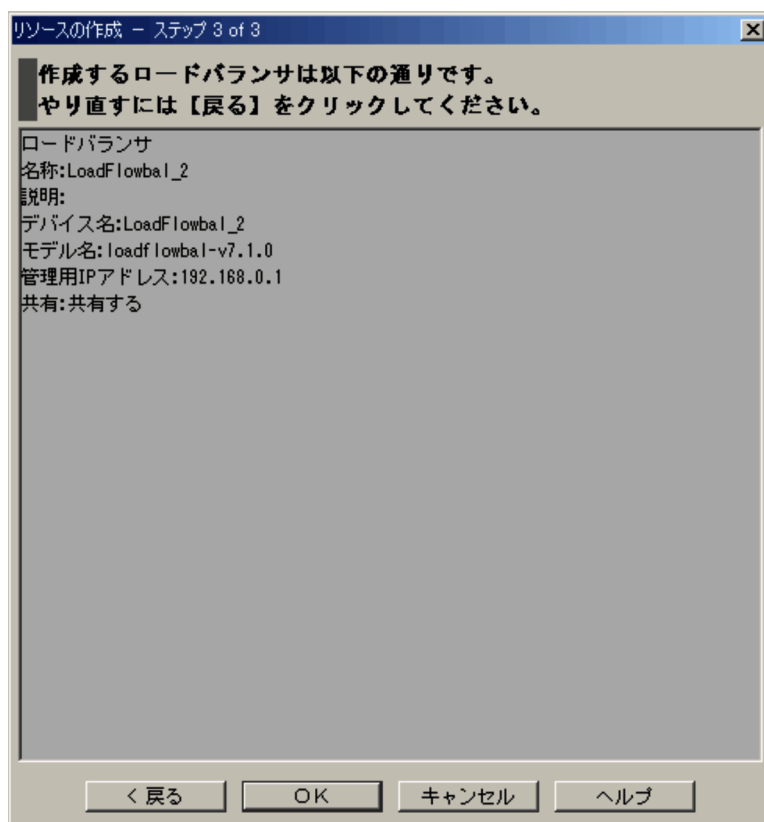
[ 次へ > ]

ロードバランサについての作成確認画面が表示されます。

( 1 ) ロードバランサの作成確認画面

ロードバランサの作成確認画面は、ロードバランサの作成画面で設定した内容を確認するための画面です。ロードバランサの作成確認画面の表示例を次に示します。

図 1-33 ロードバランサの作成確認画面



[ OK ] ボタンをクリックすると、ロードバランサが作成されます。ロードバランサの作成画面の [ 名称 ] に、リソースパック、物理リソース、またはシステムが自動生成するカテゴリと同じ名称を入力して [ OK ] ボタンをクリックした場合、エラーダイアログが表示されます。この場合は、[ < 戻る ] ボタンをクリックして、入力し直してください。システムが自動生成するカテゴリの名称については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Central Information Master システム構築・運用ガイド 3.2.4 物理構成定義時の注意事項」を参照してください。

### 1.5.3 [ リソースの作成 ] ( 物理ホストの作成 ) 画面

物理ホストの作成画面は、新規に物理ホストを作成するための画面です。この画面はウィザードで表示される画面で、次の操作で表示されます。

- ・ リソース種別の選択画面の [ 種類 ] で、[ 物理ホスト ] を選択して [ 次へ > ] ボタンをクリックする。

物理ホストの作成画面には、次の 5 種類のタブがあり、タブを選択することで表示を切り替えられます。

- [ 共通 ] タブ
- [ ハードウェア ] タブ
- [ ネットワーク ] タブ
- [ ソフトウェア ] タブ
- [ ブレード ] タブ

次に、5 種類のタブの表示項目について説明します。

### (1) [ 共通 ] タブ

物理ホストの作成画面の [ 共通 ] タブは、作成したい物理ホストの共通情報を設定できます。物理ホストの作成画面の [ 共通 ] タブを次に示します。

図 1-34 物理ホストの作成画面の [ 共通 ] タブ

表示項目を次に示します。項目名の横に「\*」がある項目は、必ず入力してください。入力できる文字の「印刷できる ASCII 文字」とは、ASCII 文字コード ¥u0020 ~ ¥u007E の範囲です。

#### [ 名称 ]

物理ホストの名称を入力します。

次に示す規則に従って入力してください。

## 1. 画面

入力できる文字：

「\*」を除いた印刷できる ASCII 文字，全角文字

入力できる文字数：

1 ～ 511 バイト

### [ 説明 ]

物理ホストについての説明を入力します。この項目は省略できます。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

印刷できる ASCII 文字，改行文字，全角文字

入力できる文字数：

0 ～ 2,047 バイト

### [ 共有 ]

物理リソースを共有するかどうか設定します。[ 有効 ] をチェックすると，物理リソースを共有します。[ 有効 ] のチェックを外すと物理リソースを共有しません。物理リソースを共有した場合は，複数のリソースパックに物理リソースを割り当てられます。

## (2) [ ハードウェア ] タブ

物理ホストの作成画面の [ ハードウェア ] タブは，作成したい物理ホストのハードウェア情報を設定できます。物理ホストの作成画面の [ ハードウェア ] タブを次に示します。

図 1-35 物理ホストの作成画面の [ ハードウェア ] タブ

リソースの作成 - ステップ 2 of 3

作成する物理ホストの情報を設定してください。

共通 | **ハードウェア** | ネットワーク | ソフトウェア | ブレード

CPU種別	Intel Pentium III	
CPUクロック数	10G	Hz
CPU搭載数	1	個
メモリ容量	512G	Byte
ディスク容量	80T	Byte
OS名称	Microsoft Windows 2000 Professional	
OSバージョン	Version 5.0; Build 2195; Service Pack 4	

**資産情報**

資産ID	
------	--

< 戻る    次へ >    キャンセル    ヘルプ

表示項目を次に示します。入力できる文字の「印刷できる ASCII 文字」とは、ASCII 文字コード ¥u0020 ~ ¥u007E の範囲です。

#### [ CPU 種別 ]

物理ホストの CPU 種別を入力します。この項目は省略できます。  
次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

印刷できる ASCII 文字，全角文字

入力できる文字数：

0 ~ 255 バイト

#### [ CPU クロック数 ]

物理ホストの CPU クロック数を入力します。単位は Hz（ヘルツ）です。この項目は省略できます。  
次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

0 ~ 2,147,483,647 の整数のあとに「M」「G」「T」「P」のどれかの文字を必ず指

## 1. 画面

定する。「M」はメガ、「G」はギガ、「T」はテラ、「P」はペタを示す。

入力できる文字数：

0 ~ 11 バイト

### [ CPU 搭載数 ]

物理ホストの CPU 搭載数を入力します。この項目は省略できます。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

0 ~ 65,535 の数字

入力できる文字数：

0 ~ 5 バイト

### [ メモリ容量 ]

物理ホストのメモリー容量を入力します。単位は Byte ( バイト ) です。この項目は省略できます。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

0 ~ 2,147,483,647 の整数のあとに「M」「G」「T」「P」のどれかの文字を必ず指定する。「M」はメガ、「G」はギガ、「T」はテラ、「P」はペタを示す。

入力できる文字数：

0 ~ 11 バイト

### [ ディスク容量 ]

物理ホストのディスク容量を入力します。単位は Byte ( バイト ) です。この項目は省略できます。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

0 ~ 2,147,483,647 の整数のあとに「M」「G」「T」「P」のどれかの文字を必ず指定する。「M」はメガ、「G」はギガ、「T」はテラ、「P」はペタを示す。

入力できる文字数：

0 ~ 11 バイト

### [ OS 名称 ]

物理ホストの OS 名称を入力します。この項目は省略できます。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

印刷できる ASCII 文字，全角文字

入力できる文字数：

0 ~ 255 バイト

### [ OS バージョン ]



物理ホストの OS のバージョンを入力します。この項目は省略できます。  
次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

印刷できる ASCII 文字，全角文字

入力できる文字数：

0 ～ 255 バイト

## 資産情報

### [ 資産 ID ]

関連プログラムから構成情報を収集するコマンド (jcmgetinfo) を実行して取得した，JP1/NETM/AIM が管理している「資産 ID」の値が表示されます。この項目は変更できません。

### (3) [ ネットワーク ] タブ

物理ホストの作成画面の [ ネットワーク ] タブは，作成したい物理ホストのネットワーク情報を設定できます。物理ホストの作成画面の [ ネットワーク ] タブを次に示します。

図 1-36 物理ホストの作成画面の [ ネットワーク ] タブ

リソースの作成 - ステップ 2 of 3

作成する物理ホストの情報を設定してください。

共通 | ハードウェア | ネットワーク | ソフトウェア | ブレード

**NIC情報**

代表	NIC名 ▲	MACアドレス	追加
◎	if01	AAA004	編集

削除

< 戻る | 次へ > | キャンセル | ヘルプ

## 1. 画面

表示項目を次に示します。

### [ NIC 情報 ]

NIC 情報が一覧で表示されます。代表する NIC 情報は,[ 代表 ] をチェックします。

### [ 追加 ]

新規に NIC 情報を追加する場合は,[ 追加 ] ボタンをクリックします。クリックすると,[ NIC 情報の追加 ] 画面が表示されます。詳細は、「1.5.5 [ NIC 情報の追加 ] (または [ NIC 情報の編集 ]) 画面」を参照してください。NIC 一覧に表示されている NIC 情報が 16 件ある場合は,[ 追加 ] ボタンは非活性です。

### [ 編集 ]

選択している NIC 情報を編集する場合は,[ 編集 ] ボタンをクリックします。クリックすると,[ NIC 情報の編集 ] 画面が表示されます。詳細は、「1.5.5 [ NIC 情報の追加 ] (または [ NIC 情報の編集 ]) 画面」を参照してください。

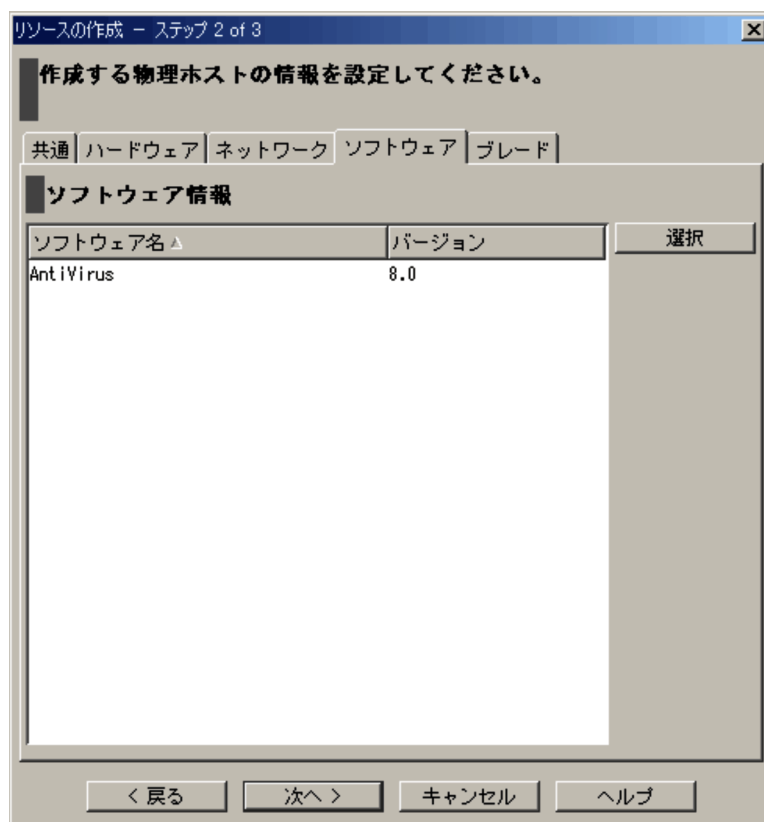
### [ 削除 ]

選択している NIC 情報を削除する場合は,[ 削除 ] ボタンをクリックします。クリックすると,削除を確認するメッセージダイアログが表示されます。メッセージダイアログで [ はい ] ボタンをクリックすると, NIC 情報が一覧から削除されます。

## (4) [ ソフトウェア ] タブ

物理ホストの作成画面の [ ソフトウェア ] タブは,作成したい物理ホストのソフトウェア情報を設定できます。物理ホストの作成画面の [ ソフトウェア ] タブを次に示します。

図 1-37 物理ホストの作成画面の [ソフトウェア] タブ



表示項目を次に示します。

#### [ ソフトウェア情報 ]

定義されているソフトウェア情報を一覧で表示する領域です。

#### [ 選択 ]

[ 選択 ] ボタンをクリックすると, [ ソフトウェアの選択 ] 画面が表示されます。詳細は「1.5.12 [ ソフトウェアの選択 ] 画面」を参照してください。

### (5) [ ブレード ] タブ

物理ホストの作成画面の [ ブレード ] タブは, 作成したい物理ホストの BladeSymphony の情報を設定できます。物理ホストの作成画面の [ ブレード ] タブを次に示します。

図 1-38 物理ホストの作成画面の [ ブレード ] タブ

表示項目を次に示します。入力できる文字の「印刷できる ASCII 文字」とは、ASCII 文字コード ¥u0020 ~ ¥u007E の範囲です。

#### [ シャーシ ID ]

BladeSymphony のシャーシ ID を入力します。BladeSymphony のシャーシ ID については、マニュアル「JP1/ServerConductor/Control Manager」を参照してください。この項目は省略できます。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

印刷できる ASCII 文字，全角文字

入力できる文字数：

0 ~ 256 バイト

#### [ スロット番号 ]

BladeSymphony のスロット番号を入力します。BladeSymphony のスロット番号については、マニュアル「JP1/ServerConductor/Control Manager」を参照してください。この項目は省略できます。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

印刷できる ASCII 文字，全角文字

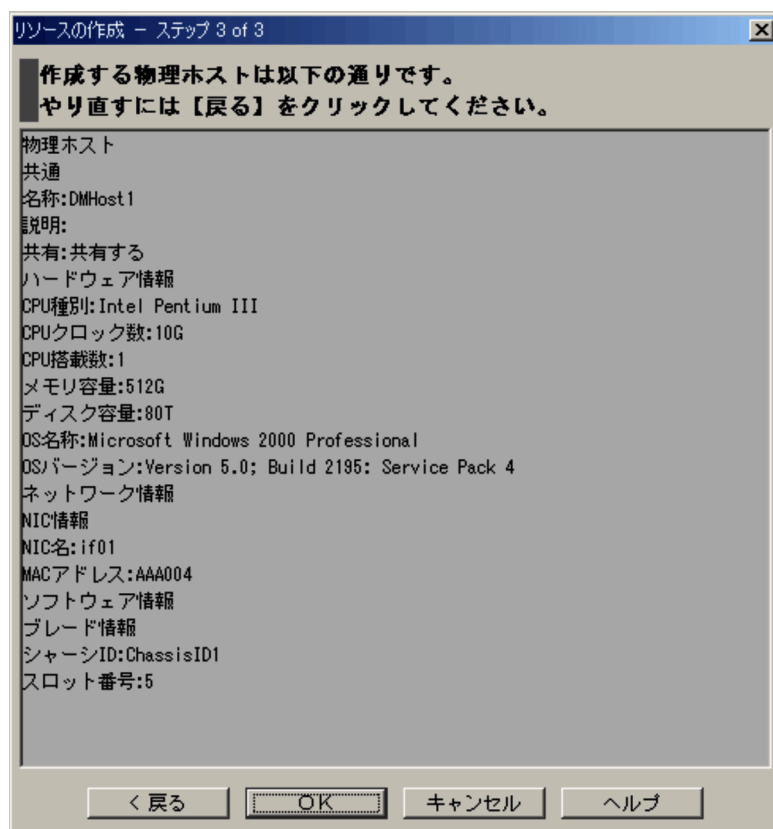
入力できる文字数：

0 ～ 255 バイト

## (6) 物理ホストの作成確認画面

物理ホストの作成確認画面は，物理ホストの作成画面で設定した内容を確認するための画面です。物理ホストの作成確認画面の表示例を次に示します。




図 1-39 物理ホストの作成確認画面



[ OK ] ボタンをクリックすると，物理ホストが作成されます。物理ホストの作成画面の [ 名称 ] に，リソースパック，物理リソース，またはシステムが自動生成するカテゴリと同じ名称を入力して [ OK ] ボタンをクリックした場合，エラーダイアログが表示されます。この場合は，[ < 戻る ] ボタンをクリックして，入力し直してください。システムが自動生成するカテゴリの名称については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Central Information Master システム構築・運用ガイド 3.2.4 物理構成定義時の注意事項」を参照してください。

## 1.5.4 [ 物理ホストのプロパティ ] 画面

[ 物理ホストのプロパティ ] 画面は、作成した物理ホストの設定内容を表示または編集するための画面です、この画面は次の操作で表示されます。

- [ システム構成定義 ] 画面で [ リソース ] タブを表示し、ツリーで  (物理ホスト),  (ネットワークアドレス),  (シャーシ ID) のどれかを選択する。表示されている [ 詳細一覧 ] から物理ホストを選択し、[ プロパティ ] ボタンをクリックする。

次の条件をすべて満たしている場合は、物理ホストの設定内容を編集できます。一つでも満たしていない場合は、すべての項目が非活性で表示されて、編集できません。

- [ システム構成定義 ] 画面の [ 排他編集 ] をチェックしている。
- ログインしている JP1 ユーザーが、JP1\_CM\_Admin 権限または JP1\_CM\_InfraManager 権限を持つ JP1 ユーザーである。
- JP1 資源グループを設定しているリソースパックに割り当てられている場合、JP1 ユーザーが JP1\_CM\_Admin 権限を持っている、または同じ JP1 資源グループに属している。

[ 物理ホストのプロパティ ] 画面には、次の 5 種類のタブがあり、タブを選択することで表示を切り替えられます。

- [ 共通 ] タブ
- [ ハードウェア ] タブ
- [ ネットワーク ] タブ
- [ ソフトウェア ] タブ
- [ ブレード ] タブ

次に、5 種類のタブの表示項目について説明します。

### (1) [ 共通 ] タブ

[ 物理ホストのプロパティ ] 画面の [ 共通 ] タブは、物理ホストの共通情報を表示または編集できます。[ 物理ホストのプロパティ ] 画面の [ 共通 ] タブを次に示します。

図 1-40 [物理ホストのプロパティ] 画面の [共通] タブ

物理ホストのプロパティ

共通 | ハードウェア | ネットワーク | ソフトウェア | ブレード

名称 \* DBHost1

説明

共有 ☒ 有効

OK 適用 キャンセル ヘルプ

表示項目を次に示します。項目名の横に「\*」がある項目は、必ず入力してください。入力できる文字の「印刷できる ASCII 文字」とは、ASCII 文字コード ¥u0020 ~ ¥u007E の範囲です。

#### [ 名称 ]

物理ホストの名称が表示されます。

編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

「\*」を除いた印刷できる ASCII 文字，全角文字

入力できる文字数：

1 ~ 511 バイト

リソースパック，物理リソース，またはシステムが自動生成するカテゴリと同じ名称を入力して [ OK ] ボタンまたは [ 適用 ] ボタンをクリックすると，エラーダイアログが表示されます。システムが自動生成するカテゴリの名称については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Central Information Master システム構築・運用ガイド 3.2.4 物理構成定義時の注意事項」を参照してください。

#### [ 説明 ]

設定されている場合は，物理ホストの説明が表示されます。この項目は省略できません。

## 1. 画面

編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

印刷できる ASCII 文字，改行文字，全角文字

入力できる文字数：

0 ～ 2,047 バイト

### 〔共有〕

物理リソースの共有状態が表示されます。〔有効〕がチェックされている場合は，物理リソースを共有します。〔有効〕がチェックされていない場合は，物理リソースを共有しません。物理リソースを共有した場合は，複数のリソースパックに物理リソースを割り当てられます。

## (2)〔ハードウェア〕タブ

〔物理ホストのプロパティ〕画面の〔ハードウェア〕タブは，物理ホストのハードウェア情報を表示または編集できます。〔物理ホストのプロパティ〕画面の〔ハードウェア〕タブを次に示します。

図 1-41 〔物理ホストのプロパティ〕画面の〔ハードウェア〕タブ

物理ホストのプロパティ

共通 **ハードウェア** ネットワーク ソフトウェア ブレード

CPU種別	Intel Pentium III	
CPUクロック数	10G	Hz
CPU搭載数	1	個
メモリ容量	512G	Byte
ディスク容量	80T	Byte
OS名称	Microsoft Windows 2000 Professional	
OSバージョン	Version 5.0; Build 2195; Service Pack 4	

**資産情報**

資産ID	
------	--

OK 適用 キャンセル ヘルプ

表示項目を次に示します。入力できる文字の「印刷できる ASCII 文字」とは，ASCII 文字コード ¥u0020 ～ ¥u007E の範囲です。



## [ CPU 種別 ]

設定されている場合は、物理ホストの CPU 種別が表示されます。この項目は省略できます。

編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

印刷できる ASCII 文字，全角文字

入力できる文字数：

0 ~ 255 バイト

## [ CPU クロック数 ]

設定されている場合は、物理ホストの CPU クロック数が表示されます。単位は Hz（ヘルツ）です。この項目は省略できます。

編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

0 ~ 2,147,483,647 の整数のあとに「M」「G」「T」「P」のどれかの文字を必ず指定する。「M」はメガ、「G」はギガ、「T」はテラ、「P」はペタを示す。

入力できる文字数：

0 ~ 11 バイト

## [ CPU 搭載数 ]

設定されている場合は、物理ホストの CPU 搭載数が表示されます。この項目は省略できます。

編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

0 ~ 65,535 の数字

入力できる文字数：

0 ~ 5 バイト

## [ メモリ容量 ]

設定されている場合は、物理ホストのメモリー容量が表示されます。単位は Byte（バイト）です。この項目は省略できます。

編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

0 ~ 2,147,483,647 の整数のあとに「M」「G」「T」「P」のどれかの文字を必ず指定する。「M」はメガ、「G」はギガ、「T」はテラ、「P」はペタを示す。

入力できる文字数：

0 ~ 11 バイト

## [ ディスク容量 ]

設定されている場合は、物理ホストのディスク容量が表示されます。単位は Byte（バイト）です。この項目は省略できます。

## 1. 画面

編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

0 ~ 2,147,483,647 の整数のあとに「M」「G」「T」「P」のどれかの文字を必ず指定する。「M」はメガ、「G」はギガ、「T」はテラ、「P」はペタを示す。

入力できる文字数：

0 ~ 11 バイト

### [ OS 名称 ]

設定されている場合は、物理ホストの OS 名称が表示されます。この項目は省略できます。

編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

印刷できる ASCII 文字，全角文字

入力できる文字数：

0 ~ 255 バイト

### [ OS バージョン ]

設定されている場合は、物理ホストの OS バージョンが表示されます。この項目は省略できます。

編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

印刷できる ASCII 文字，全角文字

入力できる文字数：

0 ~ 255 バイト

## 資産情報

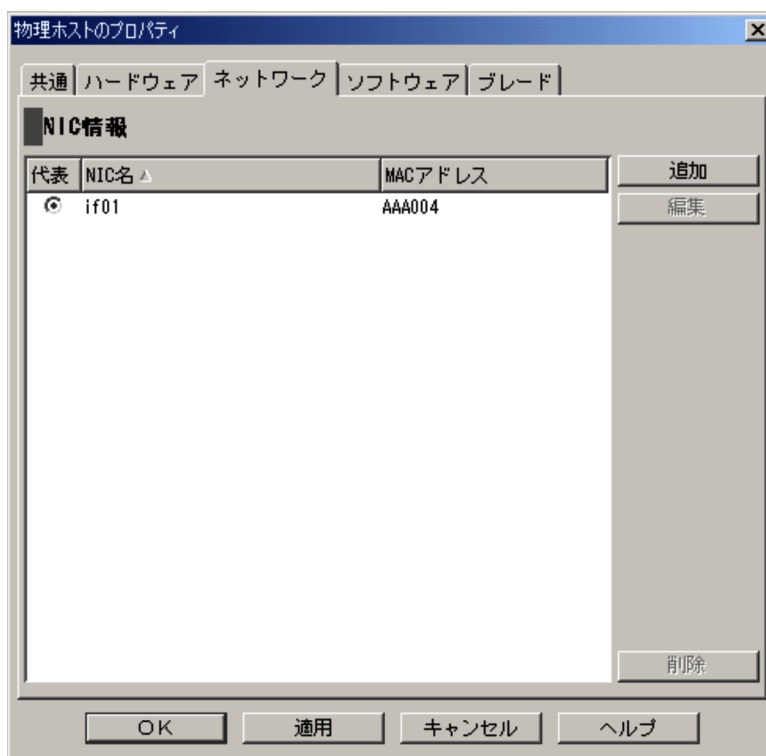
### [ 資産 ID ]

関連プログラムから構成情報を収集するコマンド ( jcmgetinfo ) を実行して取得した、JP1/NETM/AIM が管理している「資産 ID」の値が表示されます。この項目は変更できません。

## (3) [ ネットワーク ] タブ

[ 物理ホストのプロパティ ] 画面の [ ネットワーク ] タブは、物理ホストのネットワーク情報を表示または編集できます。[ 物理ホストのプロパティ ] 画面の [ ネットワーク ] タブを次に示します。

図 1-42 [物理ホストのプロパティ] 画面の [ネットワーク] タブ



表示項目を次に示します。

#### [ NIC 情報 ]

設定されている NIC 情報が一覧で表示されます。代表する NIC 情報は、[ 代表 ] をチェックします。

#### [ 追加 ]

新規に NIC 情報を追加する場合は、[ 追加 ] ボタンをクリックします。クリックすると、[ NIC 情報の追加 ] 画面が表示されます。詳細は、「1.5.5 [ NIC 情報の追加 ] (または [ NIC 情報の編集 ]) 画面」を参照してください。NIC 一覧に表示されている NIC 情報が 16 件ある場合は、[ 追加 ] ボタンは非活性です。

#### [ 編集 ]

選択している NIC 情報を編集する場合は、[ 編集 ] ボタンをクリックします。クリックすると、[ NIC 情報の編集 ] 画面が表示されます。詳細は、「1.5.5 [ NIC 情報の追加 ] (または [ NIC 情報の編集 ]) 画面」を参照してください。

#### [ 削除 ]

選択している NIC 情報を削除する場合は、[ 削除 ] ボタンをクリックします。クリックすると、削除を確認するメッセージダイアログが表示されます。メッセージダイアログで [ はい ] ボタンをクリックすると、NIC 情報が一覧から削除されます。

#### (4) [ソフトウェア] タブ

[物理ホストのプロパティ] 画面の [ソフトウェア] タブは物理ホストのソフトウェア情報を表示または編集できます。[物理ホストのプロパティ] 画面の [ソフトウェア] タブを次に示します。

図 1-43 [物理ホストのプロパティ] 画面の [ソフトウェア] タブ



表示項目を次に示します。

##### [ソフトウェア情報]

定義されているソフトウェア情報が一覧で表示されます。ソフトウェア名とバージョンを表示します。

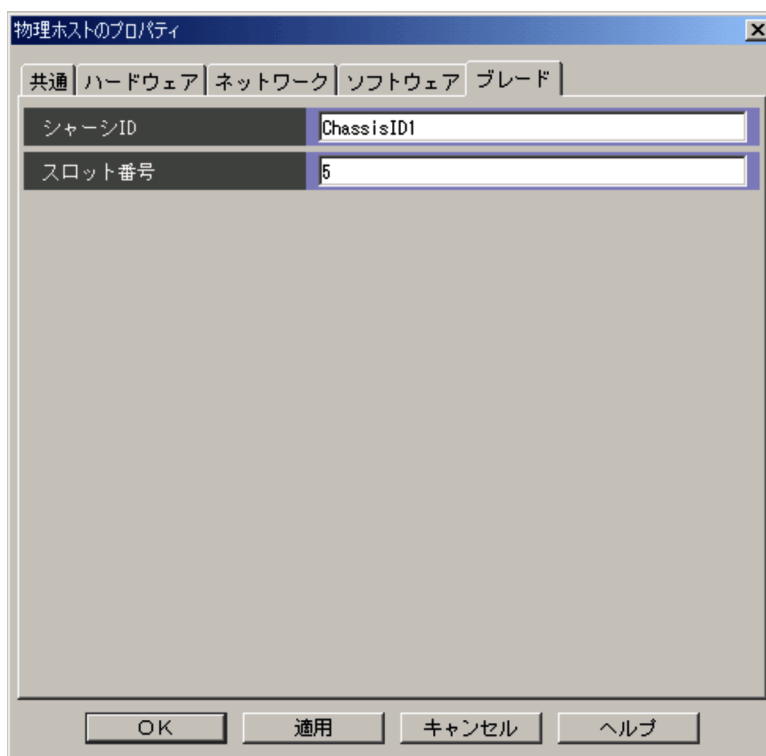
##### [選択]

[選択] ボタンをクリックすると、[ソフトウェアの選択] 画面が表示されます。詳細は「1.5.12 [ソフトウェアの選択] 画面」を参照してください。

#### (5) [ブレード] タブ

[物理ホストのプロパティ] 画面の [ブレード] タブは、物理ホストの BladeSymphony の情報を表示または編集できます。[物理ホストのプロパティ] 画面の [ブレード] タブを次に示します。

図 1-44 [物理ホストのプロパティ] 画面の [ブレード] タブ



表示項目を次に示します。入力できる文字の「印刷できる ASCII 文字」とは、ASCII 文字コード ¥u0020 ~ ¥u007E の範囲です。

#### [ シャーシ ID ]

設定されている場合は、物理ホストの BladeSymphony のシャーシ ID が表示されます。BladeSymphony のシャーシ ID については、マニュアル「JP1/ServerConductor/Control Manager」を参照してください。この項目は省略できます。

編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

印刷できる ASCII 文字，全角文字

入力できる文字数：

0 ~ 256 バイト

#### [ スロット番号 ]

設定されている場合は、物理ホストの BladeSymphony のスロット番号が表示されます。BladeSymphony のスロット番号については、マニュアル「JP1/ServerConductor/Control Manager」を参照してください。この項目は省略できます。

## 1. 画面

編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

印刷できる ASCII 文字，全角文字

入力できる文字数：

0 ～ 255 バイト

### 1.5.5 [ NIC 情報の追加 ] (または [ NIC 情報の編集 ]) 画面

[ NIC 情報の追加 ], [ NIC 情報の編集 ] 画面は、物理リソースに割り当てられる NIC 情報を設定するための画面です。この画面は次のどちらかの操作で表示されます。

- 物理ホストの作成画面の [ ネットワーク ] タブで、[ 追加 ] ボタンまたは [ 編集 ] ボタンをクリックする。
- [ 物理ホストのプロパティ ] 画面の [ ネットワーク ] タブで、[ 追加 ] ボタンまたは [ 編集 ] ボタンをクリックする。

[ 追加 ] ボタンをクリックした場合は、画面のタイトルバーが「NIC 情報の追加」になります。また、[ 編集 ] ボタンをクリックした場合は、画面のタイトルバーが「NIC 情報の編集」になります。

[ 追加 ] ボタンをクリックした場合の [ NIC 情報の追加 ] 画面を次に示します。

図 1-45 [ NIC 情報の追加 ] 画面

表示項目を次に示します。項目名の横に「\*」がある項目は、必ず入力してください。入力できる文字の「印刷できる ASCII 文字」とは、ASCII 文字コード ¥u0020 ~ ¥u007E の範囲です。

#### [ NIC 名 ]

NIC 名を入力します。[ 編集 ] ボタンをクリックして表示された画面の場合は、設定されている NIC 情報の名称が表示されます。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

印刷できる ASCII 文字

入力できる文字数：

1 ~ 255 バイト

#### [ MAC アドレス ]

NIC 情報の MAC アドレスを入力します。[ 編集 ] ボタンをクリックして表示された画面の場合は、設定されている NIC 情報の MAC アドレスが表示されます。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

印刷できる ASCII 文字

入力できる文字数：

1 ~ 255 バイト

リソースパック、物理リソース、またはシステムが自動生成するカテゴリと同じ名称を入力して [ OK ] ボタンをクリックすると、エラーダイアログが表示されます。システムが自動生成するカテゴリの名称については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Central Information Master システム構築・運用ガイド 3.2.4 物理構成定義時の注意事項」を参照してください。

#### [ ネットワーク情報 ]

NIC 情報として定義されているネットワーク情報が一覧表示されます。IP アドレス、サブネットマスク、およびデフォルトゲートウェイの情報を表示します。代表するネットワーク情報は、[ 代表 ] をチェックします。

#### [ 追加 ]

新規にネットワーク情報を追加する場合は、[ 追加 ] ボタンをクリックします。クリックすると、[ ネットワーク情報の追加 ] 画面が表示されます。詳細は、「1.5.6 [ ネットワーク情報の追加 ] (または [ ネットワーク情報の編集 ]) 画面」を参照してください。ネットワーク情報の一覧に表示されているネットワーク情報が 16 件ある場合は、[ 追加 ] ボタンは非活性です。

#### [ 編集 ]

選択しているネットワーク情報を編集する場合は、[ 編集 ] ボタンをクリックします。クリックすると、[ ネットワーク情報の編集 ] 画面が表示されます。詳細は、「1.5.6 [ ネットワーク情報の追加 ] (または [ ネットワーク情報の編集 ]) 画面」を参照してください。

#### [ 削除 ]

選択しているネットワーク情報を削除する場合は、[ 削除 ] ボタンをクリックします。クリックすると、削除を確認するメッセージダイアログが表示されます。メッセージダイアログで [ はい ] ボタンをクリックすると、ネットワーク情報が一覧から削除されます。

### 1.5.6 [ ネットワーク情報の追加 ] (または [ ネットワーク情報の編集 ]) 画面

[ ネットワーク情報の追加 ]、[ ネットワーク情報の編集 ] 画面は、NIC に割り当てられる IP 情報を設定するための画面です。この画面は次の操作で表示されます。

- [ NIC 情報の追加 ] または [ NIC 情報の編集 ] 画面で [ 追加 ] ボタン、または [ 編集 ] ボタンをクリックする。

[ 追加 ] ボタンをクリックした場合は、画面のタイトルバーが「ネットワーク情報の追加」になります。また、[ 編集 ] ボタンをクリックした場合は、画面のタイトルバーが



「ネットワーク情報の編集」になります。

[ 追加 ] ボタンをクリックした場合の [ ネットワーク情報の追加 ] 画面を次に示します。

図 1-46 [ ネットワーク情報の追加 ] 画面

ネットワーク情報の追加	
IPアドレス *	10.208.97.50
サブネットマスク *	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	10.208.97.1
<input type="button" value="OK"/> <input type="button" value="キャンセル"/>	

表示項目を次に示します。項目名の横に「\*」がある項目は、必ず入力してください。

#### [ IP アドレス ]

ネットワーク情報の IP アドレスを入力します。[ 編集 ] ボタンをクリックして表示された画面の場合は、設定されている IP アドレスが表示されます。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

IPv4 または IPv6 の形式

リソースパック、物理リソース、またはシステムが自動生成するカテゴリと同じ名称を指定して [ OK ] ボタンをクリックした場合は、エラーダイアログが表示されます。システムが自動生成するカテゴリの名称については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Central Information Master システム構築・運用ガイド 3.2.4 物理構成定義時の注意事項」を参照してください。

#### [ サブネットマスク ]

ネットワーク情報のサブネットマスクを入力します。[ 編集 ] ボタンをクリックして表示された画面の場合は、設定されているサブネットマスクが表示されます。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

IPv4 または IPv6 の形式

#### [ デフォルトゲートウェイ ]

ネットワーク情報のデフォルトゲートウェイを入力します。[ 編集 ] ボタンをクリックして表示された画面の場合は、設定されているデフォルトゲートウェイが表示されます。この項目は省略できます。


次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

IPv4 または IPv6 の形式

## 1.5.7 [ロードバランサのプロパティ] 画面

[ロードバランサのプロパティ] 画面は、作成されたロードバランサの設定内容を表示または編集するための画面です。この画面は次の操作で表示されます。

- [システム構成定義] 画面で [リソース] タブを表示し、ツリーで  (ロードバランサ) を選択する。表示されている [詳細一覧] からロードバランサを選択し、[プロパティ] ボタンをクリックする。

次の条件をすべて満たしている場合は、ロードバランサの設定内容を編集できます。一つでも満たしていない場合は、すべての項目が非活性で表示されて、編集できません。

- [システム構成定義] 画面の [排他編集] をチェックしている。
- ログインしている JP1 ユーザーが、JP1\_CM\_Admin 権限または JP1\_CM\_InfraManager 権限を持つ JP1 ユーザーである。
- JP1 資源グループを設定しているリソースパックに割り当てられている場合、JP1 ユーザーが JP1\_CM\_Admin 権限を持っている、または同じ JP1 資源グループに属している。

[ロードバランサのプロパティ] 画面には、[共通] タブと [バインドリスト] タブの 2 種類のタブがあります。タブを選択することで [共通] タブと [バインドリスト] タブの表示を切り替えられます。次に、[共通] タブと [バインドリスト] タブの表示項目について説明します。

### (1) [共通] タブ

[ロードバランサのプロパティ] 画面の [共通] タブは、作成したロードバランサの共通情報を表示または編集できます。[ロードバランサのプロパティ] 画面の [共通] タブを次に示します。

図 1-47 [ロードバランサのプロパティ] 画面の [共通] タブ

ロードバランサのプロパティ	
共通	バインドリスト
名称 *	LoadFlowbal_3
説明	
デバイス名	LoadFlowbal_3
モデル名	loadflowbal-v7.1.0
管理用IPアドレス	192.168.0.2
共有	<input checked="" type="checkbox"/> 有効
<div> <div>OK</div> <div>適用</div> <div>キャンセル</div> <div>ヘルプ</div> </div>	

表示項目を次に示します。項目名の横に「\*」がある項目は、必ず入力してください。入力できる文字の「印刷できる ASCII 文字」とは、ASCII 文字コード ¥u0020 ~ ¥u007E の範囲です。

#### [ 名称 ]

ロードバランサの名称が表示されます。

編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

「\*」を除いた印刷できる ASCII 文字，全角文字

入力できる文字数：

1 ~ 511 バイト

リソースパック，物理リソース，またはシステムが自動生成するカテゴリと同じ名称を指定して [ OK ] ボタンまたは [ 適用 ] ボタンをクリックすると，エラーダイアログが表示されます。システムが自動生成するカテゴリの名称については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Central Information Master システム構築・運用ガイド 3.2.4 物理構成定義時の注意事項」を参照してください。

#### [ 説明 ]

設定されている場合は，ロードバランサの説明が表示されます。この項目は省略できます。

編集する場合は，次に示す規則に従って入力してください。

## 1. 画面

入力できる文字：

印刷できる ASCII 文字，改行文字，全角文字

入力できる文字数：

0 ～ 2,047 バイト

### [ デバイス名 ]

設定されている場合は，ロードバランサのデバイス名が表示されます。この項目は省略できます。

編集する場合は，次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

印刷できる ASCII 文字

入力できる文字数：

0 ～ 255 バイト

### [ モデル名 ]

設定されている場合は，ロードバランサのモデル名が表示されます。この項目は省略できます。

編集する場合は，次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

印刷できる ASCII 文字

入力できる文字数：

0 ～ 255 バイト

### [ 管理用 IP アドレス ]

設定されている場合は，ロードバランサの管理用 IP アドレスが表示されます。この項目は省略できます。

編集する場合は，次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

IPv4 または IPv6 の形式

### [ 共有 ]

物理リソースの共有状態が表示されます。[ 有効 ] がチェックされている場合は，物理リソースを共有します。[ 有効 ] がチェックされていない場合は，物理リソースを共有しません。物理リソースを共有した場合は，複数のリソースパックに物理リソースを割り当てられます。

## (2) [ バインドリスト ] タブ

[ ロードバランサのプロパティ ] 画面の [ バインドリスト ] タブは，作成したロードバランサのバインドリスト情報を表示します。バインドリスト情報は，JP1/Cm2/NC からロードバランサの情報を収集してきた場合に表示されます。[ ロードバランサのプロパティ ] 画面の [ バインドリスト ] タブを次に示します。

図 1-48 [ロードバランサのプロパティ] 画面の [バインドリスト] タブ



表示項目を次に示します。

#### [ バインドリスト ]


JP1/Cm2/NC から収集した、バインド情報を一覧表示します。バインド情報の論理 IP アドレス、ポート番号、およびロードバランシング方式を表示します。

#### [ 詳細情報 ]

[ バインドリスト ] で選択されているバインド情報の詳細として、物理 IP アドレスおよびポート番号が表示されます。[ バインドリスト ] でバインド情報を選択していない場合は、何も表示されません。

## 1.5.8 [ リソースパックの作成 ] 画面

[ リソースパックの作成 ] 画面は、新規にリソースパックを作成するための画面です。この画面は次の操作で表示されます。

- [ システム構成定義 ] 画面で [ リソース ] タブを表示し、 (すべてのリソースパック) を選択した状態で、[ 編集 ] - [ 作成 ] - [ リソースパック ] を選択する。

[ リソースパックの作成 ] 画面を次に示します。

## 1. 画面

図 1-49 [ リソースパックの作成 ] 画面

名称 *	旅費精算システム
説明	Web推奨モデルリソースパック
JP1資源グループ	jpluserG2
状態	定義中
所有者	jpladmin

OK キャンセル ヘルプ

表示項目を次に示します。項目名の横に「\*」がある項目は、必ず入力してください。入力できる文字の「印刷できる ASCII 文字」とは、ASCII 文字コード ¥u0020 ~ ¥u007E の範囲です。

### [ 名称 ]

リソースパックの名称を入力します。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

「\*」を除いた印刷できる ASCII 文字，全角文字

入力できる文字数：

1 ~ 511 バイト

リソースパック，物理リソース，またはシステムが自動生成するカテゴリと同じ名称を指定して [ OK ] ボタンをクリックした場合は，エラーダイアログが表示されます。システムが自動生成するカテゴリの名称については，マニュアル「JP1/ Integrated Management - Central Information Master システム構築・運用ガイド 3.2.4 物理構成定義時の注意事項」を参照してください。

### [ 説明 ]

リソースパックについての説明を入力します。この項目は省略できます。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

印刷できる ASCII 文字，改行文字，全角文字

入力できる文字数：

0 ~ 2,047 バイト

#### [ JP1 資源グループ ]

リソースパックを共有できる JP1 資源グループを入力します。この項目は省略できます。省略した場合は，どの JP1 資源グループでも，権限のあるすべての JP1 ユーザーがリソースパックの設定を編集できます。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

空白と「" ' ^ [ ] { } ( ) : ; | ￥ / = , + ? < >」を除いた印刷できる ASCII 文字

入力できる文字数：

0 ~ 64 バイト

#### [ 状態 ]

リソースパックの状態をリストから選択します。指定できる状態は，[ 定義中 ][ 完了 ] のどちらかです。リソースパックの状態にあわせてユーザーの判断で指定してください。[ 定義中 ] と [ 完了 ] の意味を次に示します。

- [ 定義中 ]

リソースパックを JP1/IM・View 上で定義している状態です。[ 定義中 ] の場合，リソースパックに物理リソースを割り当てられます。

- [ 完了 ]



リソースパックへの物理リソースの割り当てが完了した状態です。リソースパックを論理システムに割り当てられます。

#### [ 所有者 ]

ログインしている JP1 ユーザー名が表示されます。この項目は変更できません。

## 1.5.9 [ リソースパックのプロパティ ] 画面

[ リソースパックのプロパティ ] 画面は，作成したリソースパックの設定内容を表示または編集するための画面です。この画面は次のどちらかの操作で表示されます。

- [ システム構成定義 ] 画面で [ リソース ] タブを表示し，ツリーで  (リソースパック) を選択している状態で，[ 編集 ] - [ プロパティ ] を選択する。
- [ システム構成定義 ] 画面で [ リソース ] タブを表示し，ツリーで  (すべてのリソースパック) を選択する。表示されている [ 詳細一覧 ] でリソースパックを選択した状態で，[ プロパティ ] ボタンをクリックする。

次の条件をすべて満たしている場合は，リソースパックの設定内容を編集できます。一つでも満たしていない場合は，すべての項目が非活性で表示されて，編集できません。

## 1. 画面

- [システム構成定義] 画面の [ 排他編集 ] をチェックしている。
- ログインしている JP1 ユーザーが、JP1\_CM\_Admin 権限または JP1\_CM\_InfraManager 権限を持つ JP1 ユーザーである。
- JP1 資源グループを設定しているリソースパックに割り当てられている場合、JP1 ユーザーが JP1\_CM\_Admin 権限を持っている、または同じ JP1 資源グループに属している。

[ リソースパックのプロパティ ] 画面を次に示します。

図 1-50 [ リソースパックのプロパティ ] 画面

名称 *	旅費精算システム
説明	Web推奨モデルリソースパック
JP1資源グループ	jp1userG2
状態	定義中
所有者	jp1user2

OK 適用 キャンセル ヘルプ

表示項目を次に示します。項目名の横に「\*」がある項目は、必ず入力してください。入力できる文字の「印刷できる ASCII 文字」とは、ASCII 文字コード ¥u0020 ~ ¥u007E の範囲です。

### [ 名称 ]

リソースパックの名称が表示されます。

編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

「\*」を除いた印刷できる ASCII 文字，全角文字

入力できる文字数：

1 ~ 511 バイト



リソースパック、物理リソース、またはシステムが自動生成するカテゴリと同じ名称を入力して [ OK ] ボタンまたは [ 適用 ] ボタンをクリックすると、エラーダイアログが表示されます。システムが自動生成するカテゴリの名称については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Central Information Master システム構築・運用ガイド 3.2.4 物理構成定義時の注意事項」を参照してください。

#### [ 説明 ]

設定されている場合は、リソースパックの説明が表示されます。この項目は省略できます。

編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

印刷できる ASCII 文字、改行文字、全角文字

入力できる文字数：

0 ~ 2,047 バイト

#### [ JP1 資源グループ ]

リソースパックを共有できる JP1 資源グループが表示されます。この項目は省略できます。省略した場合は、どの JP1 資源グループでも、権限のあるすべての JP1 ユーザーがリソースパックの設定を編集できます。

編集する場合は、次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

空白と「" ' ^ [ ] { } ( ) : ; | ￥ / = , + ? < >」を除いた印刷できる ASCII 文字

入力できる文字数：

0 ~ 64 バイト

#### [ 状態 ]

リソースパックの状態が表示されます。指定できる状態は、[ 定義中 ] [ 完了 ] のどちらかです。リソースパックの状態に合わせてユーザーの判断で指定してください。

[ 定義中 ] と [ 完了 ] の意味を次に示します。

- [ 定義中 ]

リソースパックを JP1/IM - View 上で定義している状態です。[ 定義中 ] の場合、リソースパックに物理リソースを割り当てられます。

- [ 完了 ]



リソースパックへの物理リソースの割り当てが完了した状態です。リソースパックを論理システムに割り当てられます。

#### [ 所有者 ]

リソースパックを作成した JP1 ユーザー名が表示されます。この項目は変更できません。

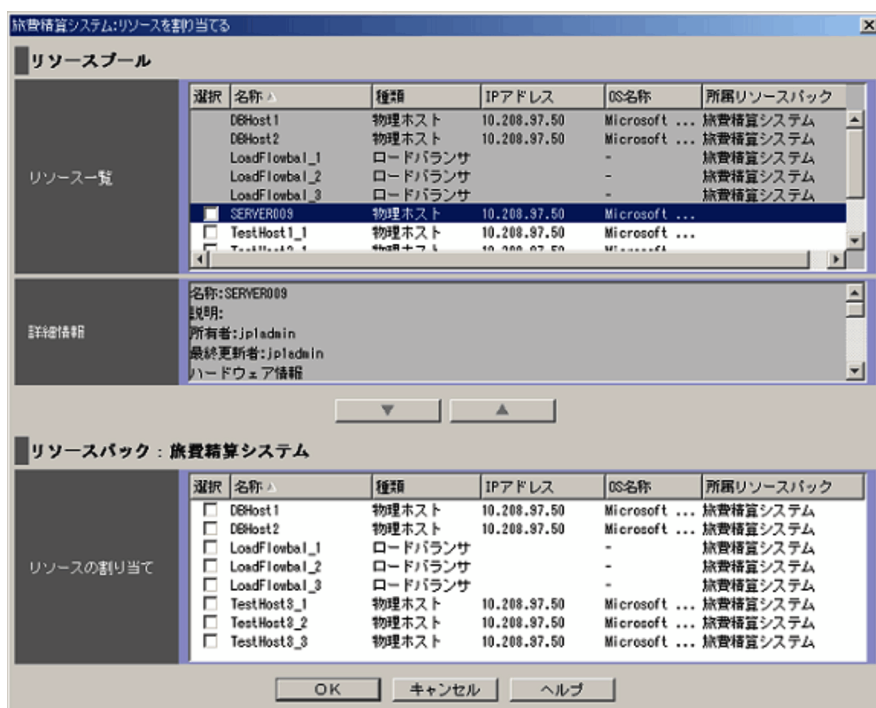
## 1.5.10 [ リソースを割り当てる ]( リソースパックへのリソース割り当て ) 画面

リソースパックへのリソース割り当て画面は、作成したリソースパックに物理リソースを割り当てるための画面です。この画面は次のどちらかの操作で表示されます。

- [ システム構成定義 ] 画面で [ リソース ] タブを表示し、ツリーで  (リソースパック) を選択している状態で、[ オプション ] - [ リソースの割り当て ] を選択する。
- [ システム構成定義 ] 画面で [ リソース ] タブを表示し、ツリーで  (すべてのリソースパック) を選択する。表示されている [ 詳細一覧 ] でリソースパックを選択した状態で、[ リソースの割り当て ] ボタンをクリックする。

リソースパックへのリソース割り当て画面を次に示します。

図 1-51 [ リソースを割り当てる ]( リソースパックへのリソース割り当て ) 画面



表示項目を次に示します。

### リソースプール

#### [ リソース一覧 ]

リソースプールに設定されている物理リソースが一覧表示されます。リソースパックに割り当てられる物理リソースは、背景が白色で選択チェックボックスが表示されます。リソースパックに割り当てられない物理リソースは、背景が灰色で選択チェックボックスが表示されません。

#### [ 詳細情報 ]

[ リソース一覧 ] で行選択している物理リソースの詳細情報を表示します。

#### [   ]

[ リソース一覧 ] でチェックした物理リソースを、選択したリソースパックに割り当てます。[   ] ボタンをクリックすると、リソース一覧でチェックした物理リソースが [ リソースの割り当て ] に追加されます。また、[ リソース一覧 ] に割り当てられない物理リソースとして表示されます。[ リソース一覧 ] で物理リソースが一つもチェックされていない場合は、このボタンは非活性です。

#### [   ]

[ リソースの割り当て ] でチェックした物理リソースを、リソースパックから割り当て解除します。[   ] ボタンをクリックすると、[ リソースの割り当て ] でチェックした物理リソースが、[ リソースの割り当て ] の一覧から削除されます。解除された物理リソースは、[ リソース一覧 ] に割り当てられる物理リソースとして表示されます。[ リソースの割り当て ] でどの物理リソースもチェックされていない場合は、このボタンは非活性です。

#### リソースパック

#### [ リソースの割り当て ]

リソースパックに割り当てられている物理リソースの一覧を表示します。[ リソースパックへのリソース割り当て ] 画面起動時に、すでに割り当てられている物理リソースは、背景が灰色で選択チェックボックスが表示されません。画面起動後に割り当てた物理リソースは、背景が白色で選択チェックボックスが表示されます。

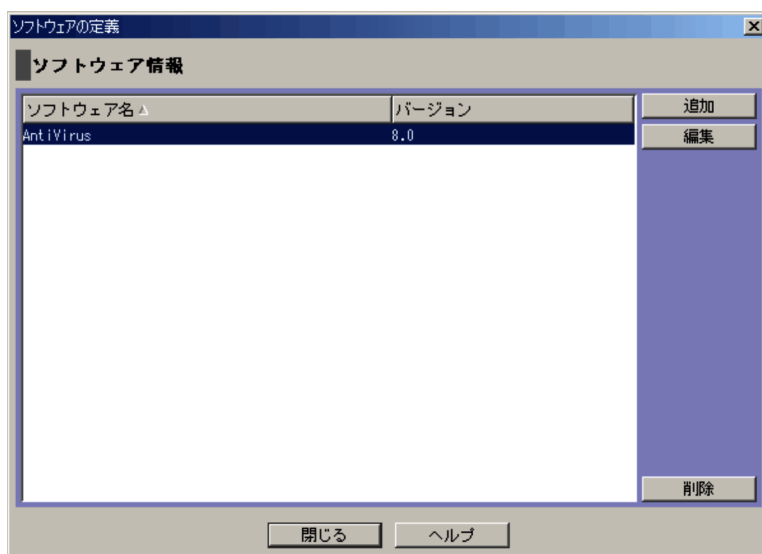
### 1.5.11 [ ソフトウェアの定義 ] 画面

[ ソフトウェアの定義 ] 画面は、システムで定義されているソフトウェアの一覧を表示するための画面です。この画面は次のどちらかの操作で表示されます。

- [ システム構成定義 ] 画面で [ リソース ] タブを表示した状態で、[ オプション ] - [ ソフトウェアの定義 ] を選択する。

[ ソフトウェアの定義 ] 画面を次に示します。

図 1-52 [ソフトウェアの定義] 画面



表示項目を次に示します。

[ソフトウェア情報]

システムで定義されているソフトウェア情報が一覧で表示されます。ソフトウェア名とバージョンを表示します。

[追加]

新規にソフトウェアを追加する場合は、[追加] ボタンをクリックします。クリックすると、[ソフトウェアの追加] 画面が表示されます。詳細は、「1.5.13 [ソフトウェアの追加] (または [ソフトウェアの編集]) 画面」を参照してください。

[編集]

選択しているソフトウェア情報を編集する場合は、[編集] ボタンをクリックします。クリックすると、[ソフトウェアの編集] 画面が表示されます。詳細は、「1.5.13 [ソフトウェアの追加] (または [ソフトウェアの編集]) 画面」を参照してください。

[削除]

選択しているソフトウェア情報を削除する場合は、[削除] ボタンをクリックします。クリックすると、削除を確認するメッセージダイアログが表示されます。メッセージダイアログで [はい] ボタンをクリックすると、ソフトウェア情報が一覧から削除されます。

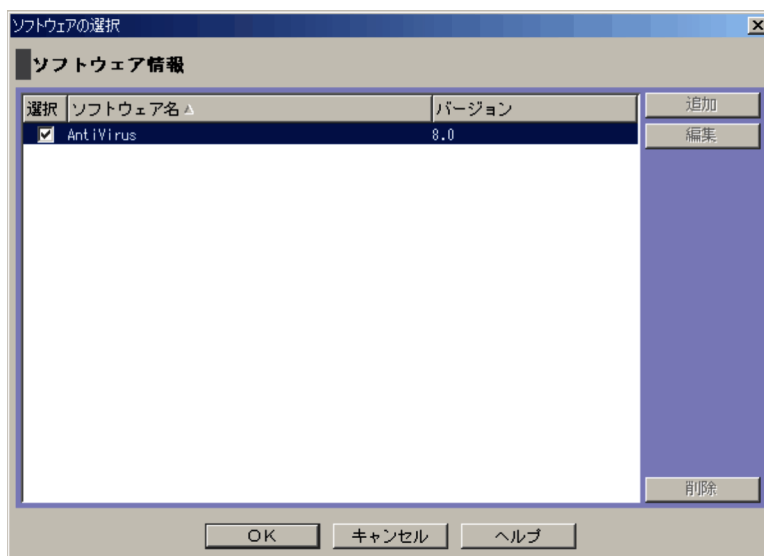
## 1.5.12 [ソフトウェアの選択] 画面

[ソフトウェアの選択] 画面は、物理ホストに定義したソフトウェア情報を一覧から選択するための画面です。この画面は次の操作で表示されます。

- [物理ホストの作成] 画面の [ソフトウェア] タブで [選択] ボタンをクリックする。
- [物理ホストのプロパティ] 画面の [ソフトウェア] タブで [選択] ボタンをクリックする。

[ソフトウェアの選択] 画面を次に示します。

図 1-53 [ソフトウェアの選択] 画面



表示項目を次に示します。

#### [ソフトウェア情報]

システムで定義されているソフトウェア情報が一覧で表示されます。選択チェックボックス、ソフトウェア名、およびバージョンを表示します。選択チェックボックスは、呼び出し元の物理ホストに設定したいソフトウェア情報をチェックします。ソフトウェア情報は複数選択できます。

#### [追加]

このボタンは、常に非活性です。

#### [編集]

このボタンは、常に非活性です。

#### [削除]

このボタンは、常に非活性です。

### 1.5.13 [ソフトウェアの追加] (または [ソフトウェアの編集]) 画面

[ソフトウェアの追加], [ソフトウェアの編集] 画面は、システムが管理するソフトウェアの定義を追加したり、編集したりするための画面です。この画面は次の操作で表示さ

## 1. 画面

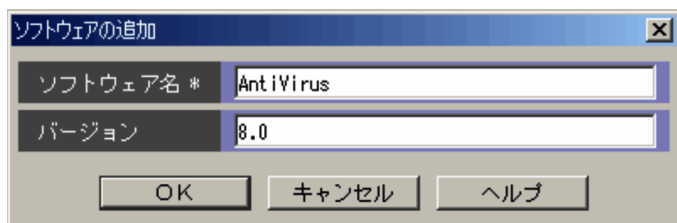
れます。

- ・[ソフトウェアの定義]画面で,[追加]ボタンまたは[編集]ボタンをクリックする。

[追加]ボタンをクリックした場合は,画面のタイトルバーが「ソフトウェアの追加」になります。また,[編集]ボタンをクリックした場合は,画面のタイトルバーが「ソフトウェアの編集」になります。

[追加]ボタンをクリックした場合の[ソフトウェアの追加]画面を次に示します。

図 1-54 [ソフトウェアの追加]画面



表示項目を次に示します。項目名の横に「\*」がある項目は,必ず入力してください。入力できる文字の「印刷できる ASCII 文字」とは,ASCII 文字コード ¥u0020 ~ ¥u007E の範囲です。

### [ソフトウェア名]

ソフトウェア名を入力します。[編集]ボタンをクリックして表示された画面の場合は,設定されているソフトウェア名が表示されます。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字:

「\*」を除いた印刷できる ASCII 文字,全角文字

入力できる文字数:

1 ~ 255 バイト

「[ソフトウェア名]:[バージョン情報]」が,リソースパック,物理リソース,またはシステムが自動生成するカテゴリと同じ名称になる場合,[OK]ボタンをクリックしたときに,エラーダイアログが表示されます。システムが自動生成するカテゴリの名称については,マニュアル「JP1/Integrated Management - Central Information Master システム構築・運用ガイド 3.2.4 物理構成定義時の注意事項」を参照してください。

### [バージョン]

ソフトウェアのバージョンを入力します。[編集]ボタンをクリックして表示された画面の場合は,設定されているバージョンが表示されます。この項目は省略できます。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字:

「\*」を除いた印刷できる ASCII 文字,全角文字

入力できる文字数：  
0 ~ 255 バイト



## 1.6 マッピング定義画面

---

この節では、論理構成と物理構成をマッピングする画面について説明します。

### 1.6.1 [ リソースを割り当てる ](システムへのリソース割り当て) 画面

システムへのリソース割り当て画面は、論理システムの構成で定義した仮想ホストに、物理リソースを割り当てるための画面です。この画面は次のどちらかの操作で表示されます。

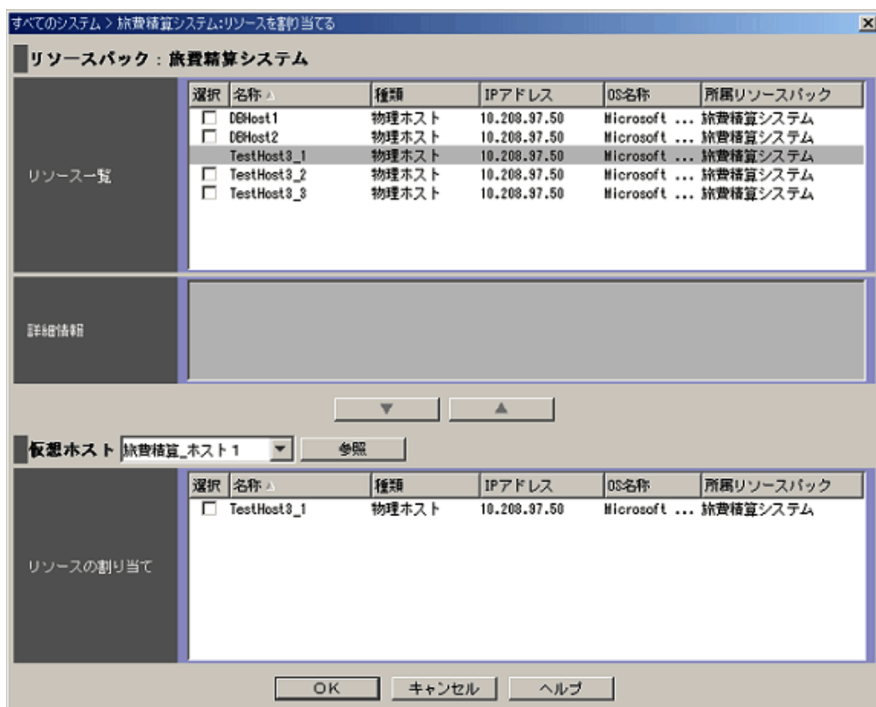
- [システム構成定義] 画面で [システム] タブを表示し、ツリーで  (システム) 以下の階層のオブジェクトを選択している状態で、[オプション] - [リソースの割り当て] を選択する。
- [システム構成定義] 画面で [システム] タブを表示し、ツリーで  (システム) 以下の階層のオブジェクトを選択する。表示されている [詳細一覧] からオブジェクトを選択し、[リソースの割り当て] ボタンをクリックする。

このとき、選択したオブジェクトが属する論理システムに、物理リソースを割り当てたリソースパックが割り当てられている必要があります。割り当てられていない場合は、エラーダイアログが表示されます。

システムへのリソース割り当て画面を次に示します。



図 1-55 [ リソースを割り当てる ](システムへのリソース割り当て) 画面



表示項目を次に示します。

#### [ リソース一覧 ]

選択したオブジェクトが属している論理システムが管理する、リソースパックの物理リソースが一覧表示されます。割り当てられる物理リソースは、背景が白色で選択チェックボックスが表示されます。割り当てられない物理リソースは、背景が灰色で選択チェックボックスが表示されません。

#### [ 詳細情報 ]

[ リソース一覧 ] で行選択している物理リソースの詳細情報を表示します。

#### [ ]

[ リソース一覧 ] でチェックした物理リソースを、指定した仮想ホストに割り当てます。[ ] ボタンをクリックすると、リソース一覧でチェックした物理リソースが [ リソースの割り当て ] に追加されます。また、[ リソース一覧 ] に割り当てられない物理リソースとして表示されます。[ リソース一覧 ] で物理リソースが一つもチェックされていない場合は、このボタンは非活性です。

#### [ ]

[ リソースの割り当て ] でチェックした物理リソースを、指定した仮想ホストから割り当て解除します。[ ] ボタンをクリックすると、[ リソースの割り当て ] でチェックした物理リソースが、[ リソースの割り当て ] の一覧から削除されます。削除された物理リソースは、割り当てられる物理リソースとして [ リソース一覧 ] に

## 1. 画面

表示されます。[ リソースの割り当て ] で物理リソースが一つもチェックされていない場合は、このボタンは非活性です。

### [ 仮想ホスト ]

物理リソースを割り当てる仮想ホストの名称をリストから選択します。仮想ホストは、選択したオブジェクトに定義されている仮想ホストから選択します。仮想ホストを選択している場合は、選択した仮想ホストの名称が表示されます。

### [ 参照 ]

[ 仮想ホスト ] で選択している仮想ホストの [ 仮想ホストのプロパティ ] 画面が表示されます。[ 仮想ホストのプロパティ ] 画面の項目はすべて非活性で、編集できません。

### [ リソースの割り当て ]

[ 仮想ホスト ] に表示されている仮想ホストに割り当てられている物理リソースが一覧表示されます。

## 1.7 Link & Launch 画面

この節では、連携プログラムを JP1/IM・CM から起動するための画面について説明します。

### 1.7.1 [ 詳細情報の設定・参照 ] 画面

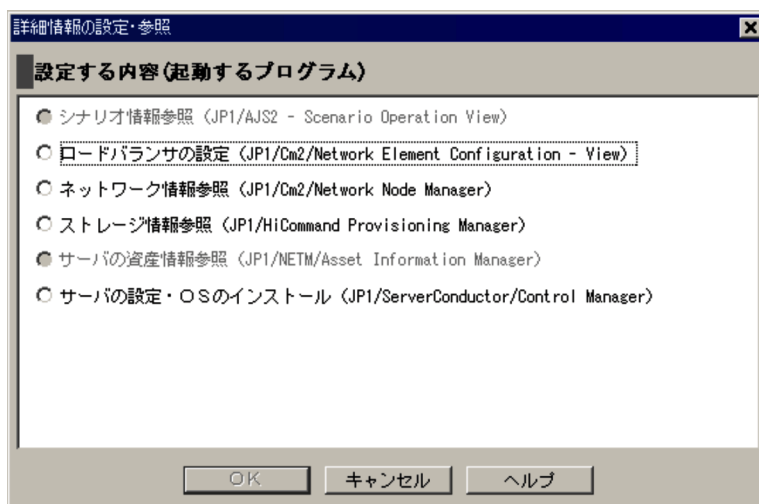
[ 詳細情報の設定・参照 ] 画面は、[ システム構成定義 ] のツリーで選択しているオブジェクトに関連するプログラムの一覧を表示し、起動するための画面です。この画面は次の操作で表示されます。

- [ システム構成定義 ] 画面の [ 詳細一覧 ] でオブジェクトを選択し、[ 詳細情報の設定・参照 ] ボタンをクリックする。

起動するプログラムを JP1/IM・View 上に設定する方法については、「3. 定義ファイル」の「Link&Launch 定義ファイル」を参照してください。

[ 詳細情報の設定・参照 ] 画面を次に示します。

図 1-56 [ 詳細情報の設定・参照 ] 画面



表示項目を次に示します。

#### [ シナリオ情報参照 ]

選択して [ OK ] ボタンをクリックした場合、JP1/AJS2 - Scenario Operation View を起動します。

#### [ ロードバランサの設定 ]

選択して [ OK ] ボタンをクリックした場合、JP1/Cm2/NC - View を起動します。

#### [ ネットワーク情報参照 ]

## 1. 画面

選択して [ OK ] ボタンをクリックした場合 , JP1/Cm2/Network Node Manager を起動します。

### [ ストレージ情報参照 ]

選択して [ OK ] ボタンをクリックした場合 , JP1/HiCommand Provisioning Manager を起動します。

### [ サーバの資産情報参照 ]

選択して [ OK ] ボタンをクリックした場合 , JP1/NETM/AIM を起動します。 [ システム構成管理 ] 画面の [ リソース ] タブで , 資産 ID が設定されている物理ホストオブジェクトを選択している場合に起動できます。

### [ サーバの設定・OS のインストール ]

選択して [ OK ] ボタンをクリックした場合 , JP1/SC/Control Manager を起動します。

### 注意事項

[ 詳細情報の設定・参照 ] 画面から連携先のプログラムを起動する場合 , JP1/IM - View を起動した OS ユーザーに , 連携先のプログラムの実行権限がないとプログラムは起動できません。また , 連携先のプログラムが実行できる権限で JP1/IM - View を起動する必要があります。

## 1.8 Cosminexus 用システム構成の作成

Cosminexus 用システム構成の作成では、Cosminexus が推奨するシステム構成を作成する画面の流れと、画面の構成について説明します。Cosminexus が推奨するシステム構成は、[システム (Web 推奨モデル) の作成 - ステップ 1 of 3] 画面からウィザード形式で論理システムを作成できます。[システム (Web 推奨モデル) の作成 - ステップ 1 of 3] 画面は次の操作で表示されます。

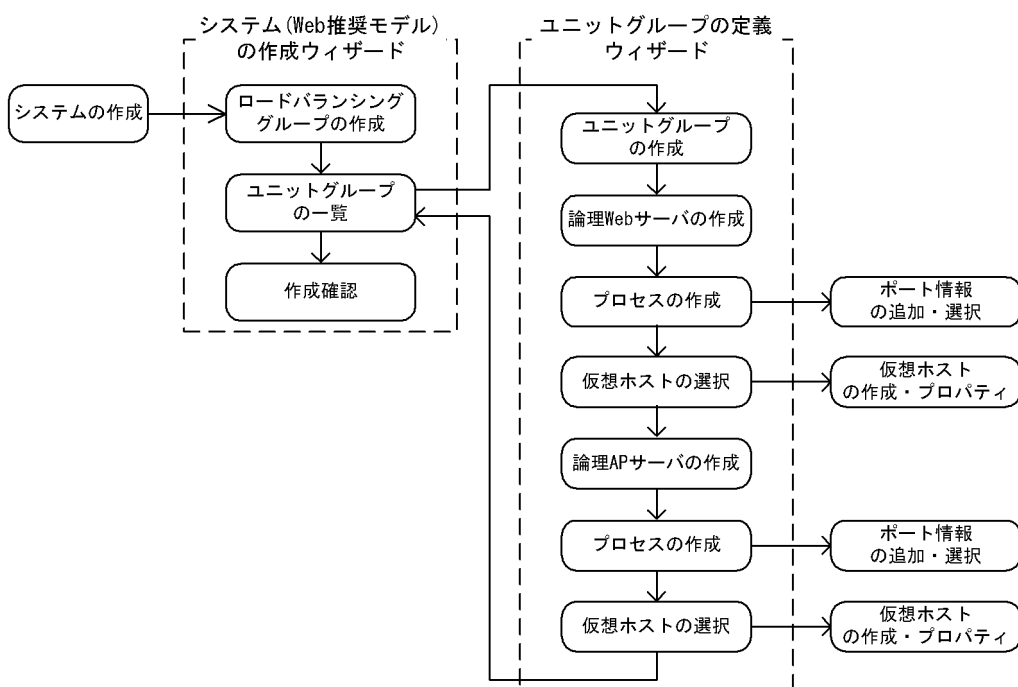
- [システムの作成] 画面の [システム] タブにある [テンプレート] に、[Web 推奨モデル] を指定して [OK] ボタンをクリックする。

次に、Cosminexus 用システム構成の作成の流れと、表示される画面について説明します。

### 1.8.1 Cosminexus 用システム構成の作成の流れ

Cosminexus 用システム構成の作成の流れについて、画面の遷移を次に示します。

図 1-57 Cosminexus 用システム構成の作成の画面遷移



## 1.8.2 [システム (Web 推奨モデル) の作成 - ステップ 1 of 3] 画面

[システム (Web 推奨モデル) の作成 - ステップ 1 of 3] 画面は、Cosminexus が推奨するモデルのロードバランシンググループを作成するための画面です。[システム (Web 推奨モデル) の作成 - ステップ 1 of 3] 画面を次に示します。

図 1-58 [システム (Web 推奨モデル) の作成 - ステップ 1 of 3] 画面

表示項目を次に示します。項目名の横に「\*」がある項目は、必ず入力してください。入力できる文字の「印刷できる ASCII 文字」とは、ASCII 文字コード ¥u0020 ~ ¥u007E の範囲です。

### [ 名称 ]

作成したいロードバランシンググループの名称を入力します。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

「\*」を除いた印刷できる ASCII 文字，全角文字

入力できる文字数：

1 ~ 511 バイト

論理システムと同じ名称を入力して [ 次へ > ] ボタンをクリックした場合、エラーダイアログが表示されます。

#### [ Cosminexus 管理名 ]

Cosminexus 管理名を入力します。jemexport コマンドを使用して Cosminexus Smart Composer 用ファイルを出力する場合は、入力する必要があります。  
次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

半角英数字, 「-」, および「\_」

入力できる文字数：

0 ~ 32 バイト

#### [ 説明 ]

ロードバランシンググループについての説明を入力します。この項目は省略できます。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

印刷できる ASCII 文字, 改行文字, 全角文字

入力できる文字数：

0 ~ 2,047 バイト

#### [ 仮想 IP アドレス ]

ロードバランシンググループに割り当てる仮想 IP アドレスを入力します。ロードバランシンググループの [ 種別 ] が [ ロードバランサ ] の場合は、仮想 IP アドレスにはロードバランサに設定されている論理 IP アドレスを設定してください。

Cosminexus Smart Composer 用ファイルを出力するときに、指定した仮想 IP アドレスが定義されたロードバランサの情報を、JP1/IM - CM が自動的に引き当てます。  
次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

IPv4 または IPv6 の形式

#### [ 種別 ]

ロードバランシンググループの種別をリストから選択します。選択できる値は、[ ロードバランサ ][ その他 ] のどちらかです。ロードバランサを使用する場合は [ ロードバランサ ] を指定し、ロードバランサに設定されている論理 IP アドレスを [ 仮想 IP アドレス ] に設定してください。

#### [ ロードバランシング方式 ]

ロードバランシング方式をリストから選択します。選択できる値は、[ default ] [ least-connections ] [ round-robin ] [ weight ] [ response-time ] [ least-session ] のどれかです。デフォルトは、[ default ] です。

## 1. 画面

### [ 多重度 ]

ロードバランシンググループの下に作成したいユニットグループの数を指定します。  
最大 16 まで指定できます。

### ポート情報

### [ ポート情報設定 ]

ポート情報を設定するかどうか指定します。[ 有効 ] をチェックすると、ポート情報を設定します。ポート情報を設定する場合は、ポート情報の項目をすべて設定する必要があります。[ 有効 ] のチェックを外すとポート情報を設定しません。ポート情報を設定しない場合は、ポート情報の各項目は非活性になります。

### [ ポート名称 ]

ロードバランシンググループが使用するポートの名称を入力します。[ ポート情報設定 ] の [ 有効 ] がチェックされていない場合は非活性で表示されて、入力できません。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

空白と「# \*」を除いた印刷できる ASCII 文字

入力できる文字数：

1 ~ 127 バイト

### [ ポート番号 ]

ロードバランシンググループが使用するポートのポート番号を入力します。[ ポート情報設定 ] の [ 有効 ] がチェックされていない場合は非活性で表示されて、入力できません。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

0 ~ 65,535 の数字

入力できる文字数：

1 ~ 5 バイト

### [ ポート種別 ]

ロードバランシンググループが使用するポートの種別を、リストから選択します。選択できる値は、[ tcp ][ udp ][ tcp/udp ] のどれかです。デフォルトは [ tcp ] です。[ ポート情報設定 ] の [ 有効 ] がチェックされていない場合は非活性で表示されて、選択できません。

### [ 次へ > ]

クリックすると、[ システム (Web 推奨モデル) の作成 - ステップ 2 of 3 ] 画面が表示されます。



### 1.8.3 [ システム (Web 推奨モデル) の作成 - ステップ 2 of 3 ] 画面

[ システム (Web 推奨モデル) の作成 - ステップ 2 of 3 ] 画面は、ユニットグループの一覧を表示し、ユニットグループを選択するための画面です。[ システム (Web 推奨モデル) の作成 - ステップ 2 of 3 ] 画面を次に示します。

図 1-59 [ システム (Web 推奨モデル) の作成 - ステップ 2 of 3 ] 画面

番号	名称	説明
1	(未定義)	

表示項目を次に示します。

#### [ ユニットグループ一覧 ]

[ システム (Web 推奨モデル) の作成 - ステップ 1 of 3 ] 画面の [ 多重度 ] で指定した数のユニットグループが一覧で表示されます。初期画面では、すべてのユニットグループが「(未定義)」と表示されます。一覧からユニットグループを選択して、[ 編集 ] ボタンをクリックすると、ユニットグループが定義できます。定義されたユニットグループは、一覧にユニットグループの名称、および説明が表示されます。

#### [ 編集 ]

[ ユニットグループ一覧 ] で選択しているユニットグループを定義、または編集する場合、[ 編集 ] ボタンをクリックします。クリックすると、[ ユニットグループの定

## 1. 画面

義 - ステップ 1 of 8] 画面が表示されます。この画面からウィザード形式でユニットグループを定義、または編集できます。

### [ 削除 ]

[ ユニットグループ一覧 ] で選択しているユニットグループの定義内容を削除する場合、[ 削除 ] ボタンをクリックします。クリックすると、メッセージダイアログが表示されます。メッセージダイアログで [ はい ] ボタンをクリックすると、[ ユニットグループ一覧 ] で選択しているユニットグループの定義内容が削除され、一覧に「( 未定義 )」と表示されます。

### [ 次へ > ]

すべてのユニットグループを定義したら [ 次へ > ] ボタンをクリックします。クリックすると、[ システム (Web 推奨モデル) の作成 - ステップ 3 of 3 ] 画面に遷移します。ユニットグループ一覧に「( 未定義 )」となっているユニットグループがある場合は、エラーダイアログが表示されて [ システム (Web 推奨モデル) の作成 - ステップ 3 of 3 ] 画面に遷移しません。

## 1.8.4 [ ユニットグループの定義 - ステップ 1 of 8 ] 画面

[ ユニットグループの定義 - ステップ 1 of 8 ] 画面は、ユニットグループを定義するための画面です。この画面からウィザード形式でユニットグループを定義できます。ユニットグループの定義は、論理 Web サーバ、論理 AP サーバを作成し、それぞれの論理サーバにプロセス、仮想ホストを定義します。[ ユニットグループの定義 - ステップ 1 of 8 ] 画面を次に示します。

図 1-60 [ ユニットグループの定義 - ステップ 1 of 8 ] 画面

ユニットグループの定義 - ステップ 1 of 8

ユニットグループの情報を設定してください。

名称 *	旅費精算ユニット 1
Cosminexus管理名	cosmiRyohiUnit1
説明	Web推奨モデルユニット 1

< 戻る    次へ >    キャンセル    ヘルプ

表示項目を次に示します。項目名の横に「\*」がある項目は、必ず入力してください。入力できる文字の「印刷できる ASCII 文字」とは、ASCII 文字コード ¥u0020 ~ ¥u007E の範囲です。

#### [ 名称 ]

作成したいユニットグループの名称を入力します。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

「\*」を除いた印刷できる ASCII 文字，全角文字

入力できる文字数：

1 ~ 511 バイト

#### [ Cosminexus 管理名 ]

Cosminexus 管理名を入力します。jcmexport コマンドを使用して Cosminexus Smart Composer 用ファイルを出力する場合は、入力する必要があります。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

## 1. 画面

半角英数字,「-」,および「\_」

入力できる文字数:

0 ~ 32 バイト

[ 説明 ]

ユニットグループについての説明を入力します。この項目は省略できます。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字:

印刷できる ASCII 文字, 改行文字, 全角文字

入力できる文字数:

0 ~ 2,047 バイト

[ 次へ > ]

[ 次へ > ] ボタンをクリックすると,[ ユニットグループの定義 - ステップ 2 of 8 ] 画面が表示されます。

### 1.8.5 [ ユニットグループの定義 - ステップ 2 of 8 ] 画面

[ ユニットグループの定義 - ステップ 2 of 8 ] 画面は, 論理 Web サーバを作成するための画面です。[ ユニットグループの定義 - ステップ 2 of 8 ] 画面を次に示します。

図 1-61 [ ユニットグループの定義 - ステップ 2 of 8 ] 画面

ユニットグループの定義 - ステップ 2 of 8

論理Webサーバの情報を設定してください。

名称 \* 旅費精算\_AP\_サーバ1

Cosminexus管理名 cosmiAPServer1

説明 Web推奨モデルA Pサーバ1

種別 Webサーバ

ミドルウェア情報

名称 Cosminexus Application Server

バージョン \* 1

管理ミドルウェア情報

名称 Cosminexus Management Server

バージョン \* 1

ホスト名 Dummy

< 戻る 次へ > キャンセル ヘルプ

表示項目を次に示します。項目名の横に「\*」がある項目は、必ず入力してください。入力できる文字の「印刷できる ASCII 文字」とは、ASCII 文字コード ¥u0020 ~ ¥u007E の範囲です。

#### [ 名称 ]

作成したい論理 Web サーバの名称を入力します。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

「\*」を除いた印刷できる ASCII 文字，全角文字

入力できる文字数：

1 ~ 511 バイト

#### [ Cosminexus 管理名 ]

論理 Web サーバの Cosminexus 管理名を入力します。jcmexport コマンドを使用して Cosminexus Smart Composer 用ファイルを出力する場合は、入力する必要があります。

次に示す規則に従って入力してください。

## 1. 画面

入力できる文字：

半角英数字，「-」，および「\_」

入力できる文字数：

0 ~ 128 バイト

### [ 説明 ]

論理 Web サーバについての説明を入力します。この項目は省略できます。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

印刷できる ASCII 文字，改行文字，全角文字

入力できる文字数：

0 ~ 2,047 バイト

### [ 種別 ]

論理サーバの種別が表示されます。表示されている論理サーバの種別は [ Web サーバ ] です。この項目は変更できません。

## ミドルウェア情報

### [ 名称 ]

論理 Web サーバが稼働するミドルウェアの名称をリストから選択します。選択できる名称は，コンボボックス表示内容定義ファイルで設定されます。詳細は「3. 定義ファイル」の「コンボボックス表示内容定義ファイル」を参照してください。

### [ バージョン ]

論理 Web サーバが稼働するミドルウェアのバージョンを入力します。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

空白を除いた印刷できる ASCII 文字，全角文字

入力できる文字数：

1 ~ 127 バイト

## 管理ミドルウェア情報

### [ 名称 ]

論理 Web サーバが稼働するミドルウェアを管理する管理ミドルウェアの名称をリストから選択します。選択できる名称は，コンボボックス表示内容定義ファイルで設定されます。詳細は「3. 定義ファイル」の「コンボボックス表示内容定義ファイル」を参照してください。

### [ バージョン ]

論理 Web サーバが稼働するミドルウェアを管理する管理ミドルウェアのバージョンを入力します。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

空白を除いた印刷できる ASCII 文字，全角文字

入力できる文字数：

1 ～ 127 バイト

[ ホスト名 ]

論理 Web サーバが稼働するミドルウェアを管理する管理ミドルウェアのホスト名をリストから選択します。選択できるホスト名はコンボボックス表示内容定義ファイルで設定されます。詳細は「3. 定義ファイル」の「コンボボックス表示内容定義ファイル」を参照してください。

[ 次へ > ]

クリックすると，[ ユニットグループの定義 - ステップ 3 of 8 ] 画面が表示されます。

## 1.8.6 [ ユニットグループの定義 - ステップ 3 of 8 ] 画面

[ ユニットグループの定義 - ステップ 3 of 8 ] 画面は，論理 Web サーバのプロセスを作成するための画面です。

[ ユニットグループの定義 - ステップ 3 of 8 ] 画面は，[ プロセス情報 ] タブと [ ポート情報 ] タブの 2 種類があります。タブを選択することで [ プロセス情報 ] タブと [ ポート情報 ] タブの表示を切り替えられます。[ ユニットグループの定義 - ステップ 3 of 8 ] 画面で共通する表示項目を次に示します。

[ 次へ > ]

クリックすると，[ ユニットグループの定義 - ステップ 4 of 8 ] 画面が表示されます。

次に，[ プロセス情報 ] タブと [ ポート情報 ] タブの表示項目について説明します。

### (1) [ プロセス情報 ] タブ

[ ユニットグループの定義 - ステップ 3 of 8 ] 画面の [ プロセス情報 ] タブは，論理 Web サーバのプロセスのプロセス情報を設定できます。[ ユニットグループの定義 - ステップ 3 of 8 ] 画面の [ プロセス情報 ] タブを次に示します。

## 1. 画面

図 1-62 [ ユニットグループの定義 - ステップ 3 of 8 ] 画面の [ プロセス情報 ] タブ

The screenshot shows a dialog box titled 'ユニットグループの定義 - ステップ 3 of 8'. Inside, there's a message 'プロセスの情報を設定してください。' and two tabs: 'プロセス情報' (selected) and 'ポート情報'. The 'プロセス情報' tab contains four fields: '名称 \*' with the value 'APサーバ\_Process1', '説明' with the value 'Web推奨モデルプロセス1', 'ミドルウェア種別' with the value 'Cosminexus', and 'プロセス種別' with the value 'web-server'. At the bottom are four buttons: '< 戻る', '次へ >', 'キャンセル', and 'ヘルプ'.

フィールド名	入力値
名称 *	APサーバ_Process1
説明	Web推奨モデルプロセス1
ミドルウェア種別	Cosminexus
プロセス種別	web-server

表示項目を次に示します。項目名の横に「\*」がある項目は、必ず入力してください。入力できる文字の「印刷できる ASCII 文字」とは、ASCII 文字コード ¥u0020 ~ ¥u007E の範囲です。

### [ 名称 ]

論理 Web サーバのプロセスの名称を入力します。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

「\*」を除いた印刷できる ASCII 文字，全角文字

入力できる文字数：

1 ~ 511 バイト

### [ 説明 ]

論理 Web サーバのプロセスについての説明を入力します。この項目は省略できます。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：



印刷できる ASCII 文字，改行文字，全角文字

入力できる文字数：

0 ～ 2,047 バイト

#### [ ミドルウェア種別 ]

論理 Web サーバのプロセスのミドルウェア種別が表示されます。ミドルウェア種別は自動で設定されるため，変更できません。

#### [ プロセス種別 ]

論理 Web サーバのプロセスのプロセス種別が表示されます。プロセス種別は自動で設定されるため，変更できません。

### (2) [ ポート情報 ] タブ

[ ユニットグループの定義 - ステップ 3 of 8 ] 画面の [ ポート情報 ] タブは，論理 Web サーバのプロセスのポート情報を設定できます。[ ユニットグループの定義 - ステップ 3 of 8 ] 画面の [ ポート情報 ] タブを次に示します。

図 1-63 [ ユニットグループの定義 - ステップ 3 of 8 ] 画面の [ ポート情報 ] タブ

ユニットグループの定義 - ステップ 3 of 8

プロセスの情報を設定してください。

プロセス情報 ポート情報

ポート一覧

ポート名称 ▲	ポート番号	ポート種別

追加  
編集  
削除

< 戻る 次へ > キャンセル ヘルプ

表示項目を次に示します。

## 1. 画面

### [ ポート一覧 ]

プロセスのポート情報が一覧表示されます。一覧には、ポート名称、ポート番号およびポート種別が表示されます。初期画面では、ポート情報はありません。

### [ 追加 ]

新規にポート情報を追加する場合は、[ 追加 ] ボタンをクリックします。クリックすると、[ ポート情報の追加 ] 画面が表示されます。詳細は、「1.4.12 [ ポート情報の追加 ] (または [ ポート情報の編集 ]) 画面」を参照してください。編集できるポート情報がすでに 16 件登録されている場合は、このボタンは非活性で、追加できません。

### [ 編集 ]

選択しているポート情報を編集する場合は、[ 編集 ] ボタンをクリックします。クリックすると、[ ポート情報の編集 ] 画面が表示されます。詳細は、「1.4.12 [ ポート情報の追加 ] (または [ ポート情報の編集 ]) 画面」を参照してください。

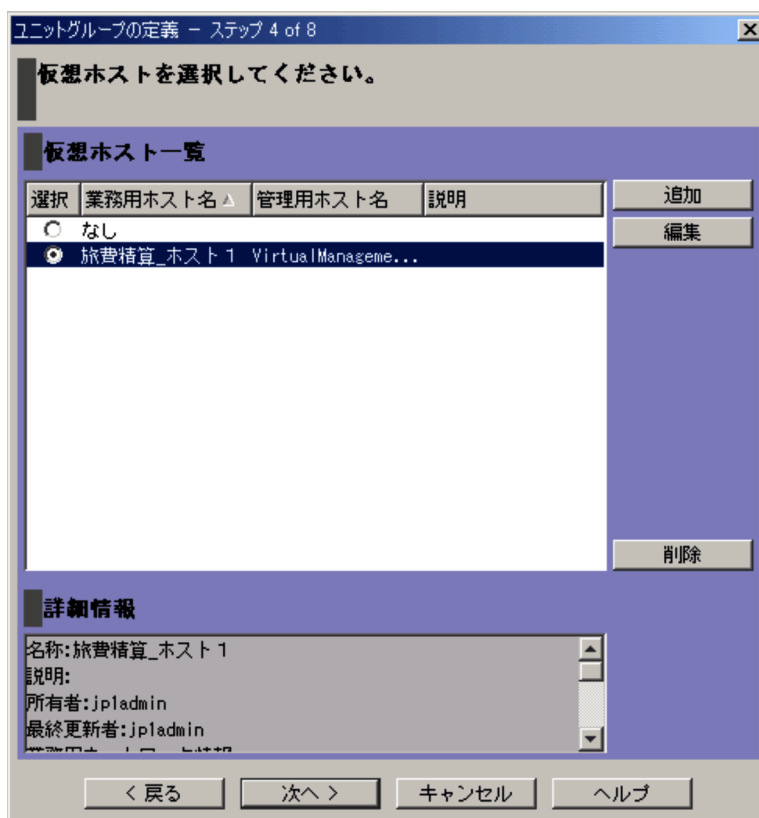
### [ 削除 ]

選択しているポート情報を削除する場合は、[ 削除 ] ボタンをクリックします。クリックすると、削除を確認するメッセージダイアログが表示されます。メッセージダイアログで [ はい ] ボタンをクリックすると、ポート情報が一覧から削除されます。

## 1.8.7 [ ユニットグループの定義 - ステップ 4 of 8 ] 画面

[ ユニットグループの定義 - ステップ 4 of 8 ] 画面は、論理 Web サーバの仮想ホストを選択するための画面です。[ ユニットグループの定義 - ステップ 4 of 8 ] 画面を次に示します。

図 1-64 [ ユニットグループの定義 - ステップ 4 of 8 ] 画面



表示項目を次に示します。

#### [ 仮想ホスト一覧 ]

仮想ホストが一覧表示されます。初期画面では、仮想ホストが定義されていません。一覧には、選択状態、業務用ホスト名、管理用ホスト名、および説明が表示されます。論理 Web サーバのプロセスに対応させたい仮想ホストを一つ選択できます。

#### [ 詳細情報 ]

仮想ホスト一覧で選択されている仮想ホストの詳細情報を表示します。仮想ホストが選択されていない場合は、何も表示されません。

#### [ 追加 ]

新規に仮想ホストを追加する場合は、[ 追加 ] ボタンをクリックします。クリックすると、[ 仮想ホストの作成 ] 画面が表示されます。

#### [ 編集 ]

選択している仮想ホストを編集する場合は、[ 編集 ] ボタンをクリックします。クリックすると、[ 仮想ホストのプロパティ ] 画面が表示されます。

#### [ 削除 ]

## 1. 画面

選択している仮想ホストを削除する場合は、[ 削除 ] ボタンをクリックします。クリックすると、削除を確認するメッセージダイアログが表示されます。メッセージダイアログで [ はい ] ボタンをクリックすると、仮想ホストが一覧から削除されます。

[ 次へ > ]

[ 次へ > ] ボタンをクリックすると、[ ユニットグループの定義 - ステップ 5 of 8 ] 画面が表示されます。

### 1.8.8 [ ユニットグループの定義 - ステップ 5 of 8 ] 画面

[ ユニットグループの定義 - ステップ 5 of 8 ] 画面は、論理 AP サーバを作成するための画面です。[ ユニットグループの定義 - ステップ 5 of 8 ] 画面を次に示します。

図 1-65 [ ユニットグループの定義 - ステップ 5 of 8 ] 画面

表示項目を次に示します。項目名の横に「\*」がある項目は、必ず入力してください。入力できる文字の「印刷できる ASCII 文字」とは、ASCII 文字コード ¥u0020 ~ ¥u007E の範囲です。

## [ 名称 ]

作成したい論理 AP サーバの名称入力します。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

「\*」を除いた印刷できる ASCII 文字，全角文字

入力できる文字数：

1 ~ 511 バイト

## [ Cosminexus 管理名 ]

論理 AP サーバの Cosminexus 管理名を入力します。jcmexport コマンドを使用して Cosminexus Smart Composer 用ファイルを出力する場合は，入力する必要があります。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

半角英数字，「-」，および「\_」

入力できる文字数：

0 ~ 128 バイト

## [ 説明 ]

論理 AP サーバについての説明を入力します。この項目は省略できます。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

印刷できる ASCII 文字，改行文字，全角文字

入力できる文字数：

0 ~ 2,047 バイト

## [ 種別 ]

論理サーバの種別が表示されます。表示されている論理サーバの種別は [ AP サーバ ] です。この項目は変更できません。

## ミドルウェア情報

## [ 名称 ]

論理 AP サーバが稼働するミドルウェアの名称をリストから選択します。選択できる名称は，コンボボックス表示内容定義ファイルで設定されます。詳細は「3. 定義ファイル」の「コンボボックス表示内容定義ファイル」を参照してください。

## [ バージョン ]

論理 AP サーバが稼働するミドルウェアのバージョンを入力します。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

空白を除いた印刷できる ASCII 文字，全角文字

## 1. 画面

入力できる文字数：

1 ~ 127 バイト

### 管理ミドルウェア情報

#### [ 名称 ]

論理 AP サーバが稼働するミドルウェアを管理する管理ミドルウェアの名称をリストから選択します。選択できる名称は、コンボボックス表示内容定義ファイルで設定されます。詳細は「3. 定義ファイル」の「コンボボックス表示内容定義ファイル」を参照してください。

#### [ バージョン ]

論理 AP サーバが稼働するミドルウェアを管理する管理ミドルウェアのバージョンを入力します。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

空白を除いた印刷できる ASCII 文字，全角文字

入力できる文字数：

1 ~ 127 バイト

#### [ ホスト名 ]

論理 AP サーバが稼働するミドルウェアを管理する管理ミドルウェアのホスト名をリストから選択します。選択できるホスト名はコンボボックス表示内容定義ファイルで設定されます。詳細は「3. 定義ファイル」の「コンボボックス表示内容定義ファイル」を参照してください。

#### [ 次へ> ]

クリックすると、「[ ユニットグループの定義 - ステップ 6 of 8 ]」画面が表示されます。

## 1.8.9 [ ユニットグループの定義 - ステップ 6 of 8 ] 画面

[ ユニットグループの定義 - ステップ 6 of 8 ] 画面は、論理 AP サーバのプロセスを作成する画面です。

[ ユニットグループの定義 - ステップ 6 of 8 ] 画面は、「[ プロセス情報 ]」タブと「[ ポート情報 ]」タブの 2 種類があります。タブを選択することで「[ プロセス情報 ]」タブと「[ ポート情報 ]」タブの表示を切り替えられます。「[ ユニットグループの定義 - ステップ 6 of 8 ]」画面で共通する表示項目を次に示します。

#### [ 次へ> ]

クリックすると、「[ ユニットグループの定義 - ステップ 7 of 8 ]」画面が表示されます。

次に、「[ プロセス情報 ]」タブと「[ ポート情報 ]」タブの表示項目について説明します。

## (1) [ プロセス情報 ] タブ

[ ユニットグループの定義 - ステップ 6 of 8 ] 画面の [ プロセス情報 ] タブは、論理 AP サーバのプロセスのプロセス情報を設定できます。[ ユニットグループの定義 - ステップ 6 of 8 ] 画面の [ プロセス情報 ] タブを次に示します。

図 1-66 [ ユニットグループの定義 - ステップ 6 of 8 ] 画面の [ プロセス情報 ] タブ

表示項目を次に示します。項目名の横に「\*」がある項目は、必ず入力してください。入力できる文字の「印刷できる ASCII 文字」とは、ASCII 文字コード ¥u0020 ~ ¥u007E の範囲です。

### [ 名称 ]

論理 AP サーバのプロセスの名称を入力します。

次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

「\*」を除いた印刷できる ASCII 文字，全角文字

入力できる文字数：

1 ~ 511 バイト

## 1. 画面

### [ 説明 ]

論理 AP サーバのプロセスについての説明を入力します。この項目は省略できます。  
次に示す規則に従って入力してください。

入力できる文字：

印刷できる ASCII 文字，改行文字，全角文字

入力できる文字数：

0 ～ 2,047 バイト

### [ ミドルウェア種別 ]

論理 AP サーバのプロセスのミドルウェア種別が表示されます。ミドルウェア種別は自動で設定されるため，変更できません。

### [ プロセス種別 ]

論理 AP サーバのプロセスのプロセス種別が表示されます。プロセス種別は自動で設定されるため，変更できません。

## (2) [ ポート情報 ] タブ

[ ユニットグループの定義 - ステップ 6 of 8 ] 画面の [ ポート情報 ] タブは，論理 AP サーバのプロセスのポート情報を設定できます。[ ユニットグループの定義 - ステップ 6 of 8 ] 画面の [ ポート情報 ] タブを次に示します。



図 1-67 [ ユニットグループの定義 - ステップ 6 of 8 ] 画面の [ ポート情報 ] タブ

ユニットグループの定義 - ステップ 6 of 8

プロセスの情報を設定してください。

プロセス情報 ポート情報

ポート一覧

ポート名称 ▲	ポート番号	ポート種別
---------	-------	-------

追加  
編集  
削除

< 戻る 次へ > キャンセル ヘルプ

表示項目を次に示します。

#### [ ポート一覧 ]

プロセスのポート情報が一覧表示されます。一覧には、ポート名称、ポート番号およびポート種別が表示されます。初期画面では、ポート情報はありません。

#### [ 追加 ]

新規にポート情報を追加する場合は、[ 追加 ] ボタンをクリックします。クリックすると、[ ポート情報の追加 ] 画面が表示されます。詳細は、「1.4.12 [ ポート情報の追加 ] (または [ ポート情報の編集 ]) 画面」を参照してください。編集できるポート情報がすでに 16 件登録されている場合は、このボタンは非活性で、追加できません。

#### [ 編集 ]

選択しているポート情報を編集する場合は、[ 編集 ] ボタンをクリックします。クリックすると、[ ポート情報の編集 ] 画面が表示されます。詳細は、「1.4.12 [ ポート情報の追加 ] (または [ ポート情報の編集 ]) 画面」を参照してください。

#### [ 削除 ]

選択しているポート情報を削除する場合は、[ 削除 ] ボタンをクリックします。ク

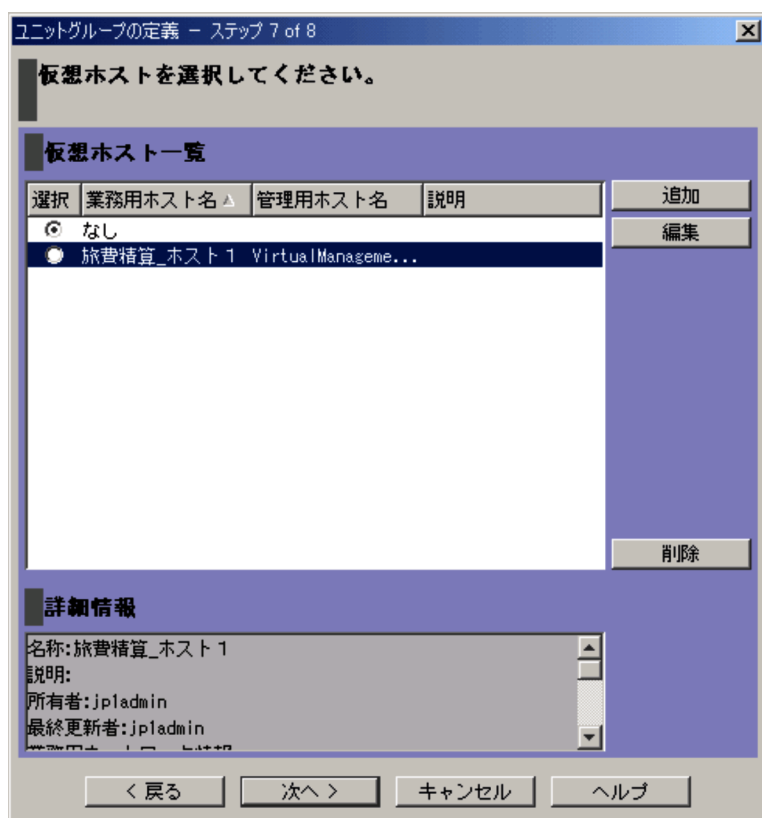
## 1. 画面

リックすると、削除を確認するメッセージダイアログが表示されます。メッセージダイアログで [ はい ] ボタンをクリックすると、ポート情報が一覧から削除されます。

### 1.8.10 [ ユニットグループの定義 - ステップ 7 of 8 ] 画面

[ ユニットグループの定義 - ステップ 7 of 8 ] 画面は、論理 AP サーバの仮想ホストを選択するための画面です。[ ユニットグループの定義 - ステップ 7 of 8 ] 画面を次に示します。

図 1-68 [ ユニットグループの定義 - ステップ 7 of 8 ] 画面



表示項目を次に示します。

#### [ 仮想ホスト一覧 ]

論理システムに定義されている仮想ホストが一覧表示されます。仮想ホスト一覧の表示項目を次に示します。一覧には、選択状態、業務用ホスト名、管理用ホスト名、および説明が表示されます。論理 AP サーバのプロセスに対応させたい仮想ホストを一つ選択できます。

#### [ 詳細情報 ]

仮想ホスト一覧で行選択されている仮想ホストの詳細情報を表示します。仮想ホストが選択されていない場合は、何も表示されません。

[ 追加 ]

新規に仮想ホストを追加する場合は、[ 追加 ] ボタンをクリックします。クリックすると、[ 仮想ホストの作成 ] 画面が表示されます。

[ 編集 ]

選択している仮想ホストを編集する場合は、[ 編集 ] ボタンをクリックします。クリックすると、[ 仮想ホストのプロパティ ] 画面が表示されます。

[ 削除 ]

選択している仮想ホストを削除する場合は、[ 削除 ] ボタンをクリックします。クリックすると、削除を確認するメッセージダイアログが表示されます。メッセージダイアログで [ はい ] ボタンをクリックすると、仮想ホストが一覧から削除されます。

[ 次へ > ]

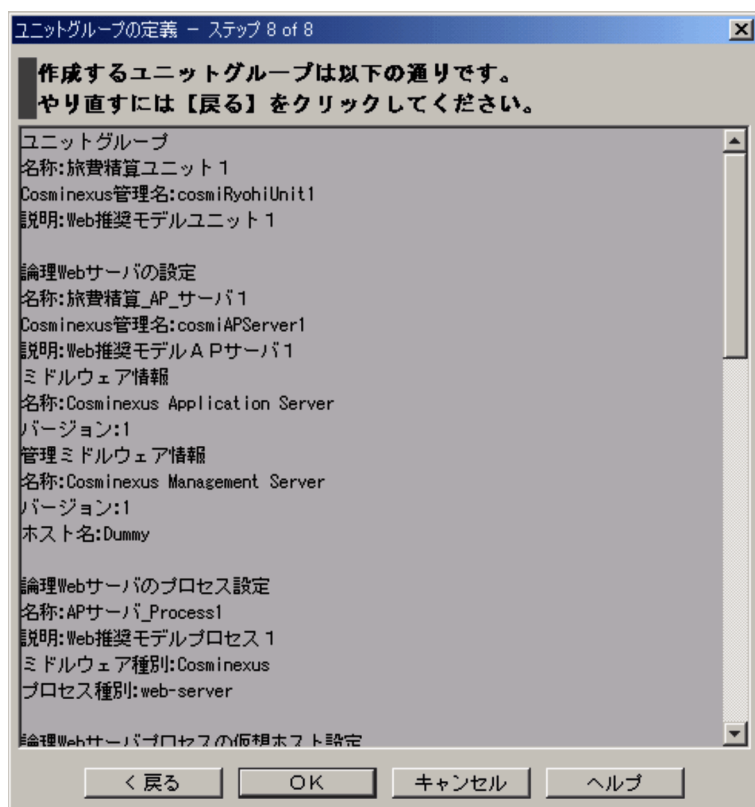
[ 次へ > ] ボタンをクリックすると、[ ユニットグループの定義 - ステップ 8 of 8 ] 画面が表示されます。

## 1.8.11 [ ユニットグループの定義 - ステップ 8 of 8 ] 画面

[ ユニットグループの定義 - ステップ 8 of 8 ] 画面は、作成するユニットグループの内容を表示し、確認するための画面です。[ ユニットグループの定義 - ステップ 8 of 8 ] 画面を次に示します。

## 1. 画面

図 1-69 [ ユニットグループの定義 - ステップ 8 of 8 ] 画面

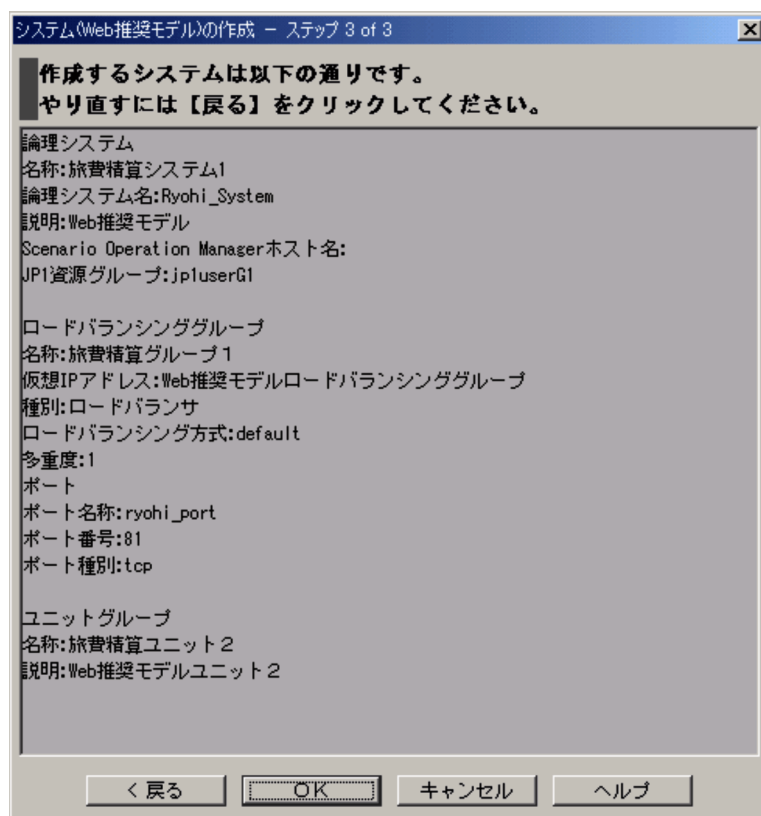


[ OK ] ボタンをクリックすると、Cosminexus が推奨する論理システムにユニットグループが定義されます。論理システム内にある論理オブジェクトと同じ名称を入力して [ OK ] ボタンをクリックした場合は、エラーダイアログが表示され、ユニットグループは定義できません。この場合は、[ < 戻る ] ボタンをクリックして、入力し直してください。

## 1.8.12 [ システム (Web 推奨モデル) の作成 - ステップ 3 of 3 ] 画面

[ システム (Web 推奨モデル) の作成 - ステップ 3 of 3 ] 画面は、作成する論理システムの内容を表示し、確認するための画面です。[ システム (Web 推奨モデル) の作成 - ステップ 3 of 3 ] 画面を次に示します。

図 1-70 [ システム (Web 推奨モデル) の作成 - ステップ 3 of 3 ] 画面



[ OK ] ボタンをクリックすると , Cosminexus が推奨する論理システムが定義されます。



# 2

## コマンド

この章では、JP1/IM - CM が使用できるコマンドの文法について説明します。

---

コマンドの記述形式

---

コマンド一覧

---

# コマンドの記述形式

コマンドの説明で使用する記号を、次のように定義します。

記号	意味
 (ストローク)	複数の項目に対し、項目間の区切りを示し、「または」の意味を示します。 例 「A   B   C」は、「A, B または C」を示します。
{ }	この記号で囲まれている複数の項目の中から、必ず 1 組の項目を選択します。 項目の区切りは   で示します。 例 { A   B   C } は「A, B または C のどれかを指定する」ことを示します。
[ ]	この記号で囲まれている項目は任意に指定できます (省略してもよい)。 複数の項目が記述されている場合には、すべてを省略するか、どれか一つを選択します。 例 [A] は「何も指定しない」か「A を指定する」ことを示します。 [B   C] は「何も指定しない」か「B または C を指定する」ことを示します。
...	この記号の直前に示された項目を繰り返して複数個、指定できます。 例 「A, B, ...」は「A のあとに B を必要個数指定する」ことを示します。
<u>      </u> (下線)	括弧内のすべてを省略したときに、システムが取る標準値を示します。標準値がない場合は、指定した項目だけが有効です。 例 [A B] はこの項目を指定しなかった場合に、A を選択したとみなすことを示します。



# コマンド一覧

JP1/IM - CM で使用できるコマンドの一覧を次に示します。

なお、次節以降のコマンドの説明では、コマンドはアルファベット順に記載されています。

表 2-1 JP1/IM - CM で使用できるコマンド

機能概要	コマンド名
統合スコープ用の監視ツリーを自動生成する機能を有効または無効にする	jcm_adapter_setup
JP1/IM - CM で障害が発生したときの資料を採取する	jcm_log.bat
JP1/IM - CM を終了する	jcm_spmdd_stop
JP1/IM - CM のプロセスの状態を確認する	jcm_spmdd_status
JP1/IM - CM のプロセスの状態を更新する	jcm_spmdd_reload
JP1/IM - CM の構成管理 DB をバックアップする	jcmbackup
構成管理 DB を再編成する	jcmdbbrorg
JP1/IM - CM の構成管理 DB をリカバリーする	jcmrecovery
JP1/IM - CM の構成情報を構成管理 DB にインポートする	jcmimport
JP1/IM - CM の構成情報を構成管理 DB からエクスポートする	jcmexport
JP1/IM - CM の論理ホストの動作環境を設定する。[ Central Information Manster クラスタ構成の設定 ] ダイアログボックスを表示する	jp1cmhasetup
JP1/IM - CM の連携対象プログラムから構成情報を収集し、構成管理 DB に格納する	jcmgetinfo
JP1/IM - CM のユーザーマッピングを作成する	jcmmkumap
JP1/IM - CM のユーザーマッピング内容を表示する	jcmgetumap
JP1/IM - CM の JP1 ユーザーのパスワードを登録する	jcmumappass
JP1/IM - CM の JP1 ユーザーのパスワードを削除する	jcmrmumappass
JP1/IM - CM の構成情報から検索条件を満たすオブジェクトを検索する	jcmobjsearch
セントラルインフォメーションマスター・ビューアーの起動アイコンをスタートメニューに登録、削除する	jcovemsetup
セントラルインフォメーションマスター・ビューアーで障害が発生したときの資料を採取する	jcoview_log.bat
セントラルインフォメーションマスター・ビューアーを起動する	jcoview

注 Windows Vista 上で管理者権限が必要なコマンドを実行するときは、[ 管理者として実行 ] から起動したコマンドプロンプト上で実行してください。このコマンドプロンプトを、このマニユア

ルでは管理者コンソールと呼びます。コマンドプロンプトのメニューやアイコンを右クリックして表示されるメニューから、「管理者として実行」を選択すると起動できます。

# jcm\_adapter\_setup

---

## 機能

監視ツリーを自動生成する機能を有効または無効にします。生成した監視ツリーは、統合スコープで監視できます。

## 形式

```
jcm_adapter_setup [-i | -u]
```

## 実行権限

Administrators 権限

## 格納先ディレクトリ

CMaster パス ¥bin¥

## 引数

-i

監視ツリーを自動生成する機能を有効にします。

-u

監視ツリーを自動生成する機能を無効にします。

## 注意事項

- -i を指定して監視ツリーの自動生成機能を有効にした場合は、JP1/IM - CM がインストールされているサーバを再起動してください。
- クラスタシステムで運用している場合は、実行系および待機系でコマンドを実行してください。

## 戻り値

0	正常終了
0 以外	異常終了

# jcm\_log.bat

## 機能

JP1/IM・CM で障害が発生したときに資料を採取するためのツールです。JP1/IM・CM、JP1/Base の保守資料、および OS のシステム情報、統合トレースログなどを採取します。

このツールは、バッチファイルです。ユーザーによるカスタマイズはできません。

このツールを実行すると、資料を採取する対象ディレクトリまたはファイルを一次資料および二次資料に区分けし、指定した資料格納ディレクトリの直下に採取した資料が格納されます。

一次資料は、障害時の切り分けや、軽度の障害の調査を目的に採取する資料です。必要最低限のログおよび設定ファイルを採取します。二次資料は、一次資料ではわからなかった障害をさらに調査するための詳細資料です。Windows イベントログ、クラッシュダンプ、および JP1/Base のイベント DB を採取します。

必要に応じて採取した資料を圧縮ツールなどで圧縮してください。

なお、このツールを使って採取できる資料の詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management・Central Information Master システム構築・運用ガイド 13.3 トラブル発生時に採取が必要な資料」を参照してください。

資料格納ディレクトリの直下に格納される資料のディレクトリ構成および資料内容を次に示します。

表 2-2 物理ホストの一次資料の内部ディレクトリ構成

ディレクトリ名	格納される資料
資料格納ディレクトリ ¥jp1_default¥cmaster_1st¥	JP1/IM・CM のバッチ情報
資料格納ディレクトリ ¥jp1_default¥cmaster_1st¥conf¥	JP1/IM・CM の設定および定義ファイル
資料格納ディレクトリ ¥jp1_default¥cmaster_1st¥default¥	JP1/IM・CM の共通定義情報
資料格納ディレクトリ ¥jp1_default¥cmaster_1st¥log¥	JP1/IM・CM のログファイル
資料格納ディレクトリ ¥jp1_default¥cmaster_1st¥dbms¥	JP1/IM・CM の構成管理 DB 設定情報
資料格納ディレクトリ ¥jp1_default¥cmaster_1st¥base¥	JP1/Base のバッチ情報
資料格納ディレクトリ ¥jp1_default¥cmaster_1st¥base¥conf¥	JP1/Base の設定および定義ファイル

ディレクトリ名	格納される資料
資料格納ディレクトリ ¥jpl_default¥cmaster_1st¥base¥default	JP1/Base の共通定義情報
資料格納ディレクトリ ¥jpl_default¥cmaster_1st¥base¥log¥	JP1/Base のログファイル
資料格納ディレクトリ ¥jpl_default¥cmaster_1st¥oslog¥	OS のシステム情報
資料格納ディレクトリ ¥jpl_default¥cmaster_1st¥spool¥	統合トレースログ

このツールの実行結果は、資料格納フォルダ直下に作成される jcm\_log\_result.log で確認できます。

表 2-3 物理ホストの二次資料の内部ディレクトリ構成

ディレクトリ名	格納された資料
資料格納ディレクトリ ¥jpl_default¥cmaster_2nd¥database¥	JP1/IM・CM の構成管理 DB
資料格納ディレクトリ ¥jpl_default¥cmaster_2nd¥base¥	JP1/Base のイベントサービス DB
資料格納ディレクトリ ¥jpl_default¥cmaster_2nd¥oslog¥	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワトソン (Dr. Watson) ログ</li> <li>・ Windows イベントログ</li> </ul>

表 2-4 論理ホストの一次資料の内部ディレクトリ構成

ディレクトリ名	格納された資料
資料格納ディレクトリ ¥ 論理ホスト名 ¥cmaster_1st¥conf¥	JP1/IM・CM の設定および定義ファイル
資料格納ディレクトリ ¥ 論理ホスト名 ¥cmaster_1st¥default¥	JP1/IM・CM の共通定義情報
資料格納ディレクトリ ¥ 論理ホスト名 ¥cmaster_1st¥log¥	JP1/IM・CM のログファイル
資料格納ディレクトリ ¥ 論理ホスト名 ¥cmaster_1st¥dbms¥	JP1/IM・CM の構成管理 DB 設定情報
資料格納ディレクトリ ¥ 論理ホスト名 ¥cmaster_1st¥base¥conf¥	JP1/Base の設定および定義ファイル
資料格納ディレクトリ ¥ 論理ホスト名 ¥cmaster_1st¥base¥log¥	JP1/Base のログファイル
資料格納ディレクトリ ¥ 論理ホスト名 ¥cmaster_1st¥oslog¥	OS のシステム情報

表 2-5 論理ホストの二次資料の内部ディレクトリ構成

ディレクトリ名	格納された資料
資料格納ディレクトリ ¥ 論理ホスト名 ¥cmaster_2nd¥database¥	JP1/IM - CM の構成管理 DB

このツールの実行結果は、資料格納フォルダ直下に作成される `jcm_log_result.log` で確認できます。

## 形式

```
jcm_log.bat [資料格納ディレクトリ]
             [-h 論理ホスト名]
             [-n]
             [-t]
             [-u]
             [-p]
             [-r]
             [-s]
```

## 実行権限

なし

## 格納先ディレクトリ

CMaster パス ¥tools¥

## 引数

### 資料格納ディレクトリ

採取した資料を出力するディレクトリ名を絶対パス形式、またはこのコマンドを実行した場所からの相対パス形式で指定します。パスに空白を含む場合は、「」で囲んで指定します。

存在しないディレクトリを指定した場合は、その名称でディレクトリが新規作成されます。

すでにあるディレクトリを指定した場合は、ディレクトリを削除してから再度作成します。削除したくないファイルが格納されているディレクトリと同じディレクトリ名は指定しないでください。

このオプションを省略した場合、環境変数 `TEMP` で指定されているディレクトリ下の `jp1log` ディレクトリを仮定します。環境変数 `TEMP` が定義されていない場合は、環境変数 `TMP` を仮定します。環境変数 `TMP` も定義されていない場合は、カレントディレクトリを仮定します。環境変数 `TEMP`、`TMP` は、ご使用の OS およびユーザーによって異なりますので、Windows のコントロールパネルの [ システム ] から確認してください。

**-h 論理ホスト名**

クラスタシステムで運用している場合に、論理ホスト名を指定します。クラスタシステムを使用していない場合には、指定は不要です。このオプションを指定した場合、物理ホストと論理ホストの両方の資料を採取します。省略した場合、物理ホストの資料だけ採取します。

**-n**

JP1/Base の保守資料を採取しない場合に指定します。

**-t**

hosts および services ファイルを採取しない場合に指定します。

**-u**

クラッシュダンプを採取しない場合に指定します。

**-p**

JP1/Base のイベント DB を取得しない場合に指定します。

**-r**

JP1/Base のコマンド実行履歴ファイルを採取しない場合に指定します。

**-s**

JP1/IM - CM の構成管理 DB を取得しない場合に指定します。

**注意事項**

このツールによって採取できる資料の総容量は膨大になるため、このツールを実行する前に必要容量を見積もり、マシンの空き容量を確認する必要があります。

**戻り値**

0	正常終了
8	異常終了

**使用例 1**

c:¥temp フォルダに論理ホスト host01 の資料を採取する場合。

```
jcm_log.bat c:¥temp -h host01
```

出力結果は次のようになります。

資料の採取処理を開始します

JP1/IM - Central Information Master の資料を c:¥temp に採取します  
論理ホスト (hostA) の資料を採取します

```
論理ホスト(hostA)の資料を採取しました
JP1/IM - Central Information Master の資料を c:¥temp に採取しました
JP1/Base の資料を c:¥temp に採取します
論理ホスト(hostA)の資料を採取します
論理ホスト(hostA)の資料を採取しました
JP1/Base の資料を c:¥temp に採取しました
KAJT02028-I 資料の採取を正常に終了しました
```

## 使用例 2

c:¥temp フォルダに物理ホストの資料を採取するが、存在する論理ホスト hostA を指定しなかった場合。

```
jcm_log.bat c:¥temp
```

出力結果は次のようになります。

```
資料の採取処理を開始します
JP1/IM - Central Information Master の資料を c:¥temp に採取します
物理ホストの資料を採取します
物理ホストの資料を採取しました
JP1/IM - Central Information Master の資料を c:¥temp に採取しました
JP1/Base の資料を c:¥temp に採取します
物理ホストの資料を採取します
物理ホストの資料を採取しました
JP1/Base の資料を c:¥temp に採取しました
KAJT02028-I 資料の採取を正常に終了しました
```

このマシンには、さらに以下の論理ホストが存在します  
hostA  
論理ホストの情報を採取するには、  
jcm\_log.bat -h [論理ホスト名]  
を実行してください



# jcm\_spmd\_stop

---

## 機能

JP1/IM - CM の停止を制御する内部コマンドです。JP1/IM - CM の停止は、Windows サービスを使ってください。

## 形式

```
jcm_spmd_stop [-h 論理ホスト名]
               [-kill]
```

## 実行権限

Administrators 権限

## 格納先ディレクトリ

CMaster パス ¥bin¥

## 引数

-h 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に論理ホスト名を指定します。クラスタシステムを使用していない場合には、指定は不要です。指定できる文字数は、1 ~ 255（単位：バイト）です。省略した場合は、環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数 JP1\_HOSTNAME を指定していない場合は、物理ホスト名が仮定されます。

-kill

このオプションを指定すると、強制終了を実行します。

## 注意事項

このコマンドによって JP1/IM - CM のプロセスが終了したかどうかを確認する場合は、jcm\_spmd\_status コマンドを実行してください。

## 戻り値

0	正常終了
0 以外	異常終了

# jcm\_spmd\_status

---

## 機能

JP1/IM - CM のプロセス群の起動状態を表示するコマンドです。

## 形式

```
jcm_spmd_status [-h 論理ホスト名]
                  [-t 監視時間]
```

## 実行権限

Administrators 権限

## 格納先ディレクトリ

CMaster パス ¥bin¥

## 引数

-h 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、論理ホスト名を指定します。クラスタシステムを使用していない場合には、指定は不要です。指定できる文字数は、1 ~ 255（単位：バイト）です。省略した場合は、環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数 JP1\_HOSTNAME を指定していない場合は、物理ホスト名が仮定されます。

-t 監視時間

jcm\_spmd\_status コマンドの実行終了を待つ時間を秒単位で指定します。指定できる値は、0 ~ 32,767（単位：秒）です。指定した時間内に jcm\_spmd\_status コマンドの実行が終わらない場合は、jcm\_spmd\_status コマンドの実行が失敗したとみなします。

デフォルトは 60 秒です。

## 戻り値

0	すべての子プロセスが起動している
1	プロセス管理との通信などでエラーが発生した、またはクラスタシステムで運用している場合に共有フォルダ（共有ディレクトリ）がマウントされていない
4	一部の子プロセスが起動している
8	すべて停止している
12	要求処理中（リトライ可能）

# jcm\_spmd\_reload

---

## 機能

JP1/IM・CMのプロセスの状態を更新します。JP1/IM・CMの定義情報を変更した場合に、変更した内容を再度読み込んで有効にします。

jcm\_spmd\_reload コマンドの実行で有効になる定義情報は次のとおりです。詳細は「3. 定義ファイル」記載の各定義ファイルの「定義の反映時期」を参照してください。

JP1/IM・CMを構成する機能のプロセス情報（拡張起動プロセス定義ファイル）

また、jcm\_spmd\_reload コマンドで、構成管理 DB の更新権を強制解除することができます。

## 形式

```
jcm_spmd_reload [-h 論理ホスト名]
                  [-t 監視時間]
```

## 実行権限

Administrators 権限

## 格納先ディレクトリ

CMaster パス ¥bin¥

## 引数

-h 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、論理ホスト名を指定します。クラスタシステムを使用していない場合には、指定は不要です。指定できる文字数は、1 ~ 255（単位：バイト）です。省略した場合は、環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数 JP1\_HOSTNAME を指定していない場合は、物理ホスト名が仮定されます。

-t 監視時間

jcm\_spmd\_reload コマンドの実行終了を待つ時間を秒単位で指定します。指定できる値は、0 ~ 32,767（単位：秒）です。指定した時間内に jcm\_spmd\_reload コマンドの実行が終わらない場合は、jcm\_spmd\_reload コマンドの実行が失敗したとみなします。

デフォルトは、60 秒です。

## 戻り値

0	正常終了
---	------

0 以外	異常終了
------	------

# jcmbbackup

---

## 機能

JP1/IM - CM の構成管理 DB をバックアップするためのツールです。

## 形式

```
jcmbbackup [-h 論理ホスト名]
            -b バックアップファイル名
            [-p 処理結果出力ファイル名]
```

## 実行権限

Administrators 権限

## 格納先ディレクトリ

CMaster パス ¥bin¥

## 引数

-h 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に論理ホスト名を指定します。クラスタシステムを使用していない場合には、指定は不要です。指定できる文字数は、1 ~ 196 (単位: バイト) です。

省略した場合は、環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数 JP1\_HOSTNAME を指定していない場合は、物理ホスト名が仮定されます。

-b バックアップファイル名

構成管理 DB のバックアップファイル名を指定します。パス名を指定しない場合は、このコマンドを実行したディレクトリにバックアップファイルを作成します。バックアップファイルは、ネットワークドライブには作成できません。バックアップファイルをパス名で指定する場合には、ローカルドライブを指定してください。

バックアップ先がテープデバイスの場合は、テープデバイス名を次のように指定してください。

¥¥.¥tape [n]

n には、テープドライブ番号を指定します。指定を省略した場合は、0 が仮定されます。

-p 処理結果出力ファイル名

構成管理 DB のバックアップの処理結果を出力するファイル名を指定します。パス名を指定しない場合は、このコマンドを実行したディレクトリに、指定したファイル名で処理結果出力ファイルを作成します。また、このオプションを省略した場合は、このコマンドを実行したディレクトリに、jcmbbackupresult.txt のファイル名で処理結果出力

ファイルを作成します。このオプションの指定に関係なく、エラーメッセージはシステムログファイルおよび標準出力に、最終処理結果は標準出力に出力します。ただし、システムログファイルと標準出力に出力されるメッセージの順序は必ずしも同じではありません。処理結果出力ファイルは、ネットワークドライブには作成できません。処理結果出力ファイルをパス名で指定する場合には、ローカルドライブを指定してください。

### 注意事項

- このコマンドを使用して JP1/IM - CM の構成管理 DB をバックアップする場合は、JP1/IM - CM のサービスを停止する必要があります。
- このコマンドの実行中は、JP1/IM - CM のほかのコマンドを実行しないでください。
- バックアップできるテープデバイスは、DAT、DLT、または LTO です。それ以外のテープデバイスの場合はバックアップできません。なお、このコマンドの実行中は、テープを抜かないでください。テープを抜いた場合、バックアップ結果を保証できません。
- バックアップ先のテープデバイスがハードウェア圧縮をサポートしている場合は、常にハードウェア圧縮が有効になります。

### 戻り値

0	正常終了
8	異常終了 • 一部の複写に失敗またはスキップした
12	異常終了 • すべての複写に失敗した

### 使用例

バックアップファイルを C:¥temp¥DBBackup、処理結果出力ファイルを C:¥temp¥result.txt として出力する場合。

```
jcmbackup -b C:¥temp¥DBBackup -p C:¥temp¥result.txt
```

# jcmdbrorg

---

## 機能

構成管理 DB を再編成します。定期的に再編成するよう、年に 1 回程度実行することをお勧めします。

## 形式

jcmdbrorg [-h 論理ホスト名]

## 実行権限

Administrators 権限

## 格納先ディレクトリ

CMaster パス ¥bin¥

## 引数

-h 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、論理ホスト名を指定します。クラスタシステムを使用していない場合には、指定は不要です。このオプションを省略した場合、環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数

JP1\_HOSTNAME を指定していない場合、物理ホスト名が仮定されます。

## 注意事項

- このコマンドを実行する場合は、JP1/IM - CM のサービスを停止してください。
- このコマンドの実行中は、JP1/IM - CM のほかのコマンドを実行しないでください。

## 戻り値

0	正常終了
0 以外	異常終了

# jcmexport

---

## 機能

JP1/IM - CM の構成管理 DB で管理する構成管理情報を取得し、ファイルに出力するコマンドです。構成管理情報は、論理構成情報と物理構成情報があり、XML 形式のファイルで出力されます。出力されたファイルは、構成情報のバックアップやスナップショットの保存に利用したり、インポート用の構成管理情報のひな形作成に利用したりできます。

また、Cosminexus の Cosminexus Smart Composer 機能を支援するために、構成管理 DB で管理する論理構成情報を、Cosminexus Smart Composer 用ファイルの形式で出力します。このファイルは、Cosminexus が提供している Web システムを初期構築するコマンドの入力データに使用できます。

コマンドを実行する場合は、対象になる構成管理情報へのアクセス権が必要です。構成管理情報をすべて取得する場合は、システム管理者権限が必要です。

Cosminexus Smart Composer 用ファイルを取得する場合は、システム管理者権限か、業務管理者権限が必要です。

## 形式

```
jcmexport [-h 論理ホスト名]
          [-u JP1ユーザー名 [-p パスワード]]
          { [-a] | -cosmi 論理システム名 }
          -o 出力ファイル名
```

## 実行権限

Administrators 権限

## 格納先ディレクトリ

CMaster パス ¥bin¥

## 引数

-h 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、論理ホスト名を指定します。クラスタシステムを使用していない場合には、指定は不要です。このオプションを省略した場合、環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数 JP1\_HOSTNAME を指定していない場合、物理ホスト名が仮定されます。

-u JP1 ユーザー名

JP1 ユーザー名を指定します。この引数を省略した場合、JP1\_USERNAME 環境変数で定義された JP1 ユーザー名を使用してユーザー認証します。この引数を省略し、



JP1\_USERNAME 環境変数も定義されていない場合、このコマンドを実行している OS ユーザーにマッピングされた JP1 ユーザー名の定義を JP1/IM・CM ユーザーマッピング定義から求めてユーザー認証します。

-p パスワード

-u オプションで指定した JP1 ユーザー名に対するパスワードを指定します。

-u オプションが省略されている場合、このオプションは指定できません。このオプションを省略した場合、JP1/IM・CM ユーザーマッピング定義内で、このコマンドを実行している OS ユーザーに -u オプションで指定された JP1 ユーザーの定義が存在するかを確認し、存在した場合には -u オプションで指定された JP1 ユーザーの定義を取得してユーザー認証します。存在しなかった場合には標準エラー出力にメッセージを表示し、コマンドを終了します。

-a

構成管理 DB に登録されているすべての論理構成情報と物理構成情報をファイル出力の対象にします。このオプションは、システム管理者権限を持つユーザーだけが指定できます。-cosmi オプションと同時に指定できません。-a、-cosmi のどちらのオプションも指定されていない場合は、-a が仮定されます。

-cosmi 論理システム名

論理システム名で指定された論理構成情報を基に、Cosminexus Smart Composer 用ファイルを出力します。このオプションは、システム管理者権限を持つユーザーが指定できます。論理システム名の指定がない、または指定した論理システムがない場合は、標準エラー出力にメッセージを表示し、コマンドを終了します。-a オプションと同時に指定できません。

-o 出力ファイル名

標準エクスポートファイルのファイル名を指定します。出力ファイル名は、絶対パス形式で指定してください。出力ファイル名の指定が存在しない場合、または出力ファイル名に相対パス形式のファイル名を指定した場合は、標準エラー出力にメッセージを表示し、コマンドを終了します。

出力ファイル名に指定したファイルがすでに存在している場合、常に上書きします。

## 注意事項

このコマンド実行中に JP1/IM・CM のほかのコマンドを実行しないでください。

## 戻り値

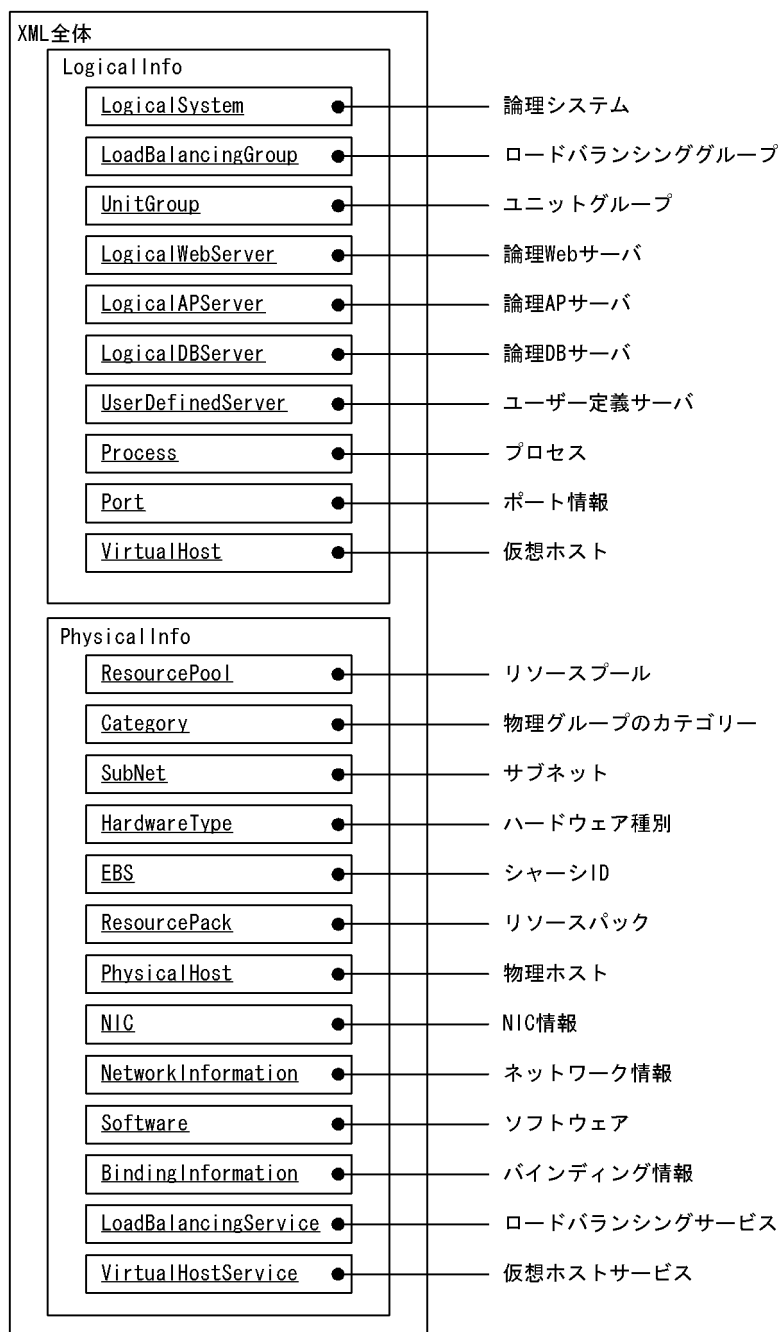
0	正常終了
1	異常終了

## 出力形式

### -a オプションを指定した場合

結果は、XML ファイルに出力されます。XML ファイルは、構成情報データモデルのクラスごとにプロパティ情報のリストになっています。次に出力形式の概要図を示します。

図 2-1 構成管理情報の出力形式の概要



- 構成管理 DB にあるすべての構成情報が、データモデルで規定される各クラス単位に出力されます。図の下線付きエレメント（LogicalSystem など）には、データモデルのプロパティ名をエレメント名、プロパティ値をエレメント値とする子エレメントがあります。

- データモデルのクラス階層，およびクラス間の関連情報は，図の下線付きエレメント（LogicalSystem など）の子エレメントのエレメント値で表現します。下線付きエレメント，エレメントの出現順序で階層構造を表現するものではありません。
- 下線付きエレメント（LogicalSystem など）は，構成管理 DB に登録されているデータモデルのクラスの数分だけエレメントを繰り返します。構成管理 DB にないクラスのエレメントは出力されません。

-cosmi オプションを指定した場合

結果は，XML ファイルに出力されます。XML ファイルは，Cosminexus Smart Composer 用ファイルの形式となります。Cosminexus Smart Composer 用ファイルの形式については，マニュアル「Cosminexus 簡易構築・運用ガイド」を参照してください。

# jcmgetinfo

## 機能

連携対象プログラムから構成情報を取得し、JP1/IM・CMの構成管理DBに格納できるXML形式ファイルを出力します。出力されたXMLファイルをjcmimportコマンドの入力ファイルに指定すると、構成管理DBを更新できます。

## 形式

```
jcmgetinfo -t 取得タイプ
                { [-a 取得情報名:取得情報]
                  | [-s 取得先ホスト名 [-c 取得先プロダクト名]] }
                [-h 論理ホスト名]
                [-u JP1ユーザー名 [-p パスワード]]
                [-o 出力ファイル名]
                [-direct]
```

## 実行権限

Administrators 権限

## 格納先ディレクトリ

CMaster パス ¥bin¥

## 引数

-t 取得タイプ

構成情報の取得情報のタイプを指定します。取得タイプに指定できる値を次に示します。

表 2-6 取得情報のタイプ一覧

取得タイプ	説明
ALL	すべての連携対象プログラムから情報を取得します。
LOGICAL	論理情報を持っている連携対象プログラムから情報を取得します。
PHYSICAL	物理情報を持っている連携対象プログラムから情報を取得します。
APPOINT	後続の -a オプション, -s オプション, および -c オプションで取得対象を絞り込みます。

取得タイプが APPOINT の場合, -a オプション, -s オプション, および -c オプションで取得する情報を絞り込みます。

取得タイプが ALL, LOGICAL, または PHYSICAL の場合には, -a オプション, -s オプション, および -c オプションは指定できません。指定した場合は, 標準エラー出力にメッセージが表示されてコマンドは終了します。

### -a 取得情報名：取得情報

構成情報の取得内容を絞り込むための条件を指定します。このオプションは、-t オプションが APPOINT の場合だけ指定できます。このオプションを指定する場合、-c オプションまたは -s オプションを同時に指定できません。指定した場合は、標準エラー出力にメッセージが表示されてコマンドは終了します。

取得情報として指定する内容および取得先プログラムの一覧を次に示します。

表 2-7 取得情報名一覧

取得情報名	取得情報の指定方法	取得先プログラム
Domain	ドメイン名	Cosminexus
WebSystem	ドメイン名.Web システム名	Cosminexus
DBHostName	HiRDB-ID.DB ホスト名	HiRDB
AssetID	AssetID 番号	JP1/NETM/AIM
ResourcePack	ResourcePack 名	JP1/SC/Control Manager
ChassisID	シャーシ ID	JP1/SC/Control Manager
SlotNo	シャーシ ID. スロット番号	JP1/SC/Control Manager
IPAddress	サーバ IP アドレス	JP1/SC/Control Manager
MACAddress	サーバ MAC アドレス	JP1/SC/Control Manager
SwitchName	スイッチ名	JP1/Cm2/NC

### -s 取得先ホスト名

構成情報の取得先のホスト名を指定します。このオプションは、-t オプションが APPOINT の場合だけ指定できます。指定されたホストで JP1/Base のサービスが起動していない場合、標準エラー出力にメッセージを表示し、コマンドを終了します。

このオプションを指定した場合、-a オプションは指定できません。このオプションを指定し、-c オプションを指定しなかった場合、取得先ホストにあるすべての連携対象プログラムから構成情報を取得します。このオプションと -c オプションを同時に指定した場合、取得先ホストにある -c オプションで指定された取得先プログラムから構成情報を取得します。

このオプションと -c オプションを同時に指定し、取得先ホストに -c オプションに指定した取得先プログラムが存在しない場合、標準エラー出力にメッセージが表示されてコマンドは終了します。

### -c 取得先プロダクト名

構成情報の取得先プログラム名の識別子を指定します。このオプションは、-t オプションが APPOINT の場合だけ指定できます。このオプションを指定する場合、-a オプショ

ンを同時に指定できません。指定した場合は、標準エラー出力にメッセージが表示されてコマンドは終了します。

取得先プロダクト名として指定する内容および取得先プログラムの一覧を下に示します。

表 2-8 取得先プロダクト名の一覧

取得先プロダクト名	取得先プログラム
COSMINEXUS	Cosminexus
SCCM	JP1/SC/Control Manager
NC	JP1/Cm2/NC
AIM	JP1/NETM/AIM
HIRDB	HiRDB

#### -h 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、論理ホスト名を指定します。クラスタシステムを使用していない場合に、指定は不要です。このオプションを省略した場合、環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数 JP1\_HOSTNAME を指定していない場合、物理ホスト名が仮定されます。

#### -u JP1 ユーザー名

JP1 ユーザー名を指定します。この引数を省略した場合、JP1\_USERNAME 環境変数で定義された JP1 ユーザー名を使用してユーザー認証します。この引数を省略し、JP1\_USERNAME 環境変数も定義されていない場合、このコマンドを実行している OS ユーザーにマッピングされた JP1 ユーザー名の定義を JP1/IM・CM ユーザーマッピング定義から求めてユーザー認証します。

#### -p パスワード

-u オプションで指定した JP1 ユーザー名に対するパスワードを指定します。

-u オプションが省略されている場合、このオプションは指定できません。このオプションを省略した場合、JP1/IM・CM ユーザーマッピング定義内で、このコマンドを実行している OS ユーザーに -u オプションで指定された JP1 ユーザーの定義が存在するかを確認し、存在した場合には -u オプションで指定された JP1 ユーザーの定義を取得してユーザー認証します。存在しなかった場合には標準エラー出力にメッセージを表示し、コマンドを終了します。

#### -o 出力ファイル名

構成情報を収集した結果を出力するファイル名を指定します。出力ファイル名は、絶対パス形式・相対パス形式で指定してください。出力ファイル名の指定が存在しない場合、以下の名称で XML ファイルを出力します。

CMaster パス ¥work¥infocol¥getinfo\_export.xml

出力ファイル名に指定したファイルがすでに存在している場合、常に上書きします。

-direct

このオプションを指定すると、情報収集した結果をすぐに構成管理 DB へ反映します。

## 注意事項

- 複数のホストに対し、同一連携対象プログラムから構成情報を取得したとき、オブジェクトの種類（論理システムや論理サーバ）とオブジェクト名が同一のオブジェクトがあった場合、先に取得処理を行ったホストの情報が有効になります。このため、複数のホストに存在する同一連携対象プログラムで管理するオブジェクトは、ホスト間で一意に設計してください。
- JP1/SC/Control Manager と JP1/NETM/AIM の両方から物理ホスト情報を取得する場合、ホスト名をキーに同一のホスト情報であるか判断します。このため、同一ホストに対する JP1/SC/Control Manager と JP1/NETM/AIM で設定するホスト名は、大文字・小文字も含めて同じ名称にしてください。
- このコマンドが正常に終了した場合、コマンド実行前の構成管理 DB と取得した構成情報の差分リストを次に示すファイルに出力します。

CMaster パス ¥work¥infocol¥getinfo\_diff.txt

ユーザーは、上記ファイルを参照し、取得した構成情報の内容を確認して、出力された XML 形式ファイルをインポートできるか確認してください。

- -a オプションで指定する取得情報の値に「.」（ピリオド）が含まれる場合、「..」（ピリオド2個）で指定してください。「.」（ピリオド）だけを指定した場合、コマンドのオプション指定エラーのメッセージが標準エラーに出力表示されて、コマンドは終了します。
- -a オプションで指定した取得情報の値を持つ情報が、連携対象プログラムの情報に存在しなかった場合、コマンドは正常に終了します。構成情報を収集した結果を出力するファイルには、コマンド実行時の構成管理 DB の内容が出力されます。

## 戻り値

0	正常終了
2	引数エラー
4	ログイン失敗
8	内部エラー
12	ビジー（リトライ可能）

## 使用例 1

すべての情報を取得する場合。

```
jcmgetinfo -t ALL -o D:¥temp¥out.txt
```



## 使用例 2

論理情報を取得する場合。

```
jcmgetinfo -t LOGICAL -o D:¥temp¥out.txt
```

## 使用例 3

特定のホストにインストールされている JP1/SC/Control Manager から情報を取得する場合。

```
jcmgetinfo -t APPOINT -s host1 -c SCCM -o D:¥temp¥out.txt
```

## 使用例 4

Cosminexus から特定のドメインの情報を取得する場合。

```
jcmgetinfo -t APPOINT -a Domain:domain1 -o D:¥temp¥out.txt
```

## 使用例 5

Cosminexus から特定の Web システムの情報を取得する場合。

```
jcmgetinfo -t APPOINT -a WebSystem:domain1.web1 -o D:¥temp¥out.txt
```

## 使用例 6

JP1/SC/Control Manager から特定の物理サーバの情報を IP アドレス指定で取得する場合。

```
jcmgetinfo -t APPOINT -a IPAddress:10..100..10..1 -o  
D:¥temp¥out.txt
```

## 使用例 7

JP1/SC/Control Manager から特定のブレードサーバの情報をスロット番号指定で取得する場合。

```
jcmgetinfo -t APPOINT -a SlotNo:CHASSIS_ID1.2 -o D:¥temp¥out.txt
```

## 使用例 8

JP1/SC/Control Manager から特定の物理サーバの情報を MAC アドレス指定で取得する場合。

```
jcmgetinfo -t APPOINT -a MACAddress:00:00:E2:2B:F9:BE -o  
D:¥temp¥out.txt
```

# jcmgetumap

---

## 機能

登録済みのユーザーマッピング情報の一覧を表示するためのコマンドです。このコマンドを実行すると、登録済みのユーザーマッピング情報を読み込み、jcmmkumap コマンドで登録したマッピング定義(jcmumap.conf) ファイルの形式で標準出力に出力します。

## 形式

jcmgetumap [-h 論理ホスト名]

## 実行権限

Administrators 権限

## 格納先ディレクトリ

CMaster パス ¥bin¥

## 引数

-h 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、ユーザーマッピング情報の一覧を表示したい論理ホスト名を指定します。省略した場合、環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数 JP1\_HOSTNAME を指定していない場合、物理ホスト名が仮定されます。クラスタシステムを使用していない場合に、指定は不要です。

## 戻り値

0	異常終了
1	正常終了

# jcmimport

---

## 機能

JP1/IM・CMの構成管理DBで管理する構成管理情報に、エクスポートして作成したXML形式のファイル、またはjcmgetinfoコマンドで出力されたXML形式のファイルを反映させるためのコマンドです。このコマンドは、構成情報のバックアップやスナップショットを復元したり、構成情報の一括登録したりできます。入力データのXML形式のファイルは、構成管理DBに構築する構成情報の一部、または構成情報の全部を指定できます。構成管理DBへの反映方法は、オプションで指定します。

コマンドを実行する場合、ユーザーはシステム管理者権限が必要です。

## 形式

```
jcmimport [-h 論理ホスト名]
           [-u JP1ユーザー名 [-p パスワード]]
           { -mrgall | -rnwall }
           -i 入力ファイル名
```

## 実行権限

Administrators 権限

## 格納先ディレクトリ

CMaster パス ¥bin¥

## 引数

-h 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、論理ホスト名を指定します。省略した場合、環境変数JP1\_HOSTNAMEに指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数JP1\_HOSTNAMEを指定していない場合、物理ホスト名が仮定されます。クラスタシステムを使用していない場合に、指定は不要です。

-u JP1 ユーザー名

JP1 ユーザー名を指定します。この引数を省略した場合、JP1\_USERNAME環境変数で定義されたJP1 ユーザー名を使用してユーザー認証します。この引数を省略し、JP1\_USERNAME環境変数も定義されていない場合、このコマンドを実行しているOSユーザーにマッピングされたJP1 ユーザー名の定義をJP1/IM・CM ユーザーマッピング定義から求めてユーザー認証します。

-p パスワード

-u オプションで指定したJP1 ユーザー名に対するパスワードを指定します。

-u オプションが省略されている場合、このオプションは指定できません。このオプションを省略した場合、JP1/IM・CM ユーザーマッピング定義内で、このコマンドを実行している OS ユーザーに -u オプションで指定された JP1 ユーザーの定義が存在するかを確認し、存在した場合には -u オプションで指定された JP1 ユーザーの定義を取得してユーザー認証します。存在しなかった場合には標準エラー出力にメッセージを表示し、コマンドを終了します。

-mrgall

入力ファイルに含まれるすべての論理構成情報と物理構成情報を、現在の構成管理 DB に反映します。構成管理 DB にある構成情報は上書きされ、新規の構成情報は追加されます。-rnwall オプションと同時に指定できません。jcmgetinfo コマンドで出力された XML 形式のファイルを反映させる場合は、この引数を指定してください。

-rnwall

インポート処理前に構成管理 DB を初期化し、入力ファイルに含まれるすべての論理構成情報および物理構成情報によって、構成管理 DB を再構築します。-mrgall オプションと同時に指定できません。

-i 入力ファイル名

インポートするファイルのファイル名を指定します。入力ファイル名は、絶対パスまたは相対パスのどちらの形式でも指定できます。入力ファイル名の指定がない場合、または指定した入力ファイルがない場合は、標準エラー出力にメッセージを表示し、コマンドを終了します。入力ファイルに指定するインポートファイルの形式は、jcmexport コマンドで出力されるファイル形式と同じです。

## 注意事項

このコマンド実行中に JP1/IM・CM のほかのコマンドを実行しないでください。

## 戻り値

0	正常終了
1	異常終了

## 出力形式

正常に終了した場合は、標準出力に終了メッセージを出力します。戻り値が 1 の場合は、標準エラー出力にエラーに対するメッセージを出力します。

# jcmmkumap

---

## 機能

ユーザーマッピング定義ファイル (`jcmmumap.conf`) の情報を、共通定義情報に登録します。このコマンドを実行すると、共通定義情報に登録されていたマッピング情報がいったんすべて削除され、ユーザーマッピング定義ファイルの情報が共通定義情報に登録されます。ユーザーマッピング定義ファイルの書式に誤りがあった場合、エラーを返します。

## 形式

```
jcmmkumap [-h 論理ホスト名]  
           [-f ユーザーマッピング定義ファイル名]
```

## 実行権限

Administrators 権限

## 格納先ディレクトリ

CMaster パス ¥bin¥

## 引数

**-h** 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、ユーザーマッピング情報を登録する論理ホスト名を指定します。省略した場合、環境変数 `JP1_HOSTNAME` に指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数 `JP1_HOSTNAME` を指定していない場合、物理ホスト名が仮定されます。クラスタシステムを使用していない場合に、指定は不要です。

**-f** ユーザーマッピング定義ファイル名

マッピング情報を記述した定義ファイルのファイル名を指定します。このオプションを省略した場合は、デフォルトのユーザーマッピング定義ファイル (`jcmmumap.conf`) の情報を、共通定義情報に登録します。

## 注意事項

- このコマンドを実行すると、共通定義情報に登録されていたマッピング情報がいったんすべて削除され、マッピング定義ファイルの情報が共通定義情報に登録されます。登録済みのマッピング情報を残したい場合は、マッピング定義ファイルに登録済みマッピング情報を記述してください。
- このコマンドで設定した内容を確認する場合は、`jcmmgetumap` コマンドを使用してください。

## 戻り値

0	異常終了
1	正常終了

# jcmobjsearch

---

## 機能

JP1/IM・CM が管理する構成情報から、特定の構成管理情報を検索し、取得するための問い合わせコマンドです。このコマンドは、JP1/AJS2・Agent または JP1/Base のプラグインサービスからも実行できます。

## 形式

```
jcmobjsearch [-h 論理ホスト名]
               [-u JP1ユーザー名 [-p パスワード]]
               [-f 出力形式]
               [-a]
               -c 検索文字列
```

## 実行権限

Administrators 権限

## 格納先ディレクトリ

CMaster パス ¥bin¥

## 引数

-h 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、論理ホスト名を指定します。省略した場合、環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数 JP1\_HOSTNAME を指定していない場合、物理ホスト名が仮定されます。クラスタシステムを使用していない場合に、指定は不要です。

-u JP1 ユーザー名

JP1 ユーザー名を指定します。この引数を省略した場合、JP1\_USERNAME 環境変数で定義された JP1 ユーザー名を使用してユーザー認証します。この引数を省略し、JP1\_USERNAME 環境変数も定義されていない場合、このコマンドを実行している OS ユーザーにマッピングされた JP1 ユーザー名の定義を JP1/IM・CM ユーザーマッピング定義から求めてユーザー認証します。

-p パスワード

-u オプションで指定した JP1 ユーザー名に対するパスワードを指定します。

-u オプションが省略されている場合、このオプションは指定できません。このオプションを省略した場合、JP1/IM・CM ユーザーマッピング定義内で、このコマンドを実行している OS ユーザーに -u オプションで指定された JP1 ユーザーの定義が存在するかを確認し、存在した場合には -u オプションで指定された JP1 ユーザーの定義を取得して

ユーザー認証します。存在しなかった場合には標準エラー出力にメッセージを表示し、コマンドを終了します。

#### -f 出力形式

出力結果が UROI を含む場合、どの形式で出力するかを選択します。指定できる形式は [ id ], [ hdm ] の 2 種類です。出力結果が UROI を含まない場合は、このオプションは使用しません。指定を省略した場合は [ id ] を仮定します。

#### -a

JP1/Base のプラグインサービスのアダプタコマンドとして動作させる場合に指定します。このオプションを指定する場合は、コマンドの標準入力と標準出力には、JP1/Base のプラグインサービスで規定させるアダプタコマンドのヘッダ情報が必要です。

#### -c 検索文字列

問い合わせるための検索内容を指定します。検索文字列には、次の形式で検索条件を指定します。

UROI% 操作内容 % 検索条件

それぞれの要素について次に説明します。

#### UROI

JP1/IM - CM が規定したデータモデルで管理されているオブジェクトに対して、外部からオブジェクトを特定する際に必要な識別子を表します。UROI は、WWW アドレスである URL のような文字列表現で指定します。指定方法には次の二通りがあります。

- インスタンス識別子を用いた指定方法
- データモデルの階層を用いた指定方法

UROI は次の形式で指定します。

識別種別 : // 識別文字列

それぞれの要素について説明します。

#### 識別種別

識別種別は、UROI の指定方法によって次の [ id ] と [ hdm ] のどちらかを指定します。インスタンス識別子を用いた指定方法の場合は、[ id ] を指定してください。データモデルの階層を用いた指定方法の場合は、[ hdm ] を指定してください。

#### 識別文字列

識別文字列は、オブジェクトを指定するための文字列を指定します。識別種別によって、指定方法が異なります。識別種別による指定方法について、次に示します。

- [ id ] を指定した場合



「クラス名・インスタンス識別文字列」の形式で指定します。

クラス名には、JP1/IM・CM で管理しているデータモデルのクラス名を指定します。

インスタンス識別文字列には、オブジェクトの識別子を指定します。オブジェクトの識別子には、「付録 A.2 プロパティ一覧」にある、「InstanceID」プロパティの実現値を指定してください。

・[ hdm ] を指定した場合

「レイヤー種別・オブジェクト名・オブジェクト名 …」の形式で指定します。レイヤー種別は、JP1/IM・CM が扱う階層を指定します。論理構成の場合は [ logical ], または物理構成の場合は [ physical ] のどちらかを指定してください。

オブジェクト名には、「付録 A.2 プロパティ一覧」にある、[ DisplayName ] プロパティの実現値を指定してください。オブジェクト名は、階層順序に従ってオブジェクト名を「.」区切りで並べて記述します。オブジェクト名に「\*」を指定すると、その階層のすべてのオブジェクトが対象となります。「\*」を指定できるのは、階層指定の最下位の階層だけです。

## 操作内容

問い合わせの操作の内容を指定します。使用できる操作内容を次に示します。

表 2-9 操作内容一覧

操作内容の文字列	指定した UROI 形式		操作内容
	id	hdm	
search_objects	×		UROI で指定したデータモデル階層の該当するオブジェクトを列挙します。
get_property_value		×	UROI で指定したオブジェクトの検索条件で指定されたプロパティの値を取得します。
get_properties		×	UROI で指定したオブジェクトのプロパティ名を取得します。
get_class_name		×	UROI で指定したオブジェクトのクラス名を取得します。
get_upper_objects		×	UROI で指定したオブジェクトのデータモデル上で上位階層にあるオブジェクトを列挙します。
get_lower_objects		×	UROI で指定したオブジェクトのデータモデル上で下位階層にあるオブジェクトを列挙します。
get_mapping_objects		×	UROI で指定したオブジェクトにマッピングされた別レイヤーのオブジェクトを列挙します。

( 凡例 )    : 指定できる , × : 指定できない

## 検索条件

検索する条件を、データモデルの名称に基づいて指定します。検索条件の形式を次に示します。

検索項目 : [ 項目名 ] [ 演算子と値 ]

### 検索項目

検索する対象の項目を指定します。指定できる値は [ class\_name ]  
[ instance\_name ] [ property ] のどれかです。

### 項目名

検索項目に [ property ] を指定した場合に、プロパティ名を指定します。

### 演算子

指定した値と検索対象との条件を指定します。指定できる演算子を次に示します。

表 2-10 指定できる演算子一覧

演算子	検索項目の指定	説明
.EQ.	class_name	指定したクラス名と一致する
	instance_name	指定した [ DisplayName ] プロパティの実現値と一致する
	property	指定した項目名が保持する値と一致する
.GT.	property	指定した項目名が保持する値より大きい
.LT.	property	指定した項目名が保持する値より小さい
.GE.	property	指定した項目名が保持する値以上
.LE.	property	指定した項目名が保持する値以下
.NE.	class_name	指定したクラス名と一致しない
	instance_name	指定した [ DisplayName ] プロパティの実現値と一致しない
	property	指定した項目名が保持する値と一致しない

## 値

項目名に対する値を指定します。指定する値は操作内容、検索項目、および演算子によって異なります。

操作内容と検索条件の組み合わせの仕様、および複数指定できるかについての次の表に示します。

表 2-11 操作内容と条件式の組み合わせ

操作内容	検索条件				複数指定
	検索項目	項目名	演算子	値	
search_objects	class_name	指定不可	.EQ. .NE.	各クラスのクラス名	可
	instance_name	指定不可	.EQ. .NE.	共通クラス定義の [ DisplayName ] プロパティの実現値	可
	property	各クラス定義 のプロパティ名	制限なし	プロパティの実現値	可
get_property_value	property	各クラス定義 のプロパティ名	指定不可	指定不可	不可
get_properties	指定不可	指定不可	指定不可	指定不可	不可
get_class_name	指定不可	指定不可	指定不可	指定不可	不可
get_upper_objects	class_name	指定不可	.EQ. .NE.	各クラスのクラス名	可
	instance_name	指定不可	.EQ. .NE.	共通クラス定義の [ DisplayName ] プロパティの実現値	可
	property	各クラス定義 のプロパティ名	制限なし	プロパティの実現値	可
get_lower_objects	class_name	指定不可	.EQ. .NE.	各クラスのクラス名	可
	instance_name	指定不可	.EQ. .NE.	共通クラス定義の [ DisplayName ] プロパティの実現値	可
	property	各クラス定義 のプロパティ名	制限なし	プロパティの実現値	可
get_mapping_objects	class_name	指定不可	.EQ. .NE.	各クラスのクラス名	可
	instance_name	指定不可	.EQ. .NE.	共通クラス定義の [ DisplayName ] プロパティの実現値	可
	property	各クラス定義 のプロパティ名	制限なし	プロパティの実現値	可

注 get\_properties と get\_class\_name を使用する場合は、先行する検索コマンドで対象になるインスタンスの ID を求めておく必要があります。処理対象はそのインスタンスだけになるため、検索条件は指定できません。

## 注意事項

UROI・検索条件に「%」「.」を含む文字列を指定する場合は、「%」「.」を 2 個連続して指定します。

検索条件の値を指定する場合は、必ず「¥」で囲んでください。また、UROI・検索条件に「"」を含む文字列を指定する場合は、「"」を 2 個連続して指定してください。

次に例を示します。

UROI に「%」「.」を含む場合

```
hdm://logical.旅費精算(%%表示有..).%search_objects%
class_name:.EQ.¥"LogicalServer¥".AND.property:MiddlewareName.EQ.¥"
HiRDB¥"
```

検索条件の値に「"」を含む場合 (Description の値は、「" テスト "」)

```
hdm://logical.旅費精算.%search_objects%
class_name:.EQ.¥"LogicalServer¥".AND.property:Description.EQ.¥""
テスト""¥"
```

## 戻り値

0	正常終了
1	異常終了

## 出力形式

戻り値が 0 の場合は、検索結果を標準出力に出力します。出力フォーマットは、操作内容によって違います。次に操作内容による出力フォーマットを示します。

表 2-12 操作内容と出力フォーマット

操作内容	出力フォーマット
search_objects	<UROI><改行>...
get_property_value	<property 値>
get_properties	<プロパティ名><改行>...
get_class_name	<クラス名>
get_upper_objects	<UROI><改行>...
get_lower_objects	<UROI><改行>...
get_mapping_objects	<UROI><改行>...

-a オプションを指定した場合は、検索結果の出力前に JP1/Base のプラグインサービス用の応答ヘッダが付きます。

応答ヘッダは、プラグイン API が標準出力内容から分離してプラグインサービス API のコール元に返すため、利用者側では -a オプションを指定しない場合と同じ出力結果が得られます。

戻り値が 1 の場合は、エラーメッセージを標準エラー出力します。

## 使用例 1

論理システム内の特定の階層にあるオブジェクトの識別文字列を取得する場合。

```
jcmobjsearch -f hdm -c hdm://logical.旅費精算システム.旅費精算グループ
1.*%search_objects%class_name:.EQ.¥"LogicalWebServer¥"
```

上記のコマンドを実行すると、旅費精算システム内の旅費精算グループ 1 の直下にあるすべての論理 Web サーバの識別文字列の一覧が出力されます。

出力例を以下に示します。

```
hdm://logical.旅費精算システム.旅費精算グループ 1.旅費精算_Web_サーバ 1
hdm://logical.旅費精算システム.旅費精算グループ 1.旅費精算_Web_サーバ 2
```

## 使用例 2

論理システム内の特定の階層にあるオブジェクトのインスタンス ID を取得する場合。

```
jcmobjsearch -f id -c hdm://logical.旅費精算システム.旅費精算グループ
1.*%search_objects%class_name:.EQ.¥"LogicalWebServer¥"
```

上記のコマンドを実行すると、旅費精算システム内の旅費精算グループ 1 の直下にあるすべての論理 Web サーバのインスタンス ID の一覧が出力されます。

出力例を以下に示します。

```
id://LogicalWebServer.Ig7rdb#Sdv
id://LogicalWebServer.Ig7rfc#Dea
```

## 使用例 3

使用例 2 で取得した論理 Web サーバの下位オブジェクトのインスタンス ID を取得する場合。

```
jcmobjsearch -f id -c id://
LogicalWebServer.Ig7rdb#Sdv%get_lower_objects%class_name:.EQ.¥"Pro
cess¥"
```

上記のコマンドを実行すると、旅費精算システム内の旅費精算\_Web\_サーバ 1 の直下にあるすべてのプロセスのインスタンス ID の一覧が出力されます。

出力例を以下に示します。

```
id://Process.Ih7rdb#Sdv
```

```
id://Process.Ih7rfc#Cea
```

#### 使用例 4

条件を満たすオブジェクトのインスタンス ID の一覧を取得する場合。

```
jcmobjsearch -f id -c hdm://physical.旅費精算システム
.*%search_objects%property:NumOfCPUs.GE.¥"4¥"
```

上記のコマンドを実行すると、旅費精算システム（リソースパック）内の物理ホストのうち、CPU を 4 個以上搭載した物理ホストのインスタンス ID の一覧が出力されます。

出力例を以下に示します。

```
id://PhysicalHost.Ie7rdb#Sdv
id://PhysicalHost.Ie7rfc#Cea
```

#### 使用例 5

特定の物理ホストが所属する論理システムの識別文字列を取得する場合。

1. 物理ホストが所属するリソースパックのインスタンス ID を求める。

```
jcmobjsearch -f id -c id://PhysicalHost.Ie7rdb#Sdv
%get_upper_objects%class_name:.EQ.¥"ResourcePack¥"
```

上記のコマンドを実行すると、物理ホストが所属するリソースパックのインスタンス ID が出力されます。

出力例を以下に示します。

```
id://ResourcePack.Ir7ddb#Tdv
```

2. リソースパックにマッピングされた論理システムの識別文字列を求める。

```
jcmobjsearch -f hdm -c id://ResourcePack.Ir7ddb#Tdv
%get_mapping_objects%class_name:.EQ.¥"LogicalSystem¥"
```

上記のコマンドを実行すると、リソースパックにマッピングされた論理システムの識別文字列が出力されます。

出力例を以下に示します。

```
hdm://logical. 旅費精算システム
```

# jcmrecovery

---

## 機能

jcmbackup コマンドでバックアップした JP1/IM - CM の構成管理 DB をリカバリーするためのツールです。

## 形式

```
jcmrecovery [-h 論理ホスト名]
             -b バックアップファイル名
             [-p 処理結果出力ファイル名]
```

## 実行権限

Administrators 権限

## 格納先ディレクトリ

CMaster パス ¥bin¥

## 引数

-h 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に論理ホスト名を指定します。クラスタシステムを使用していない場合には、指定は不要です。指定できる文字数は、1 ~ 196 (単位: バイト) です。

省略した場合は、環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数 JP1\_HOSTNAME を指定していない場合は、物理ホスト名が仮定されます。

-b バックアップファイル名

jcmbackup コマンドで構成管理 DB のバックアップを取得する際に指定した、バックアップファイル名を指定します。パス名を指定しない場合は、このコマンドを実行したディレクトリにあるファイルをバックアップファイルとします。バックアップファイルとして、ネットワークドライブにあるファイルは指定できません。

バックアップ先がテープデバイスの場合は、テープデバイス名を次のように指定してください。

¥¥.¥tape [n]

n には、テープドライブ番号を指定します。指定を省略した場合は、0 が仮定されます。

-p 処理結果出力ファイル名

構成管理 DB リカバリーの処理結果を出力するファイル名を指定します。パス名を指定しない場合は、このコマンドを実行したディレクトリに、指定したファイル名で処理結

果出力ファイルを作成します。また、このオプションを省略した場合は、このコマンドを実行したディレクトリに、jcmrecoveryresult.txt のファイル名で処理結果出力ファイルを作成します。処理結果出力ファイルは、ネットワークドライブには作成できません。処理結果出力ファイルをパス名で指定する場合には、ローカルドライブを指定してください。

### 注意事項

- このコマンドを使用して JP1/IM - CM の構成管理 DB をリカバリーする場合は、JP1/IM - CM のサービスを停止する必要があります。
- このコマンド実行中に JP1/IM - CM のほかのコマンドを実行しないでください。
- バックアップ先がテープデバイスの場合、このコマンドの実行中は、テープを抜かないでください。テープを抜いた場合、リカバリー結果を保証できません。

### 戻り値

0	正常終了
4	警告終了 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 回復処理は正常終了したが、回復処理に関係のない警告レベルのエラーが発生した</li> </ul>
8	異常終了 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 回復処理中にエラーが発生したが、一部回復された RD エリアもある</li> </ul>
12	異常終了

### 使用例

バックアップファイルが C:¥temp¥DBBackup で、処理結果出力ファイルを C:¥temp¥result.txt に出力する場合。

```
jcmrecovery -b C:¥temp¥DBBackup -p C:¥temp¥result.txt
```



# jcmrmumappass

---

## 機能

JP1/IM - CM のパスワード管理情報に登録されている JP1 ユーザーを削除するコマンドです。このコマンドを実行すると、パスワード管理情報に登録されている JP1 ユーザーを個別に削除できます。

## 形式

```
jcmrmumappass [-h 論理ホスト名]
               -u JP1ユーザー名
```

## 実行権限

Administrators 権限

## 格納先ディレクトリ

CMaster パス ¥bin¥

## 引数

-h 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、JP1 ユーザーを削除したい論理ホスト名を指定します。省略した場合、環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数 JP1\_HOSTNAME を指定していない場合、物理ホスト名が仮定されます。クラスタシステムを使用していない場合に、指定は不要です。

-u JP1 ユーザー名

パスワード管理情報から削除したい JP1 ユーザー名を指定します。

## 戻り値

0	正常終了
0 以外	異常終了

# jcmumappass

---

## 機能

JP1/IM・CMのJP1ユーザーのパスワード管理情報へ新規JP1ユーザーを登録する、または登録されたJP1ユーザーのパスワードを変更するコマンドです。このコマンドを実行すると、個別にJP1ユーザーを登録したり、個別に登録されたJP1ユーザーのパスワードを変更したりできます。

## 形式

```
jcmumappass [-h 論理ホスト名]
              -u JP1ユーザー名
              -p パスワード
```

## 実行権限

Administrators 権限

## 格納先ディレクトリ

CMaster パス ¥bin¥

## 引数

-h 論理ホスト名

クラスタシステムで運用している場合に、新規JP1ユーザーを登録したい論理ホスト名、または登録されたJP1ユーザーのパスワードを変更したい論理ホスト名を指定します。省略した場合、環境変数 JP1\_HOSTNAME に指定した論理ホスト名が仮定されます。環境変数 JP1\_HOSTNAME を指定していない場合、物理ホスト名が仮定されます。クラスタシステムを使用していない場合に、指定は不要です。

-u JP1ユーザー名

パスワード管理情報に登録したいJP1ユーザー名、またはパスワードを変更したい登録済みJP1ユーザー名を指定します。

-p パスワード

JP1ユーザーのパスワードを指定します。

## 注意事項

このコマンドを使用してJP1ユーザーのパスワードを変更する場合は、事前にJP1/Baseの環境設定でJP1ユーザーのパスワードを変更しておく必要があります。

## 戻り値

0	JP1/IM・CM のパスワード管理情報の JP1 ユーザーのパスワードを変更した
1	JP1/IM・CM のパスワード管理情報の JP1 ユーザーを登録した
0,1 以外	異常終了

# jcovcmsetup

---

## 機能

セントラルインフォメーションマスター・ビューアーの起動アイコンをスタートメニューに登録，削除するコマンドです。

- JP1/IM・View をインストールした直後は，[ スタート ] - [ プログラム ] で表示される [ JP1\_Integrated Management・View ] 以下のメニューに，セントラルインフォメーションマスター・ビューアー用のショートカットがない状態です。  
[ JP1\_Integrated Management・View ] 以下のメニューにセントラルインフォメーションマスター・ビューアー用のショートカットを割り当てる場合は，このコマンドを実行する必要があります。
- JP1/IM・View のインストール後に，[ スタート ] - [ プログラム ] で表示される [ JP1\_Integrated Management・View ] 以下のメニューは，JP1/IM・View インストーラのアンインストール機能で削除できます。ただし，[ JP1\_Integrated Management・View ] 以下にあるメニューのアイコンの位置やアイコン名称を変更した場合，該当するアイコンはアンインストール機能で削除されません。この場合は手動で削除してください。

このコマンドを実行すると，次のことが実施されます。

- Windows の [ スタート ] - [ プログラム ] - [ JP1\_Integrated Management・View ] に，JP1/IM・CM のショートカット（名称：[ システム情報管理 ]）を追加，または削除します。
- Windows の [ スタート ] - [ プログラム ] - [ JP1\_Integrated Management・View ] に，JP1/IM・CM 用ヘルプのショートカット（名称：[ ヘルプ（システム情報管理）]）を追加，または削除します。

## 形式

```
jcovcmsetup [-i | -u]
```

## 実行権限

Administrators 権限

## 格納先ディレクトリ

View パス ¥bin¥

## 引数

-i

- 既存の [ JP1\_Integrated Management・View ] メニューにセントラルインフォメーションマスター・ビューアーのプログラム用ショートカットを作成します。この引数を指定してコマンドを実行すると，[ スタート ] - [ プログラム ] -

[ JP1\_Integrated Management・View ] に [ システム情報管理 ] というショートカットが追加されます。

-u

- [ JP1\_Integrated Management・View ] メニューからセントラルインフォメーションマスター・ビューアーのプログラム用ショートカット [ システム情報管理 ] を削除します。

## 戻り値

0	正常終了
0 以外の値	異常終了

## 使用例 1

JP1/IM・View のメニュー下に , [ システム情報管理 ] および [ ヘルプ ( システム情報管理 ) ] のショートカットを追加する場合。

```
jcovcmsetup
または
jcovcmsetup -i
```

## 使用例 2

JP1/IM・View のメニュー下にある [ システム情報管理 ] および [ ヘルプ ( システム情報管理 ) ] のショートカットを削除する場合。

```
jcovcmsetup -u
```

# jcoview

---

## 機能

セントラルインフォメーションマスター・ビューアーの画面を起動します。また、セントラルコンソール・ビューアーとセントラルスコープ・ビューアーの画面も起動します。セントラルコンソール・ビューアーとセントラルスコープ・ビューアーについては、マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager リファレンス」を参照してください。ここでは、セントラルインフォメーションマスター・ビューアーについて説明します。

オプション指定によって次のように起動する画面が異なります。

- JP1/IM・View の [ ログイン ] 画面の起動
  - p, -e オプション以外のオプションを指定した場合、またはオプション指定なしの場合、[ ログイン ] 画面が起動します。
  - c オプション、または -s オプション指定時：マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager リファレンス」を参照してください。
  - m オプション指定時：JP1/IM・CM 用の JP1/IM・View の [ ログイン ] 画面が表示されます。
  - h オプション指定時：[ ログイン ] 画面の「接続ホスト名」に値が入力されます。
  - u オプション指定時：[ ログイン ] 画面の「ユーザー名」に値が入力されます。
- JP1/IM・View ログイン成功後の画面の起動
  - h, -u, -p オプションを指定した場合、ログイン成功後の画面が起動します。ログイン後の画面を起動する場合は、必ず -h, -u, -p オプションを指定します。
  - c オプション、または -s オプション指定時：マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager リファレンス」を参照してください。
  - m オプション指定時：[ システム構成定義 ] 画面が起動します。
  - c, -s, -m オプション指定なし：[ イベントコンソール ] 画面が起動します。

## 形式

```
jcoview [[-m | [-c] [-s]]
          [-h 接続ホスト名] [-u ユーザー名] [-p パスワード]
          | -e ]
```

## 実行権限

なし

## 格納先ディレクトリ

View パス ¥bin¥

## 引数

-m

[ システム構成定義 ] 画面を起動します。

パスワード ( -p オプション ) を省略した場合 , セントラルインフォメーションマスター・ビューアーの [ ログイン ] 画面が起動します。 -c オプション , -s オプション , および -e オプションと同時に指定することはできません。

このオプションは省略できます。

-h 接続ホスト名

接続先ホストのホスト名を指定します。指定できる文字数は , 1 ~ 255 バイトです。JP1/IM・CM が起動しているホストを指定してください。

接続先ホスト名には , 次のものが指定できます。

- コマンドを使用するホストで定義されているホスト名
- コマンドを使用するホストでアドレス解決できるホスト名
- IP アドレス

このオプションは省略できますが , -p オプションを指定するときは省略できません。

-u ユーザー名

認証サーバに登録してある JP1 ユーザー名を指定します。指定できる文字数は , 1 ~ 31 バイトです。半角英数字 ( 英字は小文字 ) だけを使用できます。

このオプションは省略できますが , -p オプションを指定するときは省略できません。

-p パスワード

指定したユーザー名に対応するパスワードを指定します。指定できる文字数は , 6 ~ 32 バイトです。半角英数字だけを使用できます。英字は , 大文字・小文字が区別されます。

このオプションを指定する場合は , -h および -u オプションも指定する必要があります。

このオプションは省略できます。

-c

JP1/IM・CC の [ イベントコンソール ] 画面を起動します。詳細は , マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager リファレンス」を参照してください。

-s

JP1/IM・CS の [ 監視ツリー ] 画面を起動します。詳細は , マニュアル「JP1/Integrated Management・Manager リファレンス」を参照してください。

-e

[ 監視ツリー（編集集中）] 画面を起動します。詳細は、マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager リファレンス」を参照してください。

## 戻り値

0	正常終了
1	引数エラー
2	メモリー不足
3	リソースの取得に失敗
4	エラーメッセージの作成に失敗
255	システムエラー

## 使用例 1

JP1/IM - CM 用の JP1/IM - View を起動して、[ ログイン ] 画面を表示します。

```
jcoview -m
```

## 使用例 2

JP1/IM - CM 用の JP1/IM - View を起動して、ユーザー jpladmin、パスワード jpladmin で接続ホスト host にログインし、[ システム構成定義 ] 画面を起動します。

```
jcoview -m -h host -u jpladmin -p jpladmin
```



# jcoview\_log.bat

## 機能

JP1/IM・View で障害が発生したときに資料を採取するためのツールです。JP1/IM・View の保守資料、OS のシステム情報、統合トレースログなどを採取します。

このツールは、バッチファイルです。ユーザーによるカスタマイズはできません。

このツールを実行すると、資料を採取する対象フォルダまたはファイルを一次資料および二次資料に区分けし、指定した資料格納フォルダの直下に採取した資料が格納されます。

一次資料は、障害時の切り分けや、軽度の障害の調査を目的に採取する資料です。必要最低限のログおよび設定ファイルを採取します。二次資料は、一次資料ではわからなかった障害をさらに調査するための詳細資料です。Windows イベントログ、クラッシュダンプを採取します。

また、JP1/IM・View のスレッドダンプがある状態で jcoview\_log.bat を実行すると、メッセージ KAVB8946-I を表示してスレッドダンプを削除するかどうかユーザーに問い合わせます。「y」を入力した場合、スレッドダンプを削除します。

必要に応じて採取した資料を圧縮ツールなどで圧縮してください。

なお、このツールを使って採取できる資料の詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management・Central Information Master システム構築・運用ガイド 13.3 トラブル発生時に採取が必要な資料」を参照してください。

資料格納フォルダの直下に格納された資料のフォルダ構成および資料内容を次に示します。

表 2-13 一次資料の内部フォルダ構成

フォルダ名	格納された資料
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_1st¥coview	JP1/IM・View のパッチ情報
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_1st¥coview¥conf	JP1/IM・View の設定および定義ファイル
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_1st¥coview¥default	JP1/IM・View の共通定義情報
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_1st¥coview¥log	JP1/IM・View のログファイル
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_1st¥oslog	OS のログ情報
資料格納フォルダ ¥jpl_default¥imm_1st¥spool	統合トレースログ

注

JP1/IM - Manager および JP1/Base が同一マシン上にインストールされている場合、JP1/IM - Manager および JP1/Base の資料も採取されます。

表 2-14 二次資料の内部フォルダ構成

フォルダ名	格納された資料
資料格納フォルダ ¥jp1_default¥imm_2nd¥oslog	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows イベントログ</li> <li>• クラッシュダンプ</li> </ul>

注

Windows Vista 版の JP1/IM - View では、クラッシュダンプは採取しません。

## 形式

```
jcoview_log.bat -f 資料格納フォルダ
                    [-t]
                    [-u]
                    [-q]
```

## 実行権限

なし

## 格納先ディレクトリ

Viewパス¥tools¥

## 引数

-f 資料格納フォルダ

採取した資料を出力するフォルダ名をフルパスまたはこのコマンドを実行した場所からの相対パスで指定します。パスに空白を含む場合は、「」で囲んで指定します。このオプションは省略できません。

存在しないフォルダを指定した場合は、その名称でフォルダが新規作成されます。すでに存在するフォルダを指定した場合は、いったんそのフォルダを削除してから、指定したフォルダが作成されます。

-t

hosts および services ファイルを採取しない場合に指定します。

-u

クラッシュダンプを採取しない場合に指定します。Windows Vista 版の JP1/IM - View ではこのオプションは使用できません。

-q

ユーザー確認を省略してコマンドを実行する場合に指定します。

## 注意事項

このツールを複数同時に実行しないでください。資料が上書きされたり，採取できなかったりする場合があります。

## 戻り値

0	正常終了
8	異常終了

# jp1cmhassetup

---

## 機能

JP1/IM - CM の論理ホストの動作環境を設定する [ Central Information Manster クラスタ構成の設定 ] ダイアログボックスを表示するコマンドです。クラスタシステムでの JP1/IM - CM の環境設定で使います。

## 形式

jp1cmhassetup

## 実行権限

Administrators 権限

## 格納先ディレクトリ

CMaster パス ¥bin

## 注意事項

- このコマンドは、クラスタシステムでの JP1/IM - CM の環境設定で使います。JP1/IM - CM の環境を設定する場合は、jp1cmhassetup コマンドを使用してください。
- 論理ホストの設定は、各ノード単位で実施してください。
- 事前に JP1/Base の論理ホストの設定をしておく必要があります。JP1/Base の設定作業については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。
- このコマンドを実行すると、TCP/IP 通信で使うソケットのバインド方法が IP アドレス指定方式に変更されます。変更されるのは、作成する論理ホストおよび物理ホストの設定です。
- TCP/IP 通信で使うソケットのバインド方法の詳細については、使用する OS のマニュアルを参照してください。

# 3

## 定義ファイル

この章では、JP1/IM - CM の定義ファイルの形式および文法について説明します。

---

定義ファイル一覧

## 定義ファイル一覧

JP1/IM - CM の定義ファイルの一覧を次に示します。

表 3-1 定義ファイル一覧

製品名	定義ファイル名	説明
JP1/IM - CM	コンボボックス表示内容定義ファイル	セントラルインフォメーションマスター・ビューアーで表示するコンボボックスの値を定義するファイルです。
JP1/IM - CM	ユーザーマッピング定義ファイル	JP1/AJS2 - SO のシナリオで構成情報を検索する場合に、シナリオを実行する OS ユーザーと JP1 ユーザーのマッピング情報を定義するファイルです。
JP1/IM - CM	JP1/IM - CM 動作設定ファイル	JP1/IM - CM の動作設定を定義するファイルです。
JP1/IM - CM	拡張起動プロセス定義ファイル	JP1/IM - CM を構成する機能のプロセス情報を定義するファイルです。
JP1/IM - CM	IM パラメーター定義ファイル	JP1/IM - CM のプロセスの異常、また、異常終了から自動復旧したときに、JP1 イベントを発行するかどうかを定義するファイルです。
JP1/IM - View	Link & Launch 定義ファイル	連携プログラムを起動するコマンドを定義するファイルです。

# コンボボックス表示内容定義ファイル

## 形式

```
[Group キー実現値]
[Select コンボボックス識別子]
[Refer 参照先コンボボックス識別子 参照先コンボボックスのDB格納値]
リスト定義
[End]
:
[End]

[Select コンボボックス識別子]
リスト定義
:
[End]
:
#コメント
[End]
```

## ファイル

- default\_0750\_ja.conf (日本語版ユーザー定義用ファイル)
- default\_0750\_en.conf (英語版ユーザー定義用ファイル)

## 格納先ディレクトリ

CMaster パス ¥conf¥console¥select\_item¥

## 説明

JP1/IM・CM で管理する構成管理 DB のデータモデルについて、セントラルインフォメーションマスター・ビューアーの GUI では、特定のプロパティはコンボボックスオブジェクトで値を指定します。コンボボックス表示内容定義ファイルは、コンボボックスで指定するプロパティに対する値を定義するファイルです。

定義ファイルは、ユーザー定義用ファイルとシステム定義用ファイルがあります。システム定義用ファイルは変更できません。

## 定義の反映時期

JP1/IM・CM のサービスを再起動すると、有効になります。

## 記述内容

[Group キー実現値] ~ [End]

定義内容を JP1 資源グループでグループ化します。[Group キー実現値] ~ [End] で一つの定義ブロックとなります。キー実現値は、「Any」または JP1 資源グループ名を指定します。JP1 資源グループは、1 ~ 64 バイトで指定してください。キー実現値を省略したり、複数指定したりできません。

JP1 資源グループ名を指定した場合、論理システムまたはリソースパックの定義時

に指定された JP1 資源グループと同じときは、定義した値がコンボボックスに表示されます。

「Any」を指定した場合は、JP1 資源グループに関係なく、常に定義した値がコンボボックスに表示されます。

[Select コンボボックス識別子] ~ [End]

定義対象となるコンボボックス識別子を定義します。[Select コンボボックス識別子] ~ [End] で一つの定義ブロックとなります。[Group キー実現値] の定義ブロックの中に定義してください。

[Select コンボボックス識別子] の定義ブロックには、参照先コンボボックス識別子やリスト定義を指定します。

ユーザー定義で指定できるコンボボックス識別子を次の表に示します。

表 3-2 ユーザー定義で指定できるコンボボックス識別子

定義種別	項目名	コンボボックス識別子
論理システム定義	状態	SystemState
論理システム定義	テンプレート種別	TemplateType
ロードバランシンググループ定義	種別	LoadBalancingType
ロードバランシンググループ定義	ロードバランシング方式	LoadBalancingMethod
ロードバランシンググループ定義 ポート定義	ポート種別	Protocol
論理サーバ定義	論理サーバ種別	LogicalServerType
論理 Web サーバ定義 論理 AP サーバ定義 論理 DB サーバ定義 ユーザー定義サーバ定義	ミドルウェア名称	MiddlewareName
論理 Web サーバ定義 論理 AP サーバ定義 論理 DB サーバ定義 ユーザー定義サーバ定義	管理ミドルウェア名称	ManagementMiddlewareName
論理 Web サーバ定義 論理 AP サーバ定義 論理 DB サーバ定義 ユーザー定義サーバ定義	管理ミドルウェアホスト名	ManagementMiddlewareHostName
プロセス定義	ミドルウェア種別	MiddlewareType
プロセス定義	プロセス種別	ProcessType
仮想ホスト定義	Tier 種別	TierType
リソースパック定義	状態	ResourcePackState

[Refer 参照先コンボボックス識別子, 参照先コンボボックスの DB 格納値]



参照先コンボボックス識別子を定義します。[Refer 参照先コンボボックス識別子 , 参照先コンボボックスの DB 格納値] ~ [End] で一つの定義ブロックとなります。定義するコンボボックスのリストを、ほかのコンボボックスで指定した値によってグルーピングする場合に、参照先のコンボボックスのコンボボックス識別子とグルーピング対象の値を定義します。[Select コンボボックス識別子] の定義ブロックの中に定義してください。

[Refer 参照先コンボボックス識別子 , 参照先コンボボックスの DB 格納値] 定義ブロックには、リスト定義を指定します。

#### リスト定義

コンボボックスの DB 格納値と画面表示値のセットのリストを定義します。コンボボックスに表示する値の数だけリスト定義を記述します。[Select コンボボックス識別子] , または [Refer 参照先コンボボックス識別子 , 参照先コンボボックスの DB 格納値] の間に定義してください。

コンボボックスのデフォルト値は、リスト定義の先頭の値になります。

リスト定義の形式を次に示します。

DB 格納値 , { GUI 表示値 }

リスト定義の要素について、次に説明します。

#### DB 格納値

GUI のコンボボックスを選択したときに DB に設定される値を指定します。1 ~ 2,047 バイトの文字列で指定してください。次の文字については注意してください。

- ・ " [ " で始まる文字  
" [ " を指定した場合、文法エラーになります。
- ・ " , " を含む文字列  
" , " を指定した場合、" , " 以降の文字列は、画面表示値とみなされます。ただし、1 行中に " , " が 2 個以上指定された場合は、文法エラーになります。

#### GUI 表示値

GUI 表示値を指定した場合は、指定された値がセントラルインフォメーション マスター・ビューアーのコンボボックスに表示されます。1 ~ 2,047 バイトの文字列で指定してください。

ユーザー定義用ファイルと、システム定義用ファイルに定義される値について、次の表に示します。

表 3-3 ユーザー定義用ファイルに定義される内容

コンボボックス識別子	設定済みの DB 格納値, GUI 表示値 または, 入力制限	備考
LoadBalancingMethod	<ul style="list-style-type: none"> <li>• default</li> <li>• least-connections</li> <li>• round-robin</li> <li>• weight</li> <li>• response-time</li> <li>• least-session</li> </ul> 2,047 バイト以内の, 印刷できる ASCII 文字, 全角文字	LoadFlowval 以外のロードバランサを使用する場合, カスタマイズが必要。
MiddlewareName	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 511 バイト以内の, 印刷できる ASCII 文字, 全角文字</li> </ul>	-
ManagementMiddlewareName	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 511 バイト以内の, 印刷できる ASCII 文字, 全角文字</li> </ul>	-
ManagementMiddlewareHostName	255 バイト以内の, 空白と「#」を除いた印刷できる ASCII 文字	-
MiddlewareType	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Cosminexus</li> <li>• HiRDB</li> <li>• others</li> </ul> 2,047 バイト以内の, 印刷できる ASCII 文字, 全角文字	-
ProcessType	Cosminexus の場合 <ul style="list-style-type: none"> <li>• web-server</li> <li>• j2ee-server</li> <li>• naming-service</li> <li>• smart-agent</li> <li>• performance-tracer</li> <li>• transaction-context-service</li> <li>• component-transaction-monitor</li> <li>• ctm-domain-manager</li> <li>• sfo-server</li> </ul> HiRDB の場合 <ul style="list-style-type: none"> <li>• FES</li> <li>• BES</li> <li>• MGR</li> <li>• DIC</li> <li>• SDS</li> </ul> others の場合 <ul style="list-style-type: none"> <li>• OTHERS</li> </ul> 63 バイト以内の, 空白と「* " ' ^ [ ] { } ( ) : ;   ¥ / = , + ? < >」を除いた印刷できる ASCII 文字	others に対するユーザーカスタマイズが必要。

コンボボックス識別子	設定済みの DB 格納値, GUI 表示値 または, 入力制限	備考
TierType	<ul style="list-style-type: none"> <li>combined-tier</li> <li>http-tier</li> <li>j2ee-tier</li> <li>http/servlet-tier</li> <li>ejb-tier</li> <li>2,047 バイト以内の, 印刷できる ASCII 文字, 全角文字</li> </ul>	-

( 凡例 )

- : なし

表 3-4 システム定義用ファイルに定義される内容

コンボボックス識別子	設定済みの DB 格納値, GUI 表示値	備考
SystemState	<ul style="list-style-type: none"> <li>DEF, 定義中</li> <li>CST, 構築中</li> <li>CFM, 確認中</li> <li>RUN, 稼働中</li> </ul>	-
TemplateType	<ul style="list-style-type: none"> <li>CMB, Web 推奨モデル</li> <li>FRE, フリーパターン</li> </ul>	-
LoadBalancingType	<ul style="list-style-type: none"> <li>LOADBALANCER, ロードバランサ</li> <li>OTHER, その他</li> </ul>	-
Protocol	<ul style="list-style-type: none"> <li>tcp</li> <li>udp</li> <li>tcp/udp</li> </ul>	-
LogicalServerType	<ul style="list-style-type: none"> <li>LogicalWebServer, Web サーバ</li> <li>LogicalAPServer, AP サーバ</li> <li>LogicalDBServer, DB サーバ</li> <li>UserDefinedServer, ユーザー定義サーバ</li> </ul>	-
ResourcePackState	<ul style="list-style-type: none"> <li>DEF, 定義中</li> <li>FIN, 完了</li> </ul>	-

( 凡例 )

- : なし

#### # コメント

「 # 」で始まる改行を含まない文字列をコメントとして扱います。

#### 注意事項

- 定義ファイルは, シフト JIS で作成してください。
- 定義ブロックは, 必ず [End] を対応させてください。
- コンボボックス表示内容定義ファイルの文法エラーを検出した場合は, JP1/IM - CM のサービス起動に失敗します。

- 各定義行の先頭スペースおよびタブスペースは無視されます。
- 次の項目は、JP1/IM - CM の運用を始める前に、ユーザーカスタマイズをする必要があります。

ManagementMiddlewareName ( 管理ミドルウェア名称 )

JP1/IM - CM の提供ファイルでは、JP1/IM - CM の情報収集先のミドルウェア名称がすべて記述されていますが、ユーザー環境で不要なものの削除および追加が必要な管理ミドルウェアの名称を追加する必要があります。

ManagementMiddlewareHostName ( 管理ミドルウェアホスト名 )

JP1/IM - CM の提供ファイルでは、「Dummy」の1行だけ定義されています。管理ミドルウェア名称で指定した管理ミドルウェアがインストールされているホストのホスト名をすべて指定する必要があります。

ProcessType ( プロセス種別 )

JP1/IM - CM の提供ファイルでは、MiddlewareType ( ミドルウェア種別 ) が「others」の場合は、「OTHERS」の1行だけが定義されています。

MiddlewareType ( ミドルウェア種別 ) で「others」を選択した場合に、プロセス種別として選択対象にするプロセス名を指定してください。

## 定義例

以下に日本語の場合について、ユーザー定義用ファイルの定義例を示します。

### ユーザー定義用ファイル

```
[Group Any]
[Select LoadBalancingMethod]
    default
    least-connections
    round-robin
    weight
    response-time
    least-session
[End]
[Select MiddlewareName]
    Cosminexus Application Server
    HiRDB/Single Server
    HiRDB/Parallel Server
[End]
[Select ManagementMiddlewareName]
    Cosminexus Application Server
    JP1/SC/Control Manager
    HiRDB Control Manager
    JP1/Cm2/Network Element Configuration
    JP1/NETM/Asset Information Manager
[End]
[Select ManagementMiddlewareHostName]
    Dummy
[End]
[Select MiddlewareType]
    Cosminexus
    HiRDB
```

```
        others
    [End]
[Select ProcessType]
    [Refer MiddlewareType Cosminexus]
        web-server
        j2ee-server
        naming-service
        smart-agent
        performance-tracer
        transaction-context-service
        component-transaction-monitor
        ctm-domain-manager
        sfo-server
    [End]
    [Refer MiddlewareType HiRDB]
        FES
        BES
        MGR
        DIC
        SDS
    [End]
    [Refer MiddlewareType others]
        OTHERS
    [End]
[End]
[Select TierType]
    combined-tier
    http-tier
    j2ee-tier
    http/servlet-tier
    ejb-tier
[End]
[End]
```

# ユーザーマッピング定義ファイル

## 形式

```
;コメント
OSユーザー名:JP1ユーザー名のリスト
```

## ファイル

jcmumap.conf (デフォルトのユーザーマッピング定義ファイル)

## 格納先ディレクトリ

CMaster パス ¥conf¥umap¥

## 説明

JP1/IM・CM で管理する構成管理 DB のデータモデルを JP1/AJS2・SO のシナリオから参照する場合、または JP1/IM・CM が提供するコマンドでユーザー ID とパスワードの指定を省略する場合、シナリオまたはコマンドを実行する OS ユーザーが JP1 ユーザーにマッピングされている必要があります。ユーザーマッピング定義ファイルは、OS ユーザーと JP1 ユーザーのマッピング情報を定義するファイルです。

定義ファイルは、デフォルトのユーザーマッピング定義ファイルをコピーして、任意の名称で作成できます。

## 定義の反映時期

jcmumap コマンドを実行すると、有効になります。

## 記述内容

; コメント

「;」で始まる、改行を含まない文字列をコメントとして扱います。

OS ユーザー名 : JP1 ユーザー名のリスト

OS ユーザー名とマッピングする JP1 ユーザー名のリストを「:」で区切って定義します。

OS ユーザー名には、JP1/IM・CM が稼働するホストの OS ユーザー名やそのホストが所属するドメインのユーザー名を指定します。指定する OS ユーザー名は、JP1/AJS2・SO のシナリオの実行時ユーザー名、または JP1/IM・CM のコマンドを実行するユーザーと同じユーザー名にしてください。なお、登録する OS ユーザー名に自ホストが所属するドメインのユーザー名を指定する場合は、「domain¥user1」, 「server¥user1」のように、ドメイン名やローカルホスト名とユーザー名の区切り文字として「¥」を指定します。

JP1 ユーザー名のリストには、JP1/IM・CM が稼働するホストで稼働する JP1/Base

に定義された認証サーバに登録されている JP1 ユーザー名を指定します。JP1 ユーザー名を複数指定する場合は、「,」で区切って指定してください。指定した JP1 ユーザー名が認証サーバに登録されていない、または JP1/IM - CM のパスワード管理に登録されていない JP1 ユーザー名を指定した場合は登録できません。

### 注意事項

- JP1/AJS2 - SO のシナリオで JP1/IM - CM の構成情報を参照する場合、シナリオを実行する前にユーザーマッピング定義ファイルを作成し、jcmmkumap コマンドでユーザーマッピングを完了させてください。ユーザーマッピングが完了していない状態でシナリオを実行すると、構成情報の参照時にエラーとなります。
- ユーザーマッピング定義ファイルで指定する JP1 ユーザーを認証サーバから削除した場合、シナリオの実行やコマンドの実行時にエラーになります。

### 定義例

ユーザーマッピング定義ファイルの定義例を示します。

```
;format
;OS-USER:JP1-USER[,JP1-USER2,JP1-USER2, ... ]
;
;example
Administrator:jpladmin
User1:jpluser1,jpluser2
```

# JP1/IM - CM 動作設定ファイル

## 形式

```
[JP1_DEFAULT¥JP1CMaster]
"SEND_RESOURCEPACK_INFORMATION_TO_JP1-SC-CM"={ "OFF" | "ON" }
```

## ファイル

jplcm\_customize\_0700.conf (デフォルトの JP1/IM - CM 動作設定ファイル)

## 格納先ディレクトリ

CMaster パス ¥conf¥

## 説明

JP1/IM - CM の動作設定を定義するファイルです。定義ファイルは、デフォルトの JP1/IM - CM 動作設定ファイルをコピーして、任意の名称で作成できます。

## 定義の反映時期

jbssetcnf コマンドを実行すると、有効になります。jbssetcnf コマンドについては、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

## 記述内容

```
[JP1_DEFAULT¥JP1CMaster]
```

JP1/IM - CM の動作設定に関するセクションです。

```
"SEND_RESOURCEPACK_INFORMATION_TO_JP1-SC-CM"={ "OFF" | "ON" }
```

JP1/IM - CM で定義したリソースパックの情報を JP1/SC/Control Manager と連携するかどうかを指定します。「ON」を指定した場合、JP1/IM - View でのリソースパックの定義時、またはリソースパックへの物理リソースの割り当ての変更時に、JP1/SC/Control Manager のサーバパックに定義内容が連携されます。

## 注意事項

JP1/SC/Control Manager にリソースパックの情報を連携する場合、JP1/IM - View のリソースパック定義画面の動作が遅くなる場合があります。リソースパックの定義を頻繁に変更する場合、「OFF」での運用でリソースパックの定義を完了させた後、「ON」に切り替えて JP1/SC/Control Manager にリソースパックの情報と連携させてください。

## 定義例

JP1/IM - CM で定義したリソースパックの情報を JP1/SC/Control Manager に連携する場合の、JP1/IM - CM の動作設定ファイルの定義例を示します。



```
[JP1_DEFAULT¥JP1CMaster]  
"SEND_RESOURCEPACK_INFORMATION_TO_JP1-SC-CM"="ON"
```

# 拡張起動プロセス定義ファイル

## 形式

プロセス名|パス|起動オプション|再起動可否|再起動回数|リトライ間隔|再起動回数リセット時間|

## ファイル

jplcm\_service\_0700.conf (拡張起動プロセス定義ファイル)

## 格納先ディレクトリ

CMaster パス ¥conf¥

共有フォルダ ¥JP1CMaster¥conf¥ (クラスタ運用時)

## 説明

JP1/IM・CM を構成する機能のプロセス情報を定義するファイルです。

JP1/IM・CM はプロセス管理機能によって、各機能のプロセスの起動や停止およびプロセス異常終了時の再起動を制御しています。プロセス管理機能は、拡張起動プロセス定義ファイルの定義に従ってプロセスを制御します。

拡張起動プロセス定義ファイルは、モデルファイルによってあらかじめ適切な値が指定されているファイルを提供しています。セットアップする場合は、このモデルファイルをコピーし、プロセス障害時の「再起動可否」のパラメーターだけをカスタマイズして使います。

## 定義の反映時期

定義ファイルの内容は、JP1/IM・CM の起動時、および jcm\_spmd\_reload コマンドを実行して定義を再読み込みしたときに有効になります。

## 記述内容

### プロセス名

JP1/IM・CM のプロセス管理機能によって起動停止するプロセス名を指定します。  
JP1/IM・CM のプロセス名があらかじめ指定されています。編集しないでください。  
なお、ここで指定した名称は、jcm\_spmd\_status コマンドでプロセス名として表示されます。

### パス

プロセスの実行ファイルをフルパスで指定します。JP1/IM のプロセスのパスがあらかじめ指定されています。編集しないでください。

### 起動オプション

プロセスの起動オプションを指定します。起動オプションの指定が必要なプロセス

については、あらかじめ指定されています。編集しないでください。

#### 再起動可否

プロセスが異常終了した場合に、再起動するかどうかを指定します。再起動しない場合は 0、再起動する場合は 1 を指定します。デフォルト値は 0 です。

#### 再起動回数

プロセスの再起動の試行回数を指定します。指定できる値は、0 ~ 99 です。デフォルト値は 3 です。なお、再起動可否のフィールドに 0 が指定されている場合は、値が指定されていても無効になります。

#### リトライ間隔

プロセスの再起動のリトライ間隔を、秒単位で指定します。指定できる値は、0 ~ 3,600 です。デフォルト値は 3 です。なお、再起動可否のフィールドに 0 が指定されている場合は、値が指定されていても無効になります。

#### 再起動リセット時間

再起動によってプロセスが起動してから何時間後に再起動回数をリセットするかを、秒単位で指定します。指定できる値は、3,600 ~ 2,147,483,647 (秒) です。デフォルト値は 3,600 です。

プロセスが起動してから、指定した時間が経過すると、再起動回数がリセットされます。再度プロセスが異常終了した場合は、再起動回数が 1 からカウントされます。再起動によってプロセスが起動してから、指定した時間より前に再度異常終了した場合は、前回の再起動回数を引き継ぎます。なお、再起動可否のフィールドに 0 が指定されている場合は、値が指定されていても無効になります。

#### 注意事項

- 空白など、不要な文字を記述しないでください。編集を許可されているパラメーターの数値だけを編集してください。
- 「再起動可否」のパラメーターだけを、運用にあわせてカスタマイズするようにしてください。ほかのパラメーターは、各プロセスに合わせて適切な値がデフォルト値として設定されているため、通常は設定を変える必要はありません。
- クラスタ構成では、論理ホストのプロセス管理のプロセスを起動する際に、論理ホストの conf フォルダに拡張起動プロセス定義ファイルがない場合は、物理ホストの拡張起動定義ファイルがコピーされます。

#### 定義例

```
JP1/IM - CMのインストール先フォルダ : C:\Program
Files\HITACHI\JP1CMaster
jcmmain|C:\Program
Files\HITACHI\JP1CMaster\bin\jcmmain.exe||0|3|3|3600|
```

# IM パラメーター定義ファイル

## 形式

---

```
[論理ホスト名¥JP1CMaster]
"SEND_PROCESS_TERMINATED_ABNORMALLY_EVENT"=dword: 値
"SEND_PROCESS_RESTART_EVENT"=dword: 値
```

---

## ファイル

- jplcm\_param\_v7.conf (IM パラメーター定義ファイル)
- jplcm\_param\_v7.conf.model (IM パラメーター定義ファイルのモデルファイル)

## 格納先ディレクトリ

CMaster パス ¥conf¥

共有フォルダ ¥JP1CMaster¥conf¥ (クラスタ運用時)

## 説明

JP1/IM - CM のプロセスの異常、また、異常終了から自動復旧したときに、JP1 イベントを発行するかどうかを定義するファイルです。

プロセスの異常や異常終了からの自動復旧時に JP1 イベントを発行することにより、JP1/IM - CM 自身の障害を履歴管理できるようになります。このため、この定義ファイルを使って、JP1 イベントを発行する設定にすることをお勧めします。必要な定義内容をモデルファイルとして提供しています。

設定を変更する場合は、モデルファイルをコピーして、内容を編集してください。

## 定義の反映時期

この定義ファイルを引数に jbssetcnf コマンドを実行した後から有効になります。

## 記述内容

[ 論理ホスト名 ¥JP1CMaster]

JP1/IM - CM の環境設定のキー名称です。論理ホスト名の部分を、物理ホストの場合は JP1\_DEFAULT に、論理ホストの場合は論理ホスト名に設定します。

"SEND\_PROCESS\_TERMINATED\_ABNORMALLY\_EVENT"=dword: 値

値を「1」にすると、次の場合に JP1 イベントを発行します。

- プロセスが異常終了した場合
- 起動時に起動通知がなく、タイムアウトした場合

デフォルトは「0」で JP1 イベントを発行しません。

"SEND\_PROCESS\_RESTART\_EVENT"=dword: 値

値を「1」にすると、次の場合に JP1 イベントを発行します。

プロセス再起動の機能により、異常終了したプロセスの再起動が完了した場合  
デフォルトは「0」で JP1 イベントを発行しません。

### 定義例

```
[JP1_DEFAULT¥JP1CMaster]  
"SEND_PROCESS_TERMINATED_ABNORMALLY_EVENT"=dword:0  
"SEND_PROCESS_RESTART_EVENT"=dword:0
```

# Link & Launch 定義ファイル

## 形式

```
@file type="function-definition", version="0300";
@define-block type="ブロックタイプ";
id="メニュー識別子";
name="表示名称";
execute_id="アプリケーション実行定義識別子";
arguments="コマンド引数";
@define-block-end;
#コメント
```

## ファイル

- hitachi\_jp1\_sc\_cm\_ja.conf (JP1/SC/Control Manager 起動用)
- hitachi\_jp1\_netm\_aim\_ja.conf (JP1/NETM/AIM 起動用)
- hitachi\_jp1\_cm2\_nc\_ja.conf (JP1/Cm2/NC - View 起動用)
- hitachi\_jp1\_cm2\_nnm\_ja.conf (JP1/Cm2/Network Node Manager 起動用)
- hitachi\_jp1\_hpvm\_ja.conf (JP1/HiCommand Provisioning Manager 起動用)
- hitachi\_jp1\_ajs2\_so\_ja.conf (JP1/AJS2 - Scenario Operation View 起動用)

## 格納先ディレクトリ

View パス ¥conf¥launch¥ja¥

## 説明

Link & Launch 機能で、連携対象プログラムの起動コマンドを定義するファイルです。  
Link & Launch 機能を使用して、ほかの製品と連携する場合には、その製品の稼働環境（サポート OS やブラウザなど）を事前に確認してください。

## 定義の反映時期

定義の変更は、JP1/IM - View 起動時に有効になります。定義を変更した場合は、JP1/IM - View を再起動してください。

## 記述内容

```
@file type="function-definition", version="0300";
```

定義ファイルタイプおよびバージョンを宣言します。設定内容は固定です。ユーザーは変更しないでください。

```
@define-block type=" ブロックタイプ "; ~ @define-block-end;
```

一つの定義ブロックを表します。ブロックタイプは、連携プログラムによって固定です。ユーザーは変更しないでください。

```
id=" メニュー識別子 ";
```

[ 詳細情報の設定・参照 ] 画面の、起動するプログラムのメニュー識別子です。メニュー識別子は連携プログラムによって固定です。ユーザーは変更しないでください。

name=" 表示名称 " ;

[ 詳細情報の設定・参照 ] 画面の、起動するプログラムの表示名です。表示名称は連携プログラムによって固定です。ユーザーは変更しないでください。

execute\_id=" アプリケーション実行定義識別子 " ;

[ 詳細情報の設定・参照 ] 画面で、起動するプログラムを選択し、[ OK ] ボタンをクリックしたときに実行するアプリケーションを指定します。アプリケーション実行定義識別子は連携プログラムによって固定です。ユーザーは変更しないでください。

arguments=" コマンド引数 " ;

execute\_id で指定したアプリケーションに対する引数を指定します。連携するプログラムによってユーザーが情報を設定する必要があります。ユーザーが変更する必要がある箇所を次に示します。ユーザーの環境に合わせて、" < ", " > " で囲まれた部分を修正してください。

表 3-5 各連携プログラムで変更が必要な箇所 ( " < ", " > " で囲まれた部分 )

定義ファイル名	arguments の設定内容
hitachi_jp1_sc_cm_ja.conf	arguments="http://<JP1/SC/Control Manager サーバのホスト名>< 接続先ポート番号 >/ControlManager/admin/%JCM_SPM_URL%?user=%JCO_JP1USER%&token=%JCO_JP1TOKEN%&sp=%JCM_RESPACKNAME%&mac=%JCM_MAC_ADDRESS%";
hitachi_jp1_netm_aim_ja.conf	arguments="http://<JP1/NETM/AIM サーバのホスト名>< 接続先ポート番号 >/jp1asset/jamenter.dll?AIMJOB=13500100&objectID=%JCM_ASSETID%";
hitachi_jp1_cm2_nnm_ja.conf	arguments="http://<JP1/Cm2/NNM サーバのホスト名>< 接続先ポート番号 >/OvCgi/ovlaunch.exe";
hitachi_jp1_hpvm_ja.conf	arguments="http://<JP1/HPvM サーバのホスト名>< 接続先ポート番号 >/HiCommand/IMLogin?jp1userid=%JCO_JP1USER%&jp1token=%JCO_JP1TOKEN%&launchurl=http://<JP1/HPvM サーバのホスト名>< 接続先ポート番号 >/ProvisioningManager/Login";

#### 注意事項

- 「arguments=」以降は、改行を入れないで 1 行で記述してください。
- 指定するホスト名は、ピューアーホストから名前解決できるホスト名または IP アドレスを指定してください。

## # コメント

「#」で始まる改行を含まない文字列をコメントとして扱います。

## 定義例

各定義ファイルについて、定義例を示します。

## hitachi\_jp1\_sc\_cm\_ja.conf

JP1/SC/Control Manager サーバのホスト名が HostSPM で、接続先ポート番号が 12345 の場合。

```
#
# All Rights Reserved. Copyright (C) 2003, 2005, Hitachi, Ltd.
#
@file type="function-definition", version="0300";
#-----
# JP1/ServerConductor/Control Manager
# Definition changed by 07-50.
@define-block type="link-launch-url-def";
id="jcm_SC_CM";
name="サーバの設定・OSのインストール (JP1/ServerConductor/Control
Manager) ";
execute_id="default_browser";
arguments="http://HostSPM:12345/ControlManager/admin/
%JCM_SPM_URL?user=%JCO_JP1USER%&token=%JCO_JP1TOKEN%&sp=%JCM_RESP
ACKNAME%&mac=%JCM_MAC_ADDRESS%";
@define-block-end;
#-----
```

## hitachi\_jp1\_netm\_aim\_ja.conf

JP1/NETM/AIM サーバのホスト名が HostAIM で、接続先ポート番号が 12345 の場合。

```
#
# All Rights Reserved. Copyright (C) 2003, 2005, Hitachi, Ltd.
#
@file type="function-definition", version="0300";
#-----
# JP1/NETM/Asset Information Manager
# Definition changed by 07-50.
@define-block type="link-launch-url-def";
id="jcm_JP1_NETM_AIM";
name="サーバの資産情報参照 (JP1/NETM/Asset Information Manager) ";
execute_id="default_browser";
arguments="http://HostAIM:12345/jplasset/
jamententer.dll?AIMJOB=13500100&objectID=%JCM_ASSETID%";
@define-block-end;
#-----
```

## hitachi\_jp1\_cm2\_nnm\_ja.conf

JP1/Cm2/NNM サーバのホスト名が HostNNM で、接続先ポート番号が 12345 の場合。



```
#
# All Rights Reserved. Copyright (C) 2003, 2005, Hitachi, Ltd.
#
@file type="function-definition", version="0300";
#-----
# JP1/Cm2/Network Node Manager
# Definition changed by 07-50.
@define-block type="link-launch-url-def";
id="jcm_JP1_CM2_NNM";
name="ネットワーク情報参照 (JP1/Cm2/Network Node Manager)";
execute_id="default_browser";
arguments="http://HostNNM:12345/OvCgi/ovlaunch.exe";
@define-block-end;
#-----
```

#### hitachi\_jp1\_hpvm\_ja.conf

JP1/HPvM サーバの IP アドレスが 10.201.21.21 で、接続先ポート番号が 12345 の場合。

```
#
# All Rights Reserved. Copyright (C) 2003, 2005, Hitachi, Ltd.
#
@file type="function-definition", version="0300";
#-----
# JP1/HiCommand Provisioning Manager
# Definition changed by 07-50.
@define-block type="link-launch-url-def";
id="jcm_JP1_HPvM";
name="ストレージ情報参照 (JP1/HiCommand Provisioning Manager)";
execute_id="default_browser";
arguments="http://10.201.21.21:12345/HiCommand/
IMLogin?jpluserid=%JCO_JP1USER%&jp1token=%JCO_JP1TOKEN%&launchurl=
http://10.201.21.21:12345/ProvisioningManager/Login";
@define-block-end;
#-----
```



# 4

## JP1 イベント

この章では、JP1/IM - CM が出力する JP1 イベントの種類とその属性について説明します。

---

4.1 JP1 イベントの属性

---

4.2 JP1/IM - CM が出力する JP1 イベント

---

## 4.1 JP1 イベントの属性

JP1 イベントの属性を示します。JP1 イベントの属性には基本属性と拡張属性があります。

基本属性は、すべての JP1 イベントが持っている属性です。拡張属性は、JP1 イベントを発行するプログラムが独自に割り当てる属性です。

### 4.1.1 基本属性

JP1 イベントの基本属性を次の表に示します。

なお、基本属性の属性名には B.ID のように先頭に「B.」を付けて区別場合があります。設定する際に「B.」を付ける必要がある場合は、マニュアル内でそのつど説明しています。

表 4-1 JP1 イベントの基本属性

項目	属性名	内容
イベント DB 内通し番号	SEQNO	発行元によらないでこのイベントサーバに到達した順番。
イベント ID	ID	発行アプリケーションプログラムや事象の内容を表す 8 バイトの値。
発行元プロセス ID	PROCESSID	発行元アプリケーションプログラムのプロセス ID。
登録時刻	TIME	発行元イベントサーバでの登録時刻。
到着時刻	ARRIVEDTIME	自イベントサーバでの登録時刻。
発行元ユーザー ID	USERID	発行元プロセスのユーザー ID。Windows からのイベントの場合は -1 となる。
発行元グループ ID	GROUPID	発行元プロセスのグループ ID。Windows からのイベントの場合は -1 となる。
発行元ユーザー名	USERNAME	発行元プロセスのユーザー名。
発行元グループ名	GROUPNAME	発行元プロセスのグループ名。Windows からのイベントの場合は空白となる。
発行元イベントサーバ名	SOURCESERVER	発行元のイベントサーバ名。イベントが、JP1/Base(エージェント) JP1/IM・CC(拠点マネージャー) JP1/IM・CC(統合マネージャー)のように転送された場合でも、最初の JP1/Base のイベントサーバ名が入る。
発行元イベント DB 内通し番号	SOURCESEQNO	発行元ホストでのイベント DB 内通し番号(転送によって値は変化しない)。
メッセージ	MESSAGE	イベントの内容を表した文字列。

項目	属性名	内容
詳細情報	-	任意のデータ。

(凡例)

- : なし

## 4.1.2 拡張属性

イベントの拡張属性とは、イベント発行元プログラムが任意に指定できる属性です。拡張属性には共通情報と固有情報があります。共通情報は JP1 プログラムで統一されている情報を示します。固有情報は共通情報以外の拡張属性を示します。

なお、拡張属性の属性名には E.SEVERITY のように先頭に「E.」を付けて区別する場合があります。設定する際に「E.」を付ける必要がある場合は、マニュアル内でそのつど説明しています。

共通情報の一覧を次の表に示します。

表 4-2 共通情報の一覧

項目	属性名	内容
重大度	SEVERITY	JP1 イベントの緊急性を表す。緊急性の高い順に、次の値がある。 Emergency ( 緊急 ) Alert ( 警戒 ) Critical ( 致命的 ) Error ( エラー ) Warning ( 警告 ) Notice ( 通知 ) Information ( 情報 ) Debug ( デバッグ )
ユーザー名	USER_NAME	業務を実行しているユーザー名。
プロダクト名	PRODUCT_NAME	JP1 イベントを発行したプログラム名。次に示すプログラム名などがある。 /HITACHI/JP1/AJS2 /HITACHI/JP1/FTP /HITACHI/JP1/NETMDM /HITACHI/JP1/NPS /HITACHI/JP1/NT_LOGTRAP /HITACHI/JP1/PAM /HITACHI/JP1/IM/SCOPE /HITACHI/JP1/IMCM
オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	イベント発行の契機となったオブジェクトの種類を表す名称。次に示す値などがある。 JOB, JOBNET, BATCHJOB, ACTION, LIST
オブジェクト名	OBJECT_NAME	イベント発行の契機となったオブジェクト ( ジョブ, ジョブネットなど ) の名称。

#### 4. JP1 イベント

項目	属性名	内容
登録名タイプ	ROOT_OBJECT_TYPE	オブジェクトの種別。通常はオブジェクトタイプと同じだが、ジョブネットなど階層のあるオブジェクトの場合、最上層のオブジェクトの種別となる。値の範囲はオブジェクトタイプと同じ。
登録名	ROOT_OBJECT_NAME	ユーザーの操作時に実行を指示する単位になる名称。通常はオブジェクト名と同じだが、ジョブネットなど階層のあるオブジェクトの場合、最上層のオブジェクトの名称になる。
事象種別	OCCURRENCE	オブジェクト名に示したオブジェクトに対して起こった事象。 次に示す事象種別などがある。 START (実行開始) END (実行終了) PAUSE (実行の一時停止) RELEASE (一時停止の解除) RESTART (再実行の開始) CREATE (定義の作成) DESTROY (定義の削除)
開始時刻	START_TIME	実行開始または再実行開始の時刻 (UTC 1970-01-01 00:00:00 からの秒数)。この項目は設定されない場合もある。
終了時刻	END_TIME	実行終了の時刻 (UTC 1970-01-01 00:00:00 からの秒数)。この項目は設定されない場合もある。

## 4.2 JP1/IM - CM が出力する JP1 イベント

JP1/IM - CM が出力するイベントについて説明します。

### 4.2.1 JP1/IM - CM が出力する JP1 イベント一覧

イベント ID	発行契機	メッセージ
00005200	JP1/IM - CM のプロセスが異常終了した場合	KAVB3737-E JP1_IMCM の管理対象プロセス名 は異常終了しました
00005201	JP1/IM - CM のプロセス起動時にタイムアウトした場合	KAVB3613-W JP1_IMCM の管理対象プロセス名の起動がタイムアウトしました。処理を継続します
00005202	JP1/IM - CM の異常終了したプロセスの再起動が完了した場合	KAVB3616-I JP1_IMCM の管理対象プロセス名の再起動が完了しました

注 プロセスの異常時に JP1 イベントを発行させるように設定した場合にだけ発行されます。JP1 イベントを発行させたい場合は、IM パラメーター定義ファイルを編集した後、jbssetcnf コマンドを実行してください。定義ファイルの詳細については「3. 定義ファイル」の「IM パラメーター定義ファイル」を、設定手順についてはマニュアル「JP1/Integrated Management - Central Information Master システム構築・運用ガイド 6.4.2 JP1/IM - CM 障害時の通知と対処」を参照してください。

### 4.2.2 JP1 イベントの詳細

#### (1) イベント ID : 00005200 の詳細

属性種別		項目	属性名	内容
基本属性		イベント ID	-	0x00005200
		メッセージ	-	KAVB3737-E JP1_IMCM の管理対象プロセス名 は異常終了しました
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	Error
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IMCM/SPMD
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	SPMD
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	異常終了したプロセス名
		事象種別	OCCURRENCE	NOTICE

( 凡例 )

#### 4. JP1 イベント

- : なし

##### (2) イベント ID : 00005201 の詳細

属性種別		項目	属性名	内容
基本属性		イベント ID	-	0x00005201
		メッセージ	-	KAVB3613-W JP1_IMCM の管理対象プロセス名の起 動がタイムアウトしました。 処理を継続します
拡張属性	共通情 報	重大度	SEVERITY	Warning
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IMCM/ SPMD
		オブジェクトタ イプ	OBJECT_TYPE	SPMD
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	起動タイムアウトしたプロ セス名
		事象種別	OCCURRENCE	NOTICE

( 凡例 )

- : なし

##### (3) イベント ID : 00005202 の詳細

属性種別		項目	属性名	内容
基本属性		イベント ID	-	0x00005202
		メッセージ	-	KAVB3616-I JP1_IMCM の 管理対象プロセス名の再起 動が完了しました
拡張属性	共通情 報	重大度	SEVERITY	Information
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	/HITACHI/JP1/IMCM/ SPMD
		オブジェクトタ イプ	OBJECT_TYPE	SPMD
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	再起動したプロセス名
		事象種別	OCCURRENCE	NOTICE

( 凡例 )

- : なし



# 5

## メッセージ

JP1/IM・CM が出力する，メッセージ ID の付いたメッセージを示します。

---

5.1 メッセージの分類

---

5.2 メッセージの出力先一覧

---

5.3 メッセージの形式

---

5.4 メッセージ一覧

---

# 5.1 メッセージの分類

ここでは、JP1/IM・CM が出力するメッセージについて 説明します。  
の情報が、どのマニュアルに記載されているのかについて

表 5-1 メッセージ ID と記載マニュアル一覧

メッセージ ID	メッセージが記載されているマニュアル
KAJT00001 ~ KAJT99999	マニュアル「JP1/Integrated Management・Central Information Master リファレンス」
KAVB で始まるメッセージ	マニュアル「JP1/Base メッセージ」

## 5.2 メッセージの出力先一覧

この節では、JP1/IM・CM が出力する各メッセージの出力先を一覧で示します。

JP1/IM・CM が出力するメッセージの出力先を次の表に示します。表中では、出力先を凡例のように表記しています。

( 凡例 )

ダイアログ：メッセージダイアログボックス

stdout：標準出力

stderr：標準エラー出力

イベントログ：Windows イベントログ

HNTRLib2：統合トレースログ

：出力する

-：出力しない

表 5-2 JP1/IM・CM が出力するメッセージの出力先

メッセージ ID	出力先				
	ダイアログ	stdout	stderr	イベントログ	HNTRLib2
KAJT00001 ~ KAJT00005		-	-	-	-
KAJT00006 ~ KAJT00007		-	-	-	
KAJT00008 ~ KAJT00012		-	-	-	-
KAJT00013 ~ KAJT00021		-	-	-	
KAJT00022 ~ KAJT00025		-	-	-	-
KAJT00026		-	-	-	
KAJT00027 ~ KAJT00032		-	-	-	-
KAJT00042 ~ KAJT00043		-	-	-	-
KAJT00701		-	-	-	
KAJT00900	-		-	-	-
KAJT00901 ~ KAJT00905	-	-		-	-
KAJT00907	-	-		-	-
KAJT01001 ~ KAJT01002	-		-	-	-
KAJT01003 ~ KAJT01007	-	-		-	-
KAJT01008	-		-	-	-
KAJT01009	-	-		-	-
KAJT02000 ~ KAJT02030	-		-	-	-
KAJT02031	-	-		-	-
KAJT04000 ~ KAJT04002	-	-		-	-
KAJT04003	-		-	-	-

## 5. メッセージ

メッセージ ID	出力先				
	ダイアログ	stdout	stderr	イベントロ グ	HNTRLib2
KAJT04004 ~ KAJT04005	-	-		-	-
KAJT04006	-		-	-	-
KAJT04007 ~ KAJT04012	-	-		-	-
KAJT04013 ~ KAJT04014	-		-	-	-
KAJT04015 ~ KAJT04028	-	-		-	-
KAJT04030 ~ KAJT04041	-	-		-	-
KAJT04051 ~ KAJT04055	-	-		-	-
KAJT04057	-	-		-	-
KAJT06000	-	-	-	-	
KAJT06003 ~ KAJT06007	-	-	-	-	
KAJT06011	-	-	-	-	
KAJT06015 ~ KAJT06021	-	-	-	-	
KAJT06024 ~ KAJT06026	-	-	-	-	
KAJT06031	-	-	-	-	
KAJT06033 ~ KAJT06036	-	-	-	-	
KAJT08003 ~ KAJT08006	-	-	-	-	
KAJT10100 ~ KAJT10101	-	-		-	-
KAJT10104 ~ KAJT10117	-	-		-	-
KAJT10200 ~ KAJT10217	-	-		-	-
KAJT10300 ~ KAJT10302	-	-		-	-
KAJT10400 ~ KAJT10406	-	-		-	-
KAJT12001 ~ KAJT12005	-	-		-	-
KAJT12007 ~ KAJT12010	-		-	-	
KAJT12100 ~ KAJT12103	-	-		-	

メッセージ ID	出力先				
	ダイアログ	stdout	stderr	イベントログ	HNTRLib2
KAJT12105 ~ KAJT12114	-	-		-	
KAJT12200 ~ KAJT12202	-	-		-	
KAJT12210 ~ KAJT12227	-	-		-	
KAJT12250 ~ KAJT12256	-	-		-	
KAJT12258	-	-		-	
KAJT12260	-	-	-	-	
KAJT12300 ~ KAJT12306	-	-		-	
KAJT12400 ~ KAJT12412	-	-		-	
KAJT12420 ~ KAJT12421	-	-	-	-	
KAJT12430 ~ KAJT12431	-	-	-	-	
KAJT12440 ~ KAJT12443	-	-	-	-	
KAJT12450 ~ KAJT12453	-	-	-	-	
KAJT12460 ~ KAJT12463	-	-	-	-	
KAJT12470 ~ KAJT12473	-	-	-	-	
KAJT12480 ~ KAJT12485	-	-	-	-	
KAJT12490 ~ KAJT12492	-	-	-	-	
KAJT13000 ~ KAJT13019	-	-	-	-	
KAJT13020 ~ KAJT13021	-	-	-		
KAJT13022 ~ KAJT13028	-	-	-	-	
KAJT13029	-		-	-	
KAJT13040 ~ KAJT13044	-	-		-	-
KAJT13050 ~ KAJT13055	-	-	-	-	
KAJT13083	-	-	-	-	
KAJT16001 ~ KAJT16026	-		-	-	

## 5. メッセージ

メッセージ ID	出力先				
	ダイアログ	stdout	stderr	イベントロ グ	HNTRLib2
KAJT16030 ~ KAJT16035	-		-	-	
KAJT16051 ~ KAJT16074	-		-	-	
KAJT16080 ~ KAJT16085	-		-	-	
KAJT16090 ~ KAJT16096	-	-		-	-
KAJT17000	-	-		-	
KAJT18401 ~ KAJT18406	-		-	-	-
KAJT18599	-		-	-	-
KAJT18601 ~ KAJT18610	-		-	-	-
KAJT18615 ~ KAJT18635	-		-	-	-
KAJT18643 ~ KAJT18646	-		-	-	-
KAJT18648 ~ KAJT18651	-		-	-	-
KAJT18653 ~ KAJT18657	-		-	-	-
KAJT18659 ~ KAJT18662	-		-	-	-
KAJT18665 ~ KAJT18666	-		-	-	-
KAJT18668	-		-	-	-
KAJT18698	-		-	-	-
KAJT18701	-		-	-	-
KAJT18703	-		-	-	-
KAJT18707	-		-	-	-
KAJT18717	-		-	-	-
KAJT18720 ~ KAJT18722	-		-	-	-
KAJT18724 ~ KAJT18725	-		-	-	-
KAJT18727	-		-	-	-
KAJT18729	-		-	-	-
KAJT18731 ~ KAJT18735	-		-	-	-
KAJT18739	-		-	-	-
KAJT18813	-		-	-	-

メッセージ ID	出力先				
	ダイアログ	stdout	stderr	イベントログ	HNTRLib2
KAJT18825	-		-	-	-
KAJT18851	-		-	-	-
KAJT18904 ~ KAJT18905	-		-	-	-
KAJT18931	-		-	-	-
KAJT18951 ~ KAJT18952	-		-	-	-
KAJT18961 ~ KAJT18979	-		-	-	-

## 5.3 メッセージの形式

JP1/IM・CM が出力するメッセージ ID の付いたメッセージを示します。

JP1/IM・CM では、日本語と英語のメッセージをサポートしています。

### 5.3.1 メッセージの出力形式

メッセージはメッセージ ID と、それに続くメッセージテキストで構成されています。

出力されるメッセージの形式を次に示します。

KAJTnnnnnn-Z メッセージテキスト

#### (1) メッセージ ID

メッセージ ID は次の内容で構成されています。

K

システム識別子を示します。

AJT

JP1/IM・CM のメッセージであることを示します。

nnnnnn

メッセージの通し番号です。

Z

メッセージの種類を表します。

E: エラーメッセージを示します。処理は中断されます。

W: 警告メッセージを示します。メッセージ出力後、処理は続行されます。

I: 通知メッセージを示します。ユーザーに情報を知らせます。

### 5.3.2 メッセージの記載形式

このマニュアルでのメッセージの記載形式を次に示します。

#### メッセージ ID

英語メッセージテキスト

日本語メッセージテキスト

メッセージの説明文

(S)

システムの処置を示します。

(O)

メッセージが出力されたときに、オペレーターのとる処置を示します。

### 5.3.3 システム管理者の方へ

運用中にトラブルが発生した場合には、マニュアル「JP1/Integrated Management・Central Information Master システム構築・運用ガイド 13. トラブルシューティング」を参照してログ情報を採取し、初期調査をしてください。

トラブル要因を初期調査する場合は、OS のログ情報 (Windows イベントログ) や、JP1/IM が出力する各種ログ情報を参照してください。これらのログ情報でトラブル発生時間帯の内容を参照して、トラブルを回避したり、トラブルに対処したりしてください。

また、トラブルが発生するまでの操作方法などを記録してください。同時に、できるだけ再現性の有無を確認するようにしてください。

マニュアルに記載されていないメッセージ ID 付きのメッセージが出力された場合には、マニュアル「JP1/Integrated Management・Central Information Master システム構築・運用ガイド 13. トラブルシューティング」を参照してログ情報を採取し、システム管理者に連絡してください。

また、以下のメッセージ ID が付いたメッセージが出力された場合、メッセージに従って、コンボボックス定義ファイルを修正してください。

KAJT03053-E, KAJT03054-E, KAJT03055-E,  
KAJT03056-E,  
KAJT03057-E, KAJT03058-E, KAJT03059-E,  
KAJT03060-E,  
KAJT03061-E, KAJT03062-E, KAJT03063-E



## 5.4 メッセージ一覧

JP1/IM・CM が出力するメッセージ ID の付いたメッセージの一覧を次に示します。

### 5.4.1 メッセージ ( KAJT00000 ~ KAJT00999 )

#### KAJT00001-E

Specify the 入力情報  
入力情報を入力してください

画面の必須入力項目が入力されていません。

- (S)  
再度、入力を待ちます。
- (O)  
入力されていない項目を入力してください。

#### KAJT00002-E

指定されたオブジェクトはすでに存在します  
詳細コード：詳細コード  
サーバからのエラーメッセージ：メッセージ

同名のオブジェクトがすでにあります。

- (S)  
再度、入力を待ちます。
- (O)  
項目を設定し直して、再度実行してください。  
詳細はサーバからのメッセージを参照してください。

#### KAJT00003-I

選択中のオブジェクトを削除してもよろしいですか？

選択中のオブジェクトを削除してよいかの確認です。

- (S)  
[ はい ] ボタンをクリックすると、選択中のオブジェクトを表示域から削除します。[ いいえ ] ボタンをクリックすると、選択中のオブジェクトを表示域から削除しません。

#### KAJT00004-I

適用ボタンが押されていませんが、終了してよろしいですか？

設定内容を反映しないで画面を終了してよいかの確認です。

- (S)  
[ はい ] ボタンをクリックすると、設定内容を反映せ

ずに画面を終了します。[ いいえ ] ボタンをクリックすると、画面を終了しません。

#### KAJT00005-I

ログアウトしてもよろしいですか？

ログアウトしてよいかの確認です。

- (S)  
[ はい ] ボタンをクリックすると、ログアウトします。  
[ いいえ ] ボタンをクリックすると、ログアウトしません。

#### KAJT00006-E

接続ホストに接続できません

次の要因で、接続ホストに接続できませんでした。

1. 接続ホスト名の入力に誤りがある。
2. 接続ホストが起動していない。
3. 接続ホストとの通信で何らかの障害が発生した。

- (S)  
ログイン処理を中断します。

- (O)  
以下の確認をしてから再度実行してください。
1. 接続ホスト名の入力は正しいか。
  2. 接続ホストが起動しているか。
  3. 接続ホストとの通信に問題はないか。

#### KAJT00007-E

ユーザー認証に失敗しました

ユーザー認証に失敗しました。ユーザー名またはパスワードの入力に誤りがあります。

- (S)  
ログイン処理を中断します。

- (O)  
ユーザー名、およびパスワードを確認してから、再度実行してください。

#### KAJT00008-E

すべてのユニットグループを定義してください

ユニットグループが定義されていません。

- (S)  
再度、入力を待ちます。
- (O)  
ロードバランシンググループの定義で設定した多重度の数、ユニットグループを定義してください。

#### KAJT00009-E

選択したオブジェクトが見つかりませんでした

選択したオブジェクトの情報がサーバで見つかりませんでした。

- (S) 取得処理を中断します。
- (O) 上位のオブジェクトの情報を取得してから、再度情報を取得してください

#### KAJT00010-E

入力情報の形式が正しくありません

画面の入力項目の形式が正しくありません。

- (S) 再度、入力を待ちます。
- (O) 項目を設定し直して、再度実行してください。

#### KAJT00011-E

入力情報に範囲外の入力値が入力されています

入力情報の範囲が正しくありません。

- (S) 再度、入力を待ちます。
- (O) 項目を設定し直して、再度実行してください。

#### KAJT00012-I

処理中です  
しばらくお待ちください...

処理の実行中です。

- (S) 処理が終了するまで実行します。
- (O) 処理が終了するまでお待ちください。

#### KAJT00013-E

システムエラーが発生しました  
プログラムを終了します  
詳細コード：詳細コード

システムエラーが発生しました。

- (S) JP1/IM - View を終了します。
- (O) 資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT00014-E

サーバでシステムエラーが発生しました  
プログラムを終了します  
詳細コード：詳細コード  
サーバからのエラーメッセージ：メッセージ

処理中にサーバからエラーが返却されました。

- (S) JP1/IM - View を終了します。
- (O) 資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT00015-E

サーバでエラーが発生しましたが、サーバからメッセージが取得できませんでした  
プログラムを終了します  
詳細コード：詳細コード  
詳細情報：詳細情報

処理中にサーバからエラーが返却されましたが、サーバからのエラーメッセージが取得できませんでした。

- (S) JP1/IM - View を終了します。
- (O) 資料採取ツールで資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT00016-E

サーバとのセッションが切断されました  
再度ログインしてください  
詳細コード：詳細コード  
サーバからのエラーメッセージ：メッセージ

処理中にサーバからエラーが返却され、セッションが切れました。

- (S) 処理を中断します。
- (O) サーバのメッセージを参照し、再度ログインしてください。

#### KAJT00017-E

サーバでエラーが発生し、排他編集権が解除されました  
排他編集権を再度取得してください  
詳細コード：詳細コード  
サーバからのエラーメッセージ：メッセージ

処理中にサーバからエラーが返却され、排他編集権を失いました。

- (S) 処理を中断します。
- (O)

サーバのメッセージを参照し、排他編集権を取得してください。

#### KAJT00018-E

排他編集権の取得に失敗しました  
詳細コード：詳細コード  
サーバからのエラーメッセージ：メッセージ

排他編集権の取得に失敗しました。

(S)

処理を中断します。

(O)

ほかのユーザーが排他編集権を取得していないか確認をして、再度実行してください。

#### KAJT00019-E

サーバのデータが更新されているため、処理を実行できませんでした  
ツリー表示領域で選択しているオブジェクトの親を選択し、最新の情報に更新してください  
詳細コード：詳細コード  
サーバからのエラーメッセージ：メッセージ

サーバのデータが更新されているため、処理を実行できませんでした。

(S)

処理を中断します。

(O)

選択しているオブジェクトの親を選択し、最新の情報に更新してください。

#### KAJT00020-E

サーバの状態が不正のため、実行できませんでした  
サーバの状態を確認し、再度実行してください  
詳細コード：詳細コード  
サーバからのエラーメッセージ：メッセージ

サーバの状態が不正のため、処理が実行できませんでした。

(S)

処理を中断します。

(O)

サーバの状態を確認し、再度実行してください。

#### KAJT00021-E

指定されたJP1ユーザーにセントラルインフォメーションマスターの操作権限がありません

指定したJP1ユーザーでログインしようとしたが、セントラルインフォメーションマスターを操作する権限がありません。

(S)

ログイン処理を中断します。

(O)

- 以下の確認をしてから再度実行してください。
- ログインしようとしたJP1ユーザーが正しいか。
  - JP1/Baseの環境設定で、指定したJP1ユーザーにJP1\_CM\_Admin, JP1\_CM\_Manager, JP1\_CM\_InfraManagerの権限が設定されているか。

#### KAJT00022-E

システムにリソースバックが割り当たっていません

システムにリソースバックが割り当たっていないため、割り当て画面を起動できません。

(S)

処理を中断します。

(O)

選択したオブジェクトが属しているシステムに、リソースバックを割り当て、再度実行してください。

#### KAJT00023-E

割り当て可能なオブジェクトがありません

割り当て可能なオブジェクトがないため、割り当て画面を起動できません。

(S)

処理を中断します。

(O)

オブジェクトを割り当て、再度実行してください。

#### KAJT00024-E

更新権限がありません

更新権限がありません。

(S)

処理を中断します。

(O)

- 以下の確認をしてから再度実行してください。
- 更新権限があるか。
  - JP1 資源グループが妥当か。

#### KAJT00025-E

複数のリソースバックに所属しているため、占有状態にできません

複数のリソースバックに所属しているため、占有状態にできません。

(S)

処理を中断します。

(O)

選択したリソースが所属しているリソースバックの件数を1件以下にしてから、再度実行してください。

#### KAJT00026-E

---

接続ホストと認証サーバの間で、通信エラーが発生しました

---

接続ホストと認証サーバの間で、通信エラーが発生しました。

(S)

ログイン処理を中断します。

(O)

接続ホスト上で認証サーバの設定に誤りがないが確認してください。

#### KAJT00027-E

---

オブジェクトの設定数が上限値を超えています

---

オブジェクトの設定数がすでに上限値に達しているため、新しいデータを登録できません。

(S)

処理を中断します。

(O)

既存のオブジェクトの中から不要なものを削除した後、再度操作をしてください。

#### KAJT00028-W

---

オブジェクトが制限個数個を超えて取得されました  
制限個数+1個目以降は表示されません

---

オブジェクトが制限個数個を超えて取得されました。  
制限個数個のオブジェクトを表示します。  
また、このメッセージがプロパティ画面表示時に出力され、プロパティ画面を更新した場合、表示された内容で保存します。

(S)

制限個数まで表示して、処理を続行します。

(O)

既存のオブジェクトの中から不要なものを削除したあと、再度操作してください。

#### KAJT00029-E

---

指定したJP1資源グループは設定できません。アクセス権のあるJP1資源グループを設定してください

---

アクセス権のないJP1 資源グループを設定しようとしたため、処理が実行できませんでした。

(S)

処理を中断します。

(O)

正しいJP1 資源グループを設定し直し、再度実行してください。

#### KAJT00030-E

---

仮想ホストに割り当て済みのリソースが存在するため、割り当てを変更できません

---

仮想ホストに割り当たっているリソースが存在するため、割り当てを変更できません。

(S)

処理を中断します。

(O)

[ システムへのリソース割り当て ] 画面でリソースの割り当てを解除してから、再度実行してください。

#### KAJT00031-E

---

サーバの設定が変更されました。サーバに保存されていないデータは破棄されます  
ツリー表示領域で選択しているオブジェクトの親を選択し、最新の情報に更新してください  
詳細コード：詳細コード  
サーバからのエラーメッセージ：メッセージ

---

サーバの設定が変更されたため、処理を中断します。  
サーバに保存されていないデータは破棄されます。

(S)

処理を中断します。

(O)

選択しているオブジェクトの親を選択し、最新の情報に更新してください。

#### KAJT00032-E

---

指定したオブジェクトに対するアクセス権がありません  
ツリー表示領域で選択しているオブジェクトの親を選択し、最新の情報に更新してください

---

オブジェクトに対するアクセス権がなくなったため、現在の処理を実行できません。

(S)

処理を中断します。

(O)

選択しているオブジェクトの親を選択し、最新の情報に更新してください。

#### KAJT00042-E

---

指定した情報はすでに存在します

---

同名の情報がすでに存在します。

(S)

再度、入力待ちます。

(O)

項目を設定し直して、再度実行してください。

**KAJT00043-W**

選択中のNIC情報は、ほかの物理ホストでも使用されています  
処理をしてもよろしいですか？

選択中の NIC 情報を処理してよいかの確認です。

**(S)**

[ はい ] ボタンをクリックすると、選択中の NIC 情報を処理します。

[ いいえ ] ボタンをクリックすると、選択中の NIC 情報の処理を中断します。

**(O)**

選択中の NIC 情報を処理してよいか確認してから、再度操作してください。

**KAJT00701-E**

アプリケーションの実行に失敗しました  
実行コマンド：実行コマンド

アプリケーション実行中に、何らかの障害が発生しました。

**(S)**

アプリケーションの実行を打ち切ります。

**(O)**

以下の確認をしてから再度実行してください。

- Link & Launch 定義ファイルに指定されたアプリケーションがインストールされているか。
- JP1/IM - View を起動した OS ユーザーにアプリケーションの実行権限があるか。
- アプリケーションが実行できる権限で JP1/IM - View を起動しているか。

**KAJT00900-I**

Setup is completed.  
セットアップは正常に終了しました

jcovcmsetup セットアップコマンドは処理を正しく実行し終了しました。

**(S)**

リターンコード 0 を呼び出し側プロセスへ返して  
jcovcmsetup セットアップコマンドを終了します。

**KAJT00901-E**

Parameter is invalid.  
<<Usage>> jcovcmsetup [-i | -u]  
無効なパラメータが指定されました  
<<Usage>> jcovcmsetup [-i | -u]

jcovcmsetup セットアップコマンドの引数に無効なオプションが指定されました。

**(S)**

リターンコード 1 を呼び出し側プロセスへ返して

jcovcmsetup セットアップコマンドを終了します。

**(O)**

jcovcmsetup セットアップコマンドの引数に有効なオプションを指定してください。

- セットアップ処理をする場合は、" jcovcmsetup -i "または、" jcovcmsetup "と指定してください。
- アンセットアップ処理をする場合は、" jcovcmsetup -u "と指定してください。

**KAJT00902-E**

Setup failed. (Detailed information : 保守情報)  
セットアップに失敗しました。(詳細情報 : 保守情報)

jcovcmsetup セットアップコマンド実行中にシステムエラーが発生しました。

**(S)**

リターンコード 1 を呼び出し側プロセスへ返して  
jcovcmsetup セットアップコマンドを終了します。

**(O)**

以下の確認をしてから再度実行してください。

- ディスクの空き容量は十分か。
- メモリーの空き容量は十分か。

**KAJT00903-E**

You do not have permission to execute the setup program.  
セットアッププログラムを実行する権限がありません

Administrators 権限のあるアカウントで OS にログオンしていない場合、jcovcmsetup セットアップコマンドを実行できません。

**(S)**

リターンコード 1 を呼び出し側プロセスへ返して、  
jcovcmsetup セットアップコマンドを終了します。

**(O)**

jcovcmsetup セットアップコマンドを実行するには、Administrators 権限が必要です。  
Administrators 権限のあるアカウントで OS にログオンしてから再度実行してください。

**KAJT00904-E**

Setup cannot be executed because the installation was incorrect.  
正しくインストールされていないためセットアップできません

JP1/IM - View が正しくインストールされていない場合、jcovcmsetup セットアップコマンドを実行できません。

**(S)**

リターンコード 1 を呼び出し側プロセスへ返して  
jcovcmsetup セットアップコマンドを終了します。

(O)

JP1/IM - View が正しくインストールされていることを確認してから、再度実行してください。

**KAJT00905-E**

Setup cannot be executed because the filefolder was not found.

ショートカットの追加先が存在しないためセットアップできません

JP1/IM - View のプログラムフォルダが存在しない場合、jcovcmsetup セットアップコマンドはショートカットを追加できません。

(S)

リターンコード 1 を呼び出し側プロセスへ返して jcovcmsetup セットアップコマンドを終了します。

(O)

JP1/IM - View のインストール後に、[ スタート ] - [ プログラム ] で表示される、JP1/IM - View のメニューの位置や名称が変更されていないことを確認してから再度実行してください。

**KAJT00907-E**

Execute the command from the administrator console.  
管理者コンソールよりコマンドを実行してください。

このコマンドは管理者コンソール上で実行する必要があります。

(S)

コマンドを異常終了します。

(O)

管理者コンソール上でコマンドを再実行してください。

## 5.4.2 メッセージ ( KAJT01000 ~ KAJT01999 )

**KAJT01001-I**

The settings file for adaptor commands was successfully allocated.

アダプタコマンド設定ファイルの配置に成功しました

アダプタコマンド設定ファイルの配置に成功しました。

(O)

処理に成功したことを通知するメッセージです。

**KAJT01002-I**

The settings file for adaptor commands was successfully deleted.

アダプタコマンド設定ファイルの削除に成功しました

アダプタコマンド設定ファイルの削除に成功しました。

(O)

処理に成功したことを通知するメッセージです。

**KAJT01003-E**

An attempt to acquire directory information from the shared definition has failed.

共通定義からディレクトリ情報を取得する処理に失敗しました

共通定義からディレクトリ情報を取得する処理に失敗しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

**KAJT01004-E**

(パス名) did not exist.

(パス名)が存在しませんでした

パス (パス名) に、ファイルまたはディレクトリが存在しませんでした。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

**KAJT01005-E**

Access to (パス名) was refused.

(パス名)へのアクセスが拒否されました

パス (パス名) の、ファイルまたはディレクトリへのアクセスが拒否されました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

パス (パス名) のアクセス権限を確認してください。

**KAJT01006-E**

An error occurred during a system call.

システムコールでエラーが発生しました

システムコールでエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT01007-E

The memory is insufficient.  
メモリが不足しています

メモリーが不足しています。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

十分なメモリー領域を確保してから、コマンドを再実行してください。

#### KAJT01008-I

The settings file for adaptor commands did not exist.  
アダプタコマンド設定ファイルは存在しませんでした

アダプタコマンド設定ファイルは存在しませんでした。

#### KAJT01009-E

The user does not have Administrators permission.  
ユーザーはAdministrators権限を持っていません

ユーザーが Administrators 権限を持っていないため、実行できません。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

Administrators 権限を持つユーザーに変更して、再実行してください。

## 5.4.3 メッセージ ( KAJT02000 ~ KAJT02999 )

#### KAJT02000-W

論理ホスト(論理ホスト名)が存在しません

論理ホスト名の論理ホストが存在しません。

(S)

論理ホストの情報は取得しません。

(O)

論理ホストの指定見直してから、コマンドを再実行してください。

#### KAJT02001-W

指定された論理ホスト(論理ホスト名)で使用している共有ディレクトリ(共有ディレクトリ名)が見つかりません

指定された論理ホスト(論理ホスト名)で使用している共有ディレクトリ(共有ディレクトリ名)が見つかりません。

(S)

共有ディレクトリの情報は取得しません。

(O)

共有ディレクトリの情報を別途採取してください。

#### KAJT02002-E

取得情報名の情報が取得できませんでした

取得情報名の情報が取得できませんでした。

(S)

取得情報名で示す情報は取得しません。

(O)

採取できない資料を別途採取してください。

#### KAJT02003-E

ディレクトリ(ディレクトリ名)を作成できませんでした

ディレクトリ(ディレクトリ名)を作成できませんでした。

(S)

ディレクトリ名配下の情報は取得しません。

(O)

採取できないディレクトリの情報を別途採取してください。

#### KAJT02004-W

物理ホストで使用しているディレクトリ(ディレクトリ名)が見つかりません

物理ホストで使用しているディレクトリ(ディレクトリ名)が見つかりません。

(S)

ディレクトリ名の情報は取得しません。

(O)

採取できないディレクトリの情報を別途採取してください。

#### KAJT02005-W

Windowsイベントログ(イベントログ名)のサイズがサイズキロバイトを超えているため、採取しませんでした

Windows イベントログのサイズがサイズキロバイトを超えているため、採取しませんでした。

(S) イベントログ名のイベントログの情報は取得できません。

(O) 採取できない Windows イベントログを別途採取してください。

#### KAJT02006-I

---

Windows イベントログ(イベントログ名)ファイルを採取しました

---

イベントログ名の Windows イベントログを採取しました。

(O) 処理に成功したことを通知するメッセージです。

#### KAJT02007-E

---

ディスクの空き容量が足りません。処理を中断します

---

ディスクの空き容量が足りません。処理を中断します。

(S) jcm\_log.bat の処理を中断し終了します。

(O) 十分なディスク領域を確保してから、コマンドを再実行してください。

#### KAJT02008-E

---

ディスク容量が不足しているためコマンドの実行を中断します

---

ディスク容量が不足しているためコマンドの実行を中断します。

(S) jcm\_log.bat の処理を中断し終了します。

(O) 十分なディスク領域を確保してから、コマンドを再実行してください。

#### KAJT02009-E

---

コマンドオプションが不正です

---

コマンドオプションが不正です。

(S) jcm\_log.bat の処理を終了します。

(O) オプションの指定を見直してから、コマンドを再実行してください。

#### KAJT02010-E

---

オプションが不正です。処理を中断します

---

オプションが不正です。処理を中断します。

(S) jcm\_log.bat の処理を終了します。

(O) オプションの指定を見直してから、コマンドを再実行してください。

#### KAJT02011-E

---

メモリー不足です。処理を中断します

---

メモリーが不足しているため処理を中断します。

(S) jcm\_log.bat の処理を終了します。

(O) 十分なメモリー領域を確保してから、コマンドを再実行してください。

#### KAJT02012-E

---

メモリー不足のためコマンドの実行を中断します

---

メモリーが不足しているためコマンドの実行を中断します。

(S) jcm\_log.bat の処理を終了します。

(O) 十分なメモリー領域を確保してから、コマンドを再実行してください。

#### KAJT02013-E

---

Windows イベントログ(イベントログ名)は採取できませんでした

---

Windows イベントログは採取できませんでした。

(S) イベントログ名のイベントログの情報は取得されません。

(O) 採取できない Windows イベントログを別途採取してください。

#### KAJT02014-E

---

Windows イベントログ(イベントログ名)は採取できませんでした

---

Windows イベントログは採取できませんでした。

(S) イベントログ名のイベントログの情報は取得されません。

(O) 採取できない Windows イベントログを別途採取して



ください。

#### KAJT02015-W

マシンのシステム情報が正常に採取できませんでした

マシンのシステム情報が正常に採取できませんでした。

- (S) システム情報は取得しません。

- (O) 採取できないシステム情報を別途採取してください。

#### KAJT02016-W

ワトソログ・クラッシュダンプが正常に採取できませんでした

ワトソログ・クラッシュダンプが正常に採取できませんでした。

- (S) ワトソログ・クラッシュダンプは取得しません。

- (O) 採取できないワトソログ・クラッシュダンプを別途採取してください。

#### KAJT02017-W

バージョン情報が正常に採取できませんでした

バージョン情報が正常に採取できませんでした。

- (S) バージョン情報は取得しません。

- (O) 採取できないバージョン情報を別途採取してください。

#### KAJT02018-W

統合トレースログが正常に採取できませんでした

統合トレースログが正常に採取できませんでした。

- (S) 統合トレースログは取得しません。

- (O) 採取できない統合トレースログを別途採取してください。

#### KAJT02019-W

マシンに設定されているホスト名の設定が正常に採取できませんでした

マシンに設定されているホスト名の設定が正常に採取できませんでした。

- (S) マシンに設定されているホスト名の設定は取得しませ

ん。

- (O) 採取できないホスト名の情報を別途採取してください。

#### KAJT02020-W

マシンに設定されているサービスポートの設定の資料が正常に採取できませんでした

マシンに設定されているサービスポートの設定の資料が正常に採取できませんでした。

- (S) マシンに設定されているサービスポートの設定のは取得されません。

- (O) 採取できないサービスポートの情報を別途採取してください。

#### KAJT02021-W

共通定義情報が正常に採取できませんでした

共通定義情報が正常に採取できませんでした。

- (S) 共通定義情報は取得されません。

- (O) 採取できない共通定義情報を別途採取してください。

#### KAJT02022-W

JP1/IM, JP1/Baseのバインド状況が正常に採取できませんでした

JP1/IM, JP1/Base のバインド状況が正常に採取できませんでした。

- (S) JP1/IM, JP1/Base のバインド状況は取得しません。

- (O) 採取できないJP1/IM, JP1/Base のバインド状況を別途採取してください。

#### KAJT02023-W

NICの実装状況が正常に採取できませんでした

NICの実装状況が正常に採取できませんでした。

- (S) NICの実装状況は取得しません。

- (O) 採取できないNICの情報を別途採取してください。

#### KAJT02024-W

起動サービス一覧の資料が正常に採取できませんでした

起動サービス一覧の資料が正常に採取できませんでした。

(S)

起動サービス一覧は取得しません。

(O)

採取できない起動サービス一覧を別途採取してください。

#### KAJT02025-W

マシンの環境変数が正常に採取できませんでした

マシンの環境変数が正常に採取できませんでした。

(S)

マシンの環境変数は取得しません。

(O)

採取できない環境変数を別途採取してください。

#### KAJT02026-W

資料名の資料が正常に採取できませんでした

資料名の資料が正常に採取できませんでした。

(S)

資料名で示す情報は取得しません。

(O)

システム管理者に連絡してください。

#### KAJT02027-E

一部の資料が採取できませんでした

一部の資料が採取できませんでした。

(S)

一部の情報が取得されません。

(O)

システム管理者に連絡してください。

#### KAJT02028-I

資料の採取を正常に終了しました

資料の採取を正常に終了しました。

(O)

処理に成功したことを通知するメッセージです。

#### KAJT02029-E

ロケールの設定でシステムエラーが発生しました

ロケールの設定でシステムエラーが発生しました。

(S)

一部の情報が取得されません。

(O)

システム管理者に連絡してください。

#### KAJT02030-W

ロケールの設定に失敗したため、ロケールはCを仮定します

ロケールの設定に失敗したため、ロケールはCを仮定します。

(S)

ロケールはCを仮定します。

(O)

C以外のロケールを使用する場合は、設定し直してください。

#### KAJT02031-W

JP1共通定義情報が採取できませんでした

JP1 共通定義情報が採取できませんでした。

(S)

JP1 共通定義情報は採取しません。

(O)

採取できないJP1 共通定義情報を別途採取してください。

## 5.4.4 メッセージ ( KAJT04000 ~ KAJT04999 )

#### KAJT04000-E

Administrators権限で実行してください

Administrators 権限でないため、コマンドが実行できません。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

Administrators 権限を持つユーザーに変更して、コマンドを再実行してください。

#### KAJT04001-E

引数が不正です

コマンドのパラメーターの指定に誤りがあります。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

パラメーターを見直して、コマンドを再実行してください。

さい。

#### KAJT04002-E

レジストリーのアクセス処理でエラーが発生しました

レジストリーのアクセスに失敗したため、コマンドが実行できません。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

JP1/IM・CM または JP1/IM・CM の前提プログラムが正しくインストールされているか確認してください。

#### KAJT04003-I

DBのバックアップが正常に終了しました

DBのバックアップを正常に終了しました。

(O)

処理に成功したことを通知するメッセージです。

#### KAJT04004-E

DBの一部のバックアップに失敗しました

一部のデータがバックアップできませんでした。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

システム管理者に連絡してください。

#### KAJT04005-E

DBのすべてのバックアップに失敗しました

すべてのデータがバックアップできませんでした。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

システム管理者に連絡してください。

#### KAJT04006-I

DBのリカバリーが正常に終了しました

構成管理 DB のリカバリーが正常に終了しました。

(O)

処理に成功したことを通知するメッセージです。

#### KAJT04007-W

DBのリカバリーは正常に終了しましたが、警告レベルのエラーが発生しました

DBのリカバリーは正常に終了しましたが、リカバリーに関係ない警告レベルのエラーが発生しました。

(O)

処理に成功したことを通知するメッセージです。

#### KAJT04008-E

DBの一部のリカバリーに失敗しました

一部のデータがリカバリーできませんでした。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

システム管理者に連絡してください。

#### KAJT04009-E

DBのリカバリーに失敗しました

すべてのデータがリカバリーできませんでした。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

システム管理者に連絡してください。

#### KAJT04010-E

論理ホストが不正です

コマンドオプションで指定された論理ホスト名が不正です。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

コマンドオプションで指定した論理ホスト名を確認して、コマンドを再実行してください。

#### KAJT04011-E

バックアップファイル名が指定されていません

バックアップファイル名が指定されていません。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

コマンドオプションで指定したバックアップファイル名を指定してコマンドを再実行してください。

#### KAJT04012-E

-p オプションもしくは -b オプションにディレクトリ名が指定されました

オプションにディレクトリ名が指定されました。

(S)

## KAJT04013-I ~ KAJT04022-E

コマンドの処理を終了します。

(O)

コマンドオプションにファイル名を指定してコマンドを再実行してください。

### KAJT04013-I

バックアップ処理を開始します

構成管理 DB のバックアップを開始します。

(O)

処理に成功したことを通知するメッセージです。

### KAJT04014-I

リカバリー処理を開始します

構成管理 DB のリカバリーを開始します。

(O)

処理に成功したことを通知するメッセージです。

### KAJT04015-E

-p オプションまたは -b オプションに予約デバイス名が指定されました

オプションに予約デバイス名が指定されました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

コマンドオプションに通常のファイル名を指定してコマンドを再実行してください。

### KAJT04016-E

JP1/IM - CM サービスの停止をチェックする処理でエラーが発生しました(func=関数名, code=コード, message=メッセージ)

JP1/IM - CM サービスが停止しているか、チェックする処理でエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

システム管理者に連絡してください。

### KAJT04017-E

JP1/IM - CM サービスが起動中のため jcmbackup コマンドが実行できません

JP1/IM - CM サービスが起動中のため jcmbackup コマンドが実行できません。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

JP1/IM - CM サービスを停止した後、コマンドを再実行してください。

### KAJT04018-E

JP1/IM - CM サービスが起動中のため jcmrecovery コマンドが実行できません

JP1/IM - CM サービスが起動中のため jcmrecovery コマンドが実行できません。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

JP1/IM - CM サービスを停止した後、コマンドを再実行してください。

### KAJT04019-E

-b オプションで指定したファイルが存在しません

オプションで指定したファイルが存在しません。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

コマンドオプションに存在するバックアップファイル名を指定して、コマンドを再実行してください。

### KAJT04020-E

-p オプションまたは -b オプションに UNC パス名が指定されました

オプションに UNC 名が指定されました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

コマンドオプションに通常のファイル名を指定して、コマンドを再実行してください。

### KAJT04021-E

-b オプションにネットワークドライブ名が指定されました

オプションにネットワークドライブ名が指定されました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

コマンドオプションに通常のファイル名を指定して、コマンドを再実行してください。

### KAJT04022-E

-b オプションにストリーム名が指定されました

オプションにストリーム名が指定されました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

コマンドオプションに通常のファイル名を指定して、  
コマンドを再実行してください。

**KAJT04023-E**

This command cannot be executed because an access  
command of another configuration management  
database is executing.

他の構成管理DBアクセスコマンドが実行中のため本コマ  
ンドを実行できません

ほかの構成管理 DB アクセスコマンドが実行中のため、こ  
のコマンドを実行できません。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

ほかの jcmbackup コマンド、jcmrecovery コマン  
ド、または jcldbbrorg コマンドが実行中かどうか確  
認し、実行中の場合、そのコマンドが終了してから  
jcmbackup コマンド、jcmrecovery コマンド、ま  
たは jcldbbrorg コマンドを実行してください。

**KAJT04024-E**

An error occurred during initialization processing of JP1  
common definition information. (reason = 詳細要因)  
JP1共通定義情報の初期化処理でエラーが発生しました(  
詳細要因 = 詳細要因)

JP1 共通定義情報の初期化処理でエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理  
者に連絡してください。

**KAJT04025-E**

An attempt to initialize the database lock has failed.  
(reason = 詳細要因)

DBのロックの初期化に失敗しました(詳細要因 = 詳細要因)

DB のロックの初期化に失敗しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

システム環境が不正です。再度インストールおよび  
セットアップを実行してください。

**KAJT04026-E**

An attempt to acquire the database lock has failed.

(reason = 詳細要因)

DBのロックの取得に失敗しました(詳細要因 = 詳細要因)

DB のロックの取得に失敗しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

システム環境が不正です。再度インストールおよび  
セットアップを実行してください。

**KAJT04027-E**

An attempt to release the database lock has failed.

(reason = 詳細要因)

DBのロックの解放に失敗しました(詳細要因 = 詳細要因)

DB のロックの解放に失敗しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

システム環境が不正です。再度インストールおよび  
セットアップを実行してください。

**KAJT04028-E**

This command cannot be executed because the database  
is not running.

DBが起動していないため本コマンドを実行できません

DB が起動していないためこのコマンドを実行できませ  
ん。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

OS を再起動し、コマンドを再実行してください。そ  
れでも解決しない場合は、資料採取ツールを使って資  
料を採取し、システム管理者に連絡してください。

**KAJT04030-E**

An error occurred during processing to check whether the  
database service was running. (func = 関数名, code = コー  
ド, message = メッセージ)

DBのサービスが起動しているかチェックする処理でエ  
ラーが発生しました(func = 関数名, code = コード,  
message = メッセージ)

DB のサービスが起動しているかチェックする処理でエ  
ラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT04031-E

An error occurred during processing to start the internal command (コマンド名). (func = 関数名, code = コード, message = メッセージ)

内部コマンド(コマンド名)の起動処理でエラーが発生しました(func = 関数名, code = コード, message = メッセージ)

内部コマンドの起動処理でエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT04032-E

The length of the file name specified by the -p option or -b option exceeds the limit.

-p オプションまたは -b オプションで指定したファイル名の長さが制限値を超えています

-p オプションまたは -b オプションで指定したファイル名の長さが制限値を超えています。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

ファイル名のフルパス名の長さを 259 バイト以内、およびファイル名部分の長さを 255 文字以内にしてください。

#### KAJT04033-E

An error occurred during processing to acquire the full path name of the file name specified by the -p option or -b option. (func = 関数名, code = コード, message = メッセージ)

-p オプションまたは -b オプションで指定したファイル名のフルパス名を取得する処理でエラーが発生しました(func = 関数名, code = コード, message = メッセージ)

-p オプションまたは -b オプションで指定したファイル名のフルパス名を取得する処理でエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT04034-E

An error occurred during acquisition processing of the physical host name. (func = 関数名, code = コード, message = メッセージ)

物理ホスト名の取得処理でエラーが発生しました(func = 関数名, code = コード, message = メッセージ)

物理ホスト名の取得処理でエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT04035-E

An error occurred during a system call for Winsock. (func = 関数名, code = コード, message = メッセージ)

Winsock のシステムコールでエラーが発生しました(func = 関数名, code = コード, message = メッセージ)

Winsock のシステムコールでエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT04036-E

An error occurred during processing to generate the file name for the default file for output processing results. (func = 関数名, code = コード, message = メッセージ)

処理結果出力ファイルのデフォルトのファイル名の生成処理でエラーが発生しました(func = 関数名, code = コード, message = メッセージ)

処理結果出力ファイルのデフォルトのファイル名の生成処理でエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT04037-E

The length of the current directory name when a command starts exceeds the limit.

コマンド起動時のカレントディレクトリ名の長さが制限値を超えています

コマンド起動時のカレントディレクトリ名の長さが制限値を超えています。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

コマンド起動時のカレントディレクトリ名の長さを  
240 バイト (jcmbackup コマンドの場合) または  
238 バイト (jcmrecovery コマンドの場合) 以内に  
してください。

**KAJT04038-E**

An error occurred during processing to create the  
directory (ディレクトリ名). (func = 関数名, code = コード,  
message = メッセージ)

ディレクトリ(ディレクトリ名)の作成処理でエラーが発生  
しました(func = 関数名, code = コード, message = メ  
ッセージ)

ディレクトリの作成処理でエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

-p オプションまたは -b オプションで指定したファ  
イル名の指定内容に誤りがないか見直してください。

**KAJT04039-E**

An error occurred during processing to check whether the  
user who executed this command has Administrators  
permissions. (func = 関数名, code = コード, message =  
メッセージ)

本コマンドを実行したユーザーがAdministrators権限を  
もっているかチェックする処理でエラーが発生しました  
(func = 関数名, code = コード, message = メッセージ)

このコマンドを実行したユーザーが Administrators 権限  
を持っているかチェックする処理でエラーが発生しまし  
た。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理  
者に連絡してください。

**KAJT04040-E**

An error occurred during processing to create the file (フ  
ァイル名) specified by the -p option or -b option. (func =  
関数名, code = コード, message = メッセージ)

-p オプションまたは -b オプションで指定したファイル(  
ファイル名)の作成処理でエラーが発生しました(func = 関  
数名, code = コード, message = メッセージ)

-p オプションまたは -b オプションで指定したファイル  
の作成処理でエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

-p オプションまたは -b オプションで指定したファ

イルについて、message = メッセージの内容に従い見  
直してください。

**KAJT04041-E**

An error occurred during processing to access the tape  
drive. (func = 関数名, code = コード, message = メッセ  
ージ)

テープドライブのアクセス処理でエラーが発生しました  
(func = 関数名, code = コード, message = メッセージ)

テープドライブのアクセス処理でエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

-b オプションで指定したテープデバイスについて、  
message = メッセージの内容に従い見直してくださ  
い。

**KAJT04051-I**

The jcmdborg command will now start.  
DB再編成コマンドを開始します

DB 再編成コマンドを開始しました。

(O)

処理に成功したことを通知するメッセージです。

**KAJT04052-I**

Please wait for a while.  
しばらくお待ちください

DB 再編成コマンドの処理中です。

(O)

処理中であることを通知するメッセージです。

**KAJT04053-I**

The jcmdborg command ended normally.  
DB再編成コマンドが正常に終了しました

DB 再編成コマンドが正常に終了しました。

(O)

処理に成功したことを通知するメッセージです。

**KAJT04054-E**

An internal error occurred. (filename = ファイル名, line =  
行番号)

内部エラーが発生しました(filename = ファイル名, line =  
行番号)

DB 再編成コマンド実行中にエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT04055-E

Because the JP1/IM・CM service is starting, the jcmbdrorg command cannot be executed.  
JP1/IM-CMサービスが起動中のためjcmbdrorgコマンドが実行できません

JP1/IM-CM サービスが起動中のため jcmbdrorg コマンドが実行できません。

- (S) コマンドの処理を終了します。

- (O) JP1/IM-CM サービスを停止したあと、コマンドを再実行してください。

#### KAJT04057-E

The jcmbdrorg command failed.  
DB再編成コマンドが失敗しました

DB 再編成コマンドが失敗しました。

- (S) コマンドの処理を終了します。

- (O) 資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

## 5.4.5 メッセージ ( KAJT06000 ~ KAJT06999 )

#### KAJT06000-E

An internal error occurred. (exception message = メッセージ)  
内部エラーが発生しました(例外メッセージ=メッセージ)

DB アクセスで、メッセージが示す予期しないエラーが発生しました。

- (S) 処理を終了します。

- (O) メッセージを参照した上で、資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT06003-E

The initialization process is running.  
初期化処理中です

DB 初期化処理中に、処理要求が行われました。

- (S) 処理を終了します。

- (O) DB 初期化終了を待って、再度処理要求をしてください。

#### KAJT06004-E

The reloading process is running.  
リロード処理中です

リロード処理中に、処理要求が行われました。

- (S) 処理を終了します。

- (O) リロード処理終了を待って、再度処理要求をしてください。

#### KAJT06005-E

The termination process is running.  
終了処理中です

終了処理中に、処理要求が行われました。

- (S) 処理を終了します。

- (O) JP1/IM・CM が起動していることを確認し、再度処理要求をしてください。

#### KAJT06006-E

The stop process is running.  
停止中です

停止中に、処理要求が行われました。

- (S) 処理を終了します。

- (O) JP1/IM・CM が起動していることを確認し、再度処理要求をしてください。

#### KAJT06007-E

The service has started.  
起動しています

起動中に、初期化要求が行われました。

- (S) 処理を終了します。

- (O) JP1/IM・CM が停止していることを確認し、再度初期化処理要求をしてください。



**KAJT06011-E**

An error occurred during the database operation.  
(message = メッセージ, SQL statement = SQLメッセージ)  
DB操作中にエラーが発生しました(メッセージ=メッセージ, SQL文=SQLメッセージ)

データベース操作中に SQL メッセージのエラーが発生しました。

- (S)  
処理を終了します。
- (O)  
SQL メッセージの例外メッセージ中の HiRDB エラーコードを参照してください。

**KAJT06015-E**

The argument is invalid.  
引数が不正です

null が許可されない引数に null を指定、または、引数制限を満たさない引数が指定されました。

- (S)  
処理を終了します。
- (O)  
処理要求パラメーターを見直し、再度処理要求をしてください。

**KAJT06016-E**

The initialization process of DataSource failed. (SQL error code = SQLエラーコード, SQL error message = SQLエラーメッセージ)  
DataSourceの初期化処理に失敗しました(SQLエラーコード=SQLエラーコード, SQLエラーメッセージ=SQLエラーメッセージ)

初期化処理中に、DataSource の初期化処理が何らかの原因で失敗しました。

- (S)  
処理を終了します。
- (O)  
SQL エラーコード, SQL エラーメッセージ, 原因例外を参照してください。

**KAJT06017-E**

The termination process of DataSource failed. (SQL error code = SQLエラーコード, SQL error message = SQLエラーメッセージ)  
DataSourceの終了時処理に失敗しました(SQLエラーコード=SQLエラーコード, SQLエラーメッセージ=SQLエラーメッセージ)

終了処理中に、DataSource の終了処理が何らかの原因で失敗しました。

- (S)  
処理を終了します。

- (O)  
SQL エラーコード, SQL エラーメッセージ, 原因例外を参照してください。

**KAJT06018-E**

An attempt to establish connection has failed. (SQL error code = SQLエラーコード, SQL error message = SQLエラーメッセージ)  
Connectionの取得処理に失敗しました(SQLエラーコード=SQLエラーコード, SQLエラーメッセージ=SQLエラーメッセージ)

DB コネクション取得処理で、何らかの原因で例外が発生しました。

- (S)  
処理を終了します。
- (O)  
SQL エラーコード, SQL エラーメッセージ, 原因例外を参照してください。

**KAJT06019-E**

An attempt to release connection has failed. (SQL error code = SQLエラーコード, SQL error message = SQLエラーメッセージ)  
Connectionの解放処理に失敗しました(SQLエラーコード=SQLエラーコード, SQLエラーメッセージ=SQLエラーメッセージ)

DB コネクション解放処理で、何らかの原因で例外が発生しました。

- (S)  
処理を終了します。
- (O)  
SQL エラーコード, SQL エラーメッセージ, 原因例外を参照してください。

**KAJT06020-E**

An attempt to correctly generate an object has failed. (SQL statement = SQL文)  
オブジェクトを正しく生成できませんでした(SQL文=SQL文)

DB に対してレコードの作成した際に、何らかの原因で例外が発生しました。

- (S)  
処理を終了します。
- (O)  
資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT06021-E

---

An internal inconsistency occurred. (class name = クラス名, method name = メソッド名, information = 情報)  
内部矛盾が発生しました(クラス名=クラス名, メソッド名=メソッド名, 情報=情報)

---

DB アクセス部内で内部矛盾が発生しました。

- (S)  
処理を終了します。

- (O)  
資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT06024-E

---

An attempt to commit the transaction has failed. (SQL error code = SQLエラーコード, SQL error message = SQLエラーメッセージ)  
トランザクションのcommit処理に失敗しました(SQLエラーコード=SQLエラーコード, SQLエラーメッセージ=SQLエラーメッセージ)

---

トランザクション commit 時に、何らかの原因で例外が発生しました。

- (S)  
処理を終了します。
- (O)  
SQL エラーコード, SQL エラーメッセージ, 原因例外を参照してください。

#### KAJT06025-E

---

An attempt to rollback the transaction has failed. (SQL error code = SQLエラーコード, SQL error message = SQLエラーメッセージ)  
トランザクションのrollback処理に失敗しました(SQLエラーコード=SQLエラーコード, SQLエラーメッセージ=SQLエラーメッセージ)

---

トランザクション rollback 時に、何らかの原因で例外が発生しました。

- (S)  
処理を終了します。
- (O)  
SQL エラーコード, SQL エラーメッセージ, 原因例外を参照してください。

#### KAJT06026-E

---

An error occurred during the acquisition of common definition information. (exception message = メッセージ)  
共通定義情報取得処理中に例外が発生しました(例外メッセージ=メッセージ)

---

DB アクセス部内の共通情報取得処理中に、メッセージで示す例外が発生しました。

- (S)  
処理を終了します。

- (O)  
メッセージを参照してください。

#### KAJT06031-E

---

The specified property is read only. (property name = プロパティ名)  
指定されたプロパティは、読み取り専用です(プロパティ名=プロパティ名)

---

読み取り専用プロパティ対して、更新系の処理が行われませんでした。

- (S)  
処理を終了します。
- (O)  
プロパティが読み取り専用でないか確認した上で、再度処理要求をしてください。

#### KAJT06033-E

---

The server was reloaded.  
サーバがリロードされました

---

ログイン中にサーバがリロードされました。

- (S)  
処理を終了します。
- (O)  
再度処理要求をしてください。

#### KAJT06034-E

---

An attempt to upgrade the data model version has failed. (information = 情報)  
データモデルのバージョンアップ処理に失敗しました(情報=情報)

---

起動時にデータモデルのバージョンアップ処理に失敗しました。

- (S)  
サービスを停止します。
- (O)  
システム環境が不正です。再度インストールしてください。それでも解決しない場合は、資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT06035-E

---

An attempt to upgrade the data model version failed because an error occurred during database operation. (message = メッセージ, SQL statement = SQL文)  
DB操作中にエラーが発生したため、データモデルのバージョンアップ処理に失敗しました(メッセージ=メッセージ, SQL文=SQL文)

---

DB 操作中に SQL メッセージの例外が発生したため、データモデルのバージョンアップ処理に失敗しました。

(S)

サービスを停止します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT06036-I

The upgrade of the data model ended normally.  
データモデルのバージョンアップが正常に終了しました

データモデルのバージョンアップが正常に終了しました。

(O)

処理に成功したことを通知するメッセージです。

### 5.4.6 メッセージ ( KAJT08000 ~ KAJT08999 )

#### KAJT08003-W

The number of IP addresses (定義数) corresponding to the host (ホスト名) exceeds the supported number (サポート数). Only the first サポート数 IP addresses will be applied.

ホスト名(ホスト名)に対応するIPアドレス数がサポートしている数(サポート数)を超える値(定義数)であるため、サポート数までしか有効になりません

ホスト名に対応する IP アドレス数がサポートしている値を超えています。

(S)

有効な IP アドレス数分で起動しました。

(O)

ホスト名に対応する IP アドレスの指定を見直してください。

#### KAJT08004-E

An attempt to bind all IP addresses (定義数) corresponding to the host (ホスト名) has failed.  
ホスト名(ホスト名)に対応するIPアドレスのすべて(定義数)に対してバインド処理に失敗しました

ホスト名に対応する IP アドレスすべてに対してバインドが失敗しました。

(S)

JP1/IM - CM またはコマンドを終了します。

(O)

ホスト名に対応する IP アドレスの指定を見直してください。

ださい。

#### KAJT08005-I

An attempt to bind all IP addresses (成功数) corresponding to the host (ホスト名) succeeded.  
ホスト名(ホスト名)に対応するIPアドレスのすべて(成功数)に対してバインド処理に成功しました

ホスト名に対応する IP アドレスすべてに対してバインドが成功しました。

(O)

処理に成功したことを通知するメッセージです。

#### KAJT08006-W

An attempt to bind IP addresses corresponding to the host (ホスト名) has partly (失敗数) failed. The successfully bound IP addresses will be used.  
ホスト名(ホスト名)に対応するIPアドレスの一部(失敗数)についてバインド処理が失敗しました。成功したIPアドレス有効数だけ使用します

ホスト名に対応する IP アドレスの一部についてバインドが失敗しました。成功した IP アドレスだけ使用します。

(S)

バインドに成功した IP アドレス分だけで起動しました。

(O)

ホスト名に対応する IP アドレスの指定を見直してください。

### 5.4.7 メッセージ ( KAJT10000 ~ KAJT10999 )

#### KAJT10100-E

An internal error occurred.  
内部処理でエラーが発生しました

検索コマンドの実行中にエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT10101-E

Login failed.  
ログインに失敗しました

検索コマンドのパラメーターで指定したユーザーに誤りがあります。

## KAJT10104-E ~ KAJT10112-E

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) ユーザー名を見直して、コマンドを再実行してください。

### KAJT10104-E

Logout failed.  
ログアウトに失敗しました

検索コマンドの実行中にエラーが発生しました。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) 資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

### KAJT10105-E

An attempt to output the search result has failed.  
検索結果の出力に失敗しました

検索結果の出力に失敗しました。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) 資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

### KAJT10106-E

Searching failed.  
検索処理に失敗しました

検索処理に失敗しました。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) 資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

### KAJT10107-I

Result: The object does not exist.  
検索結果：オブジェクトが存在しません

指定したオブジェクトは存在しません。

- (O) 処理に成功したことを通知するメッセージです。

### KAJT10108-E

An error occurred during the user mapping.  
ユーザーマッピング処理でエラーが発生しました

ユーザーマッピングの処理でエラーが発生しました。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) ユーザーマッピングの設定を見直して、コマンドを再実行してください。

### KAJT10109-E

The command argument is invalid.  
コマンドの引数が不正です

検索コマンドで指定したパラメーターが不正です。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) パラメーターの指定を見直して、コマンドを再実行してください。

### KAJT10110-E

An attempt to invoke the JavaVM has failed.  
JavaVMの起動に失敗しました

JavaVM の起動に失敗しました。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) 資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

### KAJT10111-E

The option(-h) was specified two or more times. Or, the value of the option(-h) is not specified.  
オプション(-h)が二つ以上指定されました。または、オプション(-h)の値が指定されませんでした

検索コマンドのパラメーターに -h が 2 回以上指定されているか、指定がありません。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) パラメーターの論理ホスト名の指定を見直して、コマンドを再実行してください。

### KAJT10112-E

The logical host name was invalid.  
論理ホスト名が不正です

論理ホスト名の指定が不正です。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) パラメーターの論理ホスト名の指定を確認し、コマン

ドを再実行してください。

#### KAJT10113-E

The initialization process of the common definition failed.

共通定義の初期化処理に失敗しました

共通定義の初期化に失敗しました。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) 資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT10114-E

The memory is insufficient.  
メモリー不足が発生しました

メモリー不足が発生しました。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) 使用できるメモリーを確認し、コマンドを再実行してください。

#### KAJT10115-E

An internal error occurred during the execution of jcmgetobj command.

検索コマンド実行中に、内部エラーが発生しました

検索コマンド実行中に、内部エラーが発生しました。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) 資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT10116-E

The user does not have Administrators permission.  
ユーザーはAdministrators権限を持っていません

Administrators 権限でないため、実行できません。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) Administrators 権限を持つユーザーに変更して、再実行してください。

#### KAJT10117-E

The reload command executed, so the execution of the command will now be terminated.

コマンド実行中にリロードされたため処理を中止します

検索コマンドの実行中にリロードが行われたため、コマンドの実行を中止しました。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) リロード完了後、コマンドを再実行してください。

#### KAJT10200-E

The specified UROI character in the query UROI文字列 is invalid.

指定された検索内容のUROI文字列(UROI文字列)が不正です

検索コマンドのパラメーターで指定した UROI 文字列に誤りがあります。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) パラメーターの UROI 文字列を見直して、コマンドを再実行してください。

#### KAJT10201-E

The specified UROI character in the query does not exist.  
指定された検索内容のUROI文字列が存在しません

検索コマンドのパラメーターで指定した検索内容に誤りがあります。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) パラメーターの検索内容を見直して、コマンドを再実行してください。

#### KAJT10202-E

The specified operation character in the query検索内容は invalid.

指定された検索内容(検索内容)の操作内容文字列が不正です

検索コマンドのパラメーターで指定した検索内容の操作内容文字列に誤りがあります。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) パラメーターの検索内容の操作内容文字列を見直して、コマンドを再実行してください。

### KAJT10203-E

The specified operation character in the query does not exist.

指定された検索内容の操作内容文字列が存在しません

検索コマンドのパラメーターで指定した検索内容の操作内容文字列に誤りがあります。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

パラメーターの検索内容の操作内容文字列を見直して、コマンドを再実行してください。

### KAJT10204-E

The specified condition character検索条件文字列 in the query is invalid.

指定された検索内容の検索条件文字列(検索条件文字列)が不正です

検索コマンドのパラメーターで指定した検索内容の検索条件文字列が不正です。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

パラメーターの検索内容の検索条件文字列を見直して、コマンドを再実行してください。

### KAJT10205-E

The specified condition character in the query does not exist.

指定された検索内容の検索条件文字列が存在しません

検索コマンドのパラメーターで指定した検索内容の検索条件文字列が存在しません。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

パラメーターの検索内容の検索条件文字列を見直して、コマンドを再実行してください。

### KAJT10206-E

The specified query文字列 is invalid.

指定された検索内容の文字列(文字列)が不正です

検索コマンドのパラメーターで指定した検索内容の文字列が不正です。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

パラメーターの検索内容の文字列を見直して、コマンドを再実行してください。

### KAJT10207-E

The specified layer character in the query is invalid.

指定された検索内容のlayerが不正です

検索コマンドのパラメーターで指定した検索内容の layer が不正です。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

パラメーターの検索内容の layer を見直して、コマンドを再実行してください。

### KAJT10208-E

The specified wildcard in the query is invalid.

指定された検索内容のワイルドカードの使用法が不正です

検索コマンドのパラメーターで指定した検索内容が不正です。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

パラメーターの検索内容のワイルドカードを見直して、コマンドを再実行してください。

### KAJT10209-E

The specified literal character リテラル文字列 in the query is invalid.

指定された検索内容のリテラル文字列(リテラル文字列)が不正です

検索コマンドのパラメーターで指定した検索内容のリテラル文字列が不正です。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

パラメーターの検索内容のリテラル文字列を見直して、コマンドを再実行してください。

### KAJT10210-E

The specified logical operator character論理演算子文字列 in the query is invalid.

指定された検索内容の論理演算子文字列(論理演算子文字列)が不正です

検索コマンドのパラメーターで指定した検索内容の論理演算子文字列が不正です。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

パラメーターの検索内容の論理演算子文字列を見直して、コマンドを再実行してください。

**KAJT10211-E**

The strings in the specified query are in an invalid order.  
指定された検索内容の文字列の順番が不正です

検索コマンドのパラメーターで指定した検索内容の文字列の順番が不正です。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) パラメーターの検索内容の文字列の順番を見直して、コマンドを再実行してください。

**KAJT10212-E**

The specified query contains an unexpected character文字列.  
指定された検索内容に予期しない文字列(文字列)が含まれます

検索コマンドのパラメーターで指定した検索内容が不正です。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) パラメーターの検索内容を見直して、コマンドを再実行してください。

**KAJT10213-E**

The query is not specified.  
検索内容が指定されていません

検索コマンドのパラメーターに検索内容が指定されていません。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) パラメーターに検索内容を指定して、コマンドを再実行してください。

**KAJT10214-E**

The end of the line was detected during the search of the logical operator of the specified query (検索内容)  
指定された検索内容(検索内容)の論理演算子文字列取得中に  
行の終わりに達しました

検索コマンドのパラメーターで指定した検索内容が不正です。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) パラメーターの検索内容を見直して、コマンドを再実行してください。

**KAJT10215-E**

The specified property name プロパティ名 is invalid.  
指定されたプロパティ名(プロパティ名)が不正です

検索コマンドのパラメーターで指定したプロパティ名が不正です。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) パラメーターのプロパティ名を見直して、コマンドを再実行してください。

**KAJT10216-E**

The combination of the UROI (UROI文字列) and operation (検索内容) is invalid.  
UROI文字列(UROI文字列)と検索内容(検索内容)の組み合わせが不正です

検索コマンドのパラメーターで指定した UROI 文字列と検索内容の組み合わせが不正です。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) パラメーターの UROI 文字列と検索内容の組み合わせを見直して、コマンドを再実行してください。

**KAJT10217-E**

When パラメーター is specified in the query, the condition cannot be specified.  
操作内容にパラメーターを指定した場合、検索条件は指定できません

検索コマンドのパラメーターの指定が不正です。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) パラメーターの指定を見直して、コマンドを再実行してください。

**KAJT10300-E**

The number of retrieved objects is invalid.  
検索されたオブジェクトの数が不正です

検索コマンドの実行中にエラーが発生しました。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) 資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT10301-E

---

The specified output format is invalid.  
出力フォーマットが不正です

---

検索コマンドの実行中にエラーが発生しました。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) 資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT10302-E

---

The retrieved object is invalid.  
検索されたオブジェクトが不正です

---

検索コマンドの実行中にエラーが発生しました。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) 資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT10400-E

---

The value that indicates the retrieved content is invalid.  
検索内容文字列を示す値が不正です

---

検索コマンドの実行中にエラーが発生しました。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) 資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT10401-E

---

An attempt to get a comparator has failed.  
比較子取得に失敗しました

---

検索コマンドの実行中にエラーが発生しました。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) 資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT10402-E

---

The specified argument オプション名 is not an integer.  
引数(オプション名)がINT型ではありません

---

検索コマンドの実行中にエラーが発生しました。

- (S) コマンドの処理を終了します。

- (O) 資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT10403-E

---

The specified argument オプション名 is not a float value.  
引数(オプション名)がFLOAT型ではありません

---

検索コマンドの実行中にエラーが発生しました。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) 資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT10404-E

---

The specified comparator value is invalid.  
比較子種別が不正です

---

検索コマンドの実行中にエラーが発生しました。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) 資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT10405-E

---

The specified factor value is invalid.  
ファクタ種別が不正です

---

検索コマンドの実行中にエラーが発生しました。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) 資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT10406-E

---

The specified logical operator value is invalid.  
論理演算子種別が不正です

---

検索コマンドの実行中にエラーが発生しました。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) 資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。



## 5.4.8 メッセージ ( KAJT12000 ~ KAJT12999 )

### KAJT12001-E

The process was terminated abnormally.  
情報収集コマンドが異常終了しました

情報収集コマンドが異常終了しました。

- (S)            コマンドの処理を終了します。
- (O)            資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

### KAJT12002-E

A memory shortage occurred.  
メモリー不足が発生しました

メモリー不足が発生しました。

- (S)            コマンドの処理を終了します。
- (O)            使用できるメモリーを確認し、コマンドを再実行してください。

### KAJT12003-E

The logical host name is invalid.  
論理ホスト名が不正です

論理ホスト名の指定が不正です。

- (S)            コマンドの処理を終了します。
- (O)            パラメーターの論理ホスト名の指定を確認し、コマンドを再実行してください。

### KAJT12004-E

The option(-h) was specified two or more times. Or, the value of the option(-h) is not specified.  
オプション(-h)が二つ以上指定されました。または、オプション(-h)の値が指定されませんでした

情報集コマンドのパラメーターに-hが2回以上指定されているか、指定がありません。

- (S)            コマンドの処理を終了します。
- (O)            パラメーターの論理ホスト名の指定を見直して、コマンドを再実行してください。

### KAJT12005-E

It failed in the initialization of a common definition.  
共通定義の初期化処理に失敗しました

共通定義の初期化に失敗しました。

- (S)            コマンドの処理を終了します。
- (O)            資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

### KAJT12007-I

The information gathering will now start.  
情報収集を開始します

情報収集を開始しました。

- (O)            処理に成功したことを通知するメッセージです。

### KAJT12008-I

The connection with the server was established successfully.  
サーバとの接続に成功しました

サーバとの接続に成功しました。

- (O)            処理に成功したことを通知するメッセージです。

### KAJT12009-I

Please wait for a while.  
しばらくお待ちください

情報収集処理中です。

- (O)            処理中であることを通知するメッセージです。

### KAJT12010-I

The collection of information finished successfully.  
情報収集が正常に終了しました

情報収集が正常に終了しました。

- (O)            処理に成功したことを通知するメッセージです。

### KAJT12100-E

An internal error occurred.  
内部処理でエラーが発生しました

情報収集コマンドの実行中にエラーが発生しました。

- (S)            コマンドの処理を終了します。
- (O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT12101-E

---

Login failed.  
ログインに失敗しました

---

情報収集コマンドのパラメーターで指定したユーザーに誤りがあります。

- (S)                    コマンドの処理を終了します。
- (O)                    パラメーターのユーザー名を見直して、コマンドを再実行してください。

#### KAJT12102-E

---

The connection with the server was closed.  
サーバとの通信が切断されました

---

認証サーバとの通信でエラーが発生しました。

- (S)                    コマンドの処理を終了します。
- (O)                    資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT12103-E

---

An attempt to get the update permission failed because the database is locked by another session.  
別セッションでデータベースがロックされているため更新権が取得できませんでした

---

すでに他で構成管理 DB の更新処理中です。

- (S)                    コマンドの処理を終了します。
- (O)                    ほかの更新処理が完了してから、コマンドを再実行してください。

#### KAJT12105-E

---

An attempt to connect to the authentication server has failed.  
認証サーバへの接続が失敗しました

---

認証サーバとの通信でエラーが発生しました。

- (S)                    コマンドの処理を終了します。
- (O)                    認証サーバが起動しているか確認してください。起動している場合には、資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT12106-E

---

An attempt to establish the connection has failed.  
コネクションの接続に失敗しました

---

認証サーバとの通信でエラーが発生しました。

- (S)                    コマンドの処理を終了します。
- (O)                    認証サーバが起動しているか確認してください。起動している場合には、資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT12107-E

---

The specified user does not have JP1\_CM\_Admin permission.  
指定ユーザーにJP1\_CM\_Admin権限がありません

---

情報収集コマンドのパラメーターで指定したユーザーにJP1\_CM\_Admin の権限がありません。

- (S)                    コマンドの処理を終了します。
- (O)                    JP1 ユーザーの権限を見直し、コマンドを再実行してください。

#### KAJT12108-E

---

An attempt to connect to the server has failed.  
サーバに接続できませんでした

---

JP1/IM・CM との通信でエラーが発生しました。

- (S)                    コマンドの処理を終了します。
- (O)                    JP1/IM・CM が起動しているか確認してください。起動している場合には、資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT12109-E

---

An attempt to get the access permission has failed.  
アクセス権限の取得に失敗しました

---

認証サーバからのアクセス権取得でエラーが発生しました。

- (S)                    コマンドの処理を終了します。
- (O)                    認証サーバのアクセス権の設定を見直し、コマンドを再実行してください。

**KAJT12110-E**

User authentication failed.  
ユーザー認証に失敗しました

認証サーバの認証でエラーが発生しました。

**(S)**

コマンドの処理を終了します。

**(O)**

認証サーバの設定を見直し、コマンドを再実行してください。

**KAJT12111-E**

An attempt to get the mapped user has failed.  
マッピングされたユーザーの取得に失敗しました

ユーザーマッピングの取得に失敗しました。

**(S)**

コマンドの処理を終了します。

**(O)**

ユーザーマッピングの設定を見直し、コマンドを再実行してください。

**KAJT12112-E**

The mapped user does not exist.  
マッピングされたユーザーが存在しません

ログイン OS ユーザーに対する JP1 ユーザーのマッピングがありません。

**(S)**

コマンドの処理を終了します。

**(O)**

ログイン OS ユーザーに JP1 ユーザーをマッピングし、コマンドを再実行してください。

**KAJT12113-E**

The reload command executed, so the execution of the command will now be terminated.  
コマンド実行中にリロードされたため処理を中止します

情報収集コマンドの実行中にリロードが行われたため、コマンドの実行を中止しました。

**(S)**

コマンドの処理を終了します。

**(O)**

リロード完了後、コマンドを再実行してください。

**KAJT12114-E**

An attempt to output the result has failed.  
収集情報の結果出力に失敗しました

情報収集コマンドで結果出力に失敗しました。

**(S)**

コマンドの処理を終了します。

**(O)**

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

**KAJT12200-E**

Please specify -t { ALL | LOGICAL | PHYSICAL | APPOINT }.  
-t { ALL | LOGICAL | PHYSICAL | APPOINT } を指定してください

情報収集コマンドで必要なオプションが指定されていません。

**(S)**

コマンドの処理を終了します。

**(O)**

パラメーターの指定を見直して、コマンドを再実行してください。

**KAJT12201-E**

The same argument cannot be specified repeatedly.  
オプションは重複して指定できません

情報収集コマンドでオプションが重複して指定されています。

**(S)**

コマンドの処理を終了します。

**(O)**

パラメーターの指定を見直して、コマンドを再実行してください。

**KAJT12202-E**

The user name was not specified.  
ユーザー名が指定されていません

情報収集コマンドでオプションにユーザー名が指定されていません。

**(S)**

コマンドの処理を終了します。

**(O)**

パラメーターの指定を見直して、コマンドを再実行してください。

**KAJT12210-E**

Please specify -t <InformationType>.  
-t <取得タイプ>を指定してください

情報収集コマンドで -t オプションの指定に誤りがあります。

**(S)**

コマンドの処理を終了します。

## KAJT12211-E ~ KAJT12218-E

(O)

パラメーターの指定を見直して、コマンドを再実行してください。

### KAJT12211-E

Please specify -a <InformationName:Information>.  
-a <取得情報名:取得情報>を指定してください

情報収集コマンドで -a オプションの指定に誤りがあります。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

パラメーターの指定を見直して、コマンドを再実行してください。

### KAJT12212-E

Please specify -c <ProductName>.  
-c <取得先プロダクト名>を指定してください

情報収集コマンドで -c オプションの指定に誤りがあります。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

パラメーターの指定を見直して、コマンドを再実行してください。

### KAJT12213-E

Please specify -s <HostName>.  
-s <取得先ホスト名>を指定してください

情報収集コマンドで -s オプションの指定に誤りがあります。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

パラメーターの指定を見直して、コマンドを再実行してください。

### KAJT12214-E

Please specify -u <JP1UserName>.  
-u <ユーザー名>を指定してください

情報収集コマンドで -u オプションの指定に誤りがあります。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

パラメーターの指定を見直して、コマンドを再実行してください。

### KAJT12215-E

Please specify -p <JP1UserPassword>.  
-p <パスワード>を指定してください

情報収集コマンドで -p オプションの指定に誤りがあります。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

パラメーターの指定を見直して、コマンドを再実行してください。

### KAJT12216-E

Please specify -h <LogicalHostName>.  
-h <論理ホスト名>を指定してください

情報収集コマンドで -h オプションの指定に誤りがあります。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

パラメーターの指定を見直して、コマンドを再実行してください。

### KAJT12217-E

The specified option (オプション名) is invalid.  
不正なオプション(オプション名)が指定されました

不正なオプションが指定されました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

パラメーターの指定を見直して、コマンドを再実行してください。

### KAJT12218-E

The specified argument -a  
<InformationName:Information> does not have ":".  
-a <取得情報名:取得情報>で「:」がありません

情報収集コマンドで -a オプションの指定に誤りがあります。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

パラメーターの指定を見直して、コマンドを再実行してください。

**KAJT12219-E**

The host name specified for -s <HostName> is longer than 255 characters. Specify a host name less than 255 characters.

-s <取得先ホスト名>でホスト名が長過ぎます。255文字以下にしてください

情報収集コマンドで -s オプションで指定するホスト名は 255 文字以下にする必要があります。

**(S)**

コマンドの処理を終了します。

**(O)**

パラメーターの指定を見直して、コマンドを再実行してください。

**KAJT12220-E**

Specify -a <InformationName:Information> or -s <HostName>.

-s <取得先ホスト名>か、-a <取得情報名: 取得情報>が必要です

情報収集コマンドで -s オプションか -a オプションのどちらかを指定する必要があります。

**(S)**

コマンドの処理を終了します。

**(O)**

パラメーターの指定を見直して、コマンドを再実行してください。

**KAJT12221-E**

-a <InformationName> can be specified only when -t APPOINT is specified.

-a <取得情報名>は -t APPOINT 指定時だけ指定してください

情報収集コマンドで -a <取得情報名> は、-t APPOINT 指定時だけ指定指定できます。

**(S)**

コマンドの処理を終了します。

**(O)**

パラメーターの指定を見直して、コマンドを再実行してください。

**KAJT12222-E**

-c <ProductName> can be specified only when -t APPOINT is specified.

-c <取得先プロダクト名>は -t APPOINT 指定時だけ指定してください

情報収集コマンドで -c <取得先プロダクト名> は、-t APPOINT 指定時だけ指定指定できます。

**(S)**

コマンドの処理を終了します。

**(O)**

パラメーターの指定を見直して、コマンドを再実行してください。

**KAJT12223-E**

-a <InformationName> and -c <ProductName> cannot be specified at the same time.

-a <取得情報名>と -c <取得先プロダクト名>は同時に指定できません

情報収集コマンドで -a <取得情報名> と -c <取得先プロダクト名> は同時に指定できません。

**(S)**

コマンドの処理を終了します。

**(O)**

パラメーターの指定を見直して、コマンドを再実行してください。

**KAJT12224-E**

-a <InformationName> and -c <HostName> cannot be specified at the same time.

-a <取得情報名>と -s <取得先ホスト名>は同時に指定できません

情報収集コマンドで -a <取得情報名> と -s <取得先ホスト名> は同時に指定できません。

**(S)**

コマンドの処理を終了します。

**(O)**

パラメーターの指定を見直して、コマンドを再実行してください。

**KAJT12225-E**

Specify -o <OutputFileName>.

-o <出力ファイル名>を指定してください

情報収集コマンドで -o オプションの指定に誤りがあります。

**(S)**

コマンドの処理を終了します。

**(O)**

パラメーターの指定を見直して、コマンドを再実行してください。

**KAJT12226-E**

-c <ProductName> specify -s <HostName>.

-c <取得先プロダクト名>を指定する場合は -s <取得先ホスト名>が必要です

情報収集コマンドで -c オプションの指定に誤りがあります。

**(S)**

## KAJT12227-E ~ KAJT12256-E

コマンドの処理を終了します。

(O)

パラメーターの指定を見直して、コマンドを再実行してください。

### KAJT12227-E

-s <HostName> can be specified only when -t APPOINT is specified.

-s <取得先ホスト名>は -t APPOINT指定時だけ指定してください

情報収集コマンドで -s オプションの指定に誤りがあります。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

パラメーターの指定を見直して、コマンドを再実行してください。

### KAJT12250-E

The specified information type is invalid. Please specify one of the following: ALL, LOGICAL, PHYSICAL, or APPOINT.

不正な取得タイプが指定されましたALL, LOGICAL, PHYSICAL, APPOINTを指定してください

情報収集コマンドのパラメーターに不正な取得タイプが指定されました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

ALL, LOGICAL, PHYSICAL, APPOINT を指定して、コマンドを再実行してください。

### KAJT12251-E

The specified information type is invalid. Please specify one of the following. COSMINEXUS, HIRDB, AIM, SCCM, or NC.

不正な取得タイプが指定されました。COSMINEXUS, HIRDB, AIM, SCCM, NCを指定してください

情報収集コマンドのパラメーターに不正な取得タイプが指定されました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

COSMINEXUS, HIRDB, AIM, SCCM, NC を指定して、コマンドを再実行してください。

### KAJT12252-E

A colon is missing in (オプション名).

(オプション名)にコロンの不足しています

情報収集コマンドのパラメーターの指定に誤りがあります。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

パラメーターの指定を見直し、コマンドを再実行してください。

### KAJT12253-E

Do not use a comma.

コンマを使用しないでください

情報収集コマンドのパラメーターの指定に誤りがあります。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

パラメーターの指定を見直し、コマンドを再実行してください。

### KAJT12254-E

Enter (オプション) in the format

<InformationName:Information >.

(オプション)は、<取得情報名:取得情報>の形式で入力してください

情報収集コマンドのパラメーターの指定に誤りがあります。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

パラメーターの指定を見直し、コマンドを再実行してください。

### KAJT12255-E

The format of the information (取得情報) is invalid.

取得情報(取得情報)のフォーマットが不正です

情報収集コマンドのパラメーターの指定に誤りがあります。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

パラメーターの指定を見直し、コマンドを再実行してください。

### KAJT12256-E

Please enter a period repeatedly (".") in the information because a single period is treated as a delimiter.

ピリオドは区切り文字として判断するため、取得情報に含まれるピリオドは二つ重ね「..」で表現してください

情報収集コマンドのパラメーターの指定に誤りがあります。

- (S)  
コマンドの処理を終了します。

- (O)  
パラメーターの指定を見直し、コマンドを再実行してください。

#### KAJT12258-E

The specified name (オプション) is invalid.  
(オプション)は不正な名称です

情報収集コマンドのパラメーターの指定に誤りがあります。

- (S)  
コマンドの処理を終了します。

- (O)  
パラメーターの指定を見直し、コマンドを再実行してください。

#### KAJT12260-I

The jcmgetinfo command will now start. (JPluser = (ユーザー名), host name = (ホスト名), logical host name = (論理ホスト名), product name = (プロダクト名), information Name = (取得情報), information type = (取得タイプ))  
情報収集コマンドを開始します。ユーザー名:(ユーザー名), ホスト名:(ホスト名), 論理ホスト名:(論理ホスト名), プロダクト名:(プロダクト名), 取得情報:(取得情報), 取得タイプ:(取得タイプ)

情報収集コマンドの実行ログです。

- (O)  
処理に成功したことを通知するメッセージです。

#### KAJT12300-E

(ホスト名) is not a management target host.  
(ホスト名)は管理対象ホストではありません

指定したホスト名は管理対象ホストではありません。

- (S)  
コマンドの処理を終了します。

- (O)  
パラメーターの指定を見直し、コマンドを再実行してください。

#### KAJT12301-E

(ホスト名) does not exist in the management target host.  
(ホスト名)は管理対象ホスト内に存在しません

指定したホスト名は管理対象ホスト内に存在しません。

- (S)

コマンドの処理を終了します。

- (O)  
パラメーターの指定を見直し、コマンドを再実行してください。

#### KAJT12302-E

The linked product does not exist in the management target host.  
連携するプロダクトが管理対象ホスト内に存在しません

指定したホスト名は管理対象ホストではありません。

- (S)  
コマンドの処理を終了します。

- (O)  
パラメーターの指定を見直し、コマンドを再実行してください。

#### KAJT12303-E

The specified host (ホスト名) is invalid.  
(ホスト名)は不正なホスト名です

指定したホスト名は不正なホスト名です。

- (S)  
コマンドの処理を終了します。

- (O)  
パラメーターの指定を見直し、コマンドを再実行してください。

#### KAJT12304-E

An attempt to generate the file (ファイル名) has failed.  
ファイル(ファイル名)の生成に失敗しました

ファイル(ファイル名)が生成できませんでした。

- (S)  
コマンドの処理を終了します。

- (O)  
パラメーターの指定を見直し、コマンドを再実行してください。

#### KAJT12305-E

An attempt to access the file (ファイル名) has failed.  
ファイル(ファイル名)にアクセスできません

ファイル(ファイル名)にアクセスできませんでした。

- (S)  
コマンドの処理を終了します。

- (O)  
パラメーターの指定を見直し、コマンドを再実行してください。

#### KAJT12306-E

---

An generation attempt has failed because the file name (ファイル名) contains a reserved device name.  
ファイル名(ファイル名)に予約デバイス名が含まれているため、作成できません

---

ファイル (ファイル名) に予約デバイス名が含まれているため、作成できませんでした。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) パラメーターの指定を見直し、コマンドを再実行してください。

#### KAJT12400-E

---

The specified argument is invalid.  
不正な引数が指定されました

---

情報収集コマンドの実行中にエラーが発生しました。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) 資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT12401-E

---

An internal error occurred.  
内部処理で例外が発生しました

---

情報収集コマンドの実行中にエラーが発生しました。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) 資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT12402-E

---

An internal error occurred (内部処理名).  
(内部処理名)内部処理で例外が発生しました

---

情報収集コマンドの実行中にエラーが発生しました。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) 資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT12403-E

---

An error occurred in JNI.  
JNI処理で例外が発生しました

---

情報収集コマンドの実行中にエラーが発生しました。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) 資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT12404-E

---

An error occurred in JNI (内部処理名).  
(内部処理名)JNI処理で例外が発生しました

---

情報収集コマンドの実行中にエラーが発生しました。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) 資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT12405-E

---

An unexpected NULL occurred.  
予期しないNULLが発生しました

---

情報収集コマンドの実行中にエラーが発生しました。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) 資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT12406-E

---

An unexpected NULL occurred. (内部処理名)  
(内部処理名)予期しないNULLが発生しました

---

情報収集コマンドの実行中にエラーが発生しました。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) 資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT12407-E

---

An attempt to get the common definition (共通定義名) has failed.  
共通定義(共通定義名)の取得に失敗しました

---

情報収集コマンドの実行中にエラーが発生しました。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) 資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。



**KAJT12408-E**

An attempt to get the information has failed. (host name = ホスト名, product =取得先プロダクト名, return code of the product =取得先プロダクトのコマンド戻り値)  
 情報取得に失敗しました。取得先ホスト:ホスト名, 取得先プロダクト:取得先プロダクト名, 取得先プロダクトのコマンド戻り値:取得先プロダクトのコマンド戻り値

連携プロダクト側でのプラグインコマンドの実行に失敗しました。

**(S)**

コマンドの処理を終了します。

**(O)**

連携プロダクト側の設定を確認し、コマンドを再実行してください。それでも解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

**KAJT12409-E**

An attempt to get the information has failed. (host name = ホスト名, product =取得先プロダクト名)  
 情報取得に失敗しました。取得先ホスト:ホスト名, 取得先プロダクト:取得先プロダクト名

連携プロダクト側でのプラグインコマンドの実行に失敗しました。

**(S)**

コマンドの処理を終了します。

**(O)**

連携プロダクト側の設定を確認し、コマンドを再実行してください。それでも解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

**KAJT12410-E**

An attempt to analyze the acquired information has failed. (host = ホスト名, product name =取得先プロダクト名)  
 取得情報の解析に失敗しました。取得先ホスト:ホスト名, 取得先プロダクト:取得先プロダクト名

連携プロダクト側が出力した XML ファイルが不正です。

**(S)**

コマンドの処理を終了します。

**(O)**

連携プロダクト側の設定を確認し、コマンドを再実行してください。それでも解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

**KAJT12411-E**

An attempt to execute the command for getting the information of the linked products has failed. (host = ホスト名, product name =取得先プロダクト名)  
 連携プロダクトのアダプタコマンドの実行が失敗しました。取得先ホスト:ホスト名, 取得先プロダクト:取得先プロダクト名

連携プロダクト側でのプラグインコマンドの実行に失敗しました。

**(S)**

コマンドの処理を終了します。

**(O)**

連携プロダクト側の設定を確認し、コマンドを再実行してください。それでも解決しない場合は、システム管理者に連絡してください。

**KAJT12412-E**

An attempt to get the product information of the specified host (ホスト名) has failed.  
 取得先ホスト(ホスト名)のプロダクト情報の取得に失敗しました

連携プロダクト側でのプラグインコマンドの実行に失敗しました。

**(S)**

コマンドの処理を終了します。

**(O)**

JP1/Base が停止しているおそれがあります。JP1/Base のサービスが開始しているか確認してください。  
 ホスト名解決ができなかったおそれがあります。  
 hosts ファイルを確認してください。

**KAJT12420-E**

An invalid tag was detected in the XML data of SCCM. (tag = XML タグ名)  
 SCCMのXMLデータから不正なタグを検出しました。タグ名:XMLタグ名

連携プロダクト (JP1/SC/Control Manager) が出力した XML ファイルが不正です。

**(S)**

コマンドの処理を終了します。

**(O)**

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

**KAJT12421-E**

An attempt to get the required information from the XML data of SCCM has failed. (tag name = XML タグ名)  
 SCCMのXMLデータから必要な情報を取得できませんでした。タグ名:XMLタグ名

## KAJT12430-E ~ KAJT12450-E

連携プロダクト（JP1/SC/Control Manager）が出力した XML ファイルが不正です。

- (S) コマンドの処理を終了します。

- (O) 資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

### KAJT12430-E

---

An invalid tag was detected in the XML data of Cosminexus. (tag = XML タグ名)  
CosminexusのXMLデータから不正なタグを検出しました。タグ名:XML タグ名

---

連携プロダクト（Cosminexus）が出力した XML ファイルが不正です。

- (S) コマンドの処理を終了します。

- (O) 資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

### KAJT12431-E

---

An attempt to get the required information from the XML data of Cosminexus has failed. (tag name = XML タグ名)  
CosminexusのXMLデータから必要な情報を取得できませんでした。タグ名:XML タグ名

---

連携プロダクト（Cosminexus）が出力した XML ファイルが不正です。

- (S) コマンドの処理を終了します。

- (O) 資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

### KAJT12440-E

---

An internal error occurred during the parsing of AIM XML data.  
AIMのXMLデータ解析中に内部エラーが発生しました

---

連携プロダクト（JP1/NETM/AIM）が出力した XML ファイルが不正です。

- (S) コマンドの処理を終了します。

- (O) 資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

### KAJT12441-E

---

An invalid tag was detected in the XML data of AIM. (tag name = XML タグ名)  
AIMのXMLデータから不正なタグを検出しました。タグ名:XML タグ名

---

連携プロダクト（JP1/NETM/AIM）が出力した XML ファイルが不正です。

- (S) コマンドの処理を終了します。

- (O) 資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

### KAJT12442-E

---

An attempt to get the required information from the XML data of AIM has failed. (tag name = XML タグ名)  
AIMのXMLデータから必要な情報を取得できませんでした。タグ名:XML タグ名

---

連携プロダクト（JP1/NETM/AIM）が出力した XML ファイルが不正です。

- (S) コマンドの処理を終了します。

- (O) 資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

### KAJT12443-E

---

The configuration of AIM XML data is invalid.  
AIMのXMLデータ構成が正しくありません

---

連携プロダクト（JP1/NETM/AIM）が出力した XML ファイルが不正です。

- (S) コマンドの処理を終了します。

- (O) 資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

### KAJT12450-E

---

An internal error occurred during the parsing of NC XML data.  
NCのXMLデータ解析中に内部エラーが発生しました

---

連携プロダクト（JP1/Cm2/NC）が出力した XML ファイルが不正です。

- (S) コマンドの処理を終了します。

- (O) 資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

者に連絡してください。

#### KAJT12451-E

An invalid tag was detected in the XML data of NC. (tag = XMLタグ名)

NCのXMLデータから不正なタグを検出しました。タグ名:XMLタグ名

連携プロダクト (JP1/Cm2/NC) が出力した XML ファイルが不正です。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT12452-E

An attempt to get the required information from the XML data of NC has failed. (tag name = XMLタグ名)

NCのXMLデータから必要な情報を取得できませんでした。タグ名:XMLタグ名

連携プロダクト (JP1/Cm2/NC) が出力した XML ファイルが不正です。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT12453-E

The configuration of NC XML data is invalid.

NCのXMLデータ構成が正しくありません

連携プロダクト (JP1/Cm2/NC) が出力した XML ファイルが不正です。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT12460-E

An internal error occurred during the parsing of HiRDB XML data.

HiRDBのXMLデータ解析中に内部エラーが発生しました

連携プロダクト (HiRDB) が出力した XML ファイルが不正です。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT12461-E

An invalid tag was detected in the XML data of HiRDB. (tag name = XMLタグ名)

HiRDBのXMLデータから不正なタグを検出しました。タグ名:XMLタグ名

連携プロダクト (HiRDB) が出力した XML ファイルが不正です。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT12462-E

An attempt to get the required information from the XML data of HiRDB has failed. (tag name = XMLタグ名)

HiRDBのXMLデータから必要な情報を取得できませんでした。タグ名:XMLタグ名

連携プロダクト (HiRDB) が出力した XML ファイルが不正です。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT12463-E

The HiRDB XML data configuration is invalid.

HiRDBのXMLデータ構成が正しくありません

連携プロダクト (HiRDB) が出力した XML ファイルが不正です。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT12470-E

An internal error occurred during output of the differences.

差分出力処理で内部エラーが発生しました

情報収集コマンドの実行中にエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

## KAJT12471-E ~ KAJT12484-E

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

### KAJT12471-E

An internal exception occurred during output of the differences.

差分出力処理で内部例外が発生しました

情報収集コマンドの実行中にエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

### KAJT12472-E

The OutputStream is already open.

OutPutStreamはすでにオープンされています

情報収集コマンドの実行中にエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

### KAJT12473-E

The OutputStream is not open.

OutPutStreamがオープンされていません

情報収集コマンドの実行中にエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

### KAJT12480-E

An internal error occurred during XML parsing.

XML解析処理で内部エラーが発生しました

情報収集コマンドの実行中にエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

### KAJT12481-E

An internal exception occurred during XML parsing.

XML解析処理で内部例外が発生しました

情報収集コマンドの実行中にエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

### KAJT12482-E

An internal exception occurred during XML parsing. (tag name = XMLタグ名, line number = 行番号, column number = 列番号)

XML解析処理で内部例外が発生しました。実行タグ=XMLタグ名, 行番号=行番号, 列番号=列番号

情報収集コマンドの実行中にエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

### KAJT12483-E

The configuration of XML data does not match the XML schema. (line number = 行番号, column number = 列番号)  
XMLデータの構成がXMLSchemaと一致していません。  
行番号=行番号, 列番号=列番号

情報収集コマンドの実行中にエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

### KAJT12484-E

An attempt to get the XML schema has failed.

XMLSchemaの取得に失敗しました

情報収集コマンドの実行中にエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

**KAJT12485-E**

The collected data does not suit the Schema. (details = XMLタグ名)  
 収集したデータがSchemaに適合しません。詳細：XMLタグ名

情報収集コマンドの実行中にエラーが発生しました。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) 資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

**KAJT12490-E**

An internal error occurred during the merge process.  
 マージ処理で内部エラーが発生しました

情報収集コマンドの実行中にエラーが発生しました。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) 資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

**KAJT12491-E**

An internal exception occurred during the merge process.  
 マージ処理で内部例外が発生しました

情報収集コマンドの実行中にエラーが発生しました。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) 資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

**KAJT12492-E**

The object name (オブジェクト名) has already been used in class (クラス名).  
 オブジェクト名(オブジェクト名)は、すでにクラス(クラス名)で使用されています。

情報収集コマンドの実行中にエラーが発生しました。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) 資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

## 5.4.9 メッセージ ( KAJT13000 ~ KAJT13999 )

**KAJT13000-E**

An I/O error occurred. (exception message = 例外メッセージ)  
 入出力時にエラーが発生しました(例外メッセージ=例外メッセージ)

JP1/IM・CMの実行中に入出力エラーが発生しました。

- (S) JP1/IM・CMを終了します。
- (O) 資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

**KAJT13001-E**

Memory is insufficient. (exception message = 例外メッセージ)  
 メモリー不足でメモリーが確保できません(例外メッセージ=例外メッセージ)

メモリー容量不足のため、メモリーが確保できません。

- (S) JP1/IM・CMを終了します。
- (O) ヒープサイズを見直し、再度 JP1/IM・CM を起動してください。

**KAJT13002-E**

A thread was terminated. (exception message = 例外メッセージ)  
 スレッドが中断されました(例外メッセージ=例外メッセージ)

JP1/IM・CMの実行中にスレッドが中断されました。

- (S) JP1/IM・CMを終了します。
- (O) 資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

**KAJT13003-E**

The host name was invalid. (exception message = 例外メッセージ)  
 ホスト名が不正です(例外メッセージ=例外メッセージ)

論理ホスト名が不正です。

(S)

JP1/IM・CMを終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT13004-E

---

An error was signaled by the JP1/Base communication service. (exception message = 例外メッセージ)

JP1/Base通信基盤でエラーが発生しました(例外メッセージ=例外メッセージ)

---

JP1/Base 通信基盤でエラーが発生しました。

(S)

JP1/IM・CMを終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT13005-E

---

An error occurred in the code conversion. (exception message = 例外メッセージ)

コード変換処理でエラーが発生しました(例外メッセージ=例外メッセージ)

---

コード変換処理中にエラーが発生しました。

(S)

JP1/IM・CMを終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT13006-E

---

An error occurred while accessing the JP1 common definitions. (exception message = 例外メッセージ)

JP1共通定義アクセス中にエラーが発生しました(例外メッセージ=例外メッセージ)

---

JP1 共通定義の取得でエラーが発生しました。

(S)

JP1/IM・CMを終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT13007-E

---

An error was signaled by the JP/Base1 plug-in manager. (exception message = 例外メッセージ)

JP1プラグインマネージャーでエラーが発生しました(例外メッセージ=例外メッセージ)

---

JP1 プラグインマネージャー API の呼び出しでエラーが

発生しました。

(S)

JP1/IM・CMを終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT13008-E

---

An error occurred in the JNI parameters. (exception message = 例外メッセージ)

JNI/パラメーターでエラーが発生しました(例外メッセージ=例外メッセージ)

---

JNI メソッドの各パラメーターの妥当性チェックでエラーが発生しました。

(S)

JP1/IM・CMを終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT13009-E

---

An error occurred while accessing the database. (exception message = 例外メッセージ)

DBアクセスでエラーが発生しました(例外メッセージ=例外メッセージ)

---

DB アクセス中にエラーが発生しました。

(S)

JP1/IM・CMを終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT13010-E

---

An error occurred while loading the JNI modules. (exception message = 例外メッセージ)

JNIのロード中にエラーが発生しました(例外メッセージ=例外メッセージ)

---

JNI のローディング処理でエラーが発生しました。

(S)

JP1/IM・CMを終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

**KAJT13011-E**

An communication error was signaled by the operating system. (exception message = 例外メッセージ)  
OSの通信処理でエラーが発生しました(例外メッセージ=例外メッセージ)

OSの通信処理でエラーが発生しました。

**(S)**

JP1/IM - CM を終了します。

**(O)**

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

**KAJT13012-E**

An error occurred while invoking a JavaVM. (exception message = 例外メッセージ)  
JavaVM呼び出しでエラーが発生しました(例外メッセージ=例外メッセージ)

JavaVM 中の呼び出しでエラーが発生しました。

**(S)**

JP1/IM - CM を終了します。

**(O)**

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

**KAJT13013-E**

An error occurred while initializing.  
初期化処理中にエラーが発生しました

初期化処理中に、エラーが発生しました。

**(S)**

JP1/IM - CM を終了します。

**(O)**

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

**KAJT13014-E**

An error occurred while reloading the JP1/IM-CM settings.  
リロード処理中にエラーが発生しました

リロード処理中に、エラーが発生しました。

**(S)**

JP1/IM - CM を終了します。

**(O)**

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

**KAJT13015-E**

An error occurred in exiting.  
終了処理中にエラーが発生しました

終了処理中に、エラーが発生しました。

**(S)**

JP1/IM - CM を終了します。

**(O)**

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

**KAJT13016-E**

Already initializing...  
すでに初期化処理中です

初期化処理中に、別の処理要求が行われました。

**(S)**

JP1/IM - CM を終了します。

**(O)**

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

**KAJT13017-W**

Already reloading the JP1/IM-CM settings...  
すでにリロード処理中です

リロード処理中に別処理の要求が行われました。

**(S)**

SPMD の要求待ち状態に入ります。

**(O)**

実行中のリロード処理が終わってから再度リロードを実行してください。

**KAJT13018-E**

Already exiting...  
すでに終了処理中です

終了処理中に別処理の要求が行われました。

**(S)**

JP1/IM - CM を終了します。

**(O)**

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

**KAJT13019-E**

An internal error occurred.  
内部エラーが発生しました

内部矛盾が発生しました。

**(S)**

JP1/IM - CM を終了します。

## KAJT13020-I ~ KAJT13029-E

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

### KAJT13020-I

JP1/IM-CM ended normally.  
JP1/IM - CMは正常終了します

JP1/IM - CM の停止要求を受け付けました。

(O)

処理に成功したことを通知するメッセージです。

### KAJT13021-E

JP1/IM-CM ended abnormally. (error code = エラーコード)  
JP1/IM - CMは異常終了します(エラーコード：エラーコード)

エラーまたは例外発生によって、JP1/IM - CM が終了します。

(S)

JP1/IM - CM を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

### KAJT13022-E

Log initialization failed. (exception message = 例外メッセージ)  
ログの初期化に失敗しました(例外メッセージ=例外メッセージ)

ログの初期化に失敗しました。

(S)

JP1/IM - CM を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

### KAJT13023-I

JP1/IM-CM has started.  
JP1/IM - CMの起動処理が完了しました

JP1/IM - CM を起動しました。

(O)

処理に成功したことを通知するメッセージです。

### KAJT13024-I

A request from JCM\_SPMD for reloading the JP1/IM-CM settings was received.  
JCM\_SPMDからリロード要求を受信しました

JP1/IM - CM のリロード要求を受信しました。

(O)

処理に成功したことを通知するメッセージです。

### KAJT13025-I

A request from JCM\_SPMD for stop was received.  
JCM\_SPMDから停止要求を受信しました

JP1/IM - CM の停止要求を受け付けました。

(O)

処理に成功したことを通知するメッセージです。

### KAJT13026-I

Communication with JCM\_SPMD failed.  
JCM\_SPMDとの通信に失敗しました

JCM\_SPMD との通信に失敗しました。

(S)

JP1/IM - CM を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

### KAJT13027-I

Reloading of the JP1/IM-CM settings has finished.  
JP1/IM - CMのリロード処理が完了しました

JP1/IM - CM のリロード処理が完了しました。

(O)

処理に成功したことを通知するメッセージです。

### KAJT13028-E

An internal exception occurred. (exception message = 例外メッセージ)  
内部例外が発生しました(例外メッセージ=例外メッセージ)

サーバの内部で例外が発生しました。

(S)

JP1/IM - CM を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

### KAJT13029-E

A log file of the directory specified by a common definition cannot be opened.  
共通定義で指定されたディレクトリのログファイルがオープンできません

ログファイルのオープンができませんでした。



(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

クラスタ環境の場合、共有ディスクが参照可能となっているか確認してコマンドを再実行してください。

#### KAJT13040-E

---

An attempt to get JP1\_HOSTNAME has failed.  
(exception message = 例外メッセージ)

---

ホスト名の取得に失敗しました。

(S)

JP1/IM - CM を終了します。

(O)

例外メッセージを参照してください。

#### KAJT13041-E

---

An attempt to initialize the JP1/Base common definition has failed. (exception message = 例外メッセージ)

---

JP1/Base 共通定義情報のアクセス処理の初期化に失敗しました。

(S)

JP1/IM - CM を終了します。

(O)

例外メッセージを参照してください。

#### KAJT13042-E

---

Initialization of the Client Library has failed. (exception message = 例外メッセージ)

---

クライアントライブラリの呼び出し（ログの初期化 / 通信基盤機能の初期化）中に例外が発生しました。

(S)

JP1/IM - CM を終了します。

(O)

例外メッセージを参照してください。

#### KAJT13043-E

---

An error occurred while loading the JNI modules.  
(exception message = 例外メッセージ)

---

JNI ロードモジュールのローディング処理でエラーが発生しました。

(S)

JP1/IM - CM を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT13044-E

---

Initialization terminated. The server is not ready for initialization. (JelmService.doMainLoop())

---

サーバの状態が初期状態ではないため、初期化を中止します。

(S)

JP1/IM - CM を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT13050-E

---

An attempt to recognize the process type as server processing or command processing has failed.

---

サーバの起動処理がコマンド処理に失敗しました。

(S)

JP1/IM - CM またはコマンドを終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT13051-E

---

An attempt to get the JP1/IM-CM installation path has failed.

---

レジストリーからの、JP1/IM - CM インストールパスの取得に失敗しました。

(S)

JP1/IM - CM またはコマンドを終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT13052-E

---

An attempt to get the classpath of HNTRLIB has failed.

---

レジストリーからの、HNTRLIB のクラスパス取得に失敗しました。

(S)

JP1/IM - CM またはコマンドを終了します。

(O)

JP1/Base が正しくインストールされているか確認してください。

#### KAJT13053-E

---

An attempt to get the classpath of HNTRLIBMP has failed.

---

レジストリーからの、HNTRLIBMP ( マルチプロセス用 )

## KAJT13054-E ~ KAJT16006-E

のクラスパス取得に失敗しました。

(S)

JP1/IM・CM またはコマンドを終了します。

(O)

JP1/Base が正しくインストールされているか確認してください。

### KAJT13054-E

---

An attempt to get the JP1\_hostname in the command options or the variable JP1\_HOSTNAME has failed.

コマンドオプションまたは環境変数からの、JP1\_HOSTNAME の取得に失敗しました。

(S)

JP1/IM・CM またはコマンドを終了します。

(O)

JP1\_HOSTNAME の設定を見直し、再度実行してください。

### KAJT13055-E

---

An attempt to initialize the process trace log has failed.

プロセス別トレースログの初期化に失敗しました。

(S)

JP1/IM・CM またはコマンドを終了します。

(O)

JP1/Base が正しくインストールされているか確認してください。

### KAJT13083-E

---

The user does not have Administrators permission.

Administrators 権限でないため、実行できません。

(S)

JP1/IM・CM またはコマンドを終了します。

(O)

Administrators 権限を持つユーザーに変更して、再実行してください。

## 5.4.10 メッセージ (KAJT16000 ~ KAJT16999)

### KAJT16001-I

---

The server was successfully connected.  
サーバとの接続に成功しました

サーバとの接続に成功しました。

(O)

処理に成功したことを通知するメッセージです。

### KAJT16002-I

---

Please wait for a while.  
しばらくお待ちください

Import 処理中です。

(O)

処理に成功したことを通知するメッセージです。

### KAJT16003-I

---

The import command ended normally.  
Import処理が正常に終了しました

Import 処理が正常に終了しました。

(O)

処理に成功したことを通知するメッセージです。

### KAJT16004-E

---

An internal error occurred.  
内部処理でエラーが発生しました

Import コマンドの実行中にエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

### KAJT16005-E

---

Login failed.  
ログインに失敗しました

Import コマンドのパラメーターで指定したユーザーに誤りがあります。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

パラメーターのユーザー名を見直して、コマンドを再実行してください。

### KAJT16006-E

---

Another session has locked the database, so update permission could not be obtained.  
別セッションでデータベースがロックされているため更新権が取得できませんでした

すでにほかで構成管理 DB の更新処理中です。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

ほかの更新処理が完了してから、コマンドを再実行してください。

**KAJT16007-E**

An attempt to connect the authentication server has failed.

認証サーバへの接続に失敗しました

認証サーバとの通信でエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

認証サーバが起動しているか確認してください。起動している場合には、資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

**KAJT16008-E**

The specified user does not have the JP1\_CM\_Admin permission.

指定ユーザーにJP1\_CM\_Admin権限がありません

Import コマンドのパラメーターで指定したユーザーにJP1\_CM\_Admin の権限がありません。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

JP1 ユーザーの権限を見直し、コマンドを再実行してください。

**KAJT16009-E**

An attempt to connect to the server has failed.

サーバに接続できませんでした

JP1/IM・CM との通信でエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

JP1/IM・CM が起動しているか確認してください。起動している場合には、資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

**KAJT16010-E**

An attempt to get the authentication information has failed.

アクセス権限の取得に失敗しました

認証サーバからのアクセス権取得でエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

認証サーバのアクセス権の設定を確認してください。

**KAJT16011-E**

User authentication failed.

ユーザー認証に失敗しました

認証サーバの認証でエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

認証サーバの設定を確認してください。

**KAJT16012-E**

The specified arguments for the command are invalid.

コマンド引数が不正です

Import コマンドのパラメーターの指定が不正です。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

パラメーターの指定を見直して、コマンドを再実行してください。

**KAJT16013-E**

The file (ファイル名) cannot be accessed.

ファイル(ファイル名)にアクセスできません

ファイル(ファイル名)にアクセスできませんでした。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

パラメーターの指定を見直して、コマンドを再実行してください。

**KAJT16014-E**

An internal error occurred.

内部処理でエラーが発生しました

Import コマンドの実行中にエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

**KAJT16015-E**

An internal error occurred. (内部処理名)

(内部処理名)内部処理でエラーが発生しました

Import コマンドの実行中にエラーが発生しました。

(S)

## KAJT16016-E ~ KAJT16023-E

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

### KAJT16016-E

A NullPointerException was raised.  
予期しないNULLが発生しました

Import コマンドの実行中にエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

### KAJT16017-E

A NullPointerException was raised. (内部処理名)  
(内部処理名)予期しないNULLが発生しました

Import コマンドの実行中にエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

### KAJT16018-E

An error occurred while parsing the XML file.  
XMLファイルの解析処理でエラーが発生しました

Import コマンドの実行中にエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

### KAJT16019-E

An error occurred while updating the database.  
DataBase登録時にエラーが発生しました

Import コマンドの実行中にエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

### KAJT16020-E

An attempt to parse the XML file at the start-tag has failed. (tag = タグ名)  
XMLの開始タグで処理が失敗しました。タグ名=タグ名

Import コマンドのパラメーターで指定した XML ファイルのタグ名 (タグ名) の指定が不正です。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

パラメーターで指定した XML ファイルを見直し、コマンドを再実行してください。

### KAJT16021-E

An attempt to parse the XML file at the end-tag has failed. (tag = タグ名)  
XMLの終了タグで処理が失敗しました。タグ名=タグ名

Import コマンドのパラメーターで指定した XML ファイルのタグ名 (タグ名) の指定が不正です。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

パラメーターで指定した XML ファイルを見直し、コマンドを再実行してください。

### KAJT16022-E

An attempt to create the instance has failed. (class name = クラス名, instance name = インスタンス名)  
インスタンスの作成に失敗しました。クラス名=クラス名  
インスタンス名=インスタンス名

クラス名 (クラス名), インスタンス名 (インスタンス名) の作成に失敗しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

### KAJT16023-E

An attempt to set the property has failed. (instance name = インスタンス名, property name = プロパティ名, property value = プロパティ値)  
プロパティ値の登録に失敗しました。インスタンス名=インスタンス名  
プロパティ名=プロパティ名  
プロパティ値=プロパティ値

インスタンス名 (インスタンス名), プロパティ名 (プロパティ名), プロパティ値 (プロパティ値) の登録に失敗しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT16024-E

The reserved device name (予約デバイス名) cannot be specified.

予約デバイス名(予約デバイス名)は指定できません

ファイル名に予約デバイス名(予約デバイス名)は指定できません。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

パラメーターで指定したファイルを見直し、コマンドを再実行してください。

#### KAJT16025-E

An error occurred in the user mapping.

ユーザーマッピング処理でエラーが発生しました

ユーザーマッピングの処理でエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

ユーザーマッピングの設定または、ログイン OS ユーザーに JP1 ユーザーがマッピングされているかを見直し、コマンドを再実行してください。

#### KAJT16026-E

The reload command executed, so the execution of the command will now be terminated.

コマンド実行中にリロードされたため処理を中止します

Import コマンドの実行中にリロードが行われたため、コマンドの実行を中止しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

リロード完了後、コマンドを再実行してください。

#### KAJT16030-E

The option(-h) was specified two or more times. Or, the value of the option(-h) is not specified.

オプション(-h)が二つ以上指定されました。または、オプション(-h)の値が指定されませんでした

Import コマンドのパラメーターに -h が 2 回以上指定されているか、指定がありません。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

パラメーターの論理ホスト名の指定を見直して、コマンドを再実行してください。

#### KAJT16031-E

The logical host name was invalid.

論理ホスト名が不正です

論理ホスト名の指定が不正です。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

パラメーターの論理ホスト名の指定を確認し、コマンドを再実行してください。

#### KAJT16032-E

The initialization process of the common definition failed.

共通定義の初期化処理に失敗しました

共通定義の初期化に失敗しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT16033-E

The memory is insufficient.

メモリー不足が発生しました

メモリー不足が発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

使用できるメモリーを確認し、コマンドを再実行してください。

#### KAJT16034-E

An internal error occurred during the execution of jemimport command.

Importコマンド実行中に、内部エラーが発生しました

Import コマンド実行中に、内部エラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT16035-E

The user does not have Administrators permission.  
ユーザーはAdministrators権限を持っていません

Administrators 権限でないため、実行できません。

- (S)  
コマンドの処理を終了します。

- (O)  
Administrators 権限を持つユーザーに変更して、再実行してください。

#### KAJT16051-I

The server was connected successfully.  
サーバとの接続に成功しました

サーバとの接続に成功しました。

- (O)  
処理に成功したことを通知するメッセージです。

#### KAJT16052-I

Please wait for a while.  
しばらくお待ちください

Export 処理中です。

- (O)  
処理に成功したことを通知するメッセージです。

#### KAJT16053-I

The export command has ended normally.  
Export処理が正常に終了しました

Export 処理が正常に終了しました。

- (O)  
処理に成功したことを通知するメッセージです。

#### KAJT16054-E

An internal error occurred.  
内部処理でエラーが発生しました

Export コマンドの実行中にエラーが発生しました。

- (S)  
コマンドの処理を終了します。

- (O)  
資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT16055-E

Login failed.  
ログインに失敗しました

Export コマンドのパラメーターで指定したユーザーに誤りがあります。

- (S)  
コマンドの処理を終了します。

- (O)  
パラメーターのユーザー名を見直して、コマンドを再実行してください。

#### KAJT16056-E

Another session has locked the database, so update permission could not be obtained.  
別セッションでデータベースがロックされているため更新権が取得できませんでした

すでにほかで構成管理 DB の更新処理中です。

- (S)  
コマンドの処理を終了します。

- (O)  
ほかの更新処理が完了してから、コマンドを再実行してください。

#### KAJT16057-E

An attempt to connect the authentication server has failed.  
認証サーバへの接続に失敗しました

認証サーバとの通信でエラーが発生しました。

- (S)  
コマンドの処理を終了します。

- (O)  
認証サーバが起動しているか確認してください。起動している場合には、資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT16058-E

The specified user does not have the permission for execution.  
指定ユーザーに実行権限がありません

Export コマンドのパラメーターで指定したユーザーに実行権限がありません。

- (S)  
コマンドの処理を終了します。

- (O)  
JP1 ユーザーの権限を見直し、コマンドを再実行してください。

#### KAJT16059-E

An attempt to connect to the server has failed.  
サーバに接続できませんでした

JP1/IM・CM との通信でエラーが発生しました。

- (S)  
コマンドの処理を終了します。

(O)

JP1/IM - CM が起動しているか確認してください。  
起動している場合には、資料採取ツールを使って資料  
を採取し、システム管理者に連絡してください。

**KAJT16060-E**

An attempt to get the authentication information has  
failed.  
アクセス権限の取得に失敗しました

認証サーバからのアクセス権取得でエラーが発生しまし  
た。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

認証サーバのアクセス権の設定を確認してください。

**KAJT16061-E**

User authentication failed.  
ユーザー認証に失敗しました

認証サーバの認証でエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

認証サーバの設定を確認してください。

**KAJT16062-E**

The specified arguments for the command are invalid.  
コマンド引数が不正です

Export コマンドのパラメーターの指定が不正です。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

パラメーターの指定を見直して、コマンドを再実行し  
てください。

**KAJT16063-E**

The file (ファイル名) cannot be accessed.  
ファイル(ファイル名)にアクセスできません

ファイル (ファイル名) にアクセスできませんでした。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

パラメーターの指定を見直して、コマンドを再実行し  
てください。

**KAJT16064-E**

An error occurred during output of logical objects.

論理クラスのデータモデルを出力する処理でエラーが発生  
しました

論理クラスのデータモデルを出力する処理でエラーが発生  
しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理  
者に連絡してください。

**KAJT16065-E**

An error occurred during output of physical objects.

物理クラスのデータモデルを出力する処理でエラーが発生  
しました

物理クラスのデータモデルを出力する処理でエラーが発生  
しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理  
者に連絡してください。

**KAJT16066-E**

An error occurred while processing the (クラス名) class.  
クラス名クラスの処理でエラーが発生しました

クラス名のクラスの処理でエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理  
者に連絡してください。

**KAJT16067-E**

An I/O error occurred.

入出力処理でエラーが発生しました

入出力処理でエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理  
者に連絡してください。

**KAJT16068-E**

The file (ファイル名) cannot be opened.

ファイル(ファイル名)のオープンに失敗しました

ファイル名のファイルのオープンに失敗しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT16069-E

---

An attempt to create the XML file has failed.  
XMLファイルの作成に失敗しました

---

XML ファイルの作成に失敗しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT16070-E

---

An internal error occurred.  
内部処理でエラーが発生しました

---

Export コマンドの実行中にエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

#### KAJT16071-E

---

The reserved device name (予約デバイス名) cannot be specified.  
予約デバイス名(予約デバイス名)は指定できません

---

ファイル名に予約デバイス名(予約デバイス名)は指定できません。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

パラメーターで指定したファイルを見直し、コマンドを再実行してください。

#### KAJT16072-E

---

An error occurred in the user mapping.  
ユーザーマッピング処理でエラーが発生しました

---

ユーザーマッピングの処理でエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

ユーザーマッピングの設定または、ログイン OS ユーザーに JP1 ユーザーがマッピングされているかを見直して、コマンドを再実行してください。

#### KAJT16073-E

---

The reload command executed, so the execution of the command will now be terminated.

コマンド実行中にリロードされたため処理を中止します

---

Export コマンドの実行中にリロードが行われたため、コマンドの実行を中止しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

リロード完了後、コマンドを再実行してください。

#### KAJT16074-E

---

There is no reference authority of the object.  
オブジェクトの参照権限がありません

---

実行している JP1 ユーザーの権限が不足しています。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

JP1 ユーザーの権限を見直して、コマンドを再実行してください。

#### KAJT16080-E

---

The option(-h) was specified two or more times. Or, the value of the option(-h) is not specified.  
オプション(-h)が二つ以上指定されました。または、オプション(-h)の値が指定されませんでした

---

Export コマンドのパラメーターに -h が 2 回以上指定されているか、指定がありません。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

パラメーターの論理ホスト名の指定を見直して、コマンドを再実行してください。

#### KAJT16081-E

---

The logical host name was invalid.  
論理ホスト名が不正です

---

論理ホスト名の指定が不正です。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

パラメーターの論理ホスト名の指定を確認し、コマンドを再実行してください。



**KAJT16082-E**

The initialization process of the common definition failed.

共通定義の初期化処理に失敗しました

共通定義の初期化に失敗しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

**KAJT16083-E**

The memory is insufficient.  
メモリー不足が発生しました

メモリー不足が発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

使用できるメモリーを確認し、コマンドを再実行してください。

**KAJT16084-E**

An internal error occurred during the execution of jemimport command.  
Exportコマンド実行中に、内部エラーが発生しました

Export コマンド実行中に、内部エラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

**KAJT16085-E**

The user does not have Administrators permission.  
ユーザーはAdministrators権限を持っていません

Administrators 権限でないため、実行できません。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

Administrators 権限を持つユーザーに変更して、再実行してください。

**KAJT16090-E**

The logical system (論理システム名) does not exist.  
論理システム(論理システム名)は存在しません

パラメーターで指定した論理システム (論理システム名)

は存在しません。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

パラメーターの指定を見直して、コマンドを再実行してください。

**KAJT16091-E**

An non-recommended object exists in the Cosminexus Web-based system. (class name = クラス名, object name = オブジェクト名, reason = 理由 is not correctly defined)  
Cosminexus Webシステムで推奨されていないオブジェクトが存在します。クラス名=クラス名, オブジェクト名=オブジェクト名, 理由=理由が正しく設定されていません

Cosminexus Web システムで推奨されていないオブジェクトが存在します。クラス名=クラス名, オブジェクト名=オブジェクト名, 理由=理由が正しく設定されていません。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

構成管理 DB の設定を見直して、コマンドを再実行してください。

**KAJT16092-E**

An non-recommended object exists in the Cosminexus Web-based system. (class name = クラス名, object name = オブジェクト名, reason = 理由 is not defined)  
Cosminexus Webシステムで推奨されていないオブジェクトが存在します。クラス名=クラス名, オブジェクト名=オブジェクト名, 理由=理由が設定されていません

Cosminexus Web システムで推奨されていないオブジェクトが存在します。クラス名=クラス名, オブジェクト名=オブジェクト名, 理由=理由が設定されていません。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

構成管理 DB の設定を見直して、コマンドを再実行してください。

**KAJT16093-E**

An non-recommended object exists in the Cosminexus Web-based system. (class name = クラス名, object name = オブジェクト名, reason = 理由 is duplicated)  
Cosminexus Webシステムで推奨されていないオブジェクトが存在します。クラス名=クラス名, オブジェクト名=オブジェクト名, 理由=理由が複数設定されています

Cosminexus Web システムで推奨されていないオブジェクトが存在します。クラス名=クラス名, オブジェクト

名 = オブジェクト名, 理由 = 理由が複数設定されています。

- (S) コマンドの処理を終了します。

- (O) 構成管理 DB の設定を見直して, コマンドを再実行してください。

---

#### KAJT16094-E

---

The user does not have permission to access the object.  
(class name = クラス名, object name = オブジェクト名)  
オブジェクトにアクセスする権限がありません。クラス名 = クラス名, オブジェクト名 = オブジェクト名

クラス名 (クラス名), オブジェクト名 (オブジェクト名) にアクセスする権限がありません。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) 構成管理 DB の設定を見直して, コマンドを再実行してください。

---

#### KAJT16095-E

---

An non-recommended object exists in the Cosminexus Web-based system. (reason = LogicalWebServer(LogicalWebServer名) and LogicalAPServer(LogicalAPServer名) do not exist on the same VirtualHost)  
Cosminexus Webシステムで推奨されていないオブジェクトが存在します。理由 = LogicalWebServer(LogicalWebServer名)と LogicalAPServer(LogicalAPServer名)が一つの VirtualHostに存在していません

Cosminexus Web システムで推奨されていないオブジェクトが存在します。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) 構成管理 DB の設定を見直して, コマンドを再実行してください。

---

#### KAJT16096-E

---

An error occurred while outputting the file for Cosminexus Smart Composer.  
Cosminexus Smart Composer用ファイル出力中にエラーが発生しました

Cosminexus Smart Composer 用ファイル出力中にエラーが発生しました。

- (S) コマンドの処理を終了します。

- (O) 資料採取ツールを使って資料を採取し, システム管理者に連絡してください。

### 5.4.11 メッセージ ( KAJT17000 ~ KAJT17999 )

---

#### KAJT17000-E

---

The specified arguments to the command are invalid.  
コマンド引数が不正です

コマンドのパラメーターの指定が不正です。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) パラメーターの指定を見直して, コマンドを再実行してください。

### 5.4.12 メッセージ ( KAJT18000 ~ KAJT18999 )

---

#### KAJT18401-E

---

認証の初期化に失敗しました(詳細要因コード=要因コード)

認証の初期化に失敗しました。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) 資料採取ツールを使って資料を採取し, 登録しようとした定義情報ファイルを採取した上でシステム管理者に連絡してください。

---

#### KAJT18402-E

---

認証サーバに接続できませんでした

認証サーバに接続できませんでした。

- (S) コマンドの処理を終了します。
- (O) 認証サーバが起動しているか確認してください。起動している場合には, 資料採取ツールを使って資料を採取し, システム管理者に連絡してください。

**KAJT18403-E**

ユーザー名またはパスワードが間違っています

ユーザー名またはパスワードが間違っています。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

ユーザー名またはパスワードが間違っています。ユーザー名またはパスワードを確認して、コマンドを再実行してください。

**KAJT18404-E**

認証チェックに失敗しました(詳細要因コード=要因コード)

認証チェックに失敗しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

登録されている認証サーバを確認したあと、コマンドを再実行してください。

**KAJT18405-E**

ユーザー名(ユーザー名)の認証に失敗しました

ユーザー名(ユーザー名)の認証に失敗しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

登録されている認証サーバを確認したあと、コマンドを再実行してください。

**KAJT18406-E**

ユーザーマッピングのロックの初期化に失敗しました。戻り値 = リターンコード

ユーザーマッピングのロックの初期化に失敗しました。

(S)

コマンドを中止します。

(O)

システム環境が不正です。再度インストールおよびセットアップを実行してください。

**KAJT18599-E**

ユーザーマッピングのロックの取得に失敗しました。戻り値 = リターンコード

ユーザーマッピングのロックの取得に失敗しました。

(S)

コマンドを中止します。

(O)

システム環境が不正です。再度インストールおよびセットアップを実行してください。

**KAJT18601-E**

Administrators権限で実行してください

Administrators 権限でないため、コマンドが実行できません。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

Administrators 権限に変更して、コマンドを再実行してください。

**KAJT18602-E**

ユーザーマッピング情報用キーの削除でシステムエラーが発生しました

ユーザーマッピング情報用キーの削除でシステムエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、登録しようとした定義情報ファイルを採取した上でシステム管理者に連絡してください。

**KAJT18603-E**

ユーザーマッピング情報用キー作成でシステムエラーが発生しました

ユーザーマッピング情報用キー作成でシステムエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

コマンドを再実行してください。それでもエラーが発生する場合は、資料採取ツールを使って資料を採取し、登録しようとした定義情報ファイルを採取した上でシステム管理者に連絡してください。

**KAJT18604-E**

ファイル(ファイル名)が開けません

指定したファイル名がオープンできません。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

-f オプションで指定したファイル名が正しいか、またはディレクトリ(フォルダ)を指定していないかを

確認してください。正しいファイル名を指定して、コマンドを再実行してください。

#### KAJT18605-E

1行の文字数が上限値数文字を超えています

1 行の文字数が上限値数文字を超えているため、コマンドが実行できません。

(S)  
コマンドの処理を終了します。

(O)  
定義ファイルの文法エラーです。定義ファイルの誤りを訂正して、コマンドを再実行してください。

#### KAJT18606-E

:の指定は1文字しかできません

定義ファイルに指定できる「:」は1文字だけです。

(S)  
コマンドの処理を終了します。

(O)  
定義ファイルの文法エラーです。定義ファイルの誤りを訂正して、コマンドを再実行してください。

#### KAJT18607-E

OSユーザー名の切り出しに失敗しました

OS ユーザー名の切り出しに失敗しました。

(S)  
コマンドの処理を終了します。

(O)  
定義ファイルの文法エラーです。定義ファイルの誤りを訂正して、コマンドを再実行してください。

#### KAJT18608-E

OSユーザー名は1文字以上上限値数文字以内で設定してください

OS ユーザー名は1文字以上上限値数文字以内で設定してください。

(S)  
コマンドの処理を終了します。

(O)  
定義ファイルの文法エラーです。定義ファイルの誤りを訂正して、コマンドを再実行してください。

#### KAJT18609-E

OSユーザー名の切り出しで例外エラーが発生しました。  
code = コード

OS ユーザー名の取得で例外エラーが発生しました。

(S)  
コマンドの処理を終了します。

(O)  
資料採取ツールを使って資料を採取し、登録しようとした定義情報ファイルを採取した上でシステム管理者に連絡してください。

#### KAJT18610-E

JP1ユーザー名に文字列は使用できません

JP1 ユーザー名には、文字列は使用できません。

(S)  
コマンドの処理を終了します。

(O)  
定義ファイルの文法エラーです。定義ファイルの誤りを訂正して、コマンドを再実行してください。

#### KAJT18615-E

OSユーザーIDキー作成でシステムエラーが発生しました

OS ユーザー ID キー作成でシステムエラーが発生しました。

(S)  
コマンドの処理を終了します。

(O)  
資料採取ツールを使って資料を採取し、登録しようとした定義情報ファイルを採取した上でシステム管理者に連絡してください。

#### KAJT18616-E

OSユーザーIDのサブキー作成でシステムエラーが発生しました

OS ユーザー ID のサブキー作成でシステムエラーが発生しました。

(S)  
コマンドの処理を終了します。

(O)  
資料採取ツールを使って資料を採取し、登録しようとした定義情報ファイルを採取した上でシステム管理者に連絡してください。

#### KAJT18617-E

マッピング情報の登録がされていません

マッピング情報が登録されていません。

(S)  
コマンドの処理を終了します。

(O)  
マッピング情報ファイルが壊れているおそれがありま

す。もう一度、コマンドを実行し直してください。再度問題が発生する場合は、資料採取ツールを使って資料を採取し、登録しようとした定義情報ファイルを採取した上でシステム管理者に連絡してください。

#### KAJT18618-E

OSユーザー(OSユーザー名)は登録されていません

OS ユーザー名は、登録されていません

##### (S)

コマンドの処理を終了します。

##### (O)

マッピング情報ファイルが壊れているおそれがあります。もう一度、コマンドを実行し直してください。再度問題が発生する場合は、資料採取ツールを使って資料を採取し、登録しようとした定義情報ファイルを採取した上でシステム管理者に連絡してください。

#### KAJT18619-E

OSユーザーID取得でシステムエラーが発生しました

OS ユーザー ID 取得でシステムエラーが発生しました。

##### (S)

コマンドの処理を終了します。

##### (O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、登録しようとした定義情報ファイルを採取した上でシステム管理者に連絡してください。

#### KAJT18620-E

OSユーザーID取得で例外エラーが発生しました。code = コード

OS ユーザー ID 取得で例外エラーが発生しました。

##### (S)

コマンドの処理を終了します。

##### (O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、登録しようとした定義情報ファイルを採取した上でシステム管理者に連絡してください。

#### KAJT18621-E

マッピング情報の登録がされていません

マッピング情報が登録されていません。

##### (S)

コマンドの処理を終了します。

##### (O)

マッピング情報ファイルが壊れているおそれがあります。もう一度、コマンドを実行し直してください。再度問題が発生する場合は、資料採取ツールを使って資

料を採取し、登録しようとした定義情報ファイルを採取した上でシステム管理者に連絡してください。

#### KAJT18622-E

OSユーザーIDのサブキーは登録されていません

OS ユーザー ID のサブキーは登録されていません。

##### (S)

コマンドの処理を終了します。

##### (O)

マッピング情報ファイルが壊れているおそれがあります。もう一度、コマンドを実行し直してください。再度問題が発生する場合は、資料採取ツールを使って資料を採取し、登録しようとした定義情報ファイルを採取した上でシステム管理者に連絡してください。

#### KAJT18623-E

OSユーザーIDのサブキー取得でシステムエラーが発生しました

OS ユーザー ID のサブキー取得でシステムエラーが発生しました。

##### (S)

コマンドの処理を終了します。

##### (O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、登録しようとした定義情報ファイルを採取した上でシステム管理者に連絡してください。

#### KAJT18624-E

OSユーザーIDのサブキー取得で例外エラーが発生しました。code = コード

OS ユーザー ID のサブキー取得で例外エラーが発生しました。

##### (S)

コマンドの処理を終了します。

##### (O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、登録しようとした定義情報ファイルを採取した上でシステム管理者に連絡してください。

#### KAJT18625-W

OSユーザー名(OSユーザー名)が二重定義されています。この行は無視されます

OS ユーザー名およびサーバ側ホスト名が二重定義されているため、この行の設定は無視されます。

##### (S)

指定された行を無視して、処理を続行します。

##### (O)

定義ファイル内で、JP1 ユーザー名、サーバ側ホスト名の組み合わせが二重に定義されています。あとで指定した行は無視されます。

#### KAJT18626-E

OSユーザーのキー作成でシステムエラーが発生しました

OS ユーザーのキー作成でシステムエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、登録しようとした定義情報ファイルを採取した上でシステム管理者に連絡してください。

#### KAJT18627-E

JP1ユーザー名リストの切り出しに失敗しました

ユーザーリストの切り出しに失敗しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

定義ファイルの文法エラーです。定義ファイルの誤りを訂正して、コマンドを再実行してください。

#### KAJT18628-E

JP1ユーザー名リストは1文字以上上限値文字以内で設定してください

JP1 ユーザー名リストは1文字以上上限値文字以内で設定してください。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

定義ファイルの文法エラーです。定義ファイルの誤りを訂正して、コマンドを再実行してください。

#### KAJT18629-E

JP1ユーザー名リストの切り出しで例外エラーが発生しました。code = コード

ユーザーリストの切り出しで例外エラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、登録しようとした定義情報ファイルを採取した上でシステム管理者に連絡してください。

#### KAJT18630-E

JP1ユーザー名の切り出しに失敗しました

JP1 ユーザーの切り出しに失敗しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

定義ファイルの文法エラーです。定義ファイルの誤りを訂正して、コマンドを再実行してください。

#### KAJT18631-E

JP1ユーザー名は1文字以上上限値文字以内で設定してください

JP1 ユーザー名は1文字以上上限値文字以内で設定してください。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

定義ファイルの文法エラーです。定義ファイルの誤りを訂正して、コマンドを再実行してください。

#### KAJT18632-E

JP1ユーザー名の切り出しで例外エラーが発生しました。  
code = コード

JP1 ユーザーの切り出しで例外エラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、登録しようとした定義情報ファイルを採取した上でシステム管理者に連絡してください。

#### KAJT18633-W

JP1ユーザー名(JP1ユーザー名)が二重定義されています

JP1 ユーザー名が二重定義されています。

(S)

指定された JP1 ユーザーを無視して、処理を続行します。

(O)

定義ファイルの同一行内で、JP1 ユーザー名が二重に定義されています。あとで指定した JP1 ユーザー名は無視されます。

#### KAJT18634-E

JP1ユーザー名登録でシステムエラーが発生しました

JP1 ユーザーの登録でシステムエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、登録しようとした定義情報ファイルを採取した上でシステム管理者に連絡してください。

#### KAJT18635-E

JP1ユーザー名のプライマリーユーザー登録でシステムエラーが発生しました

プライマリーユーザーの登録でシステムエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、登録しようとした定義情報ファイルを採取した上でシステム管理者に連絡してください。

#### KAJT18643-E

パスワード管理情報の登録が行われていません

パスワード管理情報が登録されていません。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

パスワード管理情報の登録をしてから、コマンドを再実行してください。

#### KAJT18644-E

パスワード管理情報にJP1ユーザー(JP1ユーザー名)の登録が行われていません

パスワード管理情報にOSユーザー名が登録されていません。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

パスワード管理情報で指定した論理ホストとマッピング管理情報で指定した論理ホストが異なっているか、またはパスワード管理情報にOSユーザーが登録されていないおそれがあります。

パスワード管理情報で指定した論理ホストとマッピング管理情報で指定した論理ホストが同じホスト名であるかを確認してください。ホスト名が異なっていた場合は同じホスト名を指定してコマンドを再実行してください。また、パスワード管理情報にユーザーが登録されていない場合はパスワード管理情報にOSユーザーを登録してからコマンドを再実行してください。

#### KAJT18645-E

パスワードの取得でシステムエラーが発生しました

パスワードの取得でシステムエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、登録しようとした定義情報ファイルを採取した上でシステム管理者に連絡してください。

#### KAJT18646-E

パスワードスクランブルでシステムエラーが発生しました

パスワードスクランブルでシステムエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、登録しようとした定義情報ファイルを採取した上でシステム管理者に連絡してください。

#### KAJT18648-E

引数の数が不正です

引数の数が正しくありません。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

コマンドの文法エラーです。オプションの誤りを訂正して、コマンドを再実行してください。

#### KAJT18649-E

-fオプションが二重定義されています

-fオプションが二重定義されています。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

コマンドの文法エラーです。オプションの誤りを訂正して、コマンドを再実行してください。

#### KAJT18650-E

-hオプションが二重定義されています

-h オプションが二重定義されています。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

コマンドの文法エラーです。オプションの誤りを訂正して、コマンドを再実行してください。

#### KAJT18651-E

---

オプション名オプションは認識できません

---

オプション名オプションは認識できません

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

コマンドの文法エラーです。オプションの誤りを訂正して、コマンドを再実行してください。

#### KAJT18653-E

---

メモリー不足のため領域の確保に失敗しました

---

メモリー不足のため、領域の確保に失敗しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

十分なメモリー領域を確保してから、コマンドを再実行してください。

#### KAJT18654-I

---

マッピング情報登録成功

---

ユーザーマッピング情報の登録に成功しました。

(O)

処理に成功したことを通知するメッセージです。マッピング情報の登録に成功しました。

#### KAJT18655-E

---

論理ホスト名は上限値文字以内で指定してください

---

論理ホスト名は上限値文字以内で指定してください。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

コマンドの文法エラーです。オプションの誤りを訂正して、コマンドを再実行してください。なお、運用上、実際に指定できる文字数は上限値文字以内です。論理ホスト名は、上限値文字以内で指定してください。

#### KAJT18656-I

---

jcmmkumapを起動しました。(定義ファイル名 = 定義ファイル名)

---

jcmmkumap コマンドを起動しました。

(O)

処理を開始したことを通知するメッセージです。

#### KAJT18657-E

---

JP1ユーザー名に半角スペースまたはタブ文字は指定できません

---

JP1 ユーザー名に半角スペースまたはタブは指定できません。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

定義ファイルの文法エラーです。定義ファイルの誤りを訂正して、コマンドを再実行してください

#### KAJT18659-E

---

JP1ユーザー名リストの末尾に文字が指定されています

---

JP1 ユーザー名リストの末尾に文字が指定されています。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

定義ファイルの文法エラーです。定義ファイルの誤りを訂正して、コマンドを再実行してください。

#### KAJT18660-E

---

共通定義情報(共通定義)が定義されていません

---

共通定義情報 (共通定義) が定義されていません。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

正常に環境設定が行われていません。環境設定コマンドを再実行したあと、コマンドを再実行してください。

#### KAJT18661-E

---

デフォルトのファイル名取得でシステムエラーが発生しました

---

共通定義情報の取得でシステムエラーが発生しました

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、登録しようとした定義情報ファイルを採取した上でシステム管理者に連絡してください。

#### KAJT18662-W

---

OSユーザーの登録は上限値件までです。以降の登録は行いません

---

JP1 ユーザーの登録は、上限値件までです。上限値件以降は登録しません。



(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

定義ファイルに 1 万件以上のユーザーが定義されています。登録処理は 9,999 件までで、中断されます。

#### KAJT18665-W

jcmmapを中断しました

ユーザーの中断指示によって jcmmap コマンドの処理を中断しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

登録をし直す場合は、jcmmap コマンドを再実行してください。

#### KAJT18666-E

共通定義情報キー[情報キー]が定義されていません

共通定義情報キーが定義されていません。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

セットアップ処理が正常に行われているか確認してください。また、-h オプションで指定した論理ホスト名が正しいか確認してください。

#### KAJT18668-E

引数の長さが不正です

引数の長さが不正です。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

コマンドの文法エラーです。引数の長さを 260 文字未満に訂正して、コマンドを再実行してください。

#### KAJT18698-E

ユーザーマッピングのロックの解放に失敗しました。戻り値 = コード。

ユーザーマッピングのロックの解放に失敗しました。

(S)

コマンドを中止します。

(O)

システム環境が不正です。再度インストールおよびセットアップを実行してください。

#### KAJT18701-E

Administrators権限で実行してください

Administrators 権限でないため、コマンドが実行できません。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

Administrators 権限に変更してからコマンドを再実行してください。

#### KAJT18703-E

パスワード管理情報用キー作成でシステムエラーが発生しました

パスワード管理情報用キー作成でシステムエラーが発生しました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

資料採取ツールを使って資料を採取し、登録しようとした定義情報ファイルを採取した上でシステム管理者に連絡してください。

#### KAJT18707-E

ユーザー名は1文字以上上限値文字以内で設定してください

OS ユーザー名は、1 文字以上上限値文字以内で設定してください。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

コマンドの文法エラーです。JP1 ユーザー名を 1 文字以上上限値文字以内に訂正して、コマンドを再実行してください。

#### KAJT18717-E

パスワードは6文字以上上限値文字以内で設定してください

パスワードは、6 文字以上上限値文字以内で設定してください。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

コマンドの文法エラーです。パスワードを 6 文字以上上限値文字以内に訂正して、コマンドを再実行してください。

#### KAJT18720-E

パスワードスクランブルでシステムエラーが発生しました

パスワードスクランブルでシステムエラーが発生しました。

- (S) コマンドの処理を終了します。

- (O) 資料採取ツールを使って資料を採取し、登録しようとした定義情報ファイルを採取した上でシステム管理者に連絡してください。

#### KAJT18721-E

ユーザー登録でシステムエラーが発生しました

OS ユーザーの登録でシステムエラーが発生しました。

- (S) コマンドの処理を終了します。

- (O) コマンドを再実行してください。それでもエラーが発生する場合は、資料採取ツールを使って資料を採取し、登録しようとした定義情報ファイルを採取した上でシステム管理者に連絡してください。

#### KAJT18722-E

引数の数が不正です

引数の数が正しくありません。

- (S) コマンドの処理を終了します。

- (O) コマンドの文法エラーです。オプションの誤りを訂正して、コマンドを再実行してください。

#### KAJT18724-E

-h オプションが二重定義されています

-h オプションが二重定義されています。

- (S) コマンドの処理を終了します。

- (O) コマンドの文法エラーです。オプションの誤りを訂正して、コマンドを再実行してください。

#### KAJT18725-E

オプション名 オプションは認識できません

オプション名オプションは認識できません。

- (S) コマンドの処理を終了します。

- (O) コマンドの文法エラーです。オプションの誤りを訂正して、コマンドを再実行してください。

#### KAJT18727-E

メモリー不足のため領域の確保に失敗しました

メモリー不足のため領域の確保に失敗しました。

- (S) コマンドの処理を終了します。

- (O) 十分なメモリー領域を確保してから、コマンドを再実行してください。

#### KAJT18729-E

論理ホスト名は上限値文字以内で指定してください

論理ホスト名は、上限値文字以内で指定してください。

- (S) コマンドの処理を終了します。

- (O) コマンドの文法エラーです。オプションの誤りを訂正して、コマンドを再実行してください。なお、運用上、実際に指定できる文字数は上限値文字以内です。論理ホスト名は、上限値文字以内で指定してください。

#### KAJT18731-E

-p オプションが二重定義されています

-p オプションが二重定義されています。

- (S) コマンドの処理を終了します。

- (O) コマンドの文法エラーです。オプションの誤りを訂正して、コマンドを再実行してください。

#### KAJT18732-E

-u オプションが二重定義されています

-u オプションが二重定義されています。

- (S) コマンドの処理を終了します。

- (O) コマンドの文法エラーです。オプションの誤りを訂正して、コマンドを再実行してください。

#### KAJT18733-E

-p オプションが指定されていません

-p オプションが指定されていません。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

コマンドの文法エラーです。オプションの誤りを訂正して、コマンドを再実行してください。

**KAJT18734-E**

-u オプションが指定されていません

-u オプションが指定されていません。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

コマンドの文法エラーです。オプションの誤りを訂正して、コマンドを再実行してください。

**KAJT18735-I**

jcmumappass を起動しました。ユーザー名 = ユーザー名

jcmumappass を起動しました。

(O)

処理に成功したことを通知するメッセージです。

**KAJT18739-E**

指定された論理ホスト名は存在しません

指定された論理ホスト名は存在しません。

(S)

処理を終了します。

(O)

設定されている論理ホスト名を確認し、コマンドを再実行してください。

**KAJT18813-I**

OS ユーザー名を登録しました

OS ユーザー名を登録しました。

(O)

処理に成功したことを通知するメッセージです。OS ユーザーが登録されました。

**KAJT18825-I**

OS ユーザー名のパスワードを変更しました

OS ユーザー名のパスワードを変更しました。

(O)

処理に成功したことを通知するメッセージです。OS ユーザーのパスワードを変更しました。

**KAJT18851-E**

書き込みロック処理中にエラーが発生したため、操作が失敗しました

共通定義書き込みロックの取得に失敗しました。

(S)

コマンドを中止します。

(O)

システム環境が不正です。再度インストールおよびセットアップを実行してください。

**KAJT18904-E**

エラー error occurred. Return = コード

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

パスワードスクランブルでエラーが発生しています。資料採取ツールを使って資料を採取し、登録しようとした定義情報を採取した上でシステム管理者に連絡してください。

**KAJT18905-E**

エラー error occurred. Return = コード

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

パスワードスクランブルでエラーが発生しています。資料採取ツールを使って資料を採取し、登録しようとした定義情報を採取した上でシステム管理者に連絡してください。

**KAJT18931-E**

読み込みロック処理中にエラーが発生したため、操作が失敗しました

共通定義読み込みロックの取得に失敗しました。

(S)

コマンドを中止します。

(O)

システム環境が不正です。再度インストールおよびセットアップを実行してください。

**KAJT18951-E**

Administrators 権限で実行してください

Administrators 権限で実行してください。

(S)

コマンドの処理を終了します。

- (O) Administrators 権限に変更して、コマンドを再実行してください。

---

**KAJT18952-E**

---

ユーザーマッピングの登録がありません

ユーザーマッピングの情報が登録されていません。

- (S) コマンドの処理を終了します。

- (O) ユーザーマッピングの情報が登録されていないか、マッピング情報ファイルが壊れているおそれがあります。もう一度、ユーザーマッピング設定コマンドを実行し直してください。

---

**KAJT18961-E**

---

引数の数が不正です

引数の数が正しくありません。

- (S) コマンドの処理を終了します。

- (O) コマンドの文法エラーです。オプションの誤りを訂正して、コマンドを再実行してください。

---

**KAJT18962-E**

---

-h オプションが二重定義されています

-h オプションが二重定義されています。

- (S) コマンドの処理を終了します。

- (O) コマンドの文法エラーです。オプションの誤りを訂正して、コマンドを再実行してください。

---

**KAJT18963-E**

---

オプション名オプションは認識できません

オプション名オプションは認識できません。

- (S) コマンドの処理を終了します。

- (O) コマンドの文法エラーです。オプションの誤りを訂正して、コマンドを再実行してください。

---

**KAJT18964-E**

---

メモリー不足のため領域の確保に失敗しました

メモリー不足のため領域の確保に失敗しました。

- (S) コマンドの処理を終了します。

- (O) 十分なメモリー領域を確保してから、コマンドを再実行してください。

---

**KAJT18965-I**

---

マッピング情報取得成功

マッピング情報の取得に成功しました。

- (O) 処理に成功したことを通知するメッセージです。マッピング情報の取得に成功しました。

---

**KAJT18966-E**

---

論理ホスト名は上限値文字以内で指定してください

論理ホスト名は上限値文字以内で指定してください。

- (S) コマンドの処理を終了します。

- (O) コマンドの文法エラーです。オプションの誤りを訂正して、コマンドを再実行してください。なお、運用上、実際に指定できる文字数は上限値文字以内です。論理ホスト名は、上限値文字以内で指定してください。

---

**KAJT18967-I**

---

jcmgetumap を起動しました。定義ファイル名

jcmgetumap を起動しました。

- (O) 処理を開始したことを通知するメッセージです。

---

**KAJT18968-E**

---

OSユーザーの一覧取得でシステムエラーが発生しました

OS ユーザー一覧の取得でシステムエラーが発生しました。

- (S) コマンドの処理を終了します。

- (O) 資料採取ツールを使って資料を採取し、登録しようとした定義情報ファイルを採取した上でシステム管理者に連絡してください。

---

**KAJT18969-E**

---

OSユーザーの一覧取得でシステムエラーが発生しました

OS ユーザー一覧の取得でシステムエラーが発生しました。

**(S)**

コマンドの処理を終了します。

**(O)**

資料採取ツールを使って資料を採取し、登録しようとした定義情報ファイルを採取した上でシステム管理者に連絡してください。

**KAJT18970-E**

OSユーザーが一つも登録されていません

OSユーザーが一つも存在しません。

**(S)**

コマンドの処理を終了します。

**(O)**

OSユーザーの情報が登録されていないおそれがあります。もう一度、OSユーザーの登録を見直してください。

**KAJT18971-E**

OSユーザーの一つも登録されていません

OSユーザーが一つも存在しません。

**(S)**

コマンドの処理を終了します。

**(O)**

OSユーザーの情報が登録されていないおそれがあります。もう一度、OSユーザーの登録を見直してください。

**KAJT18972-E**

OSユーザーの一覧取得でシステムエラーが発生しました

OSユーザー ID 取得でシステムエラーが発生しました。

**(S)**

コマンドの処理を終了します。

**(O)**

資料採取ツールを使って資料を採取し、登録しようとした定義情報ファイルを採取した上でシステム管理者に連絡してください。

**KAJT18973-E**

OSユーザーの一覧取得でシステムエラーが発生しました

OSユーザー ID 取得でシステムエラーが発生しました。

**(S)**

コマンドの処理を終了します。

**(O)**

資料採取ツールを使って資料を採取し、登録しようとした定義情報ファイルを採取した上でシステム管理者に連絡してください。

**KAJT18974-E**

プライマリーユーザーラベルが存在していません

プライマリーユーザーラベルが存在しません。

**(S)**

コマンドの処理を終了します。

**(O)**

ユーザーマッピングの情報が登録されていないか、マッピング情報ファイルが壊れているおそれがあります。もう一度、ユーザーマッピング設定コマンドを実行し直してください。

**KAJT18975-E**

プライマリーユーザー取得でシステムエラーが発生しました

プライマリーユーザーの取得でシステムエラーが発生しました。

**(S)**

コマンドの処理を終了します。

**(O)**

資料採取ツールを使って資料を採取し、登録しようとした定義情報を採取した上でシステム管理者に連絡してください。

**KAJT18976-E**

JP1ユーザーの一覧取得でシステムエラーが発生しました

JP1ユーザー一覧の取得でシステムエラーが発生しました。

**(S)**

コマンドの処理を終了します。

**(O)**

資料採取ツールを使って資料を採取し、登録しようとした定義情報を採取した上でシステム管理者に連絡してください。

**KAJT18977-E**

JP1ユーザーが一つも存在していません

JP1ユーザーが登録されていません。

**(S)**

コマンドの処理を終了します。

**(O)**

JP1ユーザーが登録されていないおそれがあります。もう一度、JP1ユーザーの登録を見直してください。

**KAJT18978-E**

ユーザーマッピングの登録がされていません

ユーザーマッピングの情報が登録されていません。

**(S)**

コマンドの処理を終了します。

**(O)**

ユーザーマッピングの情報が登録されていないか、マッピング情報ファイルが壊れているおそれがあります。もう一度、ユーザーマッピング設定コマンドを実行し直してください。

---

**KAJT18979-E**

---

ユーザーマッピングの登録がされていません

---

ユーザーマッピングの情報が登録されていません。

**(S)**

コマンドの処理を終了します。

**(O)**

ユーザーマッピングの情報が登録されていないか、マッピング情報ファイルが壊れているおそれがあります。もう一度、ユーザーマッピング設定コマンドを実行し直してください。

# 付録

---

付録 A データモデル

---

## 付録 A データモデル

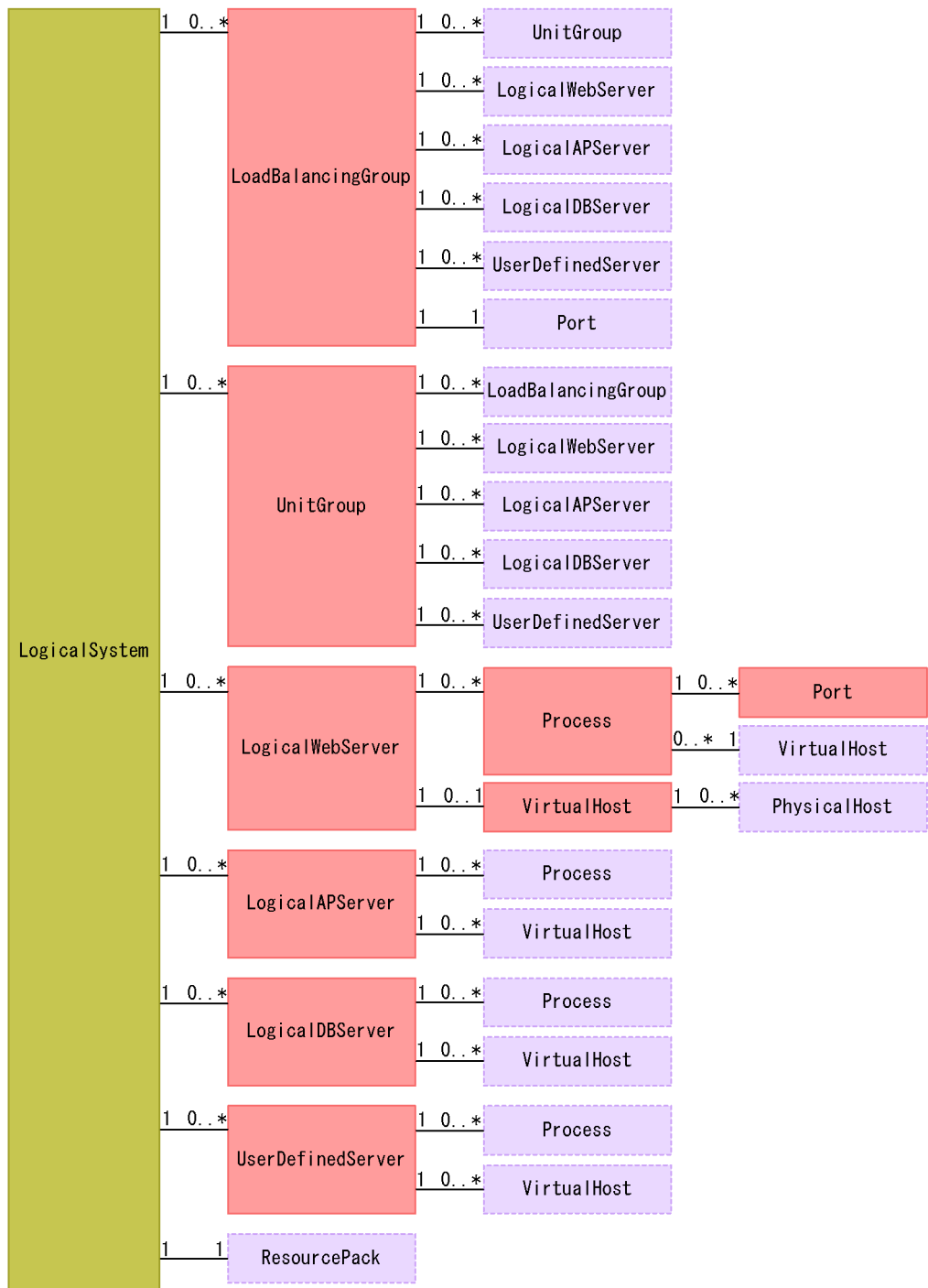
JP1/IM - CM で使用するデータモデルについて、その階層構造とプロパティ一覧を示します。

### 付録 A.1 データモデルの階層構造

データモデルの階層構造を次に示します。

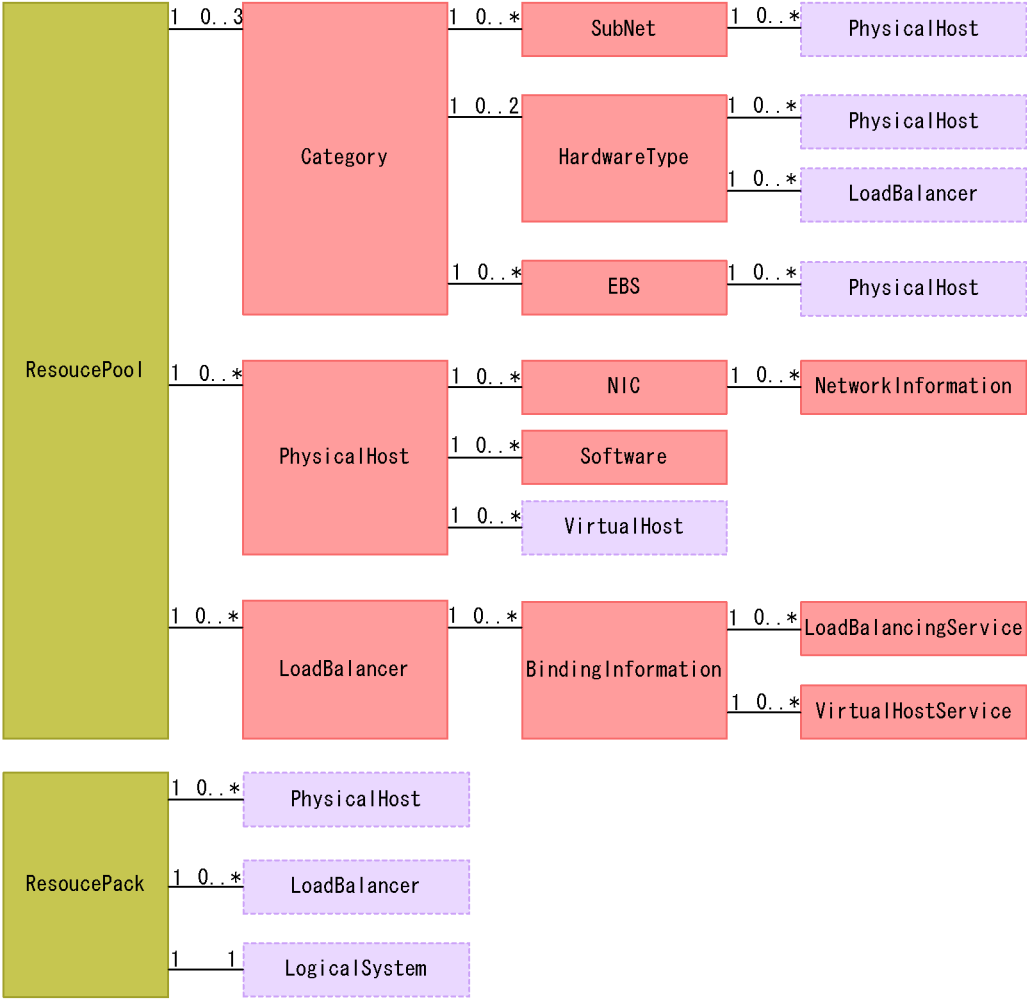


図 A-1 論理構成のデータモデルの階層構造



注 破線で示されるクラスは、実線で示される同名のクラス以降の定義に置き換えられます。

図 A-2 物理構成のデータモデルの階層構造



注 破線で示されるクラスは、実線で示される同名のクラス以降の定義に置き換えられます。

## 付録 A.2 プロパティ一覧

JP1/IM・CMで使用するデータモデルのプロパティ一覧を示します。

表 A-1 JP1/IM - CM で使用するデータモデルのプロパティ一覧

クラス名	プロパティ名	タイプ	長さ (バイト)	説明
LogicalSystem	InstanceID	String	10	該当する論理システムを一意に識別するためのインスタンス識別子です。問い合わせコマンド (jcmobjsearch) の出力結果およびプロパティを参照するときのキー情報として使用します。
	DisplayName	String	511	<p>該当する論理システムの名称で UROI の階層表現で使用します。</p> <p>Cosminexus から収集した場合、次のように設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「&lt;Cosminexus の Web システム表示名&gt;」が定義されている場合 「&lt;Cosminexus の Web システム表示名&gt;」を設定します。</li> <li>「&lt;Cosminexus の Web システム表示名&gt;」が定義されていない場合 「&lt;Cosminexus の Web システム名&gt;」を設定します。</li> <li>HiRDB から収集した場合 「_JCM_HiRDBManager: &lt;HiRDB マネージャのホスト名&gt;」を設定します。</li> </ul>
	Description	String	2,047	該当する論理システムの説明です。
	Owner	String	31	該当する論理システム情報を作成した JP1 ユーザー名です。
	LastUpdateUser	String	31	該当する論理システム情報を最後に更新した JP1 ユーザー名です。
	LastUpdate	Date Time	-	該当する論理システム情報の最終更新日時です。 <sup>1</sup>
	JP1ResourceGroup	String	64	該当する論理システム情報が所属する JP1 資源グループ名です。

クラス名	プロパティ名	タイプ	長さ (バイト)	説明
	LogicalSystemManagementName	String	30	該当する論理システムを Cosminexus・JP1/AJS2・SO で使用する場合は連携用名称です。Cosminexus から収集した場合、「<Cosminexus の Web システム名>」を設定します。
	SystemState	String	2,047	該当する論理システムの状態です。定義中「DEF」、構築中「CST」、確認中「CFM」、または稼働中「RUN」を設定します。
	TemplateType	String	2,047	該当する論理システム作成時のテンプレート名です。Cosminexus 向け Web 推奨モデル「CMB」またはフリーパターン「FRE」を設定します。Cosminexus から収集した場合、次のように設定します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• Cosminexus の構成モデルが「combined-tier」または「http-tier と j2ee-tier」の場合「CMB」を設定します。</li><li>• 上記以外の場合「FRE」を設定します。</li></ul>
	AJS2PAManagerHost	String	255	該当する論理システムに対するシナリオを管理する、JP1/AJS2・SO Manager のホスト名です。
LoadBalancingGroup	InstanceID	String	10	該当するロードバランシンググループを一意に識別するためのインスタンス識別子です。問い合わせコマンド (jcmobjsearch) の出力結果およびプロパティを参照するときのキー情報として使用します。

クラス名	プロパティ名	タイプ	長さ (バイト)	説明
	DisplayName	String	511	<p>該当するロードバランシンググループの名称です。UROIの階層表現で使用します。Cosminexus から収集した場合、次のように設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 「&lt;Cosminexus のロードバランサ表示名&gt;」が定義されている場合 「&lt;Cosminexus のロードバランサ表示名&gt;」を設定します。</li> <li>• 「&lt;Cosminexus のロードバランサ表示名&gt;」が定義されていない場合 「&lt;Cosminexus のロードバランサ名&gt;」を設定します。</li> </ul>
	Description	String	2,047	該当するロードバランシンググループの説明です。
	Owner	String	31	該当するロードバランシンググループを作成した JP1 ユーザー名です。
	LastUpdateUser	String	31	該当するロードバランシンググループを最後に更新した JP1 ユーザー名です。
	LastUpdate	Date Time	-	該当するロードバランシンググループの最終更新日時です。 <sup>1</sup>
	JP1ResourceGroup	String	64	該当するロードバランシンググループが所属する JP1 資源グループ名です。上位の論理システムで指定した JP1 資源グループ名が設定されます。
	CosminexusManagementName	String	32	<p>該当するロードバランシンググループを Cosminexus で使用する場合の連携名称です。Cosminexus から収集した場合、「&lt;Cosminexus のロードバランサ名&gt;」を設定します。</p>

クラス名	プロパティ名	タイプ	長さ (バイト)	説明
	LoadBalancingType	String	2,047	ロードバランシング種別です。ロードバランサを使用する場合は「LOADBALANCER」、またはロードバランサを使用しない場合は「OTHER」を設定します。Cosminexus から収集した場合は、「LOADBALANCER」を設定します。
	VirtualIPAddress	String	39	該当するロードバランシンググループに割り付けた業務用の仮想 IP アドレスです。IPv4、または IPv6 形式の IP アドレスを設定します。Cosminexus から収集した場合は、「<Cosminexus のロードバランサの仮想 IP アドレス名>」を設定します。
	LoadBalancingMethod	String	2,047	ロードバランシング方式です。コンボボックス表示内容定義ファイルの「LoadBalancingMethod」で定義した内容から選択します。
UnitGroup	InstanceID	String	10	該当するユニットグループを一意に識別するためのインスタンス識別子です。問い合わせコマンド (jcmobjsearch) の出力結果およびプロパティを参照するときのキー情報として使用します。
	DisplayName	String	511	<p>該当するユニットグループの名称です。UROI の階層表現で使用します。Cosminexus から収集した場合、次のように設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「&lt;Cosminexus のユニット表示名&gt;」が定義されている場合 「&lt;Cosminexus のユニット表示名&gt;」を設定します。</li> <li>「&lt;Cosminexus のユニット表示名&gt;」が定義されていない場合 「&lt;Cosminexus のユニット名&gt;」を設定します。</li> </ul>

クラス名	プロパティ名	タイプ	長さ (バイト)	説明
	Description	String	2,047	該当するユニットグループの説明です。
	Owner	String	31	該当するユニットグループを作成した JP1 ユーザー名です。
	LastUpdateUser	String	31	該当するユニットグループを最後に更新した JP1 ユーザー名です。
	LastUpdate	DateTime	-	該当するユニットグループの最終更新日時です。 <sup>1</sup>
	JP1ResourceGroup	String	64	該当するユニットグループが所属する JP1 資源グループ名です。上位の論理システムで指定した JP1 資源グループ名が設定されます。
	CosminexusManagementName	String	32	該当するユニットグループを Cosminexus で使用する場合の連携名称です。Cosminexus から収集した場合、「<Cosminexus のユニット名>」を設定します。
LogicalWebServer	InstanceID	String	10	該当する論理 Web サーバを一意に識別するためのインスタンス識別子です。問い合わせコマンド (jcmobjsearch) の出力結果およびプロパティを参照するときのキー情報として使用します。
	DisplayName	String	511	<p>該当する論理 Web サーバの名称です。UROI の階層表現で使用します。Cosminexus から収集した場合、次のように設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「&lt;Cosminexus の論理サーバ表示名&gt;」が定義されている場合 「&lt;Cosminexus の論理サーバ表示名&gt;」を設定します。</li> <li>「&lt;Cosminexus の論理サーバ表示名&gt;」が定義されていない場合 「&lt;Cosminexus の論理サーバ名&gt;」を設定します。</li> </ul>
	Description	String	2,047	該当する論理 Web サーバの説明です。

クラス名	プロパティ名	タイプ	長さ (バイト)	説明
	Owner	String	31	該当する論理 Web サーバを作成した JP1 ユーザー名です。
	LastUpdateUser	String	31	該当する論理 Web サーバを最後に更新した JP1 ユーザー名です。
	LastUpdate	DateTi me	-	該当する論理 Web サーバの最終更新日時です。 <sup>1</sup>
	JP1ResourceGrou p	String	64	該当する論理 Web サーバが所属する JP1 資源グループ名です。上位の論理システムで指定した JP1 資源グループ名が設定されます。
	CosminexusMana gementName	String	128	該当する論理 Web サーバを Cosminexus で使用する場合の連携名称です。Cosminexus から収集した場合、「<Cosminexus の論理サーバ名>」を設定します。
	MiddlewareName	String	511	該当する論理 Web サーバ上で動作するミドルウェアの名称です。コンボボックス表示内容定義ファイルの「MiddlewareName」で定義した内容から選択します。
	MiddlewareVersio n	String	127	該当する論理 Web サーバ上で動作するミドルウェアのバージョンです。
	ManagementMid dlewareName	String	511	該当する論理 Web サーバを管理するミドルウェアの名称です。コンボボックス表示内容定義ファイルの「ManagementMiddlewareName」で定義した内容から選択します。
	ManagementMid dlewareVersion	String	127	該当する論理 Web サーバを管理するミドルウェアのバージョンです。
	ManagementMid dlewareHostNam e	String	255	該当する論理 Web サーバを管理するミドルウェアが動作するサーバのホスト名称です。コンボボックス表示内容定義ファイルの「ManagementMiddlewareHostName」で定義した内容から選択します。



クラス名	プロパティ名	タイプ	長さ (バイト)	説明
LogicalAPServer	InstanceID	String	10	該当する論理 AP サーバを一意に識別するためのインスタンス識別子です。問い合わせコマンド (jcmobjsearch) の出力結果およびプロパティを参照するときのキー情報として使用します。
	DisplayName	String	511	<p>該当する論理 AP サーバの名称です。UROI の階層表現で使います。Cosminexus から収集した場合、次のように設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「&lt;Cosminexus の論理サーバ表示名&gt;」が定義されている場合 「&lt;Cosminexus の論理サーバ表示名&gt;」を設定します。</li> <li>「&lt;Cosminexus の論理サーバ表示名&gt;」が定義されていない場合 「&lt;Cosminexus の論理サーバ名&gt;」を設定します。</li> </ul>
	Description	String	2,047	該当する論理 AP サーバの説明です。
	Owner	String	31	該当する論理 AP サーバを作成した JP1 ユーザー名です。
	LastUpdateUser	String	31	該当する論理 AP サーバを最後に更新した JP1 ユーザー名です。
	LastUpdate	Date Time	-	該当する論理 AP サーバの最終更新日時です。 <sup>1</sup>
	JP1ResourceGroup	String	64	該当する論理 AP サーバが所属する JP1 資源グループ名です。上位の論理システムで指定した JP1 資源グループ名が設定されます。
	CosminexusManagementName	String	128	該当する論理 AP サーバを Cosminexus で使用する場合の連携名称です。Cosminexus から収集した場合、「<Cosminexus の論理サーバ名>」を設定します。
	HiRDBManagementName	String	127	該当する論理 AP サーバを HiRDB で使用する場合の連携名称です。

クラス名	プロパティ名	タイプ	長さ (バイト)	説明
	AJS2PAManagerManagementName	String	30	該当する論理 AP サーバを JP1/AJS2 - PA で使用する場合の連携名称です。
	MiddlewareName	String	511	該当する論理 AP サーバ上で動作するミドルウェアの名称です。コンボボックス表示内容定義ファイルの「MiddlewareName」で定義した内容から選択します。
	MiddlewareVersion	String	127	該当する論理 AP サーバ上で動作するミドルウェアのバージョンです。
	ManagementMiddlewareName	String	511	該当する論理 AP サーバを管理するミドルウェアの名称です。コンボボックス表示内容定義ファイルの「ManagementMiddlewareName」で定義した内容から選択します。
	ManagementMiddlewareVersion	String	127	該当する論理 AP サーバを管理するミドルウェアのバージョンです。
	ManagementMiddlewareHostName	String	255	該当する論理 AP サーバを管理するミドルウェアが動作するサーバのホスト名称です。コンボボックス表示内容定義ファイルの「ManagementMiddlewareHostName」で定義した内容から選択します。
LogicalDBServer	InstanceID	String	10	該当する論理 DB サーバを一意に識別するためのインスタンス識別子です。問い合わせコマンド (jcmobjsearch) の出力結果およびプロパティを参照するときのキー情報として使用します。
	DisplayName	String	511	該当する論理 DB サーバの名称です。UROI の階層表現で使います。HiRDB から収集した場合、「<HiRDB ニックネーム>」を設定します。
	Description	String	2,047	該当する論理 DB サーバの説明です。
	Owner	String	31	該当する論理 DB サーバを作成した JP1 ユーザー名です。

クラス名	プロパティ名	タイプ	長さ (バイト)	説明
	LastUpdateUser	String	31	該当する論理 DB サーバを最後に更新した JP1 ユーザー名です。
	LastUpdate	DateTime	-	該当する論理 DB サーバの最終更新日時です。 <sup>1</sup>
	JP1ResourceGroup	String	64	該当する論理 DB サーバが所属する JP1 資源グループ名です。上位の論理システムで指定した JP1 資源グループ名が設定されます。
	CosminexusManagementName	String	128	該当するユーザー定義サーバを Cosminexus で使用する場合の連携名称です。
	HiRDBManagementName	String	127	該当する論理 DB サーバを HiRDB で使用する場合の連携名称です。HiRDB から収集した場合、「<HiRDB ニックネーム>」を設定します。
	MiddlewareName	String	511	該当する論理 DB サーバ上で動作するミドルウェアの名称です。コンボボックス表示内容定義ファイルの「MiddlewareName」で定義した内容から選択します。
	MiddlewareVersion	String	127	該当する論理 DB サーバ上で動作するミドルウェアのバージョンです。
	ManagementMiddlewareName	String	511	該当する論理 DB サーバを管理するミドルウェアの名称です。コンボボックス表示内容定義ファイルの「ManagementMiddlewareName」で定義した内容から選択します。
	ManagementMiddlewareVersion	String	127	該当する論理 DB サーバを管理するミドルウェアのバージョンです。
	ManagementMiddlewareHostName	String	255	該当する論理 DB サーバを管理するミドルウェアが動作するサーバのホスト名称です。コンボボックス表示内容定義ファイルの「ManagementMiddlewareHostName」で定義した内容から選択します。

クラス名	プロパティ名	タイプ	長さ (バイト)	説明
UserDefinedServer	InstanceID	String	10	該当するユーザー定義サーバを一意に識別するためのインスタンス識別子です。問い合わせコマンド (jcmobjsearch) の出力結果およびプロパティを参照するときのキー情報として使用します。
	DisplayName	String	511	該当するユーザー定義サーバの名称です。UROI の階層表現で使用します。
	Description	String	2,047	該当するユーザー定義サーバの説明です。
	Owner	String	31	該当するユーザー定義サーバを作成した JP1 ユーザー名です。
	LastUpdateUser	String	31	該当するユーザー定義サーバを最後に更新した JP1 ユーザー名です。
	LastUpdate	DateTime	-	該当するユーザー定義サーバの最終更新日時です。 <sup>1</sup>
	JP1ResourceGroup	String	64	該当するユーザー定義サーバが所属する JP1 資源グループ名です。上位の論理システムで指定した JP1 資源グループ名が設定されます。
	CosminexusManagementName	String	128	該当するユーザー定義サーバを Cosminexus で使用する場合の連携名称です。
	MiddlewareName	String	511	該当するユーザー定義サーバ上で動作するミドルウェアの名称です。コンボボックス表示内容定義ファイルの「MiddlewareName」で定義した内容から選択します。
	MiddlewareVersion	String	127	該当するユーザー定義サーバ上で動作するミドルウェアのバージョンです。
	ManagementMiddlewareName	String	511	該当するユーザー定義サーバを管理するミドルウェアの名称です。コンボボックス表示内容定義ファイルの「ManagementMiddlewareName」で定義した内容から選択します。

クラス名	プロパティ名	タイプ	長さ (バイト)	説明
	ManagementMiddlewareVersion	String	127	該当するユーザー定義サーバを管理するミドルウェアのバージョンです。
	ManagementMiddlewareHostName	String	255	該当するユーザー定義サーバを管理するミドルウェアが動作するサーバのホスト名称です。コンボボックス表示内容定義ファイルの「ManagementMiddlewareHostName」で定義した内容から選択します。
Process	InstanceID	String	10	該当するプロセスを一意に識別するためのインスタンス識別子です。問い合わせコマンド(jcmobjsearch)の出力結果およびプロパティを参照するときのキー情報として使用します。
	DisplayName	String	511	該当するプロセスの名称です。UROI の階層表現で使用します。Cosminexus から収集した場合、「<ProcessTypeの値><最初に該当するプロセスを作成したときの論理サーバの InstanceID>」を設定します。HiRDB から収集した場合、「<HiRDB で設定されているサーバ名>」を設定します。
	Description	String	2,047	該当するプロセスの説明です。
	Owner	String	31	該当するプロセスを作成した JP1 ユーザー名です。
	LastUpdateUser	String	31	該当するプロセスを最後に更新した JP1 ユーザー名です。
	LastUpdate	DateTime	-	該当するプロセスの最終更新日時です。 <sup>1</sup>
	JP1ResourceGroup	String	64	該当するプロセスが所属する JP1 資源グループ名です。上位の論理システムで指定した JP1 資源グループ名が設定されます。

クラス名	プロパティ名	タイプ	長さ (バイト)	説明
	MiddlewareType	String	2,047	該当するプロセスが動作するミドルウェアの種別です。コンボボックス表示内容定義ファイルの「MiddlewareType」で定義した内容から選択します。
	ProcessType	String	63	該当するプロセスの種別です。ミドルウェア種別によって、設定できる値が決まります。コンボボックス表示内容定義ファイルの「ProcessType」で定義した内容から選択します。
Port	InstanceID	String	10	該当するポートを一意に識別するためのインスタンス識別子です。問い合わせコマンド(jcmobjsearch)の出力結果およびプロパティを参照するときのキー情報として使用します。

クラス名	プロパティ名	タイプ	長さ (バイト)	説明
	DisplayName	String	511	<p>該当するポートの名称です。UROI の階層表現で使用します。Cosminexus から収集した場合、次のように設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ロードバランシンググループのポート情報の場合 「&lt; ロードバランサのポート番号 &gt;:&lt; 最初に該当するポート情報を作成したときのロードバランシンググループの InstanceID&gt;」を設定します。</li> <li>論理 Web サーバ・論理 AP サーバのポート情報の場合 「&lt; 論理 Web サーバのポート番号 &gt;:&lt; 最初に該当するポート情報を作成したときの論理 Web サーバの InstanceID&gt;」または「&lt; 論理 AP サーバのポート番号 &gt;:&lt; 最初に該当するポート情報を作成したときの論理 AP サーバの InstanceID&gt;」を設定します。</li> <li>HiRDB から収集した場合 「&lt; 論理 DB サーバのポート番号 &gt;:&lt; 最初に該当するポート情報を作成したときの論理 DB サーバに対応した仮想ホストの InstanceID&gt;」を設定します。</li> </ul>
	Description	String	2,047	該当するポートの説明です。
	Owner	String	31	該当するポートを作成した JP1 ユーザー名です。
	LastUpdateUser	String	31	該当するポートを最後に更新した JP1 ユーザー名です。
	LastUpdate	Date Time	-	該当するポートの最終更新日時です。 <sup>1</sup>
	JP1ResourceGroup	String	64	該当するポートが所属する JP1 資源グループ名です。上位の論理システムで指定した JP1 資源グループ名が設定されます。

クラス名	プロパティ名	タイプ	長さ (バイト)	説明
	PortNumber	Integer	-	<p>該当するポートのポート番号です。Cosminexus から収集した場合、次のように設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ロードバランシンググループのポート情報の場合 「&lt;ロードバランサのポート番号&gt;」を設定します。</li> <li>論理 Web サーバ・論理 AP サーバのポート情報の場合 「&lt;論理 Web サーバのポート番号&gt;」または「&lt;論理 AP サーバのポート番号&gt;」を設定します。</li> <li>HiRDB から収集した場合 「&lt;論理 DB サーバのポート番号&gt;」を設定します。</li> </ul>
	PortName	String	127	該当するポートの名称です。Services ファイルで指定するポート名称を指定します。
	Protocol	String	15	該当するポートのプロトコル種別です。「tcp」、「udp」、または「tcp/udp」を設定します。
VirtualHost	InstanceID	String	10	該当する仮想ホストを一意に識別するためのインスタンス識別子です。問い合わせコマンド (jcmobjsearch) の出力結果およびプロパティを参照するときのキー情報として使用します。



クラス名	プロパティ名	タイプ	長さ (バイト)	説明
	DisplayName	String	511	<p>該当する仮想ホストの名称です。UROI の階層表現で使用します。Cosminexus から収集した場合、次のように設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「&lt;Cosminexus の運用ホスト表示名&gt;」が定義されている場合 「&lt;Cosminexus の運用ホスト表示名&gt;」を設定します。</li> <li>「&lt;Cosminexus の運用ホスト表示名&gt;」が定義されていない場合 「&lt;Cosminexus の運用ホスト名&gt;」を設定します。</li> <li>HiRDB から収集した場合 「&lt;HiRDB のホスト名&gt;」を設定します。</li> </ul>
	Description	String	2,047	該当する仮想ホストの説明です。
	Owner	String	31	該当する仮想ホストを作成した JP1 ユーザー名です。
	LastUpdateUser	String	31	該当する仮想ホストを最後に更新した JP1 ユーザー名です。
	LastUpdate	DateTime	-	該当する仮想ホストの最終更新日時です。 <sup>1</sup>
	JP1ResourceGroup	String	64	該当する仮想ホストが所属する JP1 資源グループ名です。上位の論理システムで指定した JP1 資源グループ名が設定されます。
	CosminexusManagementName	String	32	該当する仮想ホストを Cosminexus で使用する場合は連携名称です。Cosminexus から収集した場合、「<Cosminexus の運用ホスト名>」を設定します。
	HiRDBManagementName	String	127	該当する仮想ホストを HiRDB で使用する場合は連携名称です。HiRDB から収集した場合、「<HiRDB のホスト名>」を設定します。

クラス名	プロパティ名	タイプ	長さ (バイト)	説明
	BusinessIPAddresses	String	39	該当する仮想ホストの業務用 IP アドレスです。IPv4, または IPv6 形式の IP アドレスを設定します。Cosminexus から収集した場合, 「<Cosminexus の運用ホストの運用用 IP アドレス>」を設定します。
	BusinessSubNetMask	String	39	該当する仮想ホストの業務用 IP アドレスに対するサブネットマスクです。
	ManagementHostDisplayName	String	511	該当する仮想ホストの管理用ホスト名です。
	ManagementIPAddress	String	39	該当する仮想ホストの管理用 IP アドレスです。IPv4, または IPv6 形式の IP アドレスを設定します。Cosminexus から収集した場合, 「<Cosminexus の運用ホストの管理用 IP アドレス>」を設定します。
	ManagementSubNetMask	String	39	該当する仮想ホストの管理用 IP アドレスに対するサブネットマスクです。
	RequestCPUType	String	255	該当する仮想ホストに要求される CPU 種別です。
	RequestCPUClock	String	5	該当する仮想ホストに要求される CPU クロック数です。
	RequestNumOfCPUs	Integer	-	該当する仮想ホストに要求される CPU 搭載数です。
	RequestMemorySize	String	5	該当する仮想ホストに要求されるメモリ容量です。
	RequestStorageSize	String	5	該当する仮想ホストに要求されるディスク容量です。
	RequestOSType	String	255	該当する仮想ホストに要求される OS 種別です。
	RequestOSVersion	String	255	該当する仮想ホストに要求される OS のバージョンです。
	RedundantConfiguration	Boolean	-	該当する仮想ホストの冗長構成区分です。冗長構成とする場合は「True」、それ以外は「False」を設定します。 <sup>2</sup>

クラス名	プロパティ名	タイプ	長さ (バイト)	説明
	TierType	String	2,047	該当する仮想ホストを Cosminexus で使用する場合はティア種別です。 「combined-tier」, 「http-tier」,「j2ee-tier」, 「http/servlet-tier」,または 「ejb-tier」を設定します。 Cosminexus から収集した場合,「<Cosminexus の運用ホストに対応したティア種別>」を設定します。
ResourcePool	InstanceID	String	10	該当するリソースプールを一意に識別するためのインスタンス識別子です。問い合わせコマンド (jcmobjsearch) の出力結果およびプロパティを参照するときのキー情報として使用します。
	DisplayName	String	-	「ResourcePool」固定です。
	CategoryType	String	-	使用されません。
Category	InstanceID	String	10	該当するカテゴリを一意に識別するためのインスタンス識別子です。問い合わせコマンド (jcmobjsearch) の出力結果およびプロパティを参照するときのキー情報として使用します。
	DisplayName	String	-	「SubNet」, 「HardwareType」,「EBS」 のどれかが設定されます。上記の値を持つオブジェクトは一つずつしか存在しません。
	CategoryType	String	-	「SubNet」, 「HardwareType」,「EBS」 のどれかが設定されます。上記の値を持つオブジェクトは一つずつしか存在しません。
SubNet	InstanceID	String	10	該当するサブネットのグループを一意に識別するためのインスタンス識別子です。問い合わせコマンド (jcmobjsearch) の出力結果およびプロパティを参照するときのキー情報として使用します。

クラス名	プロパティ名	タイプ	長さ (バイト)	説明
	DisplayName	String	-	物理ホストのネットワーク情報の IP アドレスをサブネットマスクでグルーピングした IP アドレスグループ名 (例: 10.208.40.0) を設定します。
	CategoryType	String	-	「SubNet」固定です。
	SearchCondition	String	-	物理ホストのネットワーク情報の IP アドレスをサブネットマスクでグルーピングした IP アドレスグループ名 (例: 10.208.40.0) を設定します。
HardwareType	InstanceID	String	10	該当するハードウェアグループを一意に識別するためのインスタンス識別子です。問い合わせコマンド (jcmobjsearch) の出力結果およびプロパティを参照するときのキー情報として使用します。
	DisplayName	String	-	「PhysicalHost」または「LoadBalancer」が設定されます。
	CategoryType	String	-	「HardwareType」固定です。
	SearchCondition	String	-	「PhysicalHost」または「LoadBalancer」が設定されます。
EBS	InstanceID	String	10	該当する BladeServer のグループ (シャーシ単位) を一意に識別するためのインスタンス識別子です。問い合わせコマンド (jcmobjsearch) の出力結果およびプロパティを参照するときのキー情報として使用します。
	DisplayName	String	-	物理ホストの Blade 情報で指定したシャーシ ID を設定します。
	CategoryType	String	-	「EBS」固定です。
	SearchCondition	String	-	物理ホストの Blade 情報で指定したシャーシ ID を設定します。

クラス名	プロパティ名	タイプ	長さ (バイト)	説明
PhysicalHost	InstanceID	String	10	該当する物理ホストを一意に識別するためのインスタンス識別子です。問い合わせコマンド (jcmobjsearch) の出力結果およびプロパティを参照するときのキー情報として使用します。
	DisplayName	String	511	<p>該当する物理ホストの名称です。UROI の階層表現で使用します。JP1/SC/Control Manager から収集した場合、次のように設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 「&lt;サーバ名&gt;」が設定されている場合 「&lt;サーバ名&gt;」を設定します。</li> <li>• 「&lt;サーバ名&gt;」が定義されていない、かつ、NIC の情報が存在する場合 「PhysicalHost:&lt;最初に定義された NIC の MAC アドレス&gt;」を設定します。</li> <li>• 「&lt;サーバ名&gt;」が定義されていない、かつ、NIC の情報が存在しない場合 情報収集でエラーとなります。</li> </ul>

クラス名	プロパティ名	タイプ	長さ (バイト)	説明
				<p>JP1/NETM/AIM から収集した場合、次のように設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 「&lt;サーバ名&gt;」が設定されている場合 「&lt;サーバ名&gt;」を設定します。</li> <li>• 「&lt;サーバ名&gt;」が定義されていない、かつ、NIC の情報が存在する場合 「PhysicalHost:&lt;最初に定義された NIC の MAC アドレス&gt;」を設定します。</li> <li>• 「&lt;サーバ名&gt;」が定義されていない、かつ、「資産番号」が設定されている場合 「PhysicalHost:&lt;資産番号&gt;」を設定します。</li> <li>• 「&lt;サーバ名&gt;」が定義されていない、かつ、NIC の情報および「資産番号」が設定されていない場合 情報収集でエラーとなります。</li> </ul>
	Description	String	2,047	該当する物理ホストの説明です。
	Owner	String	31	該当する物理ホストを作成した JP1 ユーザー名です。
	LastUpdateUser	String	31	該当する物理ホストを最後に更新した JP1 ユーザー名です。
	LastUpdate	DateTime	-	該当する物理ホストの最終更新日時です。 <sup>1</sup>
	ExclusiveHardware	Boolean	-	該当する物理ホストの論理システムでの占有 / 共有の状態です。特定の論理システムで占有する場合は「True」、複数の論理システムで共有する場合は「False」を設定します。 <sup>2</sup>
	AssetID	Long	-	該当する物理ホストの資産番号です。JP1/NETM/AIM から収集した場合、「<資産番号>」を設定します。

クラス名	プロパティ名	タイプ	長さ (バイト)	説明
	Model	String	255	該当する物理ホストのモデル名または型名です。JP1/SC/Control Manager または JP1/NETM/AIM から収集した場合、「<型名>」を設定します。
	ChassisID	String	255	該当する物理ホストが Blade サーバの場合、搭載されているシャーシの製造番号です。JP1/SC/Control Manager から収集した場合、「<シャーシID>」を設定します。
	SlotNumber	String	255	該当する物理ホストが Blade サーバの場合、搭載されているシャーシのスロット番号です。JP1/SC/Control Manager から収集した場合、「<スロット番号>」を設定します。
	CPUType	String	255	該当する物理ホストに搭載されている CPU の種別です。JP1/SC/Control Manager または JP1/NETM/AIM から収集した場合、「<CPU 種別>」を設定します。
	CPUClock	String	5	該当する物理ホストに搭載されている CPU のクロック数です。JP1/SC/Control Manager または JP1/NETM/AIM から収集した場合、「<CPU クロック数>」を設定します。
	NumOfCPUs	Integer	-	該当する物理ホストに搭載されている CPU の数です。JP1/SC/Control Manager または JP1/NETM/AIM から収集した場合、「<CPU 搭載数>」を設定します。
	MemorySize	String	5	該当する物理ホストに搭載されているメモリの容量です。JP1/SC/Control Manager または JP1/NETM/AIM から収集した場合、「<メモリー容量>」を設定します。

クラス名	プロパティ名	タイプ	長さ (バイト)	説明
	StorageSize	String	5	該当する物理ホストに搭載されている、Storage サブシステムの割当容量を含む HDD の容量です。JP1/SC/Control Manager または JP1/NETM/AIM から収集した場合、「<HDD 容量>」を設定します。
	SVPAddress	String	39	該当する物理ホストに搭載されている SVP のアドレスです。JP1/SC/Control Manager から収集した場合、「<SVP アドレス>」を設定します。
	OSType	String	255	該当する物理ホストにインストールされている OS の種別です。JP1/SC/Control Manager または JP1/NETM/AIM から収集した場合、「<OS 種別>」を設定します。
	OSVersion	String	255	該当する物理ホストにインストールされている OS のバージョン情報です。JP1/SC/Control Manager または JP1/NETM/AIM から収集した場合、「<OS のバージョン>」を設定します。
	NplusOneCluster Name	String	255	該当する物理ホストの N+1 グループの名称です。JP1/SC/Control Manager から収集した場合、「<N+1 グループ名>」を設定します。
	NplusOneActive	Boolean	-	該当する物理ホストの N+1 グループでの現用 / 待機の区分です。現用系の場合は「True」、待機系の場合は「False」を設定します。JP1/SC/Control Manager から収集した場合、N+1 グループでの現用 / 待機区分を設定します。 <sup>2</sup>



クラス名	プロパティ名	タイプ	長さ (バイト)	説明
NIC	InstanceID	String	10	該当する NIC を一意に識別するためのインスタンス識別子です。問い合わせコマンド (jcmobjsearch) の出力結果およびプロパティを参照するときのキー情報として使用します。
	DisplayName	String	511	該当する NIC の MAC アドレスです。UROI の階層表現で使用します。JP1/SC/Control Manager または JP1/NETM/AIM から収集した場合，「<MAC アドレス>」を設定します。
	Owner	String	31	該当する NIC 情報を作成した JP1 ユーザー名です。
	LastUpdateUser	String	31	該当する NIC 情報を最後に更新した JP1 ユーザー名です。
	LastUpdate	Date Time	-	該当する NIC 情報の最終更新日時です。 <sup>1</sup>
	InterfaceName	String	255	該当する NIC の名称です。JP1/NETM/AIM から収集した場合，NIC 名称が設定されます。
	MACAddress	String	17	該当する NIC の MAC アドレスです。JP1/SC/Control Manager または JP1/NETM/AIM から収集した場合，「<MAC アドレス>」を設定します。
NetworkInformation	InstanceID	String	10	該当するネットワーク情報を一意に識別するためのインスタンス識別子です。問い合わせコマンド (jcmobjsearch) の出力結果およびプロパティを参照するときのキー情報として使用します。
	DisplayName	String	511	ネットワーク情報の IP アドレスです。UROI の階層表現で使用します。「<IP アドレス>:<上位の NIC の DisplayName>」を設定します。

クラス名	プロパティ名	タイプ	長さ (バイト)	説明
	Owner	String	31	該当するネットワーク情報を作成した JP1 ユーザー名です。
	LastUpdateUser	String	31	該当するネットワーク情報を最後に更新した JP1 ユーザー名です。
	LastUpdate	DateTi me	-	該当するネットワーク情報の最終更新日時です。 <sup>1</sup>
	IPAddress	String	39	上位の NIC に設定されているネットワーク情報 (IP アドレス) です。IPv4, または IPv6 形式の IP アドレスを設定します。JP1/SC/Control Manager または JP1/NETM/AIM から収集した場合, 「<IP アドレス>」を設定します。
	SubNetMask	String	39	上位の NIC に設定されているネットワーク情報 (サブネットマスク) です。JP1/SC/Control Manager または JP1/NETM/AIM から収集した場合, 「<サブネットマスク>」を設定します。
	DefaultGateway	String	39	上位の NIC に設定されているネットワーク情報 (デフォルトゲートウェイ) です。IPv4, または IPv6 形式の IP アドレスを設定します。JP1/SC/Control Manager または JP1/NETM/AIM から収集した場合, 「<デフォルトゲートウェイ>」を設定します。
Software	InstanceID	String	10	該当するソフトウェアを一意に識別するためのインスタンス識別子です。問い合わせコマンド (jcmobjsearch) の出力結果およびプロパティを参照するときのキー情報として使用します。
	DisplayName	String	511	該当するソフトウェア情報の名称です。UROI の階層表現で使用します。「<ソフトウェア名>:<バージョン>」を設定します。

クラス名	プロパティ名	タイプ	長さ (バイト)	説明
	Owner	String	31	該当するソフトウェア情報を作成した JP1 ユーザー名です。
	LastUpdateUser	String	31	該当するソフトウェア情報を最後に更新した JP1 ユーザー名です。
	LastUpdate	DateTime	-	該当するソフトウェア情報の最終更新日時です。 <sup>1</sup>
	SoftwareName	String	255	該当するソフトウェアの名称です。
	Version	String	255	該当するソフトウェアのバージョンです。
LoadBalancer	InstanceID	String	10	該当するロードバランサを一意に識別するためのインスタンス識別子です。問い合わせコマンド ( jcmobjsearch ) の出力結果およびプロパティを参照するときのキー情報として使用します。
	DisplayName	String	511	該当するロードバランサの名称です。UROI の階層表現で使います。JP1/Cm2/NC から収集した場合、「<スイッチ名称>」を設定します。
	Description	String	2,047	該当するロードバランサの説明です。
	Owner	String	31	該当するロードバランサを作成した JP1 ユーザー名です。
	LastUpdateUser	String	31	該当するロードバランサを最後に更新した JP1 ユーザー名です。
	LastUpdate	DateTime	-	該当するロードバランサの最終更新日時です。 <sup>1</sup>
	ExclusiveHardware	Boolean	-	該当するロードバランサの論理システムでの占有 / 共有の状態です。特定の論理システムで占有する場合は「True」、複数の論理システムで共有する場合は「False」を設定します。 <sup>2</sup>
	DeviceName	String	255	該当するロードバランサの名称です。JP1/Cm2/NC から収集した場合、「<スイッチ名称>」を設定します。

クラス名	プロパティ名	タイプ	長さ (バイト)	説明
	Model	String	255	該当するロードバランサのモデル名です。JP1/Cm2/NC から収集した場合、「<モデル名>」を設定します。
	ManagementIPAddress	String	39	該当するロードバランサの管理用 IP アドレスです。IPv4 , または IPv6 形式の IP アドレスを設定します。JP1/Cm2/NC から収集した場合、「<管理用 IP アドレス>」を設定します。
BindingInformation	InstanceID	String	10	該当するバインド情報を一意に識別するためのインスタンス識別子です。問い合わせコマンド (jcmobjsearch) の出力結果およびプロパティを参照するときのキー情報として使用します。
	DisplayName	String	511	該当するバインド情報の名称です。UROI の階層表現で使用します。JP1/Cm2/NC から収集した場合、「<スイッチ名称>:<仮想 IP アドレス>:<ポート番号>」を設定します。
	LoadBalancingMethod	String	2,047	該当するバインド情報で使用するロードバランシング方式です。JP1/Cm2/NC から収集した場合、「<ロードバランシング方式>」を設定します。
LoadBalancingService	InstanceID	String	10	該当するロードバランシングサービス情報を一意に識別するためのインスタンス識別子です。問い合わせコマンド (jcmobjsearch) の出力結果およびプロパティを参照するときのキー情報として使用します。
	DisplayName	String	511	該当するロードバランシングサービス情報の名称です。UROI の階層表現で使用します。JP1/Cm2/NC から収集した場合、「<スイッチ名称>:<仮想 IP アドレス>:<ポート番号>」を設定します。

クラス名	プロパティ名	タイプ	長さ (バイト)	説明
	IPAddress	String	39	該当するロードバランシングサービスが提供する仮想 IP アドレスです。IPv4, または IPv6 形式の IP アドレスを設定します。JP1/Cm2/NC から収集した場合, 「< 仮想 IP アドレス >」を設定します。
	PortNumber	Integer	-	該当するロードバランシングサービスが提供するポート番号です。JP1/Cm2/NC から収集した場合, 「< 仮想 IP アドレスに対応したポート番号 >」を設定します。
VirtualHostService	InstanceID	String	10	該当する仮想ホストサービス情報を一意に識別するためのインスタンス識別子です。問い合わせコマンド (jcmobjsearch) の出力結果およびプロパティを参照するときのキー情報として使用します。
	DisplayName	String	511	該当する仮想ホストサービス情報の名称です。UROI の階層表現で使用します。JP1/Cm2/NC から収集した場合, 「< スイッチ名称 >:< 接続先仮想ホスト IP アドレス >:< ポート番号 >」を設定します。
	IPAddress	String	39	該当する仮想ホストサービスが対応するロードバランシングサービスに接続する仮想ホストの IP アドレスです。IPv4, または IPv6 形式の IP アドレスを設定します。JP1/Cm2/NC から収集した場合, 「< 接続先仮想ホスト IP アドレス >」を設定します。
	PortNumber	Integer	-	該当する仮想ホストサービスが対応するロードバランシングサービスに接続する仮想ホストのポート番号です。JP1/Cm2/NC から収集した場合, 「< 接続先仮想ホスト IP アドレスに対応したポート番号 >」を設定します。

クラス名	プロパティ名	タイプ	長さ (バイト)	説明
ResourcePack	InstanceID	String	10	該当するリソースパックを一意に識別するためのインスタンス識別子です。問い合わせコマンド (jcmobjsearch) の出力結果およびプロパティを参照するときのキー情報として使用します。
	DisplayName	String	511	該当するリソースパックの名称です。UROI の階層表現で使用します。
	Owner	String	31	該当するリソースパックを作成した JP1 ユーザー名です。
	LastUpdateUser	String	31	該当するリソースパックを最後に更新した JP1 ユーザー名です。
	LastUpdate	DateTime	-	該当するリソースパックの最終更新日時です。 <sup>1</sup>
	JP1ResourceGroup	String	64	該当するリソースパックが所属する JP1 資源グループ名です。
	ResourcePackState	String	2,047	該当するリソースパックの状態です。定義中「DEF」または完了「FIN」を設定します。

(凡例)

- : なし

注 1

最終更新日時は、JP1/IM - CM でオブジェクトの新規作成、および更新時に自動で設定されます。設定する値は、UTC の 1970 年 1 月 1 日 00 : 00 : 00 からの通算ミリ秒です。情報検索機能で、最終更新日時のプロパティを検索条件に指定する場合は、UTC の 1970 年 1 月 1 日 00 : 00 : 00 からの通算ミリ秒の値で比較してください。また、エクスポート機能で出力する場合、最終更新日時のプロパティ値は「dow mon dd hh:mm:ss yyyy」の形式で出力されます。出力設定される値を次に示します。

表 A-2 エクスポート機能で出力する場合の最終更新日時のプロパティ値

形式	内容	出力設定される値
dow	曜日	Sun, Mon, Tue, Wed, Thu, Fri, Sat
mon	月	Jan, Feb, Mar, Apr, May, Jun, Jul, Aug, Sep, Oct, Nov, Dec
dd	日	01 ~ 31
hh	時間	00 ~ 23

形式	内容	出力設定される値
mm	分	00 ~ 59
ss	秒	00 ~ 59
yyyy	年	4 けたの 10 進数

## 注 2

情報検索機能で、Boolean 型のプロパティを検索条件に指定する場合は、「true」「false」の文字列を指定してください。また、エクスポート機能で出力する場合、Boolean 型のプロパティ値は「true」「false」で出力されます。





---

# 索引

## C

---

Cosminexus 用システム構成の作成 117  
Cosminexus 用システム構成の作成の流れ 117

## I

---

IM パラメーター定義ファイル 212

## J

---

jcm\_adapter\_setup 147  
jcm\_log.bat 148  
jcm\_spmd\_reload 155  
jcm\_spmd\_status 154  
jcm\_spmd\_stop 153  
jcmbakup 157  
jcmtreeorg 159  
jcmexport 160  
jcmgetinfo 165  
jcmgetumap 170  
jcmimport 171  
jcmmkumap 173  
jcmobjsearch 175  
jcmrecovery 183  
jcmrmumappass 185  
jcmumappass 186  
jcovcmsetup 188  
jcoview 190  
jcoview\_log.bat 193  
JP1/IM - CM が出力する JP1 イベント 223  
JP1/IM - CM で使用できるコマンド 145  
JP1/IM - CM 動作設定ファイル 208  
jplcmhasetup 196  
JP1 イベント 219  
    一覧 223  
    詳細 223  
    属性 220  
JP1 イベントの基本属性 220

## L

---

Link&Launch 定義ファイル 214

## N

---

[NIC 情報の追加] 画面 94  
[NIC 情報の編集] 画面 94

## か

---

拡張起動プロセス定義ファイル 210  
拡張属性 221  
[仮想ホストの作成] 画面 60  
[仮想ホストの選択] 画面 58  
[仮想ホストの定義] 画面 56  
[仮想ホストのプロパティ] 画面 65  
画面 1  
画面遷移 2  
    [システム] タブから 3  
    [リソース] タブから 4

## き

---

基本属性 220  
共通情報の一覧 221  
[共通] タブ (物理ホストの作成画面) 77  
[共通] タブ ([物理ホストのプロパティ] 画面) 86  
[共通] タブ ([ロードバランサのプロパティ] 画面) 98  
業務用ネットワーク情報 (仮想ホストの作成画面) 61

## こ

---

コマンド 143  
コマンド一覧 145  
コマンドの記述形式 144  
コンボボックス表示内容定義ファイル 199

## し

---

[システム(Web 推奨モデル)の作成 - ステップ 1 of 3] 画面 118  
 [システム(Web 推奨モデル)の作成 - ステップ 2 of 3] 画面 121  
 [システム(Web 推奨モデル)の作成 - ステップ 3 of 3] 画面 140  
 [システム構成定義] 画面 7  
     [システム] タブ 12  
         詳細 7  
         メニュー項目 8  
     [リソース] タブ 15  
 [システム] タブ([システム構成定義] 画面) 11  
 [システム] タブ([システムの作成] 画面) 20  
 [システム] タブ([システムのプロパティ] 画面) 24  
 [システムの作成] 画面 20  
 [システムのプロパティ] 画面 24  
 詳細一覧([システム] タブ) 13  
 詳細一覧([リソース] タブ) 17  
 詳細情報([システム] タブ) 15  
 詳細情報([リソース] タブ) 19  
 [詳細情報の設定・参照] 画面 115

## そ

---

[ソフトウェア] タブ(物理ホストの作成画面) 82  
 [ソフトウェア] タブ([物理ホストのプロパティ] 画面) 92  
 [ソフトウェアの選択] 画面 108  
 [ソフトウェアの追加] 画面 109  
 [ソフトウェアの定義] 画面 107  
 [ソフトウェアの編集] 画面 109

## つ

---

ツリー表示領域([システム] タブ) 12  
 ツリー表示領域([リソース] タブ) 15

## て

---

定義ファイル 197  
     一覧 198  
 データモデル 296  
     データモデルの階層構造 296  
     プロパティ一覧 298

## ね

---

[ネットワーク情報の追加] 画面 96  
 [ネットワーク情報の編集] 画面 96  
 [ネットワーク] タブ([仮想ホストの作成] 画面) 60  
 [ネットワーク] タブ([仮想ホストのプロパティ] 画面) 66  
 [ネットワーク] タブ(物理ホストの作成画面) 81  
 [ネットワーク] タブ([物理ホストのプロパティ] 画面) 90

## は

---

[ハードウェア] タブ(物理ホストの作成画面) 78  
 [ハードウェア] タブ([物理ホストのプロパティ] 画面) 88  
 [排他編集] チェックボックス(システム構成定義画面) 11  
 [バインドリスト] タブ([ロードバランサのプロパティ] 画面) 100

## ふ

---

[付加情報] タブ([仮想ホストの作成] 画面) 63  
 [付加情報] タブ([仮想ホストのプロパティ] 画面) 68  
 物理ホストの作成確認画面 85  
 [物理ホストのプロパティ] 画面 86  
 物理リソースのツリーを構成するオブジェクト 16  
 [ブレード] タブ(物理ホストの作成画面) 83

[ブレード]タブ([物理ホストのプロパティ]画面) 92  
 [プロセス情報]タブ([プロセスの作成]画面) 47  
 [プロセス情報]タブ([プロセスのプロパティ]画面) 51  
 [プロセスの作成]画面 47  
 [プロセスのプロパティ]画面 51

## ほ

[ポート情報]タブ([プロセスの作成]画面) 49  
 [ポート情報]タブ([プロセスのプロパティ]画面) 53  
 [ポート情報の追加]画面 55  
 [ポート情報の編集]画面 55  
 ボタン([システム]タブ) 14  
 ボタン([リソース]タブ) 18

## め

メッセージ 225  
     記載形式 232  
     形式 232  
     システム管理者の方へ 232  
     出力形式 232  
     分類 226  
 メッセージ ID 232  
 メッセージの出力先一覧 227  
 メニュー(システム構成定義画面) 8

## ゆ

ユーザーマッピング定義ファイル 206  
 ユニットグループの作成確認画面 35  
 [ユニットグループの定義 - ステップ 1 of 8]画面 122  
 [ユニットグループの定義 - ステップ 2 of 8]画面 124  
 [ユニットグループの定義 - ステップ 3 of 8]画面 127  
 [ユニットグループの定義 - ステップ 4 of 8]画面 130

[ユニットグループの定義 - ステップ 5 of 8]画面 132  
 [ユニットグループの定義 - ステップ 6 of 8]画面 134  
 [ユニットグループの定義 - ステップ 7 of 8]画面 138  
 [ユニットグループの定義 - ステップ 8 of 8]画面 139  
 [ユニットグループのプロパティ]画面 39

## り

[リソース]タブ([システム構成定義]画面) 15  
 [リソース]タブ([システムの作成]画面) 23  
 [リソース]タブ([システムのプロパティ]画面) 27  
 [リソースの作成](物理ホストの作成)画面 76  
 [リソースの作成](リソース種別の選択)画面 72  
 [リソースの作成](ロードバランサの作成)画面 73  
 [リソースバックの作成]画面 101  
 [リソースバックのプロパティ]画面 103  
 [リソースを割り当てる](システムへのリソース割り当て)画面 112  
 [リソースを割り当てる](リソースバックへのリソース割り当て)画面 106

## ろ

ロードバランサの作成確認画面 75  
 [ロードバランサのプロパティ]画面 98  
 ロードバランシンググループの作成確認画面 33  
 [ロードバランシンググループのプロパティ]画面 36  
 [ログイン]画面 5  
 [論理グループの作成](ユニットグループの作成)画面 33  
 [論理グループの作成](ロードバランシンググループの作成)画面 30

[ 論理グループの作成 ] 画面 28

[ 論理サーバの作成 ] 画面 41

[ 論理サーバのプロパティ ] 画面 44

論理システムのツリーを構成するオブジェクト 13

# ソフトウェアマニュアルのサービス ご案内

ソフトウェアマニュアルについて、3種類のサービスをご案内します。ご活用ください。

## 1. マニュアル情報ホームページ

ソフトウェアマニュアルの情報をインターネットで公開しております。

URL <http://www.hitachi.co.jp/soft/manual/>

ホームページのメニューは次のとおりです。

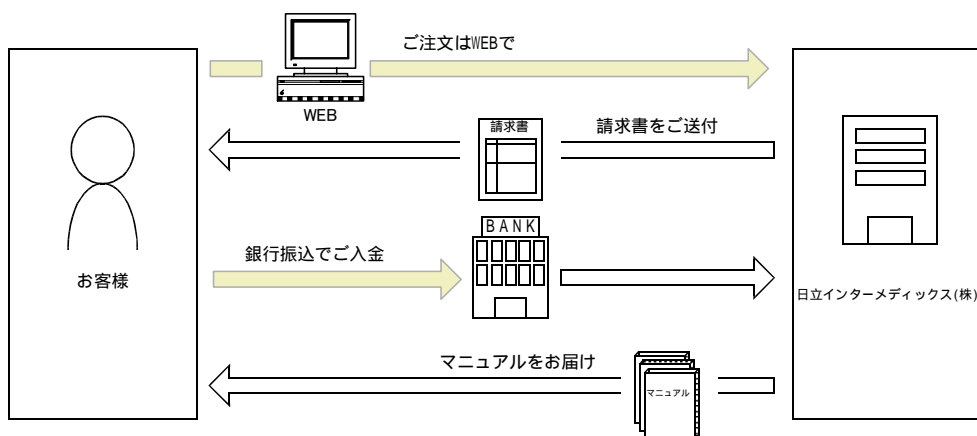
マニュアル一覧	日立コンピュータ製品マニュアルを製品カテゴリ、マニュアル名称、資料番号のいずれかから検索できます。
CD-ROMマニュアル情報	複数マニュアルを格納したCD-ROMマニュアルを提供しています。どの製品に対応したCD-ROMマニュアルがあるか、を参照できます。
マニュアルのご購入	日立インターメディックス(株)の「日立コンピュータ製品マニュアルサイト」からお申し込みできます。 (詳細は「3. マニュアルのご注文」を参照してください。)
Web提供マニュアル一覧	インターネットで参照できるマニュアルの一覧を提供しています。 (詳細は「2. インターネットからのマニュアル参照」を参照してください。)
ご意見・お問い合わせ	マニュアルに関するご意見、ご要望をお寄せください。

## 2. インターネットからのマニュアル参照(ソフトウェアサポートサービス)

ソフトウェアサポートサービスの契約をしていただくと、インターネットでマニュアルを参照できます。本サービスの対象となる契約の種別、及び参照できるマニュアルは、マニュアル情報ホームページでご確認ください。なお、ソフトウェアサポートサービスは、マニュアル参照だけでなく、対象製品に対するご質問への回答、問題解決支援、バージョン更新版の提供など、お客様のシステムの安定的な稼働のためのサービスをご提供しています。まだご契約いただいていない場合は、ぜひご契約いただくことをお勧めします。

## 3. マニュアルのご注文

日立インターメディックス(株)の「日立コンピュータ製品マニュアルサイト」からご注文ください。



下記 URL にアクセスして必要事項を入力してください。

URL [http://www2.himdx.net/manual/privacy.asp?purchase\\_flag=1](http://www2.himdx.net/manual/privacy.asp?purchase_flag=1)

ご注文いただいたマニュアルについて、請求書をお送りします。

請求書の金額を指定銀行へ振り込んでください。なお、送料は弊社で負担します。

入金確認後、7日以内にお届けします。在庫切れの場合は、納期を別途ご案内いたします。